

大牟田市社会教育・生涯学習基礎調査研究

令和 5 年度 調査研究報告書

令和 6 年 1 月

大牟田市・大牟田市教育委員会

< 目 次 >

第1章 調査研究の概要

I	調査研究の背景・目的	1
II	調査研究の基本的視点	1
	1. 生涯学習の推進(特に日頃学習活動を行っていない人々へ生涯学習を促進する手法を探る)	
	2. 学んだ成果を活かすための「知(学び)の循環」の仕組みづくり(生きがい・地域づくりの視点)	
	3. 人口減少社会における地域づくりに向けた社会教育の仕組みづくり	
	4. 社会教育における ESD の推進(人・地域づくりの視点)	
	5. 社会教育・生涯学習行政に係る既存事業の検証と施策・事業の再構築	
III	調査研究の主体	3
IV	調査研究の方法	3
	1. 調査	
	2. 研究	
V	調査研究の体制	5
	1. プロジェクトチーム(計 15 名)	
	2. 助言者	

第2章 調査の結果

I	調査の概要	
	1. 調査方法	6
	2. 調査結果	6
II	市民意識調査	
	1. 調査の概要	9
	2. 調査結果	10
	3. 市民意識調査結果を受けての助言者からの提言	85
III	若者意識調査	
	1. 調査の概要	90
	2. 調査結果	92
	3. アンケート「若者意識調査」から見えてくるもの	110
IV	ローリング調査	
	1. 調査の概要	112
	2. 調査結果	114
	3. ローリング調査から見えてくるもの	130
V	インタビュー調査	
	1. 調査の概要	132
	2. 調査結果	133
	3. まとめ	135
VI	考察	
	1. 考察を行うにあたって	137

第3章 基礎調査結果に基づいた本市の社会教育・生涯学習の施策の在り方

I 本市社会教育・生涯学習行政を取り巻く背景(現状と課題)	141
II 本市の特徴や強み	142
III 本市の社会教育・生涯学習施策の方向性	142
IV 施策推進の視点と具体的な取組	143
V 社会教育・生涯学習を推進するための施策の体系	151
VI 社会教育・生涯学習基礎調査研究の結果を踏まえた今後の推進体制の在り方について . .	152

施策推進にあたってのいくつかの課題 (西九州大学 副学長 上野景三)

I はじめに	154
II 施策推進の視点	154

参考資料

I 主な経過	159
II 令和4・5年度プロジェクト・チーム名簿	159

第1章 調査研究の概要

I 調査研究の背景・目的

平成30年度、令和元年度の2ヵ年にかけて大牟田市社会教育・生涯学習基礎調査研究(以下「調査研究」)をとりまとめ、現在のまちづくり総合プラン(以下「総合計画」という。)の施策に反映させています。報告書のなかで、助言者から、社会教育・生涯学習の振興に向けては、生涯学習の推進、学んだ成果を活かすための「知(学び)の循環」の仕組みづくり、人口減少社会における地域づくりに向けた社会教育の仕組みづくり、社会教育におけるESDの推進、社会教育・生涯学習行政に係る既存事業の検証と施策・事業の再構築の5つを提言されました。

提言を受け、令和3年度には業務の移管や事務事業見直しを行い、社会教育関連業務の生涯学習課への集約と執務室を統合しましたが、事業の再構築は着手できませんでした。

今回、総合計画の改定に向けては、前回の調査研究から期間が経っていないことから、大規模な調査研究を行わない予定でありましたが、事業の中止やボランティアの派遣回数の減少など、新型コロナウイルスによる社会教育・生涯学習への多大な影響や人生100年時代、ICTの急速な進展など社会の変化を捉え直す必要性を考慮し、次期総合計画の施策検討と社会教育振興プランの改定に向けて調査研究を行うこととしました。

さらに、第11期中央教育審議会(以下「中教審」という。)生涯学習分科会における議論の整理では、社会教育・生涯学習が果たしうる役割として、ウェルビーイングⁱの実現のための生涯学習を通じた個人の成長、持続的な地域コミュニティを支える社会教育、誰一人取り残さない学習機会の提供、デジタルデバйдⁱⁱの解消、「学び」を通じた、人と人とのつながり、絆の深まりによる地域コミュニティの再生とされていることから、社会教育・生涯学習における既存の施策・事業体系について再度検討を行う必要があります。

こうした背景を踏まえ、今回の調査研究は、社会教育・生涯学習行政をより推進するため、新型コロナウイルスによって変容した現在の市民意識、活動実態及び課題等を明らかにし、ニューノーマルな時代における社会教育・生涯学習行政が果たすべき役割やその在り方を考え、社会教育及び生涯学習に係る施策・事業の再構築を図ることを目的とします。

II 調査研究の基本的視点

(1) ウイズコロナにおけるオンラインの活用、人生100年時代・共生社会に向けた生涯学習の推進(日頃学習活動を行っていない人へのアウトリーチⁱⁱⁱ、学び直しの視点)

まちづくり市民アンケートの結果からは、1年間学習活動を行っていない市民の割合は過半数を超えています。中教審においても、人生100年時代には社会的な課題の解決に向けて生活基盤を確かなものとする上で「学校教育以外の学び」や社会の構造的な変容に対応するためのリカレント教育^{iv}をはじめとする生涯学習の必要性。また、学ぶことと働くことなどの活動は、健康で生き

がいのある生活を追求する基盤となるもので、障害の有無にかかわらず、誰も取り残すことなく、学習機会を提供する社会的包摂の実現が求められていると記載があります。

学習活動を行っていない人々の学習活動を促進することが不可欠であることから、本調査研究では、そうした人々へのアウトリーチの手法を考察するとともに、今後、オンラインの活用などを含めた生涯学習をより一層推進するための具体的な改善策や新たな取組を見出します。

(2)学んだ成果を活かすための「知(学び)の循環」の仕組みづくり(ともに学びあう地域コミュニティの形成とウエルビーイングの視点)

「中教審生涯学習分科会における議論の整理」において、社会教育は、社会の変化に即応したさまざまなテーマを幅広く学ぶことができることから、住民自身が主体的に学ぶ意思を持ち、学びあう当事者となり、その学習の成果が地域における活動に還元されるような『知の循環型社会』が期待されています。前回の調査以降、取り組んできた社会教育・生涯学習に係る各種事業の有効性の検証を踏まえたうえで、市民が学んだ知識・技能(個人のウエルビーイング)を地域コミュニティ(社会のウエルビーイング)へ還元される『知(学び)の循環』の仕組みづくりを行います。

(3)地域と学校の連携・協働の推進(学校や子どもたち、地域の課題を解決する視点)

令和4年4月に大牟田市教育委員会が策定した「大牟田市小中一貫教育基本方針」において、今後のコミュニティ・スクールの導入スケジュールが示されており、本市においては中学校区単位で順次拡大されることが計画されています。

第11期中教審における議論の整理においても、地域と学校が協働活動の一体的な取組を推進することは、コミュニティ・スクールが地域とともにある学校づくりに資するだけでなく、子どもの貧困等の子どもたちを取り巻くさまざまな課題の解決に資するとともに、地域の課題解決のためのプラットフォームとしての役割も担うことから、コミュニティ・スクールに関する十分な理解、相互の信頼関係の下、進めていく必要があるとされています。

また、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の推進には、保護者、PTA活動の経験者、NPOや企業関係者などの多様な地域住民の参加を推進することが求められています。国においては、今後の社会教育・生涯学習が果たしうる役割の一つとして、「学び」を通じた、人と人とのつながり、絆の深まりが地域コミュニティの基盤を安定させることが示されています。

本調査研究において、人生100年時代の到来、少子高齢化による人口減少の中、学校、子どもたち、地域が直面する課題を解決できるよう、地域コミュニティの基盤づくりにつながるための学習・活動や地域課題を解決する仕組みづくりを行います。

(4)社会教育におけるSDGs/ESDの推進(担い手づくりの視点)

本市において学校教育を中心に取り組まれているSDGs/ESD(持続可能な開発のための目標・教育)は、一人ひとりが持続可能な社会づくりの担い手に育つための学びであり、生涯を通じてあらゆる場面で実践される必要があることから、引き続き社会教育においても積極的な事業展開が望

まれます。

また、国においては、『子どもたちを主役にする教育活動を実践していくことも重要です。特に中高生については、地域から支えられるだけでなく、地域社会の大人とともに課題を発見し、解決に取り組むことを通じて、積極的に地域に関わり、貢献していくことで、地域の一員としての当事者意識を持ち、これからの地域の担い手として活躍することが期待されます。そのなかで、今後、社会教育行政においては、“住民の主体的な参画を促進する仕掛けづくり”、“子ども・若者の参画と多世代交流”等に留意すること。』がうたわれています。

以上のことを踏まえ、本調査研究では、『コミュニティづくり』や『持続可能な共生・協働のまちづくり』を推進するための担い手づくりに資する事業の手法や仕組みづくりを行います。

(5)社会教育・生涯学習行政に係る既存事業の検証と施策・事業の再構築

平成30年度、令和元年度に実施した「大牟田市社会教育・生涯学習基礎調査研究」の“今後の社会教育・生涯学習の振興に向けて”の中の、5つの提言の進捗状況や既存事業の有効性の検証とともに新型コロナウイルスによる住民のニーズの変化等を踏まえ、今後の社会教育・生涯学習行政の在り方や行政として果たすべき役割などについて考察し、施策・事業・実施体制の再構築を行います。

上記(1)～(5)の基本的視点に基づく調査研究を通して、今後の社会教育・生涯学習行政の在り方や行政の果たすべき役割等について考察し、次期総合計画の策定を視野に入れた施策・事業の再構築を行います。

Ⅲ 調査研究の主体

大牟田市・大牟田市教育委員会

Ⅳ 調査研究の方法

本調査研究では、①アフターコロナに向けた市民の社会教育・生涯学習、住民自治及びまちづくりに対する意識や学習活動などの実態を把握するための「市民意識調査」「若者意識調査」②社会教育関係職員がインタビューを通して、地域や地域団体等のことを知り、職員と地域団体などとの新しいつながりをつくることや職員が地域団体同士をつなぎ、新しいつながりを形成することで地域全体の新しい可能性を引き出すことを目的とした「インタビュー調査」③前回の調査研究で社会教育・生涯学習の振興に向けて提言された“5つの提言”の進捗状況や既存事業の有効性を検証するための「ローリング調査」を実施し、それら調査結果を分析することで明らかになった課題等を踏まえ、今後の社会教育・生涯学習行政の在り方や果たすべき役割をまとめ、事業の再構築、さらには、取り組むべき事業の具現化までを行います。

調査研究の実施にあたっては、生涯学習課職員によるプロジェクトチームを立ち上げ、学識経験者(大学教授)より助言等をいただきながら行います。

1.調査

(1)市民意識調査

新型コロナウイルスによる市民の学習ニーズ、地域活動への参加状況等の変化を把握するための意識調査

(2)若者意識調査

新型コロナウイルスによる若者の学習ニーズ、ライフスタイル等の変化を把握するための調査

(3)ローリング調査

社会教育・生涯学習行政における事業の進捗状況や有効性の検証を行う調査

(4)関係づくりのインタビュー調査

地域や地域団体等のことを知り、職員と地域団体などとの新しいつながりをつくることや職員が地域団体同士をつなぎ、新しいつながりを形成することで地域全体の新しい可能性を引き出すことを目的とした調査

2.研究

(1)各事業の再構築(事業体系の構築)

調査の結果及び分析によって明らかになった市民の意識や活動実態、既存事業における課題、さらには、国の調査及び答申等を踏まえ、「担い手づくり」、「地域づくり」「市民協働によるまちづくり」の観点から、今後、本市における社会教育・生涯学習行政が果たすべき役割や施策・事業の在り方を探り、事業の再構築と有機的かつ効果的な事業体系の構築を目指します。

(2)事業の具現化

社会教育・生涯学習行政における「担い手づくり」及び「地域づくり」を推進するための有効な方策を探り、今後取り組むべき事業の具現化(2024～2028年の具体的な取り組み内容、目標値の設定等)を行います。

V 調査研究の体制

1. プロジェクトチーム(計15名)

大牟田市市民協働部生涯学習課の職員で構成。調査研究の内容や調査結果の分析、事業の体系化等について必要に応じて協議、検討を行います。

2. 助言者

西九州大学 副学長 上野景三(子ども学部子ども学科教授)

ⁱ ウェルビーイング（英: Well-being）とは、誰かにとって本質的に価値のある状態、つまり、ある人にとってのウェルビーイングとは、その人にとって究極的に善い状態、その人の自己利益にかなうものを実現した状態である（Wikipedia 参照）

ⁱⁱ デジタル・ディバイドとは、「インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差」のことをいう。具体的には、インターネットやブロードバンド等の利用可能性に関する国内地域格差を示す「地域間デジタル・ディバイド」、身体的・社会的条件（性別、年齢、学歴の有無等）の相違に伴う ICT の利用格差を示す「個人間・集団間デジタル・ディバイド」、インターネットやブロードバンド等の利用可能性に関する国際間格差を示す「国際間デジタル・ディバイド」等の観点で論じられることが多い。（総務省 HP 参照）

ⁱⁱⁱ アウトリーチ 学習意欲をもっていない人たちに学習の機会を与え、学習に対する要求や行動を誘発しようとする活動（文部科学省 HP 参照）

^{iv} リカレント教育 リカレント（recurrent）」とは、「繰り返す」「循環する」という意味で、リカレント教育とは、学校教育からいったん離れて社会に出た後も、それぞれの人の必要なタイミングで再び教育を受け、仕事と教育を繰り返すことです。日本では、仕事を休まず学び直すスタイルもリカレント教育に含まれ、社会人になってから自分の仕事に関する専門的な知識やスキルを学ぶため、「社会人の学び直し」とも呼ばれます（政府広報オンライン HP 参照）

^v コミュニティ・スクール コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます（文科省 HP 参照）

第2章 調査の結果

I 調査の概要

1. 調査方法

(1) 市民意識調査 [業者委託：株式会社 調べ考房福岡支店] ※詳細は P9 参照

郵送調査法／18 歳以上の市民 1,000 人／全 35 問／サンプル 374(回収率 37.4%)

期間 令和 5 年 1 月 23 日～2 月 9 日

(2) 若者意識調査 [調査団：市職員] ※詳細は P90 参照

インタビュー/16 歳～34 歳の「えるる」利用者/全 17 問/サンプル 83

期間 令和 5 年 5 月 17 日～5 月 31 日

(3) ローリング調査 ※詳細は P112 頁参照

大牟田市第 6 次総合計画アクションプログラム「第 4 章 未来に向けて、ともに学び、地域で行動する人がはぐくまれるまち」に掲げてある事務事業(生涯学習課文化芸術担当、スポーツ推進室、生活安全推進課が所管するものを除く)

(4) インタビュー調査 [調査団：市職員] ※詳細は P132 頁参照

インタビュー/おもに市内にある団体・企業・学校関係など/設問は任意/市民活動団体 13 件、企業 5 件、幼稚園・学校・大学関係 7 件、行政関係 2 件、サロン 3 件 ※一覧参照 計 30 件

期間 令和 5 年 6 月～9 月 /インタビュー時間 1 件平均 53 分

2. 調査結果

(1) 意識調査(市民意識調査)

①生涯学習の必要性等 P16

「市民意識調査」において、約 9 割(89.3%)の人が生涯学習は必要と回答しています。

②生涯学習をしない理由(できない理由) P27

「市民意識調査」において、『仕事で時間がとれない』が最も高く、次いで『どのような活動があるかわからない』、『特に必要がない』、『生涯学習に関する情報が不足』の割合が高いことが判明しました。

③生涯学習の情報源 P17

「市民意識調査」において、『広報おおむた』が最も高く、50 歳以上の割合が高くなっております。逆に『インターネット』『SNS』は 40～49 歳が最も高くなっています。なお、各年代において、過半数が『広報おおむた』を情報源としていますが、18～29 歳については、約半数が『特に情報を得ていない』44.4%となっており、生涯学習に関する情報を得ていないことが判明しました。

④新型コロナウイルスの影響による生涯学習時間の変化 P19

「市民意識調査」において、過半数が『あまり変化はなかった』55.3%となっており、生涯

学習時間に大きな変化はないことが判明しました。

⑤学んだ成果の活用等 **P45～P53**

「市民意識調査」において、『活かしていない』が前回調査よりも若干減少している(17.0%⇒14.4%)状況となっています。

同調査で『身につけた知識・技能を地域や人々のために活かしたい』は、全体の約6割におよんでいます。なお、学んだ成果を活かしていない理由は、『活かし方がわからない』の割合が最も高く、次いで『学業・仕事で忙しい』となっています。

⑥ボランティア活動について **P54～P59**

「市民意識調査」において、「この1年間ボランティア活動を行っていない人」の割合は、前回調査より増加して7割(平成30年67%⇒令和4年73%)におよんでいます。

「市民意識調査」において、ボランティア活動を盛んにするために必要なことは、前回調査と同様、『ボランティア活動に関する情報提供』の割合が最も高くなっています。

⑦地域活動について **P60～76**

「市民意識調査」において、『この1年間地域活動を行っていない人』の割合は、前回調査より増加して6割を越え(平成30年51%⇒令和4年65%)ています。なお、同調査で、地域活動に参加していない理由は、『忙しくて時間がとれない(学業、仕事、家事など)』(42%)が最も高く、次いで、『どのような活動が行われているか情報がない』(33%)、『一緒に活動する仲間や知り合いがいない』(24%)、『誘いがないなど、参加するきっかけがない』(22%)となっています。

「市民意識調査」において、地域活動へ参加しやすくするために必要なことは、『誰もが気軽に参加でき、明るく楽しい雰囲気にする』が、『活動のPR』『活動・行事を魅力的なものにする』等、他の選択肢を大きく上回り最も高くなっています。

⑧学校を支援する取組みへの参加の意向 **P77～P79**

「市民意識調査」では、約4割(43%)に学校を支援する取組みへ参加する意思があることが判明しました。地域活動をあまり行っていない若い年代(18歳～39歳)の参加意識は、他の年代と比べて高くなっています。

(2)若者意識調査

①若者のボランティア活動・地域活動に対する関心度 **P108**

「若者意識調査」において、自ら企画して実践するボランティア活動・地域活動に対しては、『関心がある』と回答した割合はほぼ半減していることが判明しました(平成30年70%⇒令和4年39%)。

②若者が生涯学習を行わない理由 **P102**

「若者意識調査」において、『学業で時間がとれない』が最も高く、次いで『特に必要がない』、『生涯学習に関する情報が不足している』、『どのような活動があるのかわからない』の割合が高くなっています。

③行政に対する要望 P103

「若者意識調査」において、行政に対する要望として最も高いことは、『公共施設の機能を充実させる』が最も高く、次いで『専門的な学習内容の充実』『次世代を担う若者への教育の充実』が同率となっています。

(3)ローリング調査

①ローリング調査の実施概要 P112

全 20 事業

(4)インタビュー調査

①インタビュー調査の実施概要 P132

インタビュー件数 30 件

市民意識調査

調査の概要

(1)調査の目的

大牟田市(以下「市」という。)は、令和2年に「大牟田市社会教育振興プラン 2020～2023」を策定した。当プランの計画期間が令和5年度までとなっていることから、令和6年度以降の社会教育振興の指針となる「大牟田市社会教育振興プラン 2024～2028」を策定する。この調査は、次期計画策定の基礎資料を得るために実施した。

(2)調査の対象

令和5年1月1日現在の大牟田市住民基本台帳に登録された満18歳以上の市民の中から無作為に抽出した1,000人。

(3)調査方法

郵送法(封書による郵送・回収)

(4)調査期間

令和5年1月23日～2月9日

(5)回収状況

配布数	1,000 件
有効回収数	374 件
有効回収率	37.4%

(6)調査結果利用上の留意事項

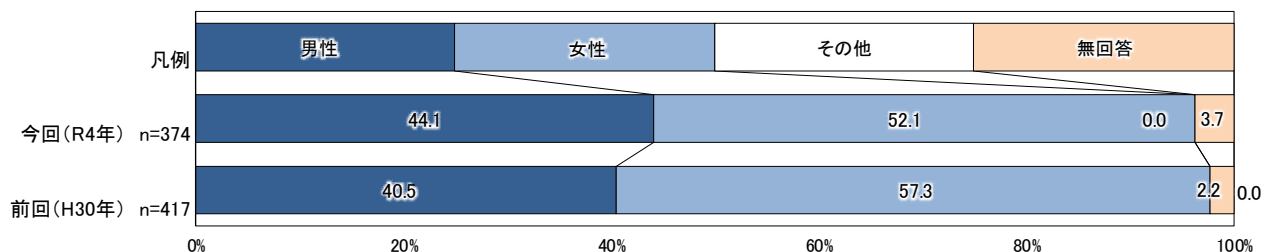
- ・ 文章や表、グラフ中の回答割合(相対度数)は百分比のポイント以下2位を四捨五入しているので、合計は必ずしも100%にならないことがある。
- ・ 2つ以上の回答を求めた(複数回答)質問の場合、その回答割合の合計は原則として100%を超える。
- ・ 数表等に記載された「n」は、回答割合算出上の基数(回答数)を示している。
- ・ 前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問の回答割合は、層化された回答者を基数として算出している。
- ・ 文中では選択肢(変数)を「 」で示している。選択肢の文章が長い場合は、一部省略したところがある。また、2つ以上の選択肢を合計して表す場合には『 』で示している。
- ・ 性別を「その他」と回答した人は皆無であったことから分析対象から除いている。

あなたご自身のことについて

問1 あなたの性別について、あてはまる番号に○印をつけてください。

問1 性別

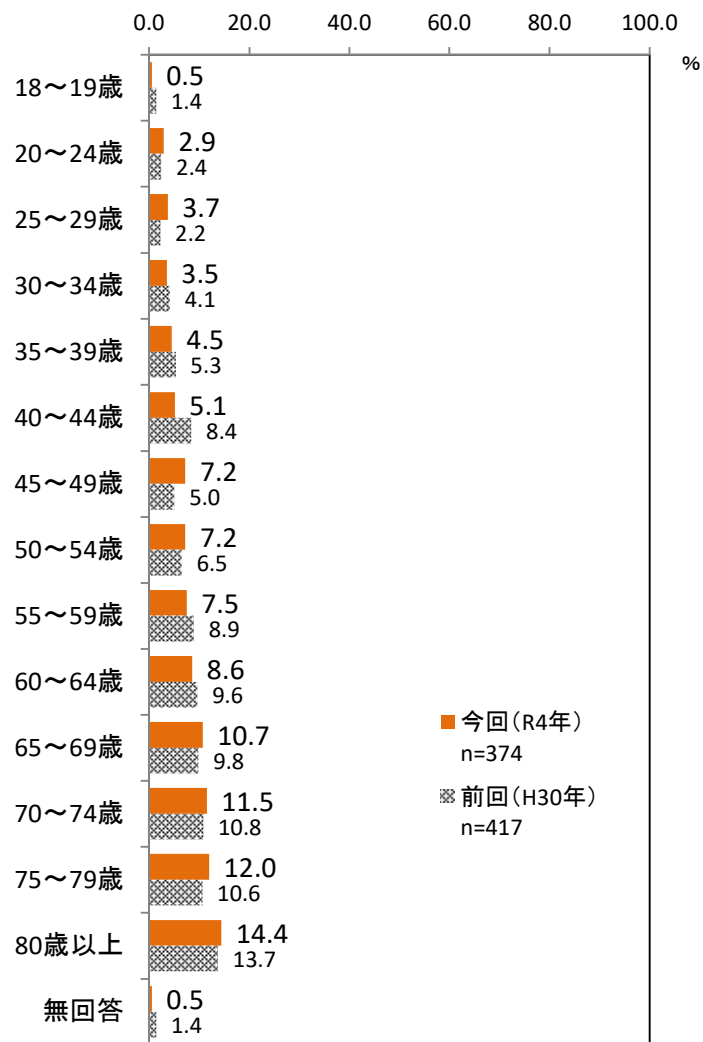
	今回(R4年)		前回(H30年)		前々回(H23年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%	度数(人)	%
男性	165	44.1	169	40.5	165	36.4
女性	195	52.1	239	57.3	283	62.5
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	14	3.7	9	2.2	5	1.1
合計	374	100.0	417	100.0	453	100.0



問2 あなたの年齢(令和5年1月1日現在)について、あてはまる番号に○印をつけてください。

問2 年齢

	今回(R4年)		前回(H30年)		前々回(H23年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%	度数(人)	%
18～19歳	2	0.5	6	1.4	8	1.8
20～24歳	11	2.9	10	2.4	17	3.8
25～29歳	14	3.7	9	2.2	14	3.1
30～34歳	13	3.5	17	4.1	17	3.8
35～39歳	17	4.5	22	5.3	20	4.4
40～44歳	19	5.1	35	8.4	23	5.1
45～49歳	27	7.2	21	5.0	26	5.7
50～54歳	27	7.2	27	6.5	40	8.8
55～59歳	28	7.5	37	8.9	46	10.2
60～64歳	32	8.6	40	9.6	59	13.0
65～69歳	40	10.7	41	9.8	52	11.5
70～74歳	43	11.5	45	10.8	43	9.5
75～79歳	45	12.0	44	10.6	39	8.6
80歳以上	54	14.4	57	13.7	44	9.7
無回答	2	0.5	6	1.4	5	1.1
合計	374	100.0	417	100.0	453	100.0



問3 あなたの家族構成について、あてはまる番号に○印をつけてください。

問3 家族構成

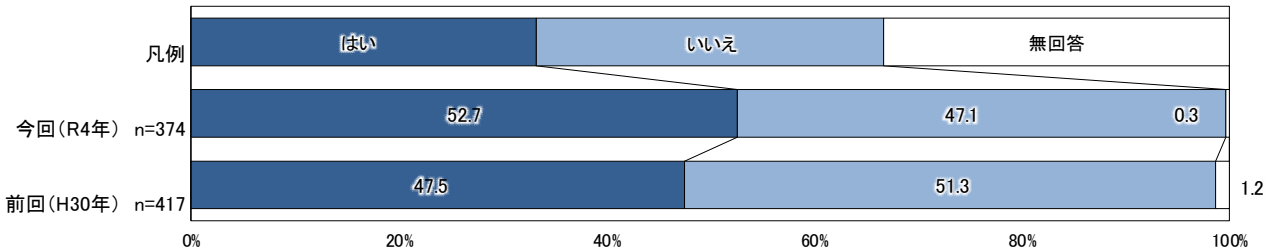
	今回(R4年)		前回(H30年)		前々回(H23年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%	度数(人)	%
単身	73	19.5	72	17.3	61	13.5
夫婦	104	27.8	111	26.6	113	24.9
2世代(親と子ども)	142	38.0	171	41.0	141	31.1
3世代以上	34	9.1	41	9.8	53	11.7
その他	15	4.0	16	3.8	73	16.1
無回答	6	1.6	6	1.4	12	2.6
合計	374	100.0	417	100.0	453	100.0

	合計	単身	夫婦	2世代 (親と子ども)	3世代以上	その他	無回答
全体	374 100.0%	73 19.5%	104 27.8%	142 38.0%	34 9.1%	15 4.0%	6 1.6%
■性別							
男性	165 100.0%	27 16.4%	51 30.9%	62 37.6%	16 9.7%	8 4.8%	1 0.6%
女性	195 100.0%	43 22.1%	50 25.6%	76 39.0%	17 8.7%	7 3.6%	2 1.0%
無回答	14 100.0%	3 21.4%	3 21.4%	4 28.6%	1 7.1%	0 0.0%	3 21.4%
■年代別							
18～29歳	27 100.0%	2 7.4%	1 3.7%	17 63.0%	5 18.5%	2 7.4%	0 0.0%
30～39歳	30 100.0%	3 10.0%	1 3.3%	22 73.3%	4 13.3%	0 0.0%	0 0.0%
40～49歳	46 100.0%	4 8.7%	4 8.7%	30 65.2%	8 17.4%	0 0.0%	0 0.0%
50～59歳	55 100.0%	6 10.9%	12 21.8%	31 56.4%	5 9.1%	0 0.0%	1 1.8%
60～69歳	72 100.0%	11 15.3%	35 48.6%	17 23.6%	3 4.2%	6 8.3%	0 0.0%
70～79歳	88 100.0%	24 27.3%	32 36.4%	18 20.5%	7 8.0%	5 5.7%	2 2.3%
80歳以上	54 100.0%	23 42.6%	19 35.2%	7 13.0%	2 3.7%	2 3.7%	1 1.9%
無回答	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%

問4 あなたは、現在、お仕事をしていますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

問4 仕事の有無

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
はい	197	52.7	198	47.5
いいえ	176	47.1	214	51.3
無回答	1	0.3	5	1.2
合計	374	100.0	417	100.0



	合計	はい	いいえ	無回答
全体	374 100.0%	197 52.7%	176 47.1%	1 0.3%
■ 性別				
男性	165 100.0%	97 58.8%	68 41.2%	0 0.0%
女性	195 100.0%	97 49.7%	98 50.3%	0 0.0%
無回答	14 100.0%	3 21.4%	10 71.4%	1 7.1%
■ 年代別				
18～29歳	27 100.0%	17 63.0%	10 37.0%	0 0.0%
30～39歳	30 100.0%	25 83.3%	5 16.7%	0 0.0%
40～49歳	46 100.0%	42 91.3%	4 8.7%	0 0.0%
50～59歳	55 100.0%	49 89.1%	6 10.9%	0 0.0%
60～69歳	72 100.0%	40 55.6%	32 44.4%	0 0.0%
70～79歳	88 100.0%	22 25.0%	66 75.0%	0 0.0%
80歳以上	54 100.0%	2 3.7%	52 96.3%	0 0.0%
無回答	2 100.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%

《問4で、「はい」とお答えの方におたずねします》

問 4-2 あなたの休みはいつですか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

問4 お休みの曜日

	今回(R4年)		前回(H30年)		前々回(H23年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%	度数(人)	%
土曜日	82	41.6	82	41.4	97	21.4
日曜日	125	63.5	134	67.7	172	38.0
祝日	89	45.2	87	43.9	—	—
平日	30	15.2	26	13.1	63	13.9
不定期	68	34.5	73	36.9	—	—
無回答	0	0.0	0	0.0	253	55.8
合計	197		198		453	

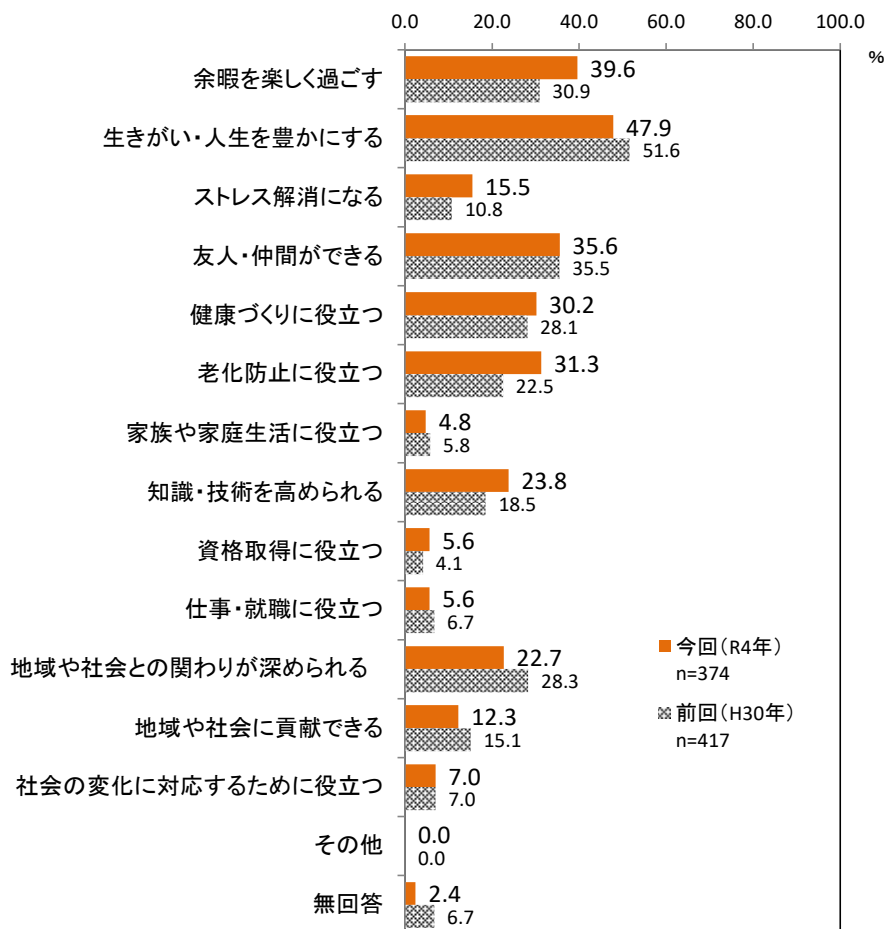
	合計	土曜日	日曜日	祝日	平日	不定期	無回答
全体	197	82 41.6%	125 63.5%	89 45.2%	30 15.2%	68 34.5%	0 0.0%
■性別							
男性	97	44 45.4%	66 68.0%	45 46.4%	16 16.5%	25 25.8%	0 0.0%
女性	97	36 37.1%	57 58.8%	43 44.3%	14 14.4%	42 43.3%	0 0.0%
無回答	3	2 66.7%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%
■年代別							
18～29歳	17	6 35.3%	7 41.2%	5 29.4%	1 5.9%	8 47.1%	0 0.0%
30～39歳	25	7 28.0%	15 60.0%	12 48.0%	3 12.0%	12 48.0%	0 0.0%
40～49歳	42	28 66.7%	33 78.6%	26 61.9%	4 9.5%	9 21.4%	0 0.0%
50～59歳	49	19 38.8%	34 69.4%	24 49.0%	9 18.4%	16 32.7%	0 0.0%
60～69歳	40	16 40.0%	26 65.0%	17 42.5%	8 20.0%	13 32.5%	0 0.0%
70～79歳	22	6 27.3%	9 40.9%	4 18.2%	5 22.7%	9 40.9%	0 0.0%
80歳以上	2	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%
無回答	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

1. 生涯学習について

問5 あなたは、「生涯学習」について、どのようなお考えやイメージをお持ちですか。あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

問5 生涯学習に対する考えやイメージ

	今回 (R4年)		前回 (H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
余暇を楽しく過ごす	148	39.6	129	30.9
生きがい・人生を豊かにする	179	47.9	215	51.6
ストレス解消になる	58	15.5	45	10.8
友人・仲間ができる	133	35.6	148	35.5
健康づくりに役立つ	113	30.2	117	28.1
老化防止に役立つ	117	31.3	94	22.5
家族や家庭生活に役立つ	18	4.8	24	5.8
知識・技術を高められる	89	23.8	77	18.5
資格取得に役立つ	21	5.6	17	4.1
仕事・就職に役立つ	21	5.6	28	6.7
地域や社会との関わりが深められる	85	22.7	118	28.3
地域や社会に貢献できる	46	12.3	63	15.1
社会の変化に対応するために役立つ	26	7.0	29	7.0
その他	0	0.0	0	0.0
無回答	9	2.4	28	6.7
回答者数	374		417	



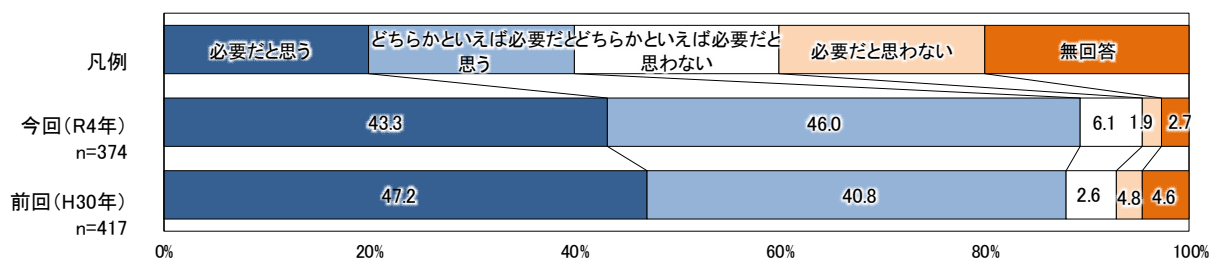
	合計	余暇を楽しく過ごす	生きがい・人生を豊かにする	ストレス解消になる	友人・仲間ができる	健康づくりに役立つ	老化防止に役立つ	家族や家庭生活に役立つ	知識・技術を高められる	資格取得に役立つ	仕事・就職に役立つ	地域や社会との関わりが深められる	地域や社会に貢献できる	社会の変化に対応するために役立つ	その他	無回答
全体	374	148 39.6%	179 47.9%	58 15.5%	133 35.6%	113 30.2%	117 31.3%	18 4.8%	89 23.8%	21 5.6%	21 5.6%	85 22.7%	46 12.3%	26 7.0%	0 0.0%	9 2.4%
■性別																
男性	165	66 40.0%	75 45.5%	29 17.6%	56 33.9%	54 32.7%	52 31.5%	7 4.2%	36 21.8%	7 4.2%	12 7.3%	37 22.4%	22 13.3%	12 7.3%	0 0.0%	3 1.8%
女性	195	78 40.0%	99 50.8%	28 14.4%	73 37.4%	55 28.2%	60 30.8%	11 5.6%	53 27.2%	13 6.7%	8 4.1%	48 24.6%	22 11.3%	14 7.2%	0 0.0%	4 2.1%
無回答	14	4 28.6%	5 35.7%	1 7.1%	4 28.6%	4 28.6%	5 35.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	1 7.1%	0 0.0%	2 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 14.3%
■年代別																
18～29歳	27	11 40.7%	13 48.1%	5 18.5%	8 29.6%	8 29.6%	4 14.8%	1 3.7%	9 33.3%	3 11.1%	3 11.1%	4 14.8%	7 25.9%	1 3.7%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳	30	13 43.3%	17 56.7%	6 20.0%	8 26.7%	9 30.0%	4 13.3%	1 3.3%	9 30.0%	3 10.0%	3 10.0%	10 33.3%	4 13.3%	1 3.3%	0 0.0%	1 3.3%
40～49歳	46	18 39.1%	21 45.7%	5 10.9%	19 41.3%	12 26.1%	8 17.4%	3 6.5%	14 30.4%	9 19.6%	8 17.4%	11 23.9%	3 6.5%	3 6.5%	0 0.0%	0 0.0%
50～59歳	55	21 38.2%	32 58.2%	10 18.2%	20 36.4%	12 21.8%	16 29.1%	5 9.1%	16 29.1%	2 3.6%	3 5.5%	11 20.0%	10 18.2%	3 5.5%	0 0.0%	0 0.0%
60～69歳	72	30 41.7%	37 51.4%	7 9.7%	26 36.1%	21 29.2%	20 27.8%	1 1.4%	19 26.4%	1 1.4%	1 1.4%	20 27.8%	6 8.3%	3 4.2%	0 0.0%	2 2.8%
70～79歳	88	32 36.4%	41 46.6%	16 18.2%	28 31.8%	37 42.0%	33 37.5%	6 6.8%	17 19.3%	3 3.4%	3 3.4%	19 21.6%	12 13.6%	11 12.5%	0 0.0%	1 1.1%
80歳以上	54	23 42.6%	18 33.3%	9 16.7%	24 44.4%	13 24.1%	32 59.3%	1 1.9%	5 9.3%	0 0.0%	0 0.0%	10 18.5%	4 7.4%	4 7.4%	0 0.0%	4 7.4%
無回答	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%

問5その他	性別	年齢
化粧品の販売(ほんの少し)	女性	80歳以上

問6 あなたは、生涯学習は必要だと思いますか。

問6 生涯学習に対する必要性に対する認識

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
必要だと思う	162	43.3	197	47.2
どちらかといえば必要だと思う	172	46.0	170	40.8
どちらかといえば必要だと思わない	23	6.1	20	4.8
必要だと思わない	7	1.9	11	2.6
無回答	10	2.7	19	4.6
合計(回答者数)	374	100.0	417	100.0



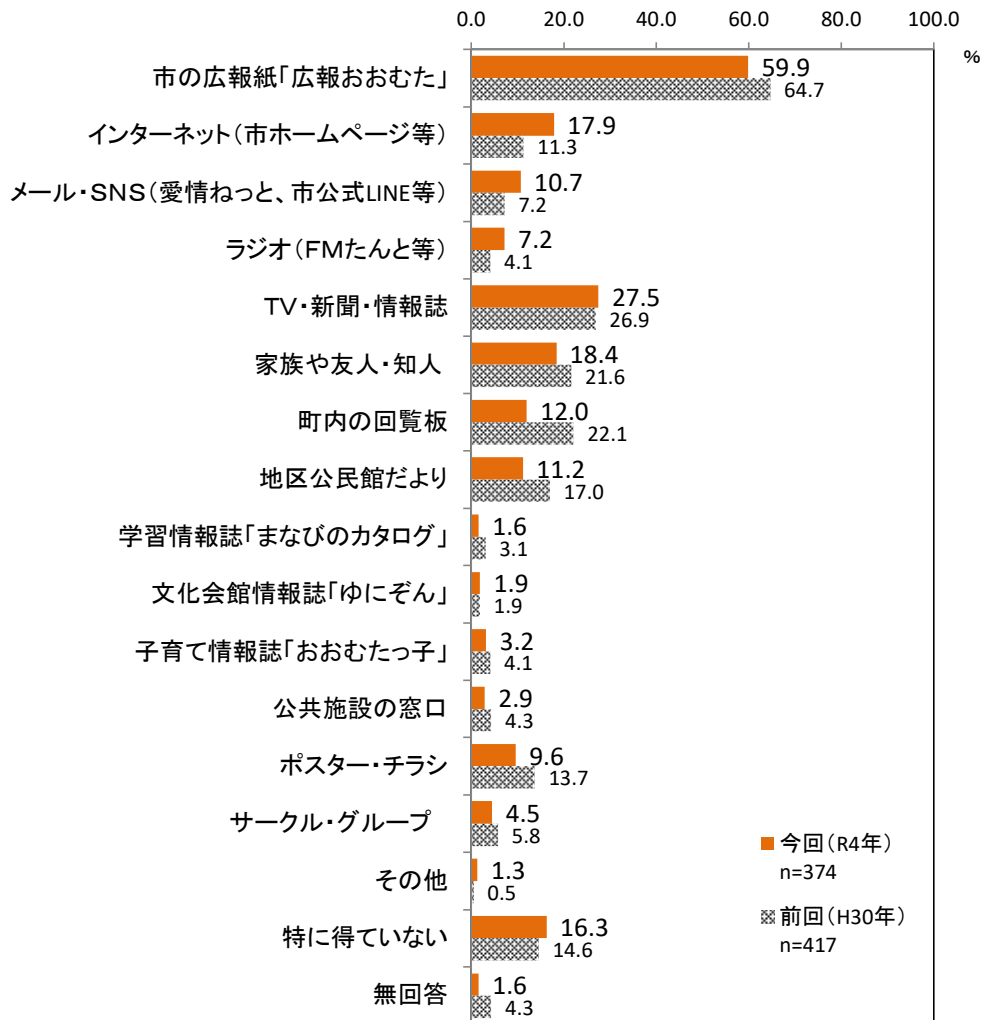
	合計	必要だと思う	どちらかといえば必要だと思う	どちらかといえど必要だと思わない	必要だと思わない	無回答
全体	374 100.0%	162 43.3%	172 46.0%	23 6.1%	7 1.9%	10 2.7%
■性別						
男性	165 100.0%	72 43.6%	76 46.1%	9 5.5%	6 3.6%	2 1.2%
女性	195 100.0%	84 43.1%	92 47.2%	11 5.6%	1 0.5%	7 3.6%
無回答	14 100.0%	6 42.9%	4 28.6%	3 21.4%	0 0.0%	1 7.1%
■年代別						
18～29歳	27 100.0%	6 22.2%	17 63.0%	2 7.4%	1 3.7%	1 3.7%
30～39歳	30 100.0%	11 36.7%	15 50.0%	2 6.7%	2 6.7%	0 0.0%
40～49歳	46 100.0%	19 41.3%	22 47.8%	4 8.7%	0 0.0%	1 2.2%
50～59歳	55 100.0%	27 49.1%	24 43.6%	2 3.6%	0 0.0%	2 3.6%
60～69歳	72 100.0%	33 45.8%	34 47.2%	2 2.8%	2 2.8%	1 1.4%
70～79歳	88 100.0%	45 51.1%	36 40.9%	3 3.4%	2 2.3%	2 2.3%
80歳以上	54 100.0%	21 38.9%	24 44.4%	7 13.0%	0 0.0%	2 3.7%
無回答	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%

問7 あなたは、生涯学習に関する情報を何から得ていますか。

あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

問7 生涯学習の情報源

	今回 (R4年)		前回 (H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
市の広報紙「広報おおむた」	224	59.9	270	64.7
インターネット(市ホームページ等)	67	17.9	47	11.3
メール・SNS(愛情ねっと、市公式LINE等)	40	10.7	30	7.2
ラジオ(FMたんと等)	27	7.2	17	4.1
TV・新聞・情報誌	103	27.5	112	26.9
家族や友人・知人	69	18.4	90	21.6
町内の回覧板	45	12.0	92	22.1
地区公民館だより	42	11.2	71	17.0
学習情報誌「まなびのカタログ」	6	1.6	13	3.1
文化会館情報誌「ゆにぞん」	7	1.9	8	1.9
子育て情報誌「おおむたっ子」	12	3.2	17	4.1
公共施設の窓口	11	2.9	18	4.3
ポスター・チラシ	36	9.6	57	13.7
サークル・グループ	17	4.5	24	5.8
その他	5	1.3	2	0.5
特に得ていない	61	16.3	61	14.6
無回答	6	1.6	18	4.3
回答者数	374		417	



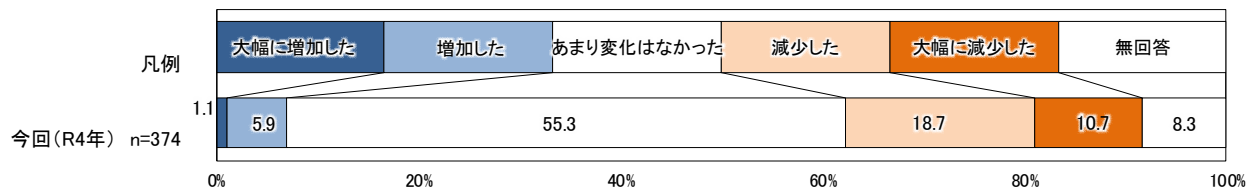
	合計	市の広報紙「広報おおむた」	インターネット(市ホームページ等)	メール・SNS(愛情ねっと、市公式LINE等)	ラジオ(FMたんと等)	TV・新聞・情報誌	家族や友人・知人	町内の回覧板	地区公民館だより	学習情報誌「まなびのカタログ」	文化会館情報誌「ゆにぞん」	子育て情報誌「おおむたっ子」	公共施設の窓口	ポスター・チラシ	サークル・グループ	その他	特に得ていない	無回答
全体	374	224 59.9%	67 17.9%	40 10.7%	27 7.2%	103 27.5%	69 18.4%	45 12.0%	42 11.2%	6 1.6%	7 1.9%	12 3.2%	11 2.9%	36 9.6%	17 4.5%	5 1.3%	61 16.3%	6 1.6%
■性別																		
男性	165	87 52.7%	35 21.2%	10 6.1%	15 9.1%	52 31.5%	25 15.2%	20 12.1%	16 9.7%	3 1.8%	3 1.8%	2 1.2%	4 2.4%	17 10.3%	8 4.8%	4 2.4%	31 18.8%	2 1.2%
女性	195	129 66.2%	31 15.9%	30 15.4%	12 6.2%	48 24.6%	40 20.5%	23 11.8%	23 11.8%	3 1.5%	4 2.1%	10 5.1%	7 3.6%	19 9.7%	8 4.1%	1 0.5%	26 13.3%	4 2.1%
無回答	14	8 57.1%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	3 21.4%	4 28.6%	2 14.3%	3 21.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	4 28.6%	0 0.0%
■年代別																		
18～29歳	27	7 25.9%	4 14.8%	2 7.4%	1 3.7%	3 11.1%	2 7.4%	0 0.0%	1 3.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.7%	1 3.7%	4 14.8%	0 0.0%	0 0.0%	12 44.4%	1 3.7%
30～39歳	30	20 66.7%	6 20.0%	5 16.7%	1 3.3%	6 20.0%	5 16.7%	2 6.7%	1 3.3%	0 0.0%	0 0.0%	5 16.7%	2 6.7%	2 6.7%	1 3.3%	1 3.3%	4 13.3%	1 3.3%
40～49歳	46	24 52.2%	14 30.4%	9 19.6%	1 2.2%	4 8.7%	5 10.9%	3 6.5%	1 2.2%	0 0.0%	1 2.2%	3 6.5%	0 0.0%	4 8.7%	0 0.0%	0 0.0%	15 32.6%	0 0.0%
50～59歳	55	37 67.3%	15 27.3%	10 18.2%	4 7.3%	13 23.6%	9 16.4%	9 16.4%	2 3.6%	3 5.5%	0 0.0%	2 3.6%	0 0.0%	7 12.7%	1 1.8%	0 0.0%	8 14.5%	1 1.8%
60～69歳	72	49 68.1%	13 18.1%	5 6.9%	9 12.5%	18 25.0%	11 15.3%	8 11.1%	5 6.9%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.4%	3 4.2%	8 11.1%	4 5.6%	2 2.8%	6 8.3%	1 1.4%
70～79歳	88	54 61.4%	10 11.4%	6 6.8%	6 6.8%	35 39.8%	21 23.9%	13 14.8%	21 23.9%	2 2.3%	5 5.7%	0 0.0%	5 5.7%	9 10.2%	6 6.8%	1 1.1%	8 9.1%	1 1.1%
80歳以上	54	33 61.1%	5 9.3%	3 5.6%	5 9.3%	24 44.4%	16 29.6%	10 18.5%	11 20.4%	1 1.9%	1 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.7%	5 9.3%	1 1.9%	6 11.1%	1 1.9%
無回答	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%

問 7 その他	性別	年齢
本(読書)	男性	30～34 歳
通信大学をネットで選んで決めた 2013 年から 6 年間京都にて。	男性	65～69 歳
放送大学	男性	70～74 歳
書籍	男性	75～79 歳
「広報おおむた」については、良い事ばかりで事件物、悪いニュース等も上げてほしい。	男性	80 歳以上

問8 新型コロナウイルスの影響により、あなたのこの 1 年程の間の生涯学習を行う時間はどのように変化したかおたずねします。あてはまる番号に○印をつけてください。

問8 新型コロナウイルスの影響による生涯学習時間の変化

	度数	%
大幅に増加した	4	1.1
増加した	22	5.9
あまり変化はなかった	207	55.3
減少した	70	18.7
大幅に減少した	40	10.7
無回答	31	8.3
合計	374	100.0



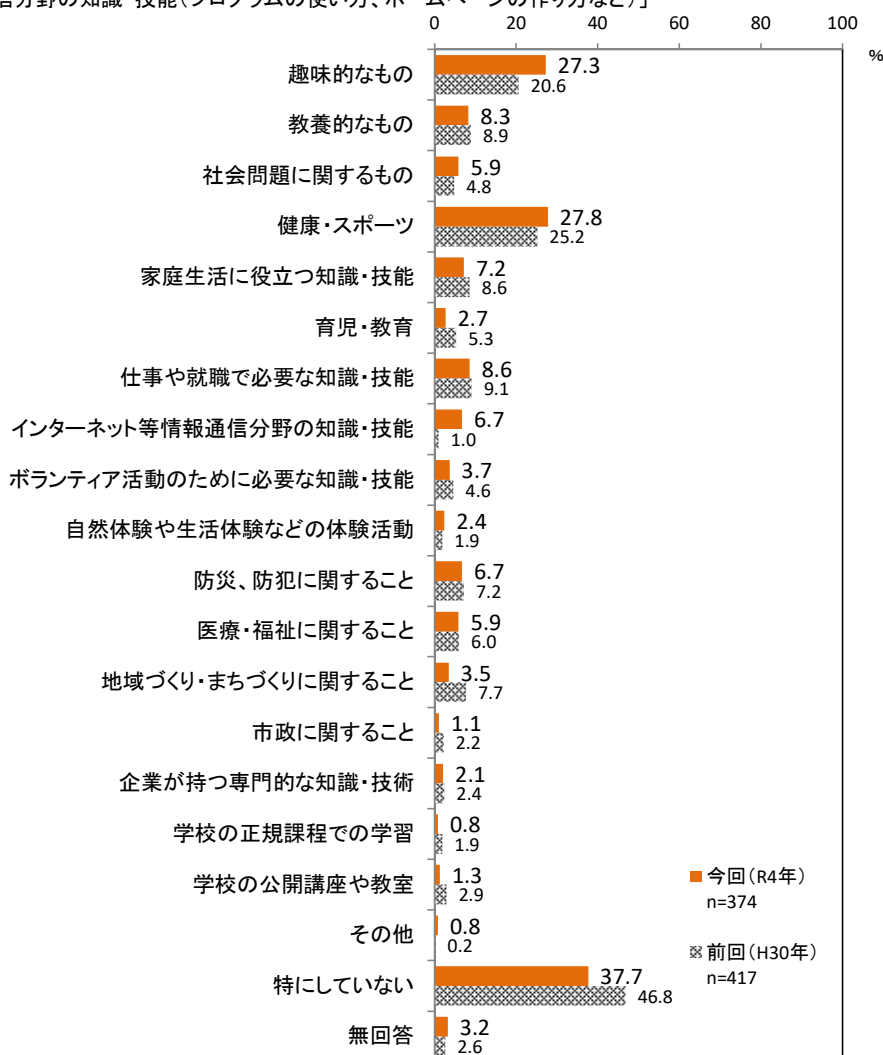
	合計	大幅に増加した	増加した	あまり変化はなかった	減少した	大幅に減少した	無回答
全体	374 100.0%	4 1.1%	22 5.9%	207 55.3%	70 18.7%	40 10.7%	31 8.3%
■性別							
男性	165 100.0%	3 1.8%	14 8.5%	91 55.2%	29 17.6%	20 12.1%	8 4.8%
女性	195 100.0%	1 0.5%	7 3.6%	111 56.9%	38 19.5%	18 9.2%	20 10.3%
無回答	14 100.0%	0 0.0%	1 7.1%	5 35.7%	3 21.4%	2 14.3%	3 21.4%
■年代別							
18～29歳	27 100.0%	1 3.7%	1 3.7%	19 70.4%	2 7.4%	3 11.1%	1 3.7%
30～39歳	30 100.0%	0 0.0%	1 3.3%	24 80.0%	4 13.3%	1 3.3%	0 0.0%
40～49歳	46 100.0%	0 0.0%	6 13.0%	26 56.5%	7 15.2%	5 10.9%	2 4.3%
50～59歳	55 100.0%	0 0.0%	1 1.8%	38 69.1%	8 14.5%	6 10.9%	2 3.6%
60～69歳	72 100.0%	1 1.4%	2 2.8%	40 55.6%	18 25.0%	4 5.6%	7 9.7%
70～79歳	88 100.0%	2 2.3%	6 6.8%	43 48.9%	18 20.5%	11 12.5%	8 9.1%
80歳以上	54 100.0%	0 0.0%	5 9.3%	16 29.6%	13 24.1%	10 18.5%	10 18.5%
無回答	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%

問9 あなたは、この1年程の間に、生涯学習をしたことがありますか。
あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

問9 この一年間の生涯学習に関する行動

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)	102	27.3	86	20.6
教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)	31	8.3	37	8.9
社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境など)	22	5.9	20	4.8
健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)	104	27.8	105	25.2
家庭生活に役立つ知識・技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)	27	7.2	36	8.6
育児・教育(家庭教育、幼児教育、教育問題など)	10	2.7	22	5.3
仕事や就職に必要な知識・技能(仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)	32	8.6	38	9.1
インターネット等情報通信分野の知識・技能(プログラミング、Zoomの使い方など)★	25	6.7	4	1.0
ボランティア活動のために必要な知識・技能	14	3.7	19	4.6
自然体験や生活体験などの体験活動	9	2.4	8	1.9
防災、防犯に関すること	25	6.7	30	7.2
医療・福祉に関すること	22	5.9	25	6.0
地域づくり・まちづくりに関すること	13	3.5	32	7.7
市政に関すること	4	1.1	9	2.2
企業が持つ専門的な知識・技術	8	2.1	10	2.4
学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程での学習	3	0.8	8	1.9
学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室	5	1.3	12	2.9
その他	3	0.8	1	0.2
特にしていない	141	37.7	195	46.8
無回答	12	3.2	11	2.6
回答者数	374		417	

※「★」: 前回調査の選択肢は「情報通信分野の知識・技能(プログラムの使い方、ホームページの作り方など)」



		合計	地域づくり・まちづくりに関すること	医療・福祉に関すること	防災、防犯に関すること	自然体験や生活体験などの体験活動	ボランティア活動のために必要な知識・技能	インターネット等情報通信分野の知識・技能（プログラミング、Z・o・mの使い方など）	仕事や就職に必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）	育児・教育（家庭教育、幼児教育、教育問題など）	家庭生活に役立つ知識・技能など（料理、洋裁、和裁、編み物など）	健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）	社会問題に関するもの（社会・時事、国際、環境など）	教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）	趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）	その他	特にしていない	無回答			
全体	374	102 27.3%	31 8.3%	22 5.9%	104 27.8%	27 7.2%	10 2.7%	32 8.6%	25 6.7%	14 3.7%	9 2.4%	25 6.7%	22 5.9%	13 3.5%	4 1.1%	8 2.1%	3 0.8%	5 1.3%	3 0.8%	141 37.7%	12 3.2%
■性別																					
男性	165	49 29.7%	18 10.9%	11 6.7%	54 32.7%	10 6.1%	4 2.4%	19 11.5%	13 7.9%	8 4.8%	7 4.2%	11 6.7%	10 6.1%	6 3.6%	4 2.4%	6 3.6%	2 1.2%	4 2.4%	2 1.2%	49 29.7%	6 3.6%
女性	195	50 25.6%	13 6.7%	10 5.1%	44 22.6%	17 8.7%	6 3.1%	13 6.7%	12 6.2%	6 3.1%	1 0.5%	11 5.6%	11 5.6%	5 2.6%	0 0.0%	2 1.0%	1 0.5%	1 0.5%	1 0.5%	89 45.6%	4 2.1%
無回答	14	3 21.4%	0 0.0%	1 7.1%	6 42.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	3 21.4%	1 7.1%	2 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 21.4%	2 14.3%
■年代別																					
18～29歳	27	8 29.6%	1 3.7%	1 3.7%	5 18.5%	2 7.4%	2 7.4%	4 14.8%	4 14.8%	1 3.7%	2 7.4%	1 3.7%	1 3.7%	0 0.0%	1 3.7%	1 3.7%	2 7.4%	1 3.7%	1 3.7%	6 22.2%	1 3.7%
30～39歳	30	5 16.7%	2 6.7%	2 6.7%	5 16.7%	3 10.0%	1 3.3%	7 23.3%	5 16.7%	3 10.0%	1 3.3%	0 0.0%	4 13.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.3%	14 46.7%	0 0.0%
40～49歳	46	8 17.4%	1 2.2%	1 2.2%	14 30.4%	2 4.3%	3 6.5%	10 21.7%	4 8.7%	2 4.3%	1 2.2%	7 15.2%	2 4.3%	3 6.5%	0 0.0%	1 2.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	18 39.1%	1 2.2%
50～59歳	55	20 36.4%	9 16.4%	3 5.5%	16 29.1%	6 10.9%	3 5.5%	3 5.5%	2 3.6%	3 5.5%	0 0.0%	1 1.8%	3 5.5%	2 3.6%	1 1.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.8%	0 0.0%	23 41.8%	0 0.0%
60～69歳	72	19 26.4%	5 6.9%	7 9.7%	20 27.8%	5 6.9%	0 0.0%	4 5.6%	2 2.8%	0 0.0%	1 1.4%	1 1.4%	2 2.8%	1 1.4%	0 4.2%	3 0.0%	0 1.4%	1 0.0%	0 41.7%	2 2.8%	
70～79歳	88	27 30.7%	10 11.4%	6 6.8%	31 35.2%	7 8.0%	1 1.1%	4 4.5%	5 5.7%	3 3.4%	3 3.4%	6 6.8%	3 6.8%	1 3.4%	1 1.1%	1 1.1%	0 0.0%	1 1.1%	1 1.1%	30 34.1%	4 4.5%
80歳以上	54	15 27.8%	3 5.6%	2 3.7%	12 22.2%	2 3.7%	0 0.0%	0 0.0%	3 5.6%	2 3.7%	1 1.9%	9 16.7%	4 7.4%	4 7.4%	1 1.9%	1 1.9%	1 1.9%	1 1.9%	0 0.0%	19 35.2%	4 7.4%
無回答	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%

問9その他	性別	年齢
動画編集技術、デザイナー	男性	25～29歳
投資	男性	35～39歳
漢検を始めた。	男性	70～74歳
月1回”えるる”で川柳クラブ大蛇山を主催。	女性	75～79歳
書籍	男性	75～79歳

《問9で「1～18」に○印をつけられた方におたずねします》

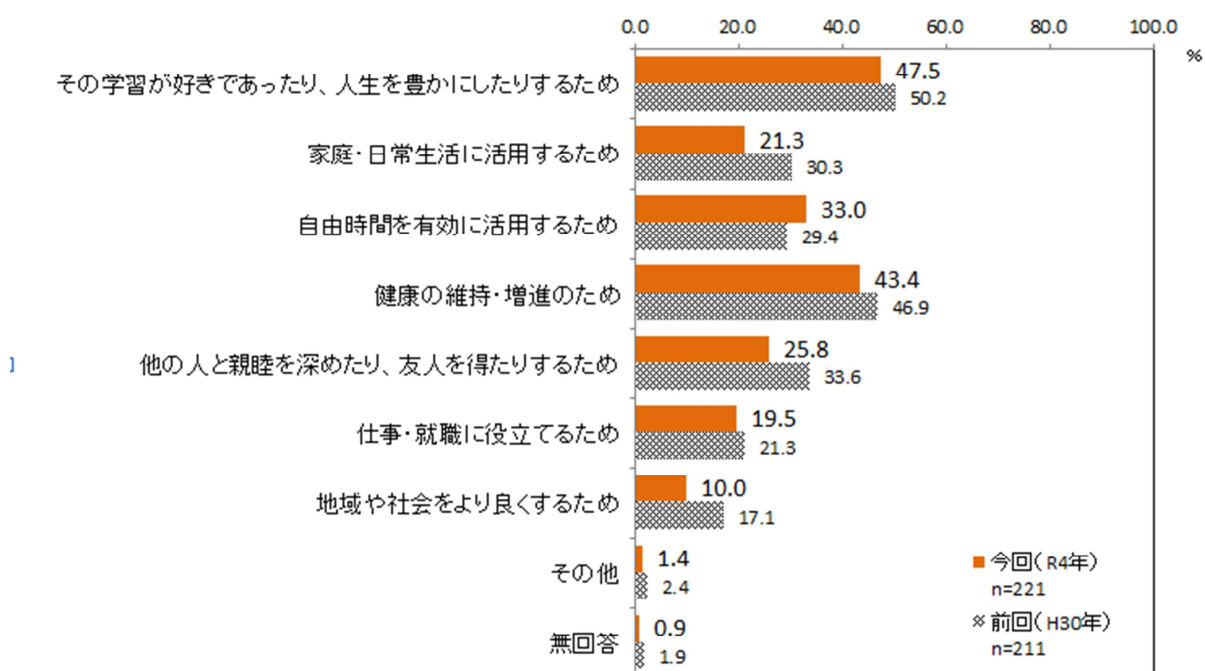
問10 あなたは何のために生涯学習をしていますか。

あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

問10 生涯学習をしている目的

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
その学習が好きであったり、人生を豊かにしたりするため	105	47.5	106	50.2
家庭・日常生活に活用するため	47	21.3	64	30.3
自由時間を有効に活用するため	73	33.0	62	29.4
健康の維持・増進のため	96	43.4	99	46.9
他の人と親睦を深めたり、友人を得たりするため	57	25.8	71	33.6
仕事・就職に役立てるため	43	19.5	45	21.3
地域や社会をより良くするため	22	10.0	36	17.1
その他	3	1.4	5	2.4
無回答	2	0.9	4	1.9
回答者数	221		211	

問10その他	性別	年齢
ボランティア活動に役立てたい。	女性	55～59歳
料理を作り、兄弟な人、近所のお年寄りに届けます。料理番組で学んでいます。	女性	60～64歳



	合計	か に し た り す る た め	あ っ た り 、 人 生 を 豊 か く す る た め	そ の 学 習 が 好 き で あ る た め	家 庭 ・ 日 常 生 活 に 活 か す る た め	自 由 時 間 を 有 効 に 活 か す る た め	健 康 の 維 持 ・ 増 進 の た め	す た り 、 人 と 友 人 を 得 た り す る た め	他 の 人 と 親 睦 を 深 め る た め	仕 事 ・ 就 職 に 役 立 て る た め	地 域 や 社 会 を よ り 良 く す る た め	そ の 他	無 回 答
全体	221	105 47.5%	47 21.3%	73 33.0%	96 43.4%	57 25.8%	43 19.5%	22 10.0%	3 1.4%	2 0.9%			
■性別													
男性	110	48 43.6%	25 22.7%	41 37.3%	50 45.5%	27 24.5%	25 22.7%	13 11.8%	1 0.9%	0 0.0%			
女性	102	54 52.9%	22 21.6%	31 30.4%	39 38.2%	26 25.5%	18 17.6%	9 8.8%	2 2.0%	2 2.0%			
無回答	9	3 33.3%	0 0.0%	1 11.1%	7 77.8%	4 44.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%			
■年代別													
18～29歳	20	8 40.0%	8 40.0%	6 30.0%	4 20.0%	3 15.0%	7 35.0%	1 5.0%	0 0.0%	0 0.0%			
30～39歳	16	8 50.0%	3 18.8%	4 25.0%	6 37.5%	2 12.5%	7 43.8%	2 12.5%	0 0.0%	1 6.3%			
40～49歳	27	13 48.1%	5 18.5%	7 25.9%	12 44.4%	6 22.2%	11 40.7%	5 18.5%	1 3.7%	0 0.0%			
50～59歳	32	23 71.9%	5 15.6%	13 40.6%	11 34.4%	9 28.1%	4 12.5%	4 12.5%	1 3.1%	0 0.0%			
60～69歳	40	15 37.5%	11 27.5%	15 37.5%	15 37.5%	9 22.5%	7 17.5%	2 5.0%	1 2.5%	0 0.0%			
70～79歳	54	28 51.9%	11 20.4%	18 33.3%	31 57.4%	13 24.1%	6 11.1%	6 11.1%	0 0.0%	1 1.9%			
80歳以上	31	10 32.3%	4 12.9%	10 32.3%	16 51.6%	15 48.4%	1 3.2%	2 6.5%	0 0.0%	0 0.0%			
無回答	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%			

《問9で「1～18」に○印をつけられた方におたずねします》

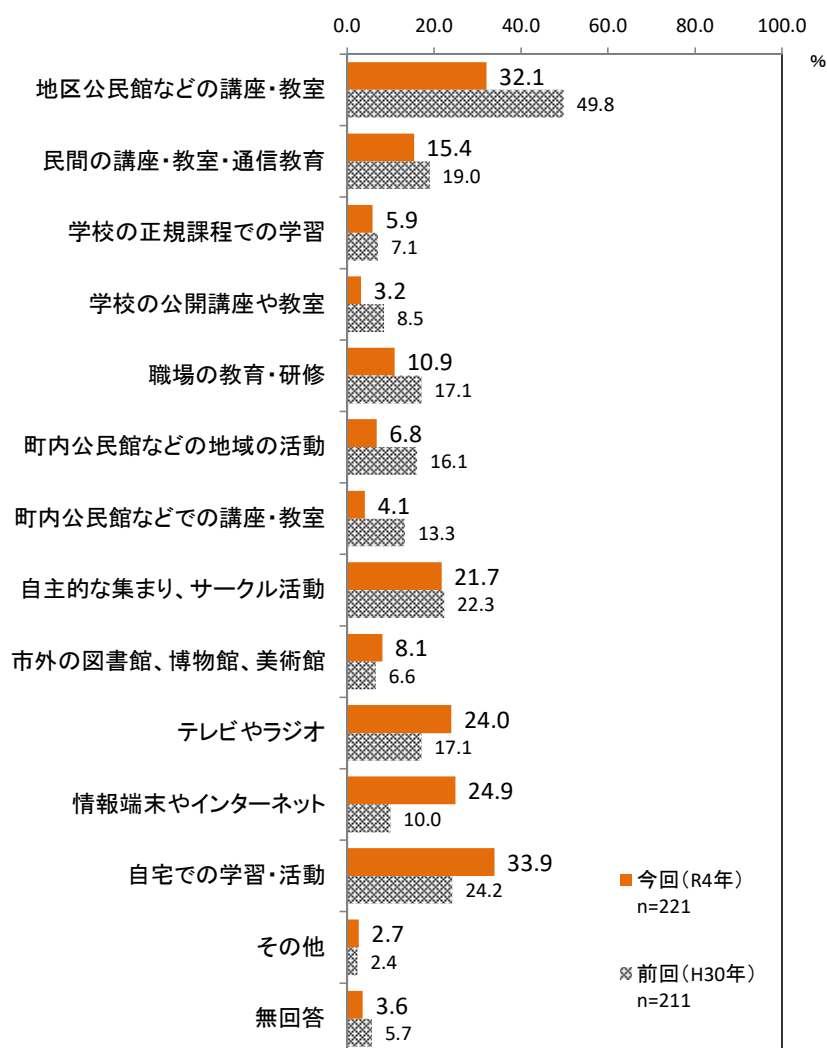
問11 あなたは、どのような場所や形態で生涯学習をしたことがありますか。

あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

問11 生涯学習をしたことがある場所や形態

	今回 (R4年)		前回 (H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
地区公民館、えるる、市立図書館、市民体育館、文化会館などの講座・教室	71	32.1	105	49.8
カルチャーセンターやスポーツクラブなどの民間の講座・教室・通信教育	34	15.4	40	19.0
学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程での学習	13	5.9	14	7.1
学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室	7	3.2	18	8.5
職場の教育・研修	24	10.9	36	17.1
町内公民館、PTA、子ども会などの地域の活動	15	6.8	34	16.1
町内公民館やサロンなどでの講座・教室	9	4.1	28	13.3
同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	48	21.7	47	22.3
市外の図書館、博物館、美術館	18	8.1	14	6.6
テレビやラジオ	53	24.0	36	17.1
情報端末やインターネット(eラーニング、Youtube等を含む)★	55	24.9	21	10.0
自宅での学習・活動(書籍など)	75	33.9	51	24.2
その他	6	2.7	5	2.4
無回答	8	3.6	12	5.7
回答者数	221		211	

※「★」: 前回調査の選択肢は「情報端末やインターネット(eラーニング含む)」



問11その他	性別	年齢
外(ランニングなので)	男性	40～44歳
ゴルフ練習場	男性	55～59歳
書道教室	女性	75～79歳
介護施設内	女性	80歳以上

	合計	などの講座・教室	地区公民館、市民体育館、文化会館	教室・通信教育	カルチャーセンターやスポーツなどの民間の講座・	院、専門学校などの正規課程での学習	学校（高等学校、大学、公開講座）	職場の教育・研修	町内公民館、PTA、子ども会などの地域の活動	町内公民館やサロンなどでの講座・教室	同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	市外の図書館、博物館、美術館	テレビやラジオ	（eラーニング、YouTube等を含む）	情報端末やインターネット	自宅での学習・活動（書籍など）	その他	無回答
全体	221	71 32.1%	34 15.4%	13 5.9%	7 3.2%	24 10.9%	15 6.8%	9 4.1%	48 21.7%	18 8.1%	53 24.0%	55 24.9%	75 33.9%	6 2.7%	8 3.6%			
■性別																		
男性	110	30 27.3%	14 12.7%	7 6.4%	3 2.7%	13 11.8%	8 7.3%	4 3.6%	27 24.5%	10 9.1%	27 24.5%	36 32.7%	43 39.1%	2 1.8%	4 3.6%			
女性	102	39 38.2%	20 19.6%	6 5.9%	4 3.9%	10 9.8%	7 6.9%	4 3.9%	18 17.6%	8 7.8%	24 23.5%	18 17.6%	31 30.4%	4 3.9%	3 2.9%			
無回答	9	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	1 11.1%	3 33.3%	0 0.0%	2 22.2%	1 11.1%	1 11.1%	0 0.0%	1 11.1%			
■年代別																		
18～29歳	20	4 20.0%	1 5.0%	5 25.0%	2 10.0%	2 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 10.0%	2 10.0%	3 15.0%	6 30.0%	10 50.0%	0 0.0%	0 0.0%			
30～39歳	16	5 31.3%	0 0.0%	2 12.5%	0 0.0%	3 18.8%	1 6.3%	0 0.0%	3 18.8%	4 25.0%	4 25.0%	7 43.8%	8 50.0%	0 0.0%	1 6.3%			
40～49歳	27	8 29.6%	9 33.3%	2 7.4%	1 3.7%	6 22.2%	4 14.8%	1 3.7%	5 18.5%	1 3.7%	2 7.4%	11 40.7%	10 37.0%	1 3.7%	0 0.0%			
50～59歳	32	13 40.6%	8 25.0%	1 3.1%	3 9.4%	3 9.4%	2 6.3%	0 0.0%	5 15.6%	2 6.3%	3 9.4%	10 31.3%	13 40.6%	1 3.1%	2 6.3%			
60～69歳	40	9 22.5%	7 17.5%	1 2.5%	0 0.0%	5 12.5%	1 2.5%	0 0.0%	10 25.0%	4 10.0%	16 40.0%	10 25.0%	11 27.5%	0 0.0%	0 0.0%			
70～79歳	54	21 38.9%	5 9.3%	1 1.9%	0 0.0%	4 7.4%	3 5.6%	4 7.4%	14 25.9%	3 5.6%	17 31.5%	8 14.8%	18 33.3%	2 3.7%	3 5.6%			
80歳以上	31	11 35.5%	4 12.9%	1 3.2%	1 3.2%	1 3.2%	4 12.9%	4 12.9%	9 29.0%	2 6.5%	8 25.8%	3 9.7%	5 16.1%	2 6.5%	1 3.2%			
無回答	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%			

《問9で生涯学習を「特にしていない」とお答えの人におたずねします》

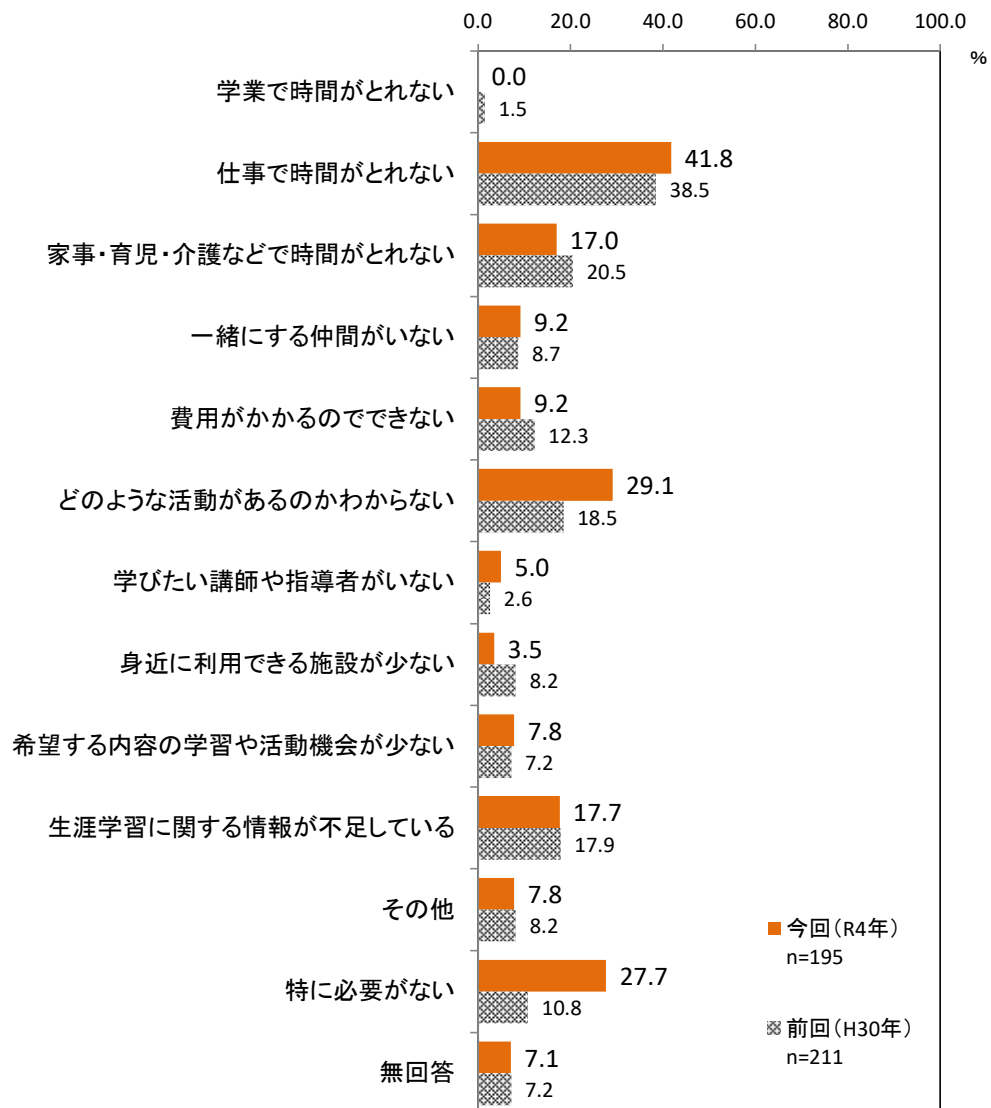
問12 あなたが生涯学習をしない理由(できない理由)は何ですか。

あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

問12生涯学習をしない理由

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
学業で時間がとれない	0	0.0	3	1.5
仕事で時間がとれない	59	41.8	75	38.5
家事・育児・介護などで時間がとれない	24	17.0	40	20.5
一緒にする仲間がいない	13	9.2	17	8.7
費用がかかるのでできない	13	9.2	24	12.3
どのような活動があるのかわからない	41	29.1	36	18.5
学びたい講師や指導者がいない	7	5.0	5	2.6
身近に利用できる施設が少ない	5	3.5	16	8.2
希望する内容の学習や活動機会が少ない	11	7.8	14	7.2
生涯学習に関する情報が不足している	25	17.7	35	17.9
その他	11	7.8	16	8.2
特に必要がない	39	27.7	21	10.8
無回答	10	7.1	14	7.2
回答者数	141		195	

問12その他	性別	年齢
他人と関わるのが面倒くさい、年齢的に世話係になりそう。	女性	40～44歳
週末は子供がいるので子供の預け先がない 場所によって遠かったり駐車場が狭かったり・・・ わざわざ行く必要が感じられない。	女性	40～44歳
茶道を習っていたがコロナを機に先生がやめてしまった。	女性	45～49歳
自分自身の体調による為	女性	55～59歳
募集する人数が少ない。	女性	65～69歳
病気(軽い精神疾患)	男性	70～74歳
体調不良	女性	75～79歳
病気、脊髄管狭束症	女性	75～79歳
入院中、視力低下	女性	75～79歳
興味がない。	女性	75～79歳
デイサービスに週3日通っていて、体力に余力がない。	女性	80歳以上
要介護4状態区分	女性	80歳以上
病気で参加出来ない。	女性	80歳以上



	合計	い 学 業 で 時 間 が と れ な	い 仕 事 で 時 間 が と れ な	ど 家 事 ・ 育 児 と れ な 介 護 な	な 一 緒 に す る 仲 間 が い	き 費 用 が か か る の で で	る の か わ か ら な い 活 動 が あ	者 学 び た い 講 師 や 指 導	設 身 近 に 利 用 で き る 施	や 活 動 機 会 が 少 な い 学 習	生 涯 学 習 に 関 する 情 報 が 不 足 し て い る	そ 他	特 に 必 要 が な い	無 回 答
全体	141	0 0.0%	59 41.8%	24 17.0%	13 9.2%	13 9.2%	41 29.1%	7 5.0%	5 3.5%	11 7.8%	25 17.7%	11 7.8%	39 27.7%	10 7.1%
■性別														
男性	49	0 0.0%	19 38.8%	2 4.1%	4 8.2%	3 6.1%	15 30.6%	5 10.2%	2 4.1%	4 8.2%	11 22.4%	2 4.1%	18 36.7%	5 10.2%
女性	89	0 0.0%	38 42.7%	22 24.7%	9 10.1%	10 11.2%	26 29.2%	2 2.2%	3 3.4%	7 7.9%	14 15.7%	9 10.1%	20 22.5%	5 5.6%
無回答	3	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%
■年代別														
18～29歳	6	0 0.0%	3 50.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%
30～39歳	14	0 0.0%	9 64.3%	5 35.7%	1 7.1%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 21.4%	1 7.1%	0 0.0%	4 28.6%	0 0.0%
40～49歳	18	0 0.0%	11 61.1%	6 33.3%	1 5.6%	2 11.1%	5 27.8%	1 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.6%	2 11.1%	5 27.8%	0 0.0%
50～59歳	23	0 0.0%	17 73.9%	3 13.0%	3 13.0%	5 21.7%	13 56.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.3%	9 39.1%	1 4.3%	4 17.4%	1 4.3%
60～69歳	30	0 0.0%	12 40.0%	8 26.7%	4 13.3%	1 3.3%	10 33.3%	4 13.3%	4 13.3%	3 10.0%	6 20.0%	1 3.3%	5 16.7%	2 6.7%
70～79歳	30	0 0.0%	5 16.7%	1 3.3%	1 3.3%	3 10.0%	2 6.7%	2 6.7%	0 0.0%	2 6.7%	5 16.7%	4 13.3%	14 46.7%	5 16.7%
80歳以上	19	0 0.0%	2 10.5%	0 0.0%	3 15.8%	1 5.3%	8 42.1%	0 0.0%	1 5.3%	1 5.3%	2 10.5%	3 15.8%	5 26.3%	2 10.5%
無回答	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%

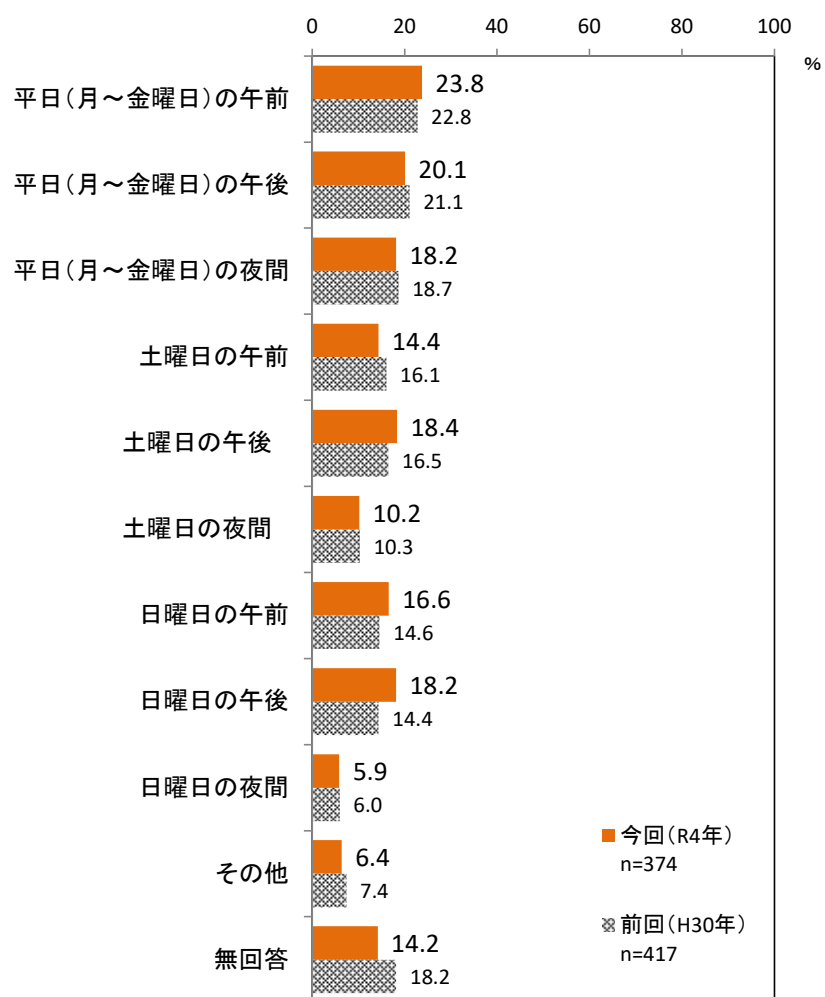
問 13 あなたが生涯学習を行う際に、都合の良い日時はいつですか。

あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

問13 生涯学習を行う際の都合の良い日時

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
平日(月～金曜日)の午前	89	23.8	95	22.8
平日(月～金曜日)の午後	75	20.1	88	21.1
平日(月～金曜日)の夜間	68	18.2	78	18.7
土曜日の午前	54	14.4	67	16.1
土曜日の午後	69	18.4	69	16.5
土曜日の夜間	38	10.2	43	10.3
日曜日の午前	62	16.6	61	14.6
日曜日の午後	68	18.2	60	14.4
日曜日の夜間	22	5.9	25	6.0
その他	24	6.4	31	7.4
無回答	53	14.2	76	18.2
回答者数		374	417	

※「夜間」とは午後5時以降とします。



問 13 その他	性別	年齢
不定の休みなので。	女性	25～29 歳
夜中	男性	25～29 歳
子どもが寝た後	女性	25～29 歳
わからない。	女性	35～39 歳
休みが不定期なので決められない。	女性	40～44 歳
不定期	女性	45～49 歳
ひまな時	男性	55～59 歳
特に無し。	女性	55～59 歳
予定が立てない。	男性	55～59 歳
火曜日の午前	女性	55～59 歳
仕事してない時間	男性	55～59 歳
本当に取組みだと思う。生涯学習があるならば、出席出来る様に調整する。	男性	55～59 歳
時間が空いた時	男性	55～59 歳
特にきめていない。自分らしさ！自分の都合です。	女性	60～64 歳
家事終了の夜	女性	60～64 歳
やりたいことができたならその時。	男性	60～64 歳
ケースバイケース	女性	60～64 歳
通信大学の日程に合わせて自宅並びに大学で学んだ。	男性	65～69 歳
知的障害ゆえ施設内で受けている。	男性	65～69 歳
決められたら絶対合わせなければいけない様に感じるから。	女性	70～74 歳
常時	男性	70～74 歳
毎日 24 時間	男性	70～74 歳
四六時中	男性	75～79 歳
深夜	男性	75～79 歳
仕事時間が不規則	男性	75～79 歳

	合計	平日（月～金曜日）の午前	平日（月～金曜日）の午後	平日（月～金曜日）の夜間	土曜日の午前	土曜日の午後	土曜日の夜間	日曜日の午前	日曜日の午後	日曜日の夜間	その他	無回答
全体	374	89 23.8%	75 20.1%	68 18.2%	54 14.4%	69 18.4%	38 10.2%	62 16.6%	68 18.2%	22 5.9%	24 6.4%	53 14.2%
■性別												
男性	165	25 15.2%	33 20.0%	31 18.8%	25 15.2%	33 20.0%	22 13.3%	35 21.2%	41 24.8%	13 7.9%	15 9.1%	24 14.5%
女性	195	61 31.3%	40 20.5%	34 17.4%	29 14.9%	35 17.9%	16 8.2%	27 13.8%	25 12.8%	8 4.1%	9 4.6%	25 12.8%
無回答	14	3 21.4%	2 14.3%	3 21.4%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 14.3%	1 7.1%	0 0.0%	4 28.6%
■年代別												
18～29歳	27	0 0.0%	2 7.4%	11 40.7%	2 7.4%	4 14.8%	4 14.8%	4 14.8%	6 22.2%	4 14.8%	4 14.8%	2 7.4%
30～39歳	30	5 16.7%	4 13.3%	9 30.0%	8 26.7%	9 30.0%	9 30.0%	7 23.3%	6 20.0%	8 26.7%	1 3.3%	1 3.3%
40～49歳	46	5 10.9%	3 6.5%	17 37.0%	15 32.6%	16 34.8%	8 17.4%	15 32.6%	17 37.0%	5 10.9%	2 4.3%	1 2.2%
50～59歳	55	6 10.9%	10 18.2%	17 30.9%	11 20.0%	17 30.9%	10 18.2%	12 21.8%	15 27.3%	1 1.8%	6 10.9%	3 5.5%
60～69歳	72	26 36.1%	12 16.7%	7 9.7%	9 12.5%	12 16.7%	6 8.3%	12 16.7%	10 13.9%	2 2.8%	5 6.9%	6 8.3%
70～79歳	88	32 36.4%	26 29.5%	6 6.8%	6 6.8%	8 9.1%	1 1.1%	6 6.8%	8 9.1%	1 1.1%	6 6.8%	21 23.9%
80歳以上	54	15 27.8%	18 33.3%	1 1.9%	3 5.6%	3 5.6%	0 0.0%	6 11.1%	5 9.3%	1 1.9%	0 0.0%	18 33.3%
無回答	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%

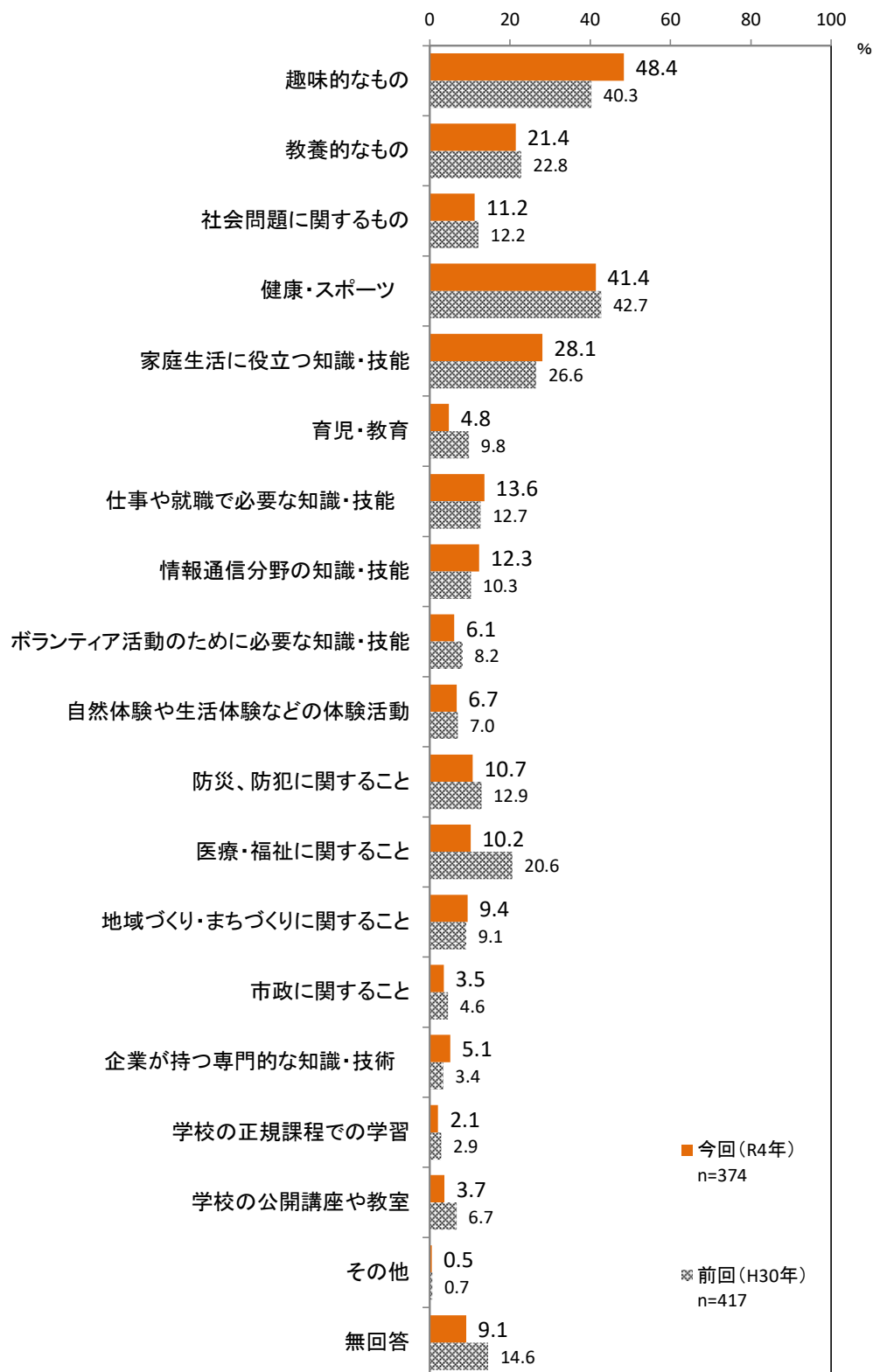
問 14 あなたは、どのようなことを学んでみたいと思いますか。

あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

問14 学んでみたいこと

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)	181	48.4	168	40.3
教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)	80	21.4	95	22.8
社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境など)	42	11.2	51	12.2
健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)	155	41.4	178	42.7
家庭生活に役立つ知識・技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)	105	28.1	111	26.6
育児・教育(家庭教育、幼児教育、教育問題など)	18	4.8	41	9.8
仕事や就職に必要な知識・技能(仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)	51	13.6	53	12.7
情報通信分野の知識・技能(プログラミング、Zoomの使い方など)	46	12.3	43	10.3
ボランティア活動のために必要な知識・技能	23	6.1	34	8.2
自然体験や生活体験などの体験活動	25	6.7	29	7.0
防災、防犯に関すること	40	10.7	54	12.9
医療・福祉に関すること	38	10.2	86	20.6
地域づくり・まちづくりに関すること	35	9.4	38	9.1
市政に関すること	13	3.5	19	4.6
企業が持つ専門的な知識・技術	19	5.1	14	3.4
学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程での学習	8	2.1	12	2.9
学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室	14	3.7	28	6.7
その他	2	0.5	3	0.7
無回答	34	9.1	61	14.6
回答者数	374		417	

問14その他	性別	年齢
この先に…！と考えると特に無しです。	女性	60～64歳
身近に通信大学で学びたい科目や条件があればなお良かった。	男性	65～69歳
つり入門、魚つりを最初から指導してくれるような人材等。	男性	70～74歳
学びたいと思わない。	男性	75～79歳
老人向けのコース	女性	80歳以上
化粧品の内容、エステ	女性	80歳以上



	合計	181 48.4%	80 21.4%	42 11.2%	155 41.4%	105 28.1%	18 4.8%	51 13.6%	46 12.3%	23 6.1%	25 6.7%	40 10.7%	38 10.2%	35 9.4%	13 3.5%	19 5.1%	8 2.1%	14 3.7%	2 0.5%	34 9.1%
全体	374																			
■性別																				
男性	165	81 49.1%	38 23.0%	24 14.5%	74 44.8%	38 23.0%	5 3.0%	25 15.2%	24 14.5%	11 6.7%	16 9.7%	18 10.9%	12 7.3%	13 7.9%	7 4.2%	11 6.7%	1 0.6%	4 2.4%	2 1.2%	12 7.3%
女性	195	94 48.2%	41 21.0%	16 8.2%	76 39.0%	66 33.8%	13 6.7%	26 13.3%	22 11.3%	11 5.6%	9 4.6%	20 10.3%	26 13.3%	19 9.7%	6 3.1%	8 4.1%	7 3.6%	10 5.1%	0 0.0%	19 9.7%
無回答	14	6 42.9%	1 7.1%	2 14.3%	5 35.7%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	2 14.3%	0 0.0%	3 21.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 21.4%
■年代別																				
18～29歳	27	12 44.4%	0 0.0%	1 3.7%	8 29.6%	8 29.6%	2 7.4%	8 29.6%	5 18.5%	1 3.7%	3 11.1%	1 3.7%	1 3.7%	1 3.7%	2 7.4%	0 0.0%	1 3.7%	2 7.4%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳	30	17 56.7%	6 20.0%	4 13.3%	10 33.3%	16 53.3%	9 30.0%	14 46.7%	6 20.0%	2 6.7%	4 13.3%	3 10.0%	6 20.0%	4 13.3%	0 0.0%	2 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.3%
40～49歳	46	28 60.9%	9 19.6%	1 2.2%	21 45.7%	15 32.6%	3 6.5%	11 23.9%	11 23.9%	4 8.7%	5 10.9%	7 15.2%	6 13.0%	5 10.9%	1 2.2%	5 10.9%	3 6.5%	3 6.5%	0 0.0%	1 2.2%
50～59歳	55	29 52.7%	16 29.1%	7 12.7%	26 47.3%	18 32.7%	4 7.3%	10 18.2%	11 20.0%	4 7.3%	4 7.3%	5 9.1%	5 9.1%	5 9.1%	3 5.5%	7 12.7%	2 3.6%	5 9.1%	1 1.8%	1 1.8%
60～69歳	72	38 52.8%	17 23.6%	7 9.7%	32 44.4%	21 29.2%	0 0.0%	3 4.2%	5 6.9%	5 6.9%	3 4.2%	3 4.2%	5 6.9%	4 5.6%	1 1.4%	2 2.8%	1 1.4%	1 1.4%	1 1.4%	4 5.6%
70～79歳	88	36 40.9%	22 25.0%	17 19.3%	40 45.5%	22 25.0%	0 0.0%	5 5.7%	6 6.8%	5 5.7%	5 5.7%	11 12.5%	10 11.4%	8 9.1%	5 5.7%	3 3.4%	0 0.0%	2 2.3%	0 0.0%	14 15.9%
80歳以上	54	21 38.9%	10 18.5%	5 9.3%	17 31.5%	5 9.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.7%	2 3.7%	1 1.9%	10 18.5%	5 9.3%	8 14.8%	1 1.9%	0 0.0%	1 1.9%	1 1.9%	0 0.0%	12 22.2%
無回答	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%

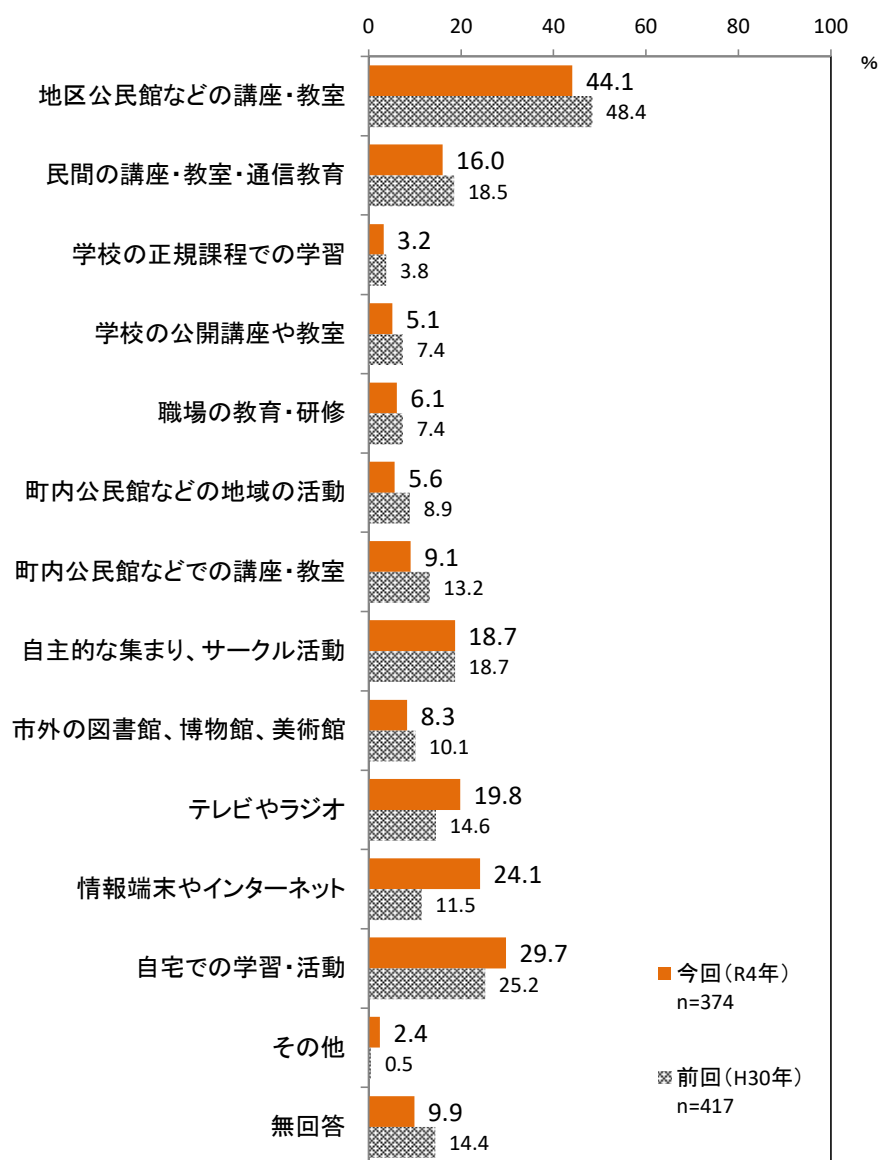
問 15 あなたは、今後どのような場所や形態で生涯学習をしたいと思いますか。
あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

問15 今後、生涯学習したい場所や形態

	今回 (R4年)		前回 (H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
地区公民館、えるる、市立図書館、市民体育館、文化会館などの講座・教室	165	44.1	202	48.4
カルチャーセンターやスポーツクラブなどの民間の講座・教室・通信教育	60	16.0	77	18.5
学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程での学習	12	3.2	16	3.8
学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室	19	5.1	31	7.4
職場の教育・研修	23	6.1	31	7.4
町内公民館、PTA、子ども会などの地域の活動	21	5.6	37	8.9
町内公民館やサロンなどでの講座・教室	34	9.1	55	13.2
同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	70	18.7	78	18.7
市外の図書館、博物館、美術館	31	8.3	42	10.1
テレビやラジオ	74	19.8	61	14.6
情報端末やインターネット(eラーニング、Youtube等を含む)★	90	24.1	48	11.5
自宅での学習・活動(書籍など)	111	29.7	105	25.2
その他	9	2.4	2	0.5
無回答	37	9.9	60	14.4
回答者数	374		417	

※「★」: 前回調査の選択肢は「情報端末やインターネット(eラーニング含む)」

問15その他	性別	年齢
カフェなど	男性	25～29歳
初めての方でも学びやすい講座や指導者	女性	50～54歳
決まっていない。	男性	60～64歳
高齢まで学べる通信大学が身近にあれば受けたい。	男性	65～69歳
つり、とくに海づりについて学びたい。有明海という恵まれた自然を活かせたら。	男性	70～74歳
近所の方に手助けをしているのでこれで良いです。	女性	70～74歳
したいと思わない。	男性	75～79歳
介護施設内	女性	80歳以上



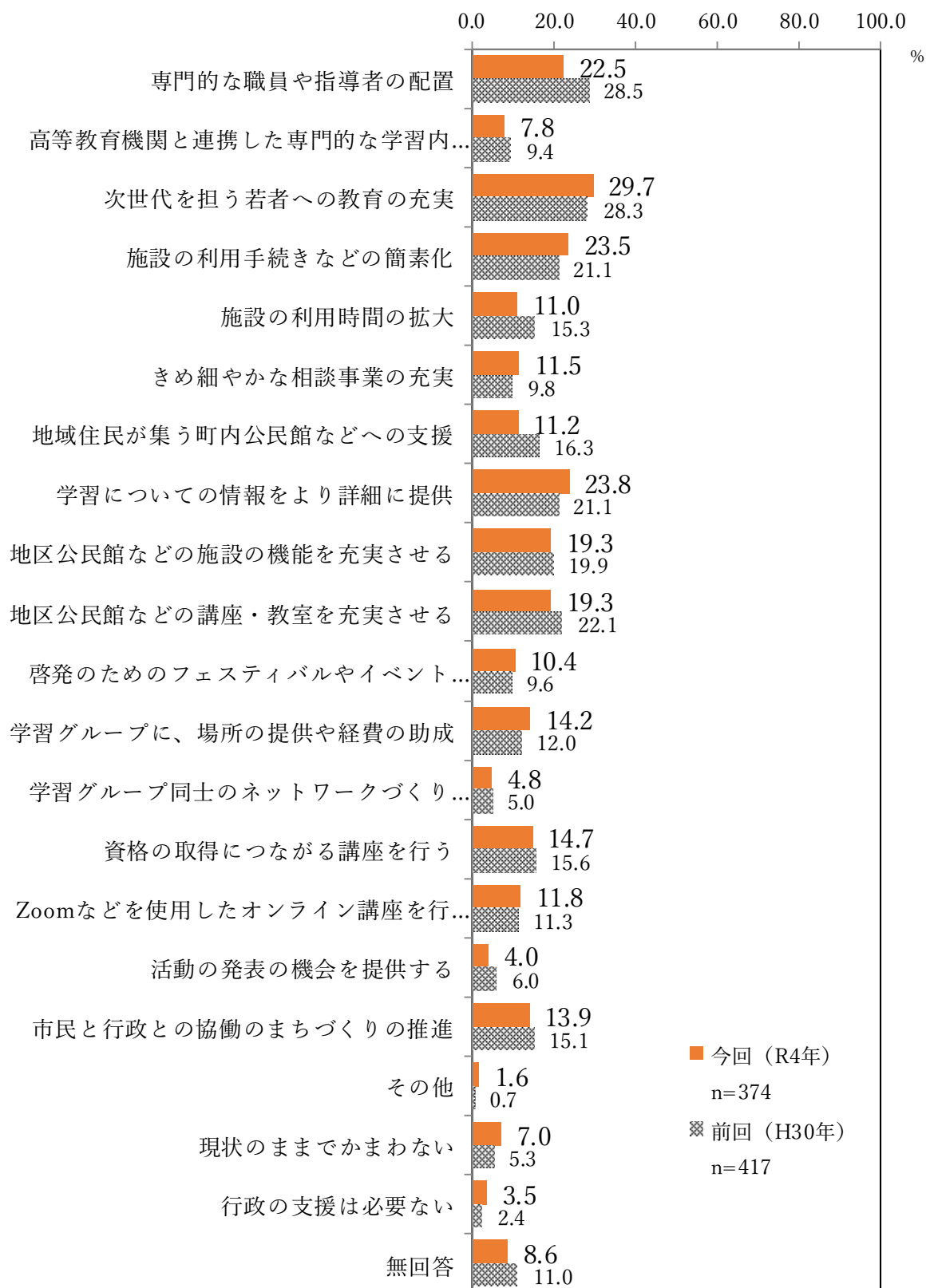
	合計	会館などの講座・教室	地区公民館、市民体育館、文化立	講座・教室・通信教育	ポータルセンターやスポーツクラブなどの民間の	規課程での学習	学校（高等学校、大学、大学院、専門学校など）の正	学校（高等学校、大学、大学院、専門学校など）の開講座や教室	職場の教育・研修	町内公民館、PTA、子ども会などの地域の活動	町内公民館やサロンなどの講座・教室	同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	市外の図書館、博物館、美術館	テレビやラジオ	YouTube等を含む	情報端末やインターネット	自宅での学習・活動（書籍など）	その他	無回答
全体	374	165 44.1%	60 16.0%	12 3.2%	19 5.1%	23 6.1%	21 5.6%	34 9.1%	70 18.7%	31 8.3%	74 19.8%	90 24.1%	111 29.7%	9 2.4%	37 9.9%				
■性別																			
男性	165	55 33.3%	23 13.9%	3 1.8%	7 4.2%	14 8.5%	10 6.1%	8 4.8%	40 24.2%	13 7.9%	40 24.2%	53 32.1%	58 35.2%	7 4.2%	13 7.9%				
女性	195	105 53.8%	37 19.0%	9 4.6%	12 6.2%	9 4.6%	10 5.1%	25 12.8%	27 13.8%	18 9.2%	33 16.9%	36 18.5%	52 26.7%	2 1.0%	19 9.7%				
無回答	14	5 35.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	1 7.1%	3 21.4%	0 0.0%	1 7.1%	1 7.1%	1 7.1%	0 0.0%	5 35.7%				
■年代別																			
18～29歳	27	5 18.5%	2 7.4%	1 3.7%	3 11.1%	2 7.4%	0 0.0%	1 3.7%	3 11.1%	2 7.4%	4 14.8%	10 37.0%	10 37.0%	1 3.7%	0 0.0%				
30～39歳	30	15 50.0%	5 16.7%	2 6.7%	2 6.7%	2 6.7%	3 10.0%	0 0.0%	4 13.3%	3 10.0%	7 23.3%	12 40.0%	17 56.7%	0 0.0%	0 0.0%				
40～49歳	46	24 52.2%	12 26.1%	2 4.3%	2 4.3%	6 13.0%	5 10.9%	4 8.7%	12 26.1%	4 8.7%	4 8.7%	18 39.1%	18 39.1%	0 0.0%	1 2.2%				
50～59歳	55	31 56.4%	13 23.6%	4 7.3%	5 9.1%	4 7.3%	4 7.3%	3 5.5%	5 9.1%	9 16.4%	6 10.9%	20 36.4%	16 29.1%	1 1.8%	2 3.6%				
60～69歳	72	31 43.1%	15 20.8%	1 1.4%	4 5.6%	5 6.9%	1 1.4%	5 6.9%	19 26.4%	7 9.7%	21 29.2%	13 18.1%	20 27.8%	2 2.8%	4 5.6%				
70～79歳	88	37 42.0%	9 10.2%	1 1.1%	2 2.3%	4 4.5%	3 3.4%	11 12.5%	20 22.7%	4 4.5%	22 25.0%	11 12.5%	24 27.3%	4 4.5%	15 17.0%				
80歳以上	54	22 40.7%	4 7.4%	1 1.9%	1 1.9%	0 0.0%	5 9.3%	10 18.5%	7 13.0%	2 3.7%	10 18.5%	6 11.1%	6 11.1%	1 1.9%	13 24.1%				
無回答	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%				

問 16 生涯学習が盛んなまちにするために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。あてはまる番号に5つまで○印をつけてください。

問16 行政が力を入れるべき生涯学習のまちづくり

	今回（R4年）		前回（H30年）	
	度数（人）	%	度数（人）	%
専門的な職員や指導者の配置	84	22.5	119	28.5
大学等高等教育機関と連携した専門的な学習内容の充実	29	7.8	39	9.4
次世代を担う若者への教育の充実	111	29.7	118	28.3
施設の利用手続きなどの簡素化	88	23.5	88	21.1
施設の利用時間の拡大（早朝、夜間など）	41	11.0	64	15.3
きめ細やかな相談事業の充実	43	11.5	41	9.8
地域住民が集う町内公民館、サロンなどへの支援	42	11.2	68	16.3
学習についての情報（講師・内容・時間・場所・費用）をより詳細に提供する	89	23.8	88	21.1
地区公民館、えるる、市立図書館、市民体育館、文化会館などの施設の機能を充実させる	72	19.3	83	19.9
地区公民館、えるる、市立図書館、市民体育館、文化会館などの講座・教室を充実させる	72	19.3	92	22.1
啓発のためのフェスティバルやイベントを行う	39	10.4	40	9.6
学習グループに、場所の提供や経費の助成を行う	53	14.2	50	12.0
学習グループ同士のネットワークづくりの支援を行う	18	4.8	21	5.0
資格の取得につながる講座を行う	55	14.7	65	15.6
Zoomなどを使用したオンライン講座を行う★	44	11.8	47	11.3
活動の発表の機会を提供する	15	4.0	25	6.0
市民と行政との協働のまちづくりの推進	52	13.9	63	15.1
その他	6	1.6	3	0.7
現状のままでかまわない	26	7.0	22	5.3
学習は自主的な活動なので、行政の支援は必要ない	13	3.5	10	2.4
無回答	32	8.6	46	11.0
回答者数	374		417	

※「★」：前回調査の選択肢は「インターネットを使用した講座を行う」



問16その他	性別	年齢
専門学校や大学の誘致	男性	35～39歳
スポーツ等であれば、施設の利用料の無料化、外の照明設備の増加、利用料の補助 学習や資格取得なら講座開催して、いつでも受けられるようにして、続けられる環境をつくってほしい。	男性	40～44歳
資金援助	男性	45～49歳
宮原坑等の歴史的、教育的遺産の場所に子供達、家族が過ごし易い公園等を設備する。世界遺産でも人が集まらなければそれを知る教育の機会も減り、無意味に近いし、その付近に住もうと考える人達も増えない！と思う。良い例、吉野ヶ里公園、大牟田市動物園。	男性	45～49歳
昔の青年の家のように若者のサークルがあれば、楽しい。	女性	50～54歳
荒尾市立図書館内にある「静かな部屋」という学習ルームが魅力的だと思った。	女性	50～54歳
あまりよくわからない。	女性	65～69歳
図書費を充実させ駐車場の広い場所へ、市内に美術館。	女性	70～74歳
三川公民館にPCの設置をお願いします。デスクトップPCの為中断しています。	女性	80歳以上
介護施設入所者への出前授業	女性	80歳以上

[illegible]

問17 少子・高齢化が進む中、行政が、特に力を入れて進めるべき取り組みはどのようなことだと思いますか(学校教育を除きます)。あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

問17 少子・高齢化が進む中で行政が特に力を入れて進めるべきこと

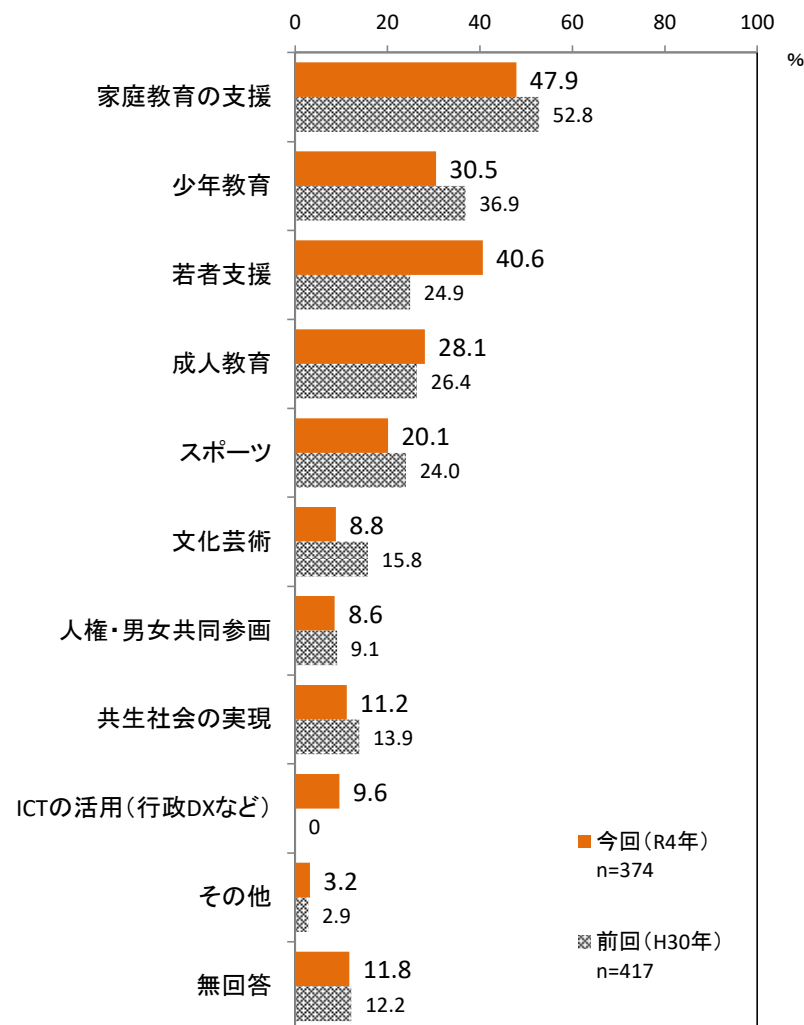
	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
家庭教育の支援(子育て講座の充実、子育てに関する情報提供など)	179	47.9	220	52.8
少年教育(子どもの体験活動、読書活動の充実など)	114	30.5	154	36.9
若者支援(若者の社会参加の促進など)★1	152	40.6	104	24.9
成人教育(各種講座・教室の充実、まなび直し、スキルアップ、学習情報の提供など)	105	28.1	110	26.4
スポーツ(スポーツ事業の充実、スポーツ大会の奨励など)	75	20.1	100	24.0
文化芸術(文化芸術事業の充実など)	33	8.8	66	15.8
人権・男女共同参画(人権教育・啓発活動、男女共同参画の機会の充実など)★2	32	8.6	38	9.1
共生社会の実現(障がい者・外国人のまなぶ機会の提供など)★3	42	11.2	58	13.9
ICTの活用(行政DXなど)★4	36	9.6	—	—
その他	12	3.2	12	2.9
無回答	44	11.8	51	12.2
回答者数	374		417	

※「★1」: 前回調査の選択肢は「少年教育(子どもの体験活動、読書活動の充実など)」

※「★2」: 前回調査の選択肢は「人権(人権教育・啓発活動など)人権(人権教育・啓発活動など)」

※「★3」: 前回調査の選択肢は「多文化共生(国際交流など)多文化共生(国際交流など)」

※「★4」: 前回調査ではなし



問 17 その他	性別	年齢
若年者に対する経済的支援及び結婚等の支援	男性	35～39 歳
高齢者、障がい者への支援、支援手続きの簡素化、支援内容の分かりやすい公布	男性	35～39 歳
子育てについての支援援助金等	男性	40～44 歳
幼児、少年、若者の学ぶ環境の設備として、塾に行けない子のために全部地区公民館へ塾の先生や若者(高校生、大学生)を有償で派遣し、毎日学校以外でも学べる場所の提供をすることで、学力の向上と経済的な支援の両方を行い互いに WIN—WIN になる形をつくってほしい。	男性	40～44 歳
大学無償化、大学生 1 人暮らしの保障。	女性	45～49 歳
どうすればよいか分からない。	男性	45～49 歳
地域全体で子ども育てる取り組みを！！地域イベントを増やしたれもが参加できる様にして近所皆が顔見知りになる機会を。	女性	45～49 歳
他の市からの流入意欲をもたらせる物産・観光・食など。	男性	45～49 歳
インフラ整備(夏場の増水対策)	男性	45～49 歳
私も、私のまわりも、子供ができなかった人がたくさんいます。不妊治療は高額です。補助してくれたらもっともう少しがんばれたかもしれません。	女性	50～54 歳
各社交関係の連携の実現	女性	55～59 歳
地球温暖化の一番の原因は、世界中の人口増加で少子化は、地球規模で考えたなら致し方ないかと思います。	男性	55～59 歳
何かをやりたいと思っている人を応援してください。	男性	60～64 歳
子育てだけ力を入れてるのが今の世の中、もう少し高齢化(高齢者)に対して行政が足りてないように思う。	女性	65～69 歳
高齢者が元気になれる運動を市全体で高める工夫が重要である。	男性	65～69 歳
出産育児教育に関わる負担をなくす。	男性	70～74 歳
学習支援	男性	70～74 歳
息、食、動、想と環境の調和なり。	男性	75～79 歳
趣味の作品展等市外迄も公開、交流市美展、有明美術館等、伝統的に迄いかない展示を指します。	女性	75～79 歳
向上心のある若者への奨学金の支給・教育費の削減	男性	75～79 歳
介護施設入所者への支援	女性	80 歳以上

	合計	情報の充実、子育てに 関する講	家庭教育の支援（子 育ての講	動、読書活動の充 実など）	少年教育（子ども の体験活	の若者支援（若者 の社会参	など）	の充実、まなび直 接の提供	成人教育（各種講 座・教室	など）	充実にスポーツ大 会の奨励	スポーツ（スポーツ 大会の奨	文化芸術（文化 芸術事業	文化芸術（文化 芸術事業	参画の機会充 実など）	教育・啓発活 動、男女共	人権・男女共 同参画（人	提供者・外国人 のまなぶ機	共生社会の実 現（障がい	ICTの活用（行政 DXな	その他	無回答
全体	374	179 47.9%	114 30.5%	152 40.6%	105 28.1%	75 20.1%	33 8.8%	32 8.6%	42 11.2%	36 9.6%	12 3.2%	44 11.8%										
■性別																						
男性	165	82 49.7%	53 32.1%	57 34.5%	36 21.8%	38 23.0%	12 7.3%	10 6.1%	17 10.3%	24 14.5%	10 6.1%	14 8.5%										
女性	195	92 47.2%	57 29.2%	93 47.7%	65 33.3%	34 17.4%	21 10.8%	19 9.7%	21 10.8%	12 6.2%	2 1.0%	26 13.3%										
無回答	14	5 35.7%	4 28.6%	2 14.3%	4 28.6%	3 21.4%	0 0.0%	3 21.4%	4 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	4 28.6%										
■年代別																						
18～29歳	27	16 59.3%	11 40.7%	14 51.9%	11 40.7%	4 14.8%	0 0.0%	2 7.4%	2 7.4%	4 14.8%	0 0.0%	1 3.7%										
30～39歳	30	19 63.3%	11 36.7%	9 30.0%	14 46.7%	4 13.3%	3 10.0%	1 3.3%	6 20.0%	4 13.3%	2 6.7%	1 3.3%										
40～49歳	46	25 54.3%	10 21.7%	15 32.6%	16 34.8%	9 19.6%	2 4.3%	3 6.5%	6 13.0%	7 15.2%	3 6.5%	4 8.7%										
50～59歳	55	24 43.6%	15 27.3%	24 43.6%	15 27.3%	10 18.2%	2 3.6%	6 10.9%	4 7.3%	10 18.2%	2 3.6%	4 7.3%										
60～69歳	72	40 55.6%	19 26.4%	29 40.3%	17 23.6%	20 27.8%	9 12.5%	5 6.9%	11 15.3%	2 2.8%	1 1.4%	6 8.3%										
70～79歳	88	33 37.5%	35 39.8%	41 46.6%	21 23.9%	20 22.7%	12 13.6%	8 9.1%	5 5.7%	7 8.0%	3 3.4%	12 13.6%										
80歳以上	54	21 38.9%	12 22.2%	20 37.0%	11 20.4%	7 13.0%	5 9.3%	7 13.0%	8 14.8%	2 3.7%	1 1.9%	15 27.8%										
無回答	2	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%										

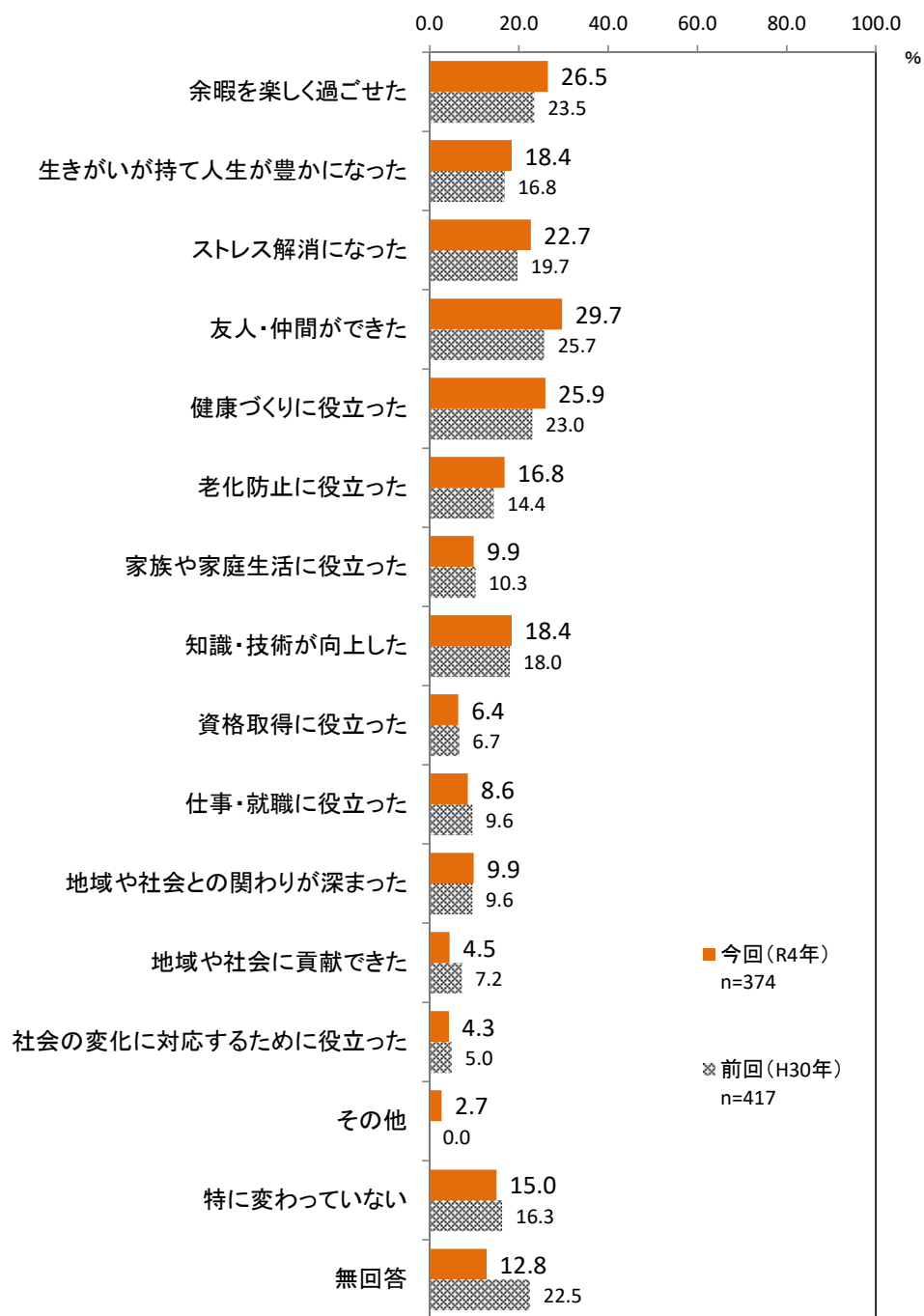
2. 学んだ成果について

問 18 あなたは、これまでに生涯学習を行って、自分がどのように変わったと感じますか。
あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

問18 生涯学習を行って自分が変わったと思うこと

	今回 (R4年)		前回 (H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
余暇を楽しく過ごせた	99	26.5	98	23.5
生きがいが増えて人生が豊かになった	69	18.4	70	16.8
ストレス解消になった	85	22.7	82	19.7
友人・仲間ができた	111	29.7	107	25.7
健康づくりに役立った	97	25.9	96	23.0
老化防止に役立った	63	16.8	60	14.4
家族や家庭生活に役立った	37	9.9	43	10.3
知識・技術が向上した	69	18.4	75	18.0
資格取得に役立った	24	6.4	28	6.7
仕事・就職に役立った	32	8.6	40	9.6
地域や社会との関わりが深まった	37	9.9	40	9.6
地域や社会に貢献できた	17	4.5	30	7.2
社会の変化に対応するために役立った	16	4.3	21	5.0
その他	10	2.7	0	0.0
特に変わっていない	56	15.0	68	16.3
無回答	48	12.8	94	22.5
回答者数	374		417	

問18その他	性別	年齢
1つの学習によって他の学習へと繋げる事ができるようになった。	男性	35～39歳
子ども達がスポーツを通して成長し多くの人と関わるきっかけとなっています。	男性	40～44歳
生涯学習を行っていない。	女性	55～59歳
特に生涯学習を行ってない。	女性	60～64歳
行ってない。	男性	70～74歳
生涯学習をやったことがない。	女性	70～74歳
学んでいませのでわかりません。	女性	70～74歳
特にしていない	女性	70～74歳
全てに参加できない。病気のため。	男性	70～74歳
生涯学習したことない。	男性	75～79歳
生涯学習に参加したことがない。	男性	80歳以上



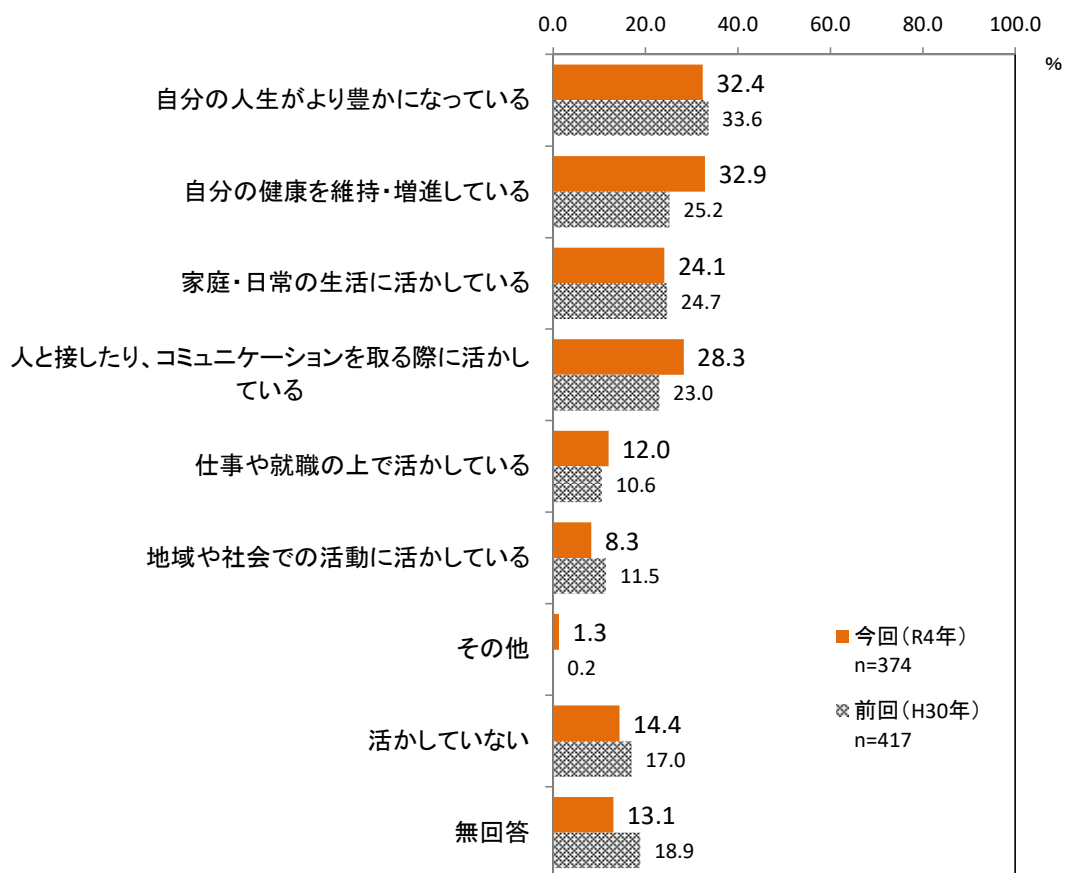
	合計	余暇を楽しく過ごせた	生きがいになった	ストレス解消になった	友人・仲間ができた	健康づくりに役立った	老化防止に役立った	家族や家庭生活に役立った	知識・技術が向上した	資格取得に役立った	仕事・就職に役立った	地域や社会との関わりが深まった	地域や社会に貢献できた	社会の変化に対応するために役立った	その他	特に変わっていない	無回答
全体	374	99 26.5%	69 18.4%	85 22.7%	111 29.7%	97 25.9%	63 16.8%	37 9.9%	69 18.4%	24 6.4%	32 8.6%	37 9.9%	17 4.5%	16 4.3%	10 2.7%	56 15.0%	48 12.8%
■性別																	
男性	165	42 25.5%	33 20.0%	39 23.6%	46 27.9%	50 30.3%	28 17.0%	11 6.7%	36 21.8%	8 4.8%	18 10.9%	21 12.7%	9 5.5%	10 6.1%	5 3.0%	26 15.8%	16 9.7%
女性	195	54 27.7%	33 16.9%	44 22.6%	61 31.3%	42 21.5%	31 15.9%	25 12.8%	33 16.9%	16 8.2%	14 7.2%	15 7.7%	8 4.1%	5 2.6%	5 2.6%	30 15.4%	28 14.4%
無回答	14	3 21.4%	3 21.4%	2 14.3%	4 28.6%	5 35.7%	4 28.6%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	4 28.6%
■年代別																	
18～29歳	27	5 18.5%	1 3.7%	5 18.5%	4 14.8%	1 3.7%	0 0.0%	3 11.1%	7 25.9%	2 7.4%	4 14.8%	2 7.4%	2 7.4%	0 0.0%	1 3.7%	7 25.9%	0 0.0%
30～39歳	30	7 23.3%	4 13.3%	8 26.7%	8 26.7%	8 26.7%	1 3.3%	3 10.0%	5 16.7%	4 13.3%	6 20.0%	2 6.7%	1 3.3%	1 3.3%	1 3.3%	9 30.0%	0 0.0%
40～49歳	46	9 19.6%	7 15.2%	14 30.4%	12 26.1%	7 15.2%	2 4.3%	6 13.0%	14 30.4%	7 15.2%	10 21.7%	5 10.9%	2 4.3%	1 2.2%	1 2.2%	10 21.7%	3 6.5%
50～59歳	55	18 32.7%	7 12.7%	12 21.8%	15 27.3%	13 23.6%	2 3.6%	6 10.9%	12 21.8%	3 5.5%	3 5.5%	6 10.9%	3 5.5%	3 5.5%	1 1.8%	12 21.8%	1 1.8%
60～69歳	72	21 29.2%	16 22.2%	21 29.2%	22 30.6%	20 27.8%	12 16.7%	11 15.3%	16 22.2%	3 4.2%	7 9.7%	6 8.3%	1 1.4%	4 5.6%	1 1.4%	3 4.2%	14 19.4%
70～79歳	88	24 27.3%	22 25.0%	17 19.3%	27 30.7%	32 36.4%	27 30.7%	5 5.7%	11 12.5%	4 4.5%	1 1.1%	10 11.4%	6 6.8%	5 5.7%	4 4.5%	10 11.4%	17 19.3%
80歳以上	54	15 27.8%	12 22.2%	8 14.8%	23 42.6%	15 27.8%	19 35.2%	3 5.6%	4 7.4%	1 1.9%	1 1.9%	6 11.1%	2 3.7%	2 3.7%	1 1.9%	5 9.3%	12 22.2%
無回答	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%

問 19 あなたは、これまでの人生や生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験をどのようなことに活かしていますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

問19 生涯学習を通じて得た知識・技能や経験等の活かした方

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
自分の人生がより豊かになっている	121	32.4	140	33.6
自分の健康を維持・増進している	123	32.9	105	25.2
家庭・日常の生活に活かしている	90	24.1	103	24.7
人と接したり、コミュニケーションを取る際に活かしている	106	28.3	96	23.0
仕事や就職の上で活かしている(仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど)	45	12.0	44	10.6
地域や社会での活動に活かしている(学習、スポーツ、文化活動などの指導やボランティア活動など)	31	8.3	48	11.5
その他	5	1.3	1	0.2
活かしていない	54	14.4	71	17.0
無回答	49	13.1	79	18.9
回答者数	374		417	

問19その他	性別	年齢
日本野鳥の会で活動している。	男性	70～74歳
学ぶ事そのものが目的の場合がある。	女性	75～79歳
生涯学習をしてないから。	女性	75～79歳
高齢化とコロナで現在はやっていない。	女性	80歳以上



	合計	自分の人生がより豊かに	自分の健康を維持・増進	家庭・日常の生活に活か	人と接したり、コミュニケーションを取る際に活	仕事や就職の上で活かし	地域や社会での活動に活	その他	活かしていない	無回答
全体	374	121 32.4%	123 32.9%	90 24.1%	106 28.3%	45 12.0%	31 8.3%	5 1.3%	54 14.4%	49 13.1%
■性別										
男性	165	58 35.2%	64 38.8%	38 23.0%	46 27.9%	25 15.2%	16 9.7%	1 0.6%	23 13.9%	12 7.3%
女性	195	62 31.8%	52 26.7%	51 26.2%	58 29.7%	20 10.3%	14 7.2%	4 2.1%	30 15.4%	32 16.4%
無回答	14	1 7.1%	7 50.0%	1 7.1%	2 14.3%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	1 7.1%	5 35.7%
■年代別										
18～29歳	27	9 33.3%	6 22.2%	11 40.7%	9 33.3%	4 14.8%	0 0.0%	0 0.0%	3 11.1%	0 0.0%
30～39歳	30	9 30.0%	8 26.7%	8 26.7%	7 23.3%	8 26.7%	2 6.7%	0 0.0%	4 13.3%	0 0.0%
40～49歳	46	14 30.4%	11 23.9%	10 21.7%	15 32.6%	11 23.9%	6 13.0%	0 0.0%	10 21.7%	3 6.5%
50～59歳	55	25 45.5%	11 20.0%	11 20.0%	18 32.7%	11 20.0%	7 12.7%	0 0.0%	13 23.6%	2 3.6%
60～69歳	72	20 27.8%	21 29.2%	18 25.0%	21 29.2%	7 9.7%	5 6.9%	0 0.0%	7 9.7%	14 19.4%
70～79歳	88	31 35.2%	42 47.7%	24 27.3%	24 27.3%	2 2.3%	9 10.2%	4 4.5%	10 11.4%	15 17.0%
80歳以上	54	13 24.1%	23 42.6%	8 14.8%	12 22.2%	2 3.7%	2 3.7%	1 1.9%	7 13.0%	14 25.9%
無回答	2	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%

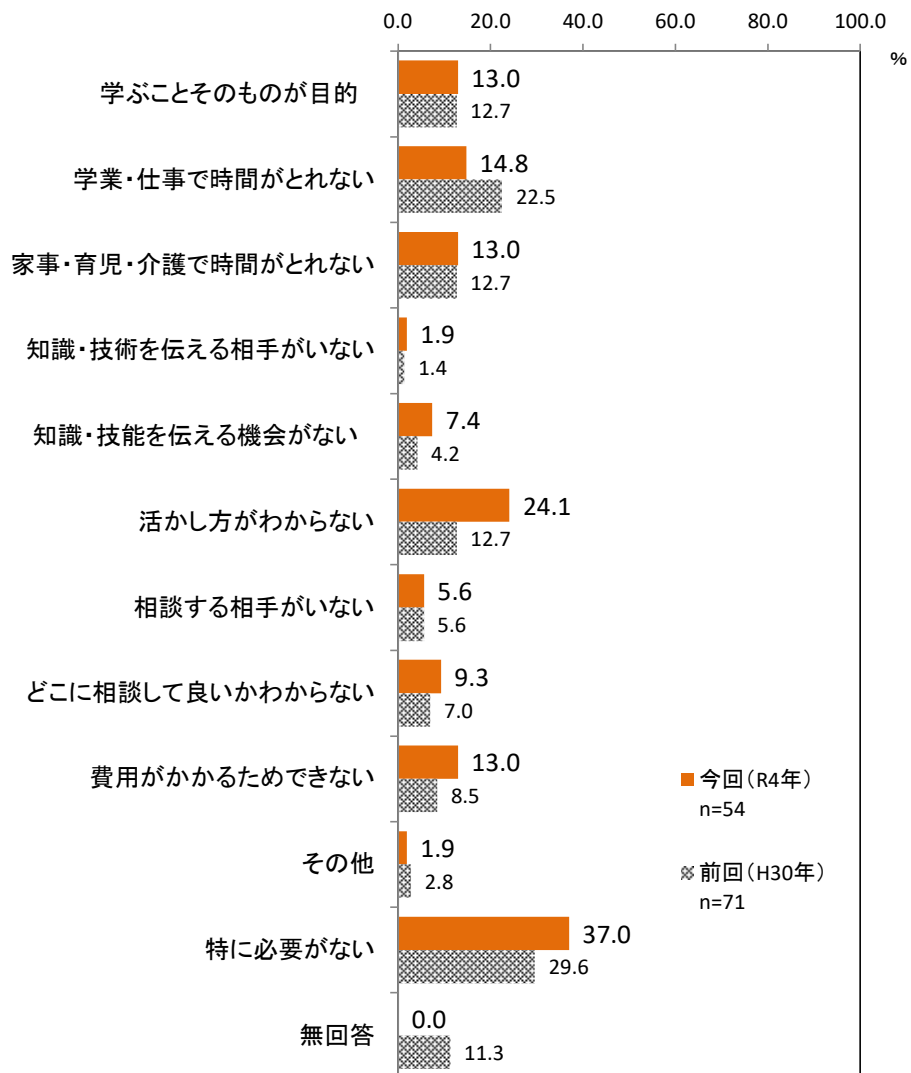
《問 19 で、生涯学習の成果を「活かしていない」とお答えの方におたずねします》

問20 あなたが学習によって得た知識、経験、技能を活かしていない理由は何ですか。
あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

問20 学習によって得た知識、経験、技能を活かしていない理由

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
学ぶことそのものが目的	7	13.0	9	12.7
学業・仕事で時間がとれない	8	14.8	16	22.5
家事・育児・介護で時間がとれない	7	13.0	9	12.7
知識・技術を伝える相手がいらない	1	1.9	1	1.4
知識・技能を伝える機会がない	4	7.4	3	4.2
活かし方がわからない	13	24.1	9	12.7
相談する相手がいらない	3	5.6	4	5.6
どこに相談して良いかわからない	5	9.3	5	7.0
費用がかかるためできない	7	13.0	6	8.5
その他	1	1.9	2	2.8
特に必要がない	20	37.0	21	29.6
無回答	0	0.0	8	11.3
回答者数	54		71	

(その他 1 件の具体的な記述なし)

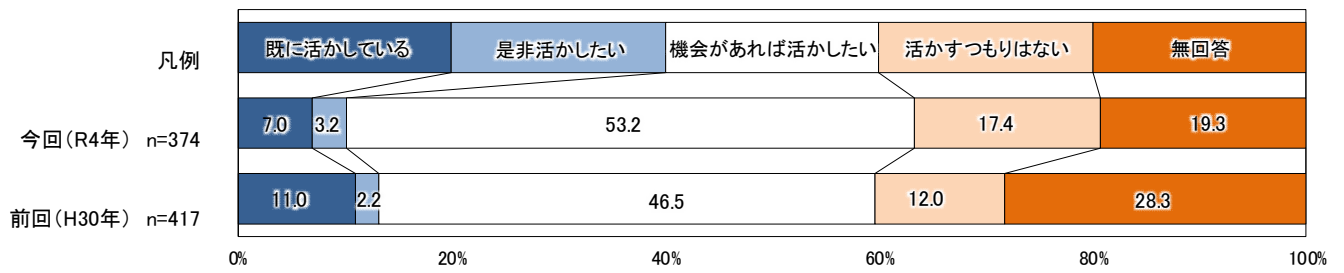


	合計	学 目 ぶ こ と そ の も の が	と れ な い 学 業 ・ 仕 事 で 時 間 が	家 事 ・ 育 児 ・ 介 護 で 時 間 が と れ な い	知 識 ・ 技 術 を 伝 え る 相 手 が い な い	知 識 ・ 技 能 を 伝 え る 機 会 が い な い	活 か し 方 が わ か ら な い	相 談 す る 相 手 が い な い	ど こ に 相 談 し て 良 い か わ か ら な い	費 用 が か か る た め で き な い	そ の 他	特 に 必 要 が な い	無 回 答
全体	54	7	8	7	1	4	13	3	5	7	1	20	0
		13.0%	14.8%	13.0%	1.9%	7.4%	24.1%	5.6%	9.3%	13.0%	1.9%	37.0%	0.0%
■性別													
男性	23	1	4	2	0	1	4	2	4	5	1	9	0
		4.3%	17.4%	8.7%	0.0%	4.3%	17.4%	8.7%	17.4%	21.7%	4.3%	39.1%	0.0%
女性	30	5	4	5	1	3	9	1	1	2	0	11	0
		16.7%	13.3%	16.7%	3.3%	10.0%	30.0%	3.3%	3.3%	6.7%	0.0%	36.7%	0.0%
無回答	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
■年代別													
18～29歳	3	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0
		0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
30～39歳	4	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0	2	0
		0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
40～49歳	10	0	2	2	0	0	4	0	0	0	0	4	0
		0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%
50～59歳	13	1	3	3	0	1	4	1	1	2	0	3	0
		7.7%	23.1%	23.1%	0.0%	7.7%	30.8%	7.7%	7.7%	15.4%	0.0%	23.1%	0.0%
60～69歳	7	2	0	2	0	0	2	0	0	0	1	1	0
		28.6%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%
70～79歳	10	2	1	0	0	1	0	1	2	3	0	5	0
		20.0%	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	10.0%	20.0%	30.0%	0.0%	50.0%	0.0%
80歳以上	7	2	0	0	0	1	0	0	2	2	0	4	0
		28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	28.6%	28.6%	0.0%	57.1%	0.0%
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問 21 あなたは、これまで身につけた知識や技能を、地域活動やボランティア活動などを通して、地域や人々のために活かしたいと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

問21 身につけた知識や技能の活用意向

	今回 (R4年)		前回 (H30年)	
	度数 (人)	%	度数 (人)	%
既に活かしている	26	7.0	46	11.0
是非活かしたい	12	3.2	9	2.2
機会があれば活かしたい	199	53.2	194	46.5
活かすつもりはない	65	17.4	50	12.0
無回答	72	19.3	118	28.3
合計 (回答者数)	374	100.0	417	100.0



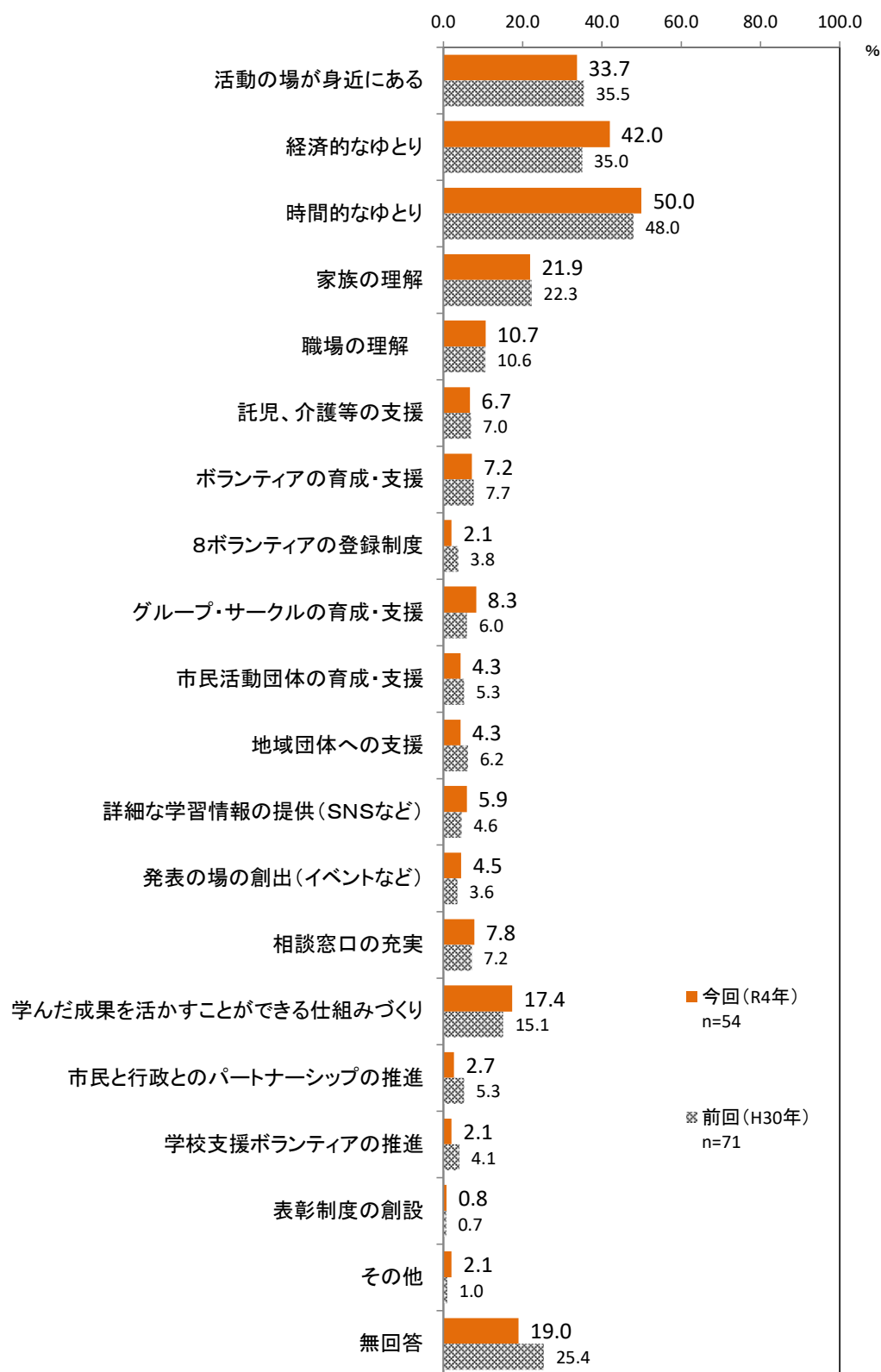
	合計	既に活かしている	是非活かしたい	機会があれば活かしたい	活かすつもりはない	無回答
全体	374 100.0%	26 7.0%	12 3.2%	199 53.2%	65 17.4%	72 19.3%
■ 性別						
男性	165 100.0%	14 8.5%	9 5.5%	91 55.2%	26 15.8%	25 15.2%
女性	195 100.0%	10 5.1%	3 1.5%	103 52.8%	38 19.5%	41 21.0%
無回答	14 100.0%	2 14.3%	0 0.0%	5 35.7%	1 7.1%	6 42.9%
■ 年代別						
18～29歳	27 100.0%	1 3.7%	1 3.7%	19 70.4%	3 11.1%	3 11.1%
30～39歳	30 100.0%	2 6.7%	2 6.7%	17 56.7%	6 20.0%	3 10.0%
40～49歳	46 100.0%	4 8.7%	4 8.7%	23 50.0%	10 21.7%	5 10.9%
50～59歳	55 100.0%	5 9.1%	1 1.8%	37 67.3%	10 18.2%	2 3.6%
60～69歳	72 100.0%	5 6.9%	0 0.0%	41 56.9%	11 15.3%	15 20.8%
70～79歳	88 100.0%	6 6.8%	2 2.3%	43 48.9%	15 17.0%	22 25.0%
80歳以上	54 100.0%	3 5.6%	2 3.7%	19 35.2%	9 16.7%	21 38.9%
無回答	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%

問22 学んだ成果を活かすために、何が必要だと思いますか。
 あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

問22 学んだ成果を活かすために必要なこと

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
活動の場が身近にある	126	33.7	148	35.5
経済的なゆとり	157	42.0	146	35.0
時間的なゆとり	187	50.0	200	48.0
家族の理解	82	21.9	93	22.3
職場の理解	40	10.7	44	10.6
託児、介護等の支援	25	6.7	29	7.0
ボランティアの育成・支援	27	7.2	32	7.7
8ボランティアの登録制度	8	2.1	16	3.8
グループ・サークルの育成・支援	31	8.3	25	6.0
市民活動団体の育成・支援	16	4.3	22	5.3
地域団体への支援	16	4.3	26	6.2
詳細な学習情報の提供(SNSなど)	22	5.9	19	4.6
発表の場の創出(イベントなど)	17	4.5	15	3.6
相談窓口の充実	29	7.8	30	7.2
学んだ成果を活かすことができる仕組みづくり	65	17.4	63	15.1
市民(市民活動団体、地域団体など)と行政とのパートナーシップの推進	10	2.7	22	5.3
学校支援ボランティアの推進	8	2.1	17	4.1
表彰制度の創設	3	0.8	3	0.7
その他	8	2.1	4	1.0
無回答	71	19.0	106	25.4
回答者数	374		417	

問22その他	性別	年齢
スポーツや学習ができる環境の整備	男性	40～44歳
社交的な人格	男性	45～49歳
学ぶこと自体が成果	男性	55～59歳
その人の気持ちのゆとり(自分から動く)	男性	60～64歳
特に必要ないと思います。	男性	70～74歳
自分の健康	男性	70～74歳
活かすつもりではないので現状維持でよい。	男性	75～79歳
自分自身の事があり他に評価してほしいとは思わない。	女性	75～79歳



	合計	活動の場が身近にある	経済的なゆとり	時間的なゆとり	家族の理解	職場の理解	託児、介護等の支援	ボランティアの育成・支援	8ボランティアの登録制度	グループ・サークルの育成・支援	市民活動団体の育成・支援	地域団体への支援	詳細な学習情報の提供（SNSなど）	発表の場の創出（イベントなど）	相談窓口の充実	学んだ成果を活かすことができる仕組みづくり	市民と行政とのパートナーシップの推進	学校支援ボランティアの推進	表彰制度の創設	その他	無回答
全体	374	126 33.7%	157 42.0%	187 50.0%	82 21.9%	40 10.7%	25 6.7%	27 7.2%	8 2.1%	31 8.3%	16 4.3%	16 4.3%	22 5.9%	17 4.5%	29 7.8%	65 17.4%	10 2.7%	8 2.1%	3 0.8%	8 2.1%	71 19.0%
■性別																					
男性	165	55 33.3%	65 39.4%	80 48.5%	39 23.6%	22 13.3%	6 3.6%	14 8.5%	3 1.8%	19 11.5%	6 3.6%	9 5.5%	10 6.1%	8 4.8%	14 8.5%	35 21.2%	5 3.0%	5 3.0%	2 1.2%	6 3.6%	22 13.3%
女性	195	69 35.4%	87 44.6%	102 52.3%	41 21.0%	18 9.2%	19 9.7%	12 6.2%	5 2.6%	12 6.2%	9 4.6%	7 3.6%	12 6.2%	9 4.6%	14 7.2%	30 15.4%	5 2.6%	3 1.5%	1 0.5%	2 1.0%	42 21.5%
無回答	14	2 14.3%	5 35.7%	5 35.7%	2 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 50.0%
■年代別																					
18～29歳	27	8 29.6%	19 70.4%	18 66.7%	5 18.5%	5 18.5%	3 11.1%	1 3.7%	0 0.0%	2 7.4%	1 3.7%	2 7.4%	4 14.8%	2 7.4%	3 11.1%	3 11.1%	0 0.0%	1 3.7%	1 3.7%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳	30	17 56.7%	17 56.7%	22 73.3%	8 26.7%	8 26.7%	4 13.3%	2 6.7%	1 3.3%	3 10.0%	1 3.3%	1 3.3%	2 6.7%	1 3.3%	2 6.7%	7 23.3%	2 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.3%
40～49歳	46	16 34.8%	24 52.2%	30 65.2%	13 28.3%	9 19.6%	7 15.2%	3 6.5%	1 2.2%	7 15.2%	1 2.2%	1 0.0%	5 10.9%	1 2.2%	2 4.3%	10 21.7%	0 0.0%	2 4.3%	0 0.0%	2 4.3%	3 6.5%
50～59歳	55	19 34.5%	32 58.2%	40 72.7%	15 27.3%	9 16.4%	4 7.3%	6 10.9%	1 1.8%	2 3.6%	2 3.6%	2 3.6%	3 5.5%	3 5.5%	2 3.6%	15 27.3%	2 3.6%	1 1.8%	0 0.0%	2 3.6%	5 9.1%
60～69歳	72	23 31.9%	26 36.1%	35 48.6%	17 23.6%	2 2.8%	3 4.2%	1 1.4%	1 1.4%	6 8.3%	3 4.2%	2 2.8%	5 6.9%	4 5.6%	5 6.9%	14 19.4%	1 1.4%	0 0.0%	1 1.4%	0 0.0%	14 19.4%
70～79歳	88	30 34.1%	27 30.7%	29 33.0%	16 18.2%	3 3.4%	1 1.1%	10 11.4%	4 4.5%	6 6.8%	4 4.5%	5 5.7%	2 2.3%	4 4.5%	7 8.0%	10 11.4%	5 5.7%	4 4.5%	1 1.1%	3 3.4%	25 28.4%
80歳以上	54	13 24.1%	12 22.2%	12 22.2%	8 14.8%	4 7.4%	3 5.6%	4 7.4%	0 0.0%	5 9.3%	4 7.4%	4 7.4%	1 1.9%	2 3.7%	8 14.8%	6 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.9%	22 40.7%
無回答	2	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%

3. ボランティア活動・地域活動について

問 23 ボランティア活動についておたずねします。

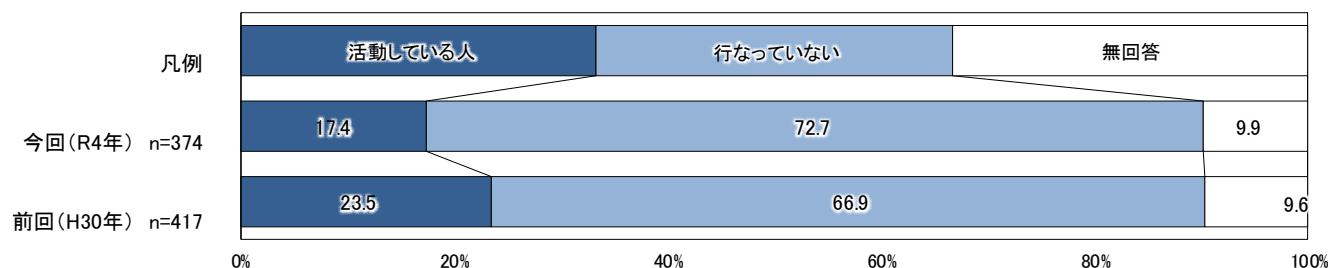
あなたは、この1年程の間に、どのくらいの^{ひん}頻度でボランティア活動を行いましたか。

問23 ボランティア活動の年間における頻度

	度数	%
週単位で活動	12	3.2
月単位で活動	16	4.3
年単位で活動	37	9.9
行っていない	272	72.7
無回答	37	9.9
合計(回答者数)	374	100.0

(ボランティア活動の有無)

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
活動している人	65	17.4	98	23.5
行なっていない	272	72.7	279	66.9
無回答	37	9.9	40	9.6
合計(回答者数)	374	100.0	417	100.0



問23 ボランティア活動の年間における頻度(活動している人の頻度の分布)

	今回(R4年)	
	度数(人)	%
年1～10日未満	36	55.4
年10～20日未満	10	15.4
年20～30日未満	6	9.2
年30～40日未満	0	0.0
年40～50日未満	8	12.3
年50～60日未満	0	0.0
年60～70日未満	0	0.0
年70～80日未満	0	0.0
年80～90日未満	0	0.0
年90～100日未満	1	1.5
年100日以上	4	6.2
無回答	0	0.0
合計(回答者数)	65	100.0

	合計	年 1 ～ 1 0 日 未 満	年 1 0 ～ 2 0 日 未 満	年 2 0 ～ 3 0 日 未 満	年 3 0 ～ 4 0 日 未 満	年 4 0 ～ 5 0 日 未 満	年 5 0 ～ 6 0 日 未 満	年 6 0 ～ 7 0 日 未 満	年 7 0 ～ 8 0 日 未 満	年 8 0 ～ 9 0 日 未 満	年 9 0 ～ 1 0 0 日 未 満	年 1 0 0 日 以 上	行 な っ て い な い	無 回 答
全体	374	36	10	6	0	8	0	0	0	0	1	4	272	37
	100.0%	9.6%	2.7%	1.6%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	1.1%	72.7%	9.9%
■性別														
男性	165	18	6	2	0	6	0	0	0	0	0	1	119	13
	100.0%	10.9%	3.6%	1.2%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	72.1%	7.9%
女性	195	18	4	4	0	2	0	0	0	0	1	1	145	20
	100.0%	9.2%	2.1%	2.1%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.5%	74.4%	10.3%
無回答	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8	4
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	57.1%	28.6%
■年代別														
18～29歳	27	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	23	1
	100.0%	7.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	85.2%	3.7%
30～39歳	30	4	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	23	0
	100.0%	13.3%	6.7%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	76.7%	0.0%
40～49歳	46	4	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	34	4
	100.0%	8.7%	2.2%	2.2%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	73.9%	8.7%
50～59歳	55	9	4	0	0	1	0	0	0	0	1	1	38	1
	100.0%	16.4%	7.3%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	1.8%	69.1%	1.8%
60～69歳	72	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61	6
	100.0%	5.6%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	84.7%	8.3%
70～79歳	88	10	1	3	0	1	0	0	0	0	0	1	58	14
	100.0%	11.4%	1.1%	3.4%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	65.9%	15.9%
80歳以上	54	3	1	2	0	2	0	0	0	0	0	2	33	11
	100.0%	5.6%	1.9%	3.7%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	61.1%	20.4%
無回答	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

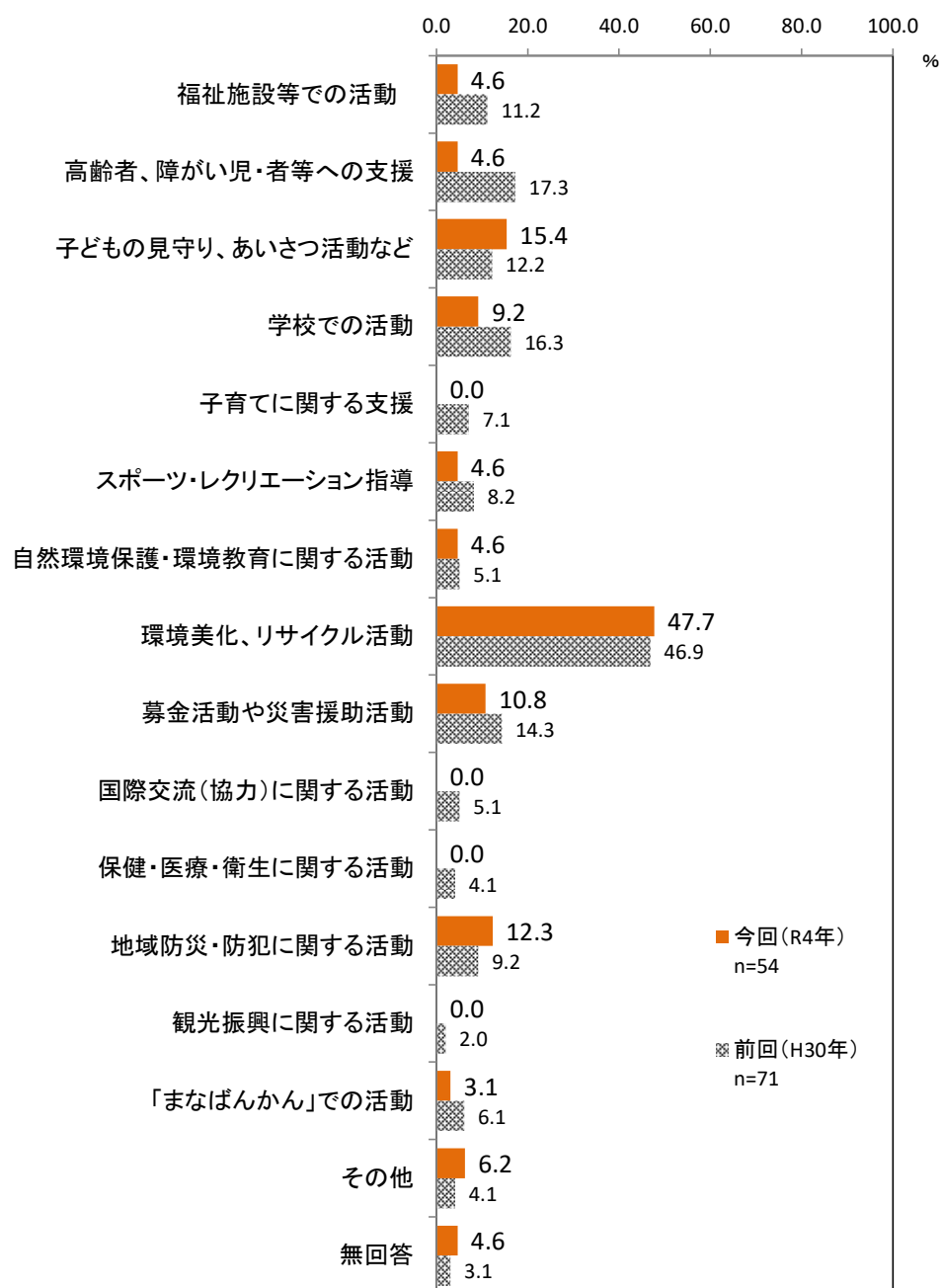
問23-2 (問23で「1～3」を選んだ人におたずねします)

あなたは、この1年程の間に、どのようなボランティア活動を行いましたか。

あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

問23-2 この1年間に行ったボランティア活動

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
福祉施設等での活動	3	4.6	11	11.2
高齢者、障がい児・者等への支援	3	4.6	17	17.3
子どもの見守り、あいさつ活動など	10	15.4	12	12.2
学校での活動	6	9.2	16	16.3
子育てに関する支援	0	0.0	7	7.1
スポーツ・レクリエーション指導	3	4.6	8	8.2
自然環境保護・環境教育に関する活動	3	4.6	5	5.1
環境美化(公園・道路のゴミ拾いなど)、リサイクル活動	31	47.7	46	46.9
募金活動や災害援助活動	7	10.8	14	14.3
国際交流(協力)に関する活動(通訳、難民援助、留学生援助など)	0	0.0	5	5.1
保健・医療・衛生に関する活動(食育、病院ボランティアなど)	0	0.0	4	4.1
地域防災・防犯に関する活動	8	12.3	9	9.2
観光振興に関する活動(観光ボランティアなど)	0	0.0	2	2.0
生涯学習ボランティア登録派遣事業「まなぼんかん」での活動	2	3.1	6	6.1
その他	4	6.2	4	4.1
無回答	3	4.6	3	3.1
回答者数	65		98	



問23の2その他	性別	年齢
美術館	女性	35～39歳
〇〇山	男性	35～39歳
献血	男性	35～39歳
学習支援(中学生)	男性	70～74歳
サロン～子供食堂	女性	80歳以上

	合計	福祉施設等での活動	高齢者、障がい児・者等への支援	子どもの見守り、あいさつ活動など	学校での活動	子育てに関する支援	スポーツ・レクリエーション指導	自然環境保護・環境教育に関する活動	環境美化（公園・道路のゴミ拾いなど）、リサイクル活動	募金活動や災害援助活動	学生援助など（通訳、難民援助、留学活動（通訳、協力）に関する活動）	国際交流（協力）に関する活動（食育、病院ボランティアなど）	保健・医療・衛生に関する活動（食育、病院ボランティアなど）	地域防災・防犯に関する活動	観光振興に関する活動（観光ボランティアなど）	生涯学習ボランティア登録の活動（まなばんかん）	その他	無回答
全体	65	3 4.6%	3 4.6%	10 15.4%	6 9.2%	0 0.0%	3 4.6%	3 4.6%	31 47.7%	7 10.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 12.3%	0 0.0%	2 3.1%	4 6.2%	3 4.6%
■性別																		
男性	33	1 3.0%	2 6.1%	6 18.2%	2 6.1%	0 0.0%	2 6.1%	3 9.1%	17 51.5%	3 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 18.2%	0 0.0%	1 3.0%	2 6.1%	1 3.0%
女性	30	2 6.7%	1 3.3%	2 6.7%	4 13.3%	0 0.0%	1 3.3%	0 0.0%	14 46.7%	4 13.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 6.7%	0 0.0%	1 3.3%	2 6.7%	2 6.7%
無回答	2	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
■年代別																		
18～29歳	3	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%
30～39歳	7	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 28.6%	1 14.3%
40～49歳	8	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	2 25.0%	0 0.0%	3 37.5%	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 37.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
50～59歳	16	0 0.0%	1 6.3%	4 25.0%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 56.3%	2 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 18.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%
60～69歳	5	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 80.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%
70～79歳	16	2 12.5%	2 12.5%	2 12.5%	2 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	2 12.5%	8 50.0%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%	0 0.0%	1 6.3%	1 6.3%	0 0.0%
80歳以上	10	0 0.0%	0 0.0%	3 30.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	5 50.0%	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%
無回答	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

問 24 ボランティア活動をもっと盛んにするために、どのような取り組みが必要だと思いますか。
 あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

問24 ボランティア活動を盛んにするために必要な取り組み

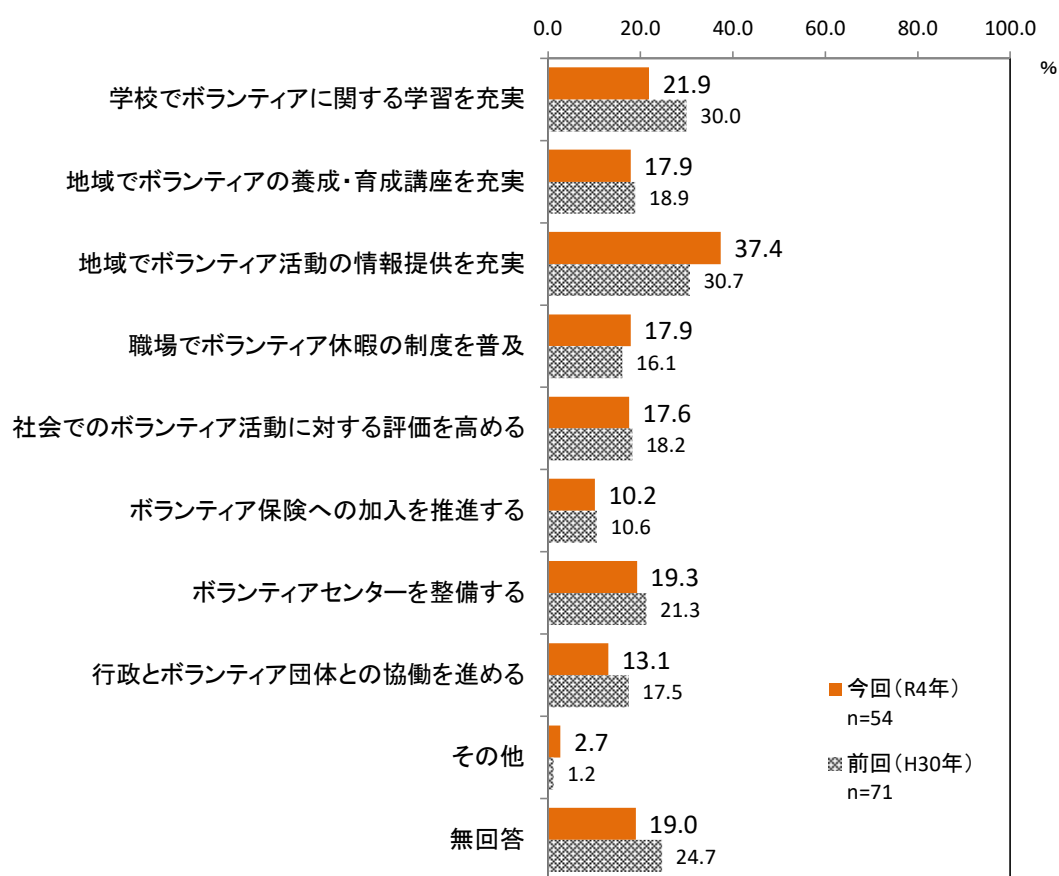
	今回（R4年）		前回（H30年）	
	度数（人）	%	度数（人）	%
学校において奉仕活動や、ボランティアに関する学習を充実させる	82	21.9	125	30.0
地域においてボランティアの養成・育成のための講座を充実させる★1	67	17.9	79	18.9
地域においてボランティア活動に関する情報提供を充実させる★2	140	37.4	128	30.7
職場においてボランティア休暇の制度を普及させる	67	17.9	67	16.1
社会においてボランティア活動に対する評価を高める★3	66	17.6	76	18.2
ボランティアの責任が軽減されるよう、保険への加入を推進する	38	10.2	44	10.6
ボランティア活動の窓口となるボランティアセンターを整備する	72	19.3	89	21.3
行政とボランティア団体との協働を進める	49	13.1	73	17.5
その他	10	2.7	5	1.2
無回答	71	19.0	103	24.7
回答者数	374		417	

※「★1」：前回調査の選択肢は「ボランティアの養成・育成のための講座を充実させるボランティアの養成・育成のための講座を充実させる」

※「★2」：前回調査の選択肢は「ボランティア活動に関する情報提供を充実させるボランティア活動に関する情報提供を充実させる」

※「★3」：前回調査の選択肢は「社会におけるボランティア活動に対する評価を高める」

問 24 その他	性別	年齢
就職や進学に有利になると良い。	男性	40～44 歳
若者の定住	女性	40～44 歳
有償にしていく必要があるものも多くある、と思う	男性	40～44 歳
責任が軽減されるよう指導者等の数を増やし、援助を充実させる。	男性	45～49 歳
ボランティアは、そもそも生活に余裕があるから行えるもの。心にゆとりがある人じゃないとできません。	男性	45～49 歳
人とのつながりが希薄なので、そこをどう解決するか。	男性	70～74 歳
お金を出す。	男性	80 歳以上



[illegible]

問25 『地域活動』についておたずねします。

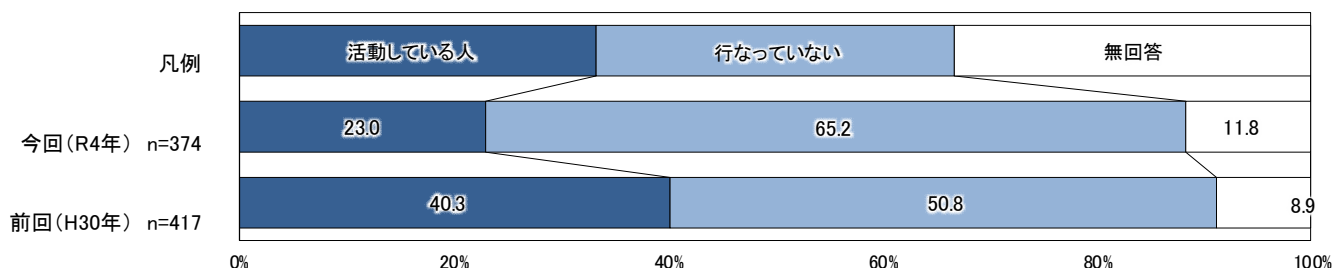
あなたは、この1年程の間に、どのくらいの頻度で『地域活動』に参加しましたか。

問25 地域活動の年間における頻度

	度数	%
週単位で活動	7	1.9
月単位で活動	16	4.3
年単位で活動	63	16.8
参加していない	244	65.2
無回答	44	11.8
合計(回答者数)	374	100.0

(地域活動の年間における有無)

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
活動している人	86	23.0	168	40.3
行なっていない	244	65.2	212	50.8
無回答	44	11.8	37	8.9
合計(回答者数)	374	100.0	417	100.0



問25 地域活動の年間における頻度(活動している人の頻度の分布)

	今回(R4年)	
	度数(人)	%
年1～10日未満	62	72.1
年10～20日未満	10	11.6
年20～30日未満	6	7.0
年30～40日未満	1	1.2
年40～50日未満	3	3.5
年50～60日未満	0	0.0
年60～70日未満	0	0.0
年70～80日未満	0	0.0
年80～90日未満	0	0.0
年90～100日未満	3	3.5
年100日以上	1	1.2
無回答	0	0.0
合計(回答者数)	86	100.0

	合計	年 1 ～ 1 0 日 未 満	年 1 0 ～ 2 0 日 未 満	年 2 0 ～ 3 0 日 未 満	年 3 0 ～ 4 0 日 未 満	年 4 0 ～ 5 0 日 未 満	年 5 0 ～ 6 0 日 未 満	年 6 0 ～ 7 0 日 未 満	年 7 0 ～ 8 0 日 未 満	年 8 0 ～ 9 0 日 未 満	年 9 0 ～ 1 0 0 日 未 満	年 1 0 0 日 以 上	行 な っ て い な い	無 回 答
全体	374	62	10	6	1	3	0	0	0	0	3	1	244	44
	100.0%	16.6%	2.7%	1.6%	0.3%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.3%	65.2%	11.8%
■性別														
男性	165	29	4	2	0	3	0	0	0	0	2	0	107	18
	100.0%	17.6%	2.4%	1.2%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	64.8%	10.9%
女性	195	32	6	4	1	0	0	0	0	0	1	1	130	20
	100.0%	16.4%	3.1%	2.1%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.5%	66.7%	10.3%
無回答	14	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	6
	100.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	42.9%
■年代別														
18～29歳	27	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	3
	100.0%	7.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	81.5%	11.1%
30～39歳	30	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	25	0
	100.0%	10.0%	3.3%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	83.3%	0.0%
40～49歳	46	8	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	30	4
	100.0%	17.4%	0.0%	4.3%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	65.2%	8.7%
50～59歳	55	10	6	1	0	0	0	0	0	0	0	1	35	2
	100.0%	18.2%	10.9%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	63.6%	3.6%
60～69歳	72	15	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	4
	100.0%	20.8%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	72.2%	5.6%
70～79歳	88	15	2	1	1	1	0	0	0	0	1	0	51	16
	100.0%	17.0%	2.3%	1.1%	1.1%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	58.0%	18.2%
80歳以上	54	9	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	27	15
	100.0%	16.7%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	50.0%	27.8%
無回答	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

問 25-2 (問 25 で「1～3」を選んだ人におたずねします)

あなたは、この1年程の間にどのような『地域活動』に参加しましたか。

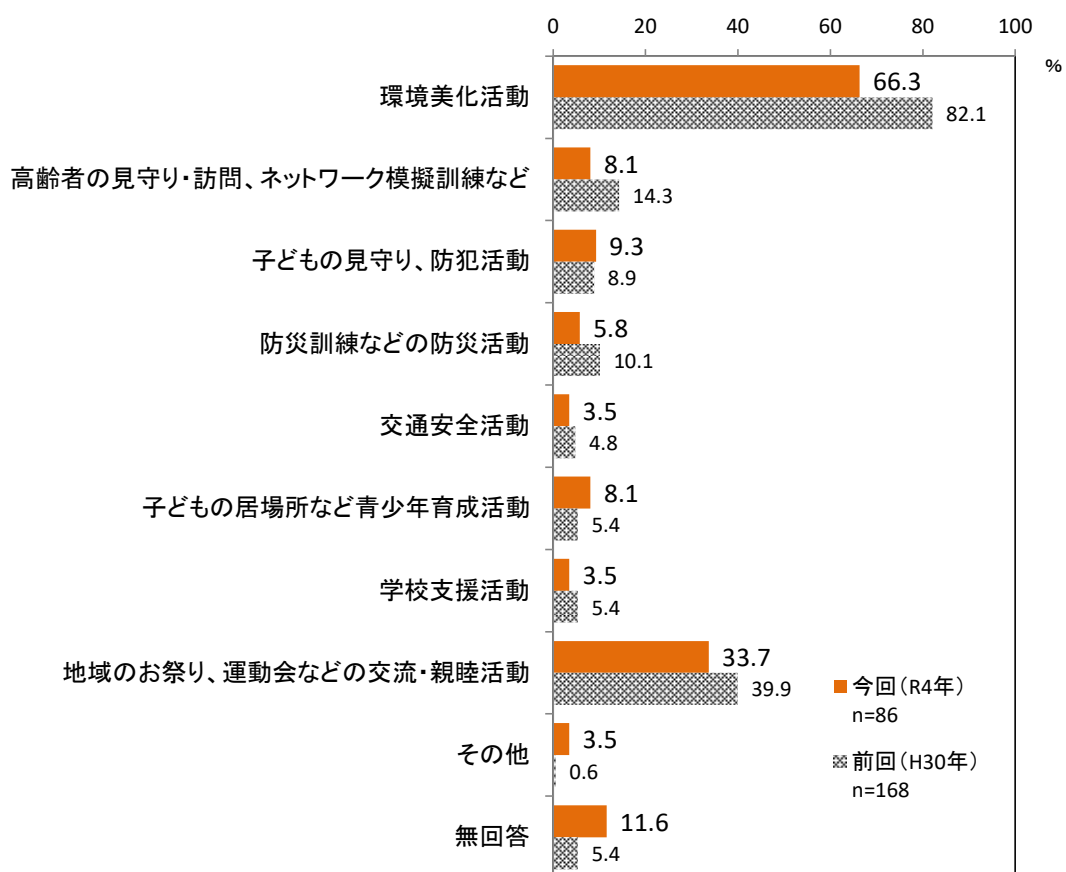
また、企画・立案から参加した地域活動はありますか。

あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

問25-2 地域活動の参加経験

	今回 (R4年)		前回 (H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
リサイクル・地域の清掃などの環境美化活動	57	66.3	138	82.1
高齢者の見守り・訪問、ほっとあんしんネットワーク模擬訓練など	7	8.1	24	14.3
子どもの見守り、防犯パトロールなどの防犯活動	8	9.3	15	8.9
防災訓練などの防災活動	5	5.8	17	10.1
交通安全活動	3	3.5	8	4.8
子どもの居場所・通学合宿・子ども食堂など青少年育成活動	7	8.1	9	5.4
学校支援活動	3	3.5	9	5.4
地域のお祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動	29	33.7	67	39.9
その他	3	3.5	1	0.6
無回答	10	11.6	9	5.4
回答者数	86		168	

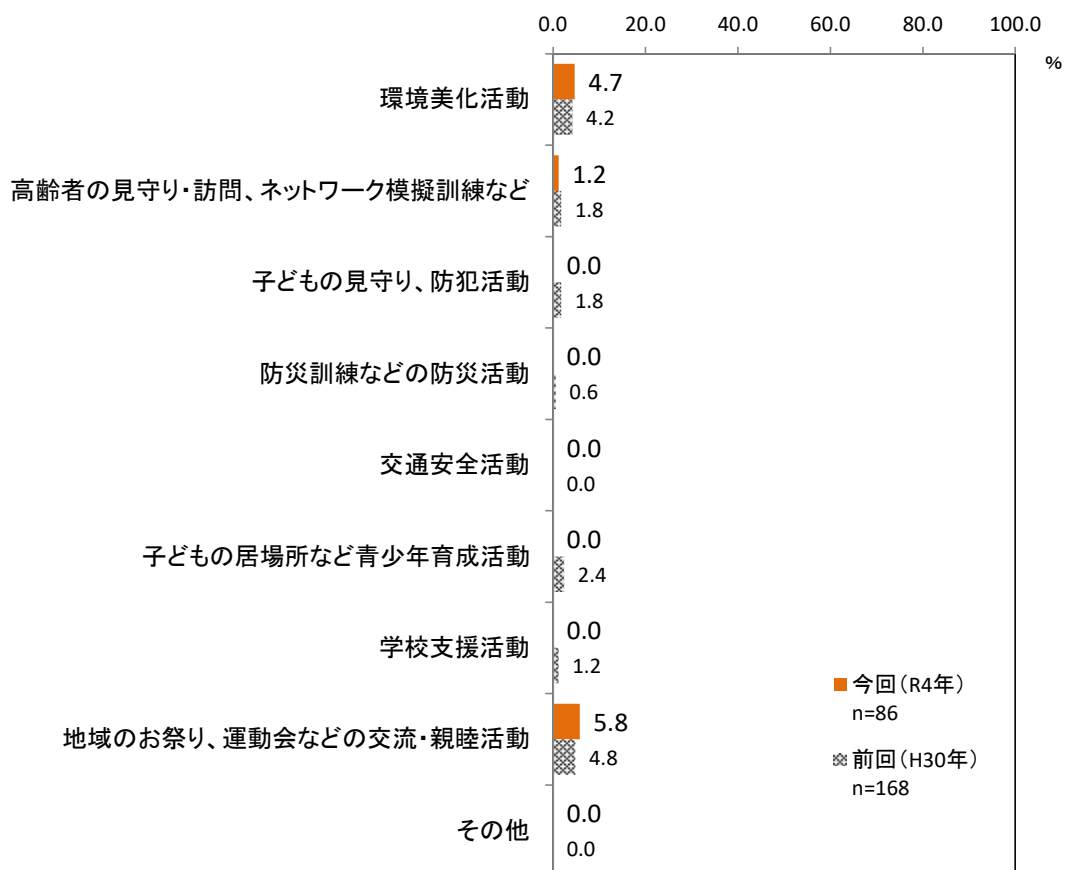
問25の2その他	性別	年齢
公民館活動	女性	60～64歳
草刈り	男性	65～69歳
隊組長をしている。	男性	70～74歳
個人で清掃活動。道路清掃。花壇。	女性	80歳以上



	合計	リサイクル・地域の清掃などの環境美化活動	高齢者の見守り・訪問、ほっとあんしんネットワーク模擬訓練など	子どもの見守り、防犯活動、パトロールなどの防犯活動	防災訓練などの防災活動	交通安全活動	宿・子どもの居場所・通学合宿・子ども食堂など青少年育成活動	学校支援活動	睦活動	地域の祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動	その他	無回答
全体	86	57 66.3%	7 8.1%	8 9.3%	5 5.8%	3 3.5%	7 8.1%	3 3.5%	29 33.7%	3 3.5%	10 11.6%	
■性別												
男性	40	22 55.0%	3 7.5%	5 12.5%	1 2.5%	0 0.0%	2 5.0%	1 2.5%	16 40.0%	2 5.0%	7 17.5%	
女性	45	34 75.6%	4 8.9%	2 4.4%	4 8.9%	3 6.7%	4 8.9%	2 4.4%	12 26.7%	1 2.2%	3 6.7%	
無回答	1	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	
■年代別												
18～29歳	2	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
30～39歳	5	4 80.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	
40～49歳	12	3 25.0%	2 16.7%	1 8.3%	2 16.7%	0 0.0%	2 16.7%	2 16.7%	7 58.3%	0 0.0%	1 8.3%	
50～59歳	18	15 83.3%	3 16.7%	4 22.2%	1 5.6%	0 0.0%	1 5.6%	0 0.0%	6 33.3%	0 0.0%	1 5.6%	
60～69歳	16	12 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 25.0%	2 12.5%	1 6.3%	
70～79歳	21	15 71.4%	1 4.8%	1 4.8%	1 4.8%	1 4.8%	1 4.8%	1 4.8%	6 28.6%	1 4.8%	3 14.3%	
80歳以上	12	7 58.3%	1 8.3%	2 16.7%	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%	0 0.0%	3 25.0%	0 0.0%	4 33.3%	
無回答	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	

問25-2 地域活動での企画・立案からの参加経験

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
リサイクル・地域の清掃などの環境美化活動	4	4.7	7	4.2
高齢者の見守り・訪問、ほっとあんしんネットワーク模擬訓練など	1	1.2	3	1.8
子どもの見守り、防犯パトロールなどの防犯活動	0	0.0	3	1.8
防災訓練などの防災活動	0	0.0	1	0.6
交通安全活動	0	0.0	0	0.0
子どもの居場所・通学合宿・子ども食堂など青少年育成活動	0	0.0	4	2.4
学校支援活動	0	0.0	2	1.2
地域のお祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動	5	5.8	8	4.8
その他	0	0.0	0	0.0
回答者数	86		168	



	合計	などの環境美化活動の清掃	ワークモデル訓練など	高齢者の見守り・訪問、ほっとあんしんネット	子どもの見守り、防犯活動	防災訓練などの防災活動	交通安全活動	子ども・子ども居場所・通学少年育成活動	学校支援活動	地域の祭り、運動会、交流・親睦活動	その他	無回答
全体	86	4 4.7%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 5.8%	0 0.0%	79 91.9%
■性別												
男性	40	3 7.5%	1 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 7.5%	0 0.0%	35 87.5%
女性	45	1 2.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.4%	0 0.0%	43 95.6%
無回答	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
■年代別												
18～29歳	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
30～39歳	5	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	4 80.0%
40～49歳	12	1 8.3%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 16.7%	0 0.0%	9 75.0%
50～59歳	18	1 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.6%	0 0.0%	17 94.4%
60～69歳	16	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%	0 0.0%	15 93.8%
70～79歳	21	1 4.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	20 95.2%
80歳以上	12	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 100.0%
無回答	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

問 25-3 (問 25 で 4.「参加していない」とお答えの方におたずねします)

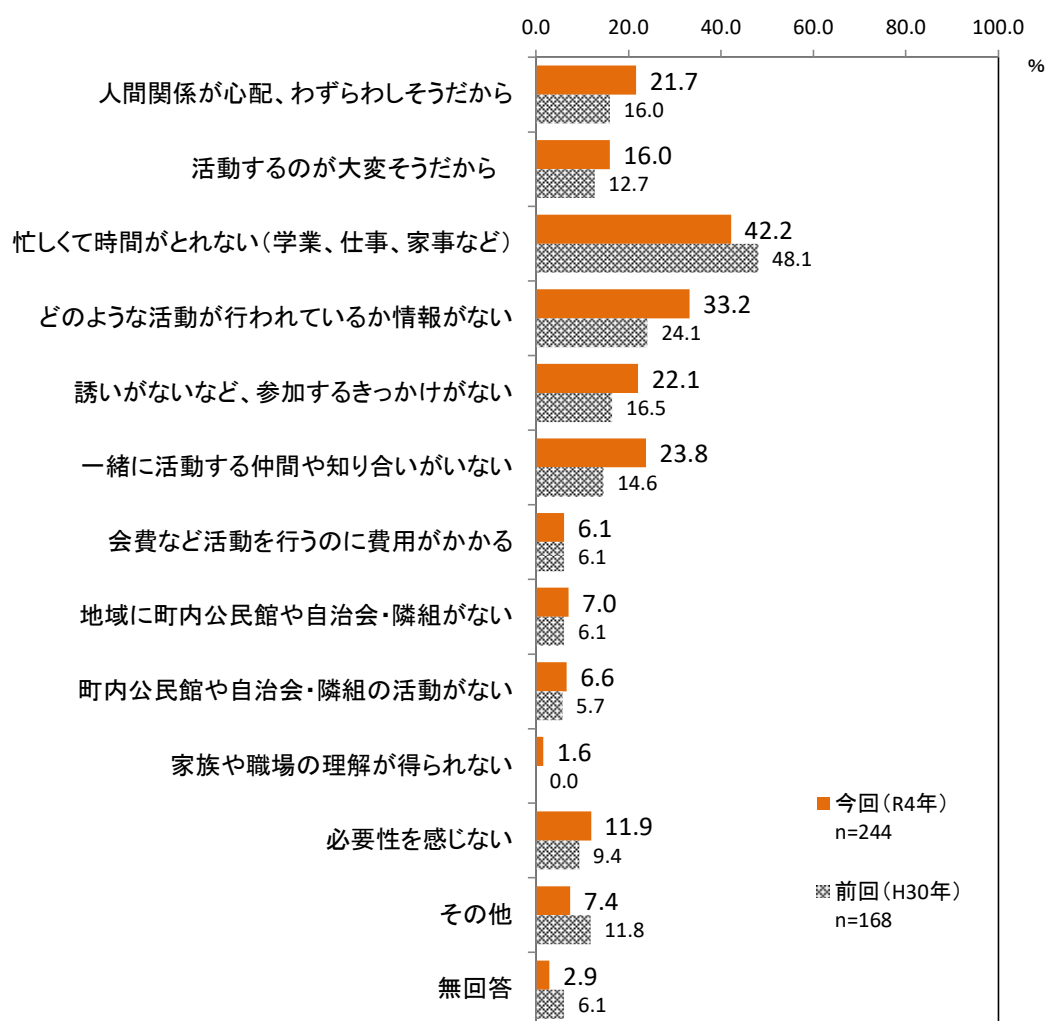
あなたが『地域活動』に参加していない理由は何ですか。

あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

問25-3 地域活動に参加していない理由

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
人間関係が心配、わずらわしそうだから	53	21.7	34	16.0
活動するのが大変そうだから	39	16.0	27	12.7
忙しくて時間がとれない(学業、仕事、家事など)	103	42.2	102	48.1
どのような活動が行われているか情報がない	81	33.2	51	24.1
誘いがないなど、参加するきっかけがない	54	22.1	35	16.5
一緒に活動する仲間や知り合いがない	58	23.8	31	14.6
会費など活動を行うのに費用がかかる	15	6.1	13	6.1
住んでいる地域に、町内公民館や自治会・隣組がない	17	7.0	13	6.1
町内公民館や自治会・隣組の活動がない	16	6.6	12	5.7
家族や職場の理解が得られない	4	1.6	0	0.0
必要性を感じない	29	11.9	20	9.4
その他	18	7.4	25	11.8
無回答	7	2.9	13	6.1
回答者数	244		212	

問25の3その他	性別	年齢
体調が悪く、自分が生きていくのに大変なので。	女性	25～29歳
機会がない。隣組はあるが家族の別の者が参加している。	女性	45～49歳
体調不良	男性	45～49歳
曜日、時間が合わない。	女性	50～54歳
コロナと高齢化で活動が中止になっている。	女性	50～54歳
ひざが悪いので生活するので精一杯です。	女性	65～69歳
知的障害なので難しい。	男性	65～69歳
自治会役員の当番年度ではなかったから。	女性	70～74歳
参加する魅力がない。	男性	70～74歳
コロナの為	女性	70～74歳
病気(軽い精神的病気)	男性	70～74歳
未来の会、清掃活動、社会福祉事業としての帽子(ガン患者さんへの)女性の 会管理職、公的会館等への花苗の提供、小学校での出前授業etc会長の高齢 化で後継者を作れない状況の為中止又会員の高齢化で現在活動無し。	女性	75～79歳
入院中	女性	75～79歳
体の健康(脊柱管狭窄症で手術済み)	女性	75～79歳
高齢のため、活動していません。(83才)	女性	80歳以上
体力的に自信がない。きつくて行きたくない。	女性	80歳以上
要介護4状態区分	女性	80歳以上
90代で高齢のため	無回答	80歳以上
体力がない	女性	80歳以上
介護施設に入所中の為	女性	80歳以上
体力がない	女性	80歳以上
病気のため参加出来ない	女性	80歳以上
年令	女性	80歳以上

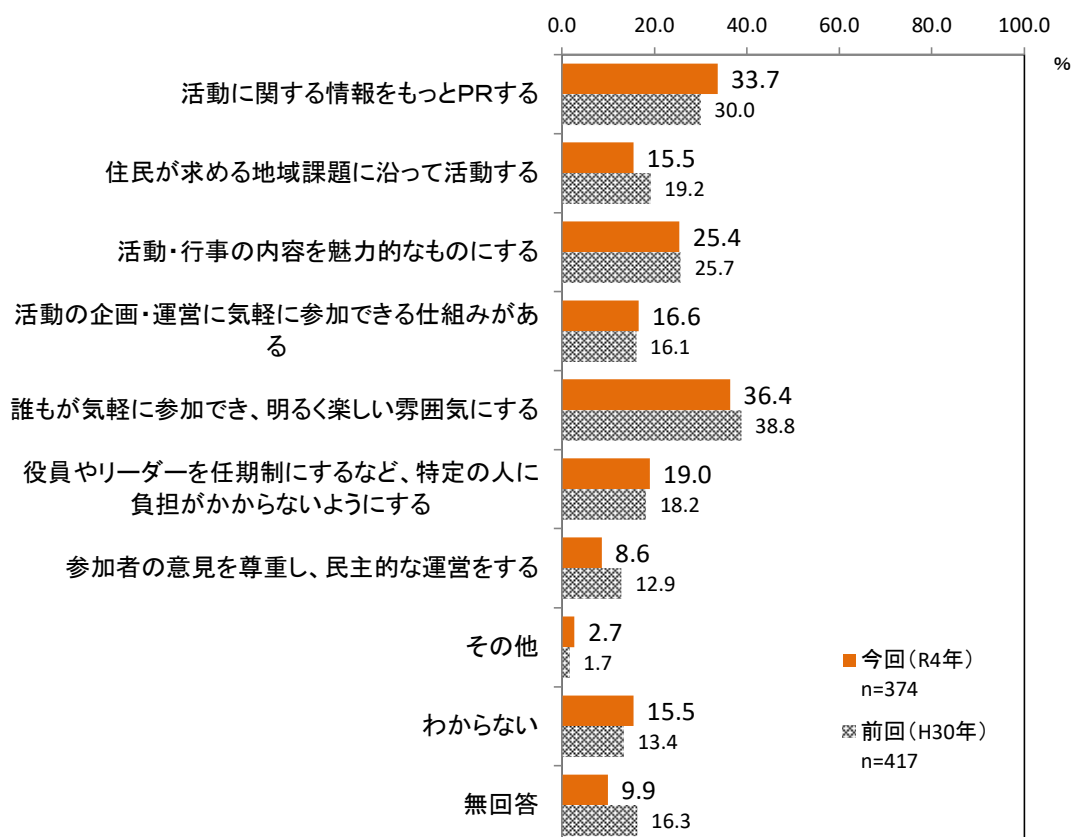


	合計	人間関係が心配、 わしそうだから	活動するのが大変 そうだから	ど(学業、仕事、 家事など)	忙しい、時間が とれない	どのような活動が 行われている	誘いがけないなど、 参加する	一緒に活動する仲間 や知り合い	会費など活動を行う のに費用がかかる	ない 公民館や自治会・隣 組が	住んでいる地域に、 町内公民館や自治会・ 隣の活動がない	家族や職場の理解が 得られない	必要性を感じない	その他	無回答
全体	244	53 21.7%	39 16.0%	103 42.2%	81 33.2%	54 22.1%	58 23.8%	15 6.1%	17 7.0%	16 6.6%	4 1.6%	29 11.9%	18 7.4%	7 2.9%	
■性別															
男性	107	27 25.2%	17 15.9%	45 42.1%	39 36.4%	24 22.4%	26 24.3%	9 8.4%	7 6.5%	2 1.9%	3 2.8%	15 14.0%	4 3.7%	3 2.8%	
女性	130	25 19.2%	21 16.2%	55 42.3%	41 31.5%	30 23.1%	31 23.8%	6 4.6%	9 6.9%	14 10.8%	1 0.8%	12 9.2%	14 10.8%	4 3.1%	
無回答	7	1 14.3%	1 14.3%	3 42.9%	1 14.3%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	
■年代別															
18～29歳	22	4 18.2%	1 4.5%	14 63.6%	7 31.8%	5 22.7%	7 31.8%	2 9.1%	0 0.0%	1 4.5%	0 0.0%	1 4.5%	1 4.5%	0 0.0%	
30～39歳	25	4 16.0%	4 16.0%	14 56.0%	11 44.0%	11 44.0%	10 40.0%	3 12.0%	1 4.0%	0 0.0%	1 4.0%	4 16.0%	0 0.0%	0 0.0%	
40～49歳	30	13 43.3%	7 23.3%	19 63.3%	13 43.3%	8 26.7%	5 16.7%	3 10.0%	1 3.3%	3 10.0%	0 0.0%	2 6.7%	1 3.3%	0 0.0%	
50～59歳	35	5 14.3%	4 11.4%	22 62.9%	11 31.4%	9 25.7%	6 17.1%	1 2.9%	5 14.3%	4 11.4%	1 2.9%	3 8.6%	1 2.9%	1 2.9%	
60～69歳	52	8 15.4%	6 11.5%	23 44.2%	16 30.8%	6 11.5%	14 26.9%	1 1.9%	7 13.5%	5 9.6%	1 1.9%	5 9.6%	2 3.8%	2 3.8%	
70～79歳	51	12 23.5%	11 21.6%	9 17.6%	15 29.4%	11 21.6%	10 19.6%	5 9.8%	0 0.0%	2 3.9%	1 2.0%	8 15.7%	6 11.8%	3 5.9%	
80歳以上	27	7 25.9%	6 22.2%	2 7.4%	8 29.6%	4 14.8%	6 22.2%	0 0.0%	3 11.1%	1 3.7%	0 0.0%	4 14.8%	7 25.9%	1 3.7%	
無回答	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	

問 26 お住まいの地域の活動が、もっと参加しやすいものとなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

問26 地域の活動が参加しやすいものとするために必要なこと

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
活動に関する情報をもっとPRする	126	33.7	125	30.0
住民が求める地域課題に沿って活動する	58	15.5	80	19.2
活動・行事の内容を魅力的なものにする	95	25.4	107	25.7
活動の企画・運営に気軽に参加できる仕組みがある	62	16.6	67	16.1
誰もが気軽に参加でき、明るく楽しい雰囲気にする	136	36.4	162	38.8
役員やリーダーを任期制にするなど、特定の人に負担がかからないように	71	19.0	76	18.2
参加者の意見を尊重し、民主的な運営をする	32	8.6	54	12.9
その他	10	2.7	7	1.7
わからない	58	15.5	56	13.4
無回答	37	9.9	68	16.3
回答者数	374		417	



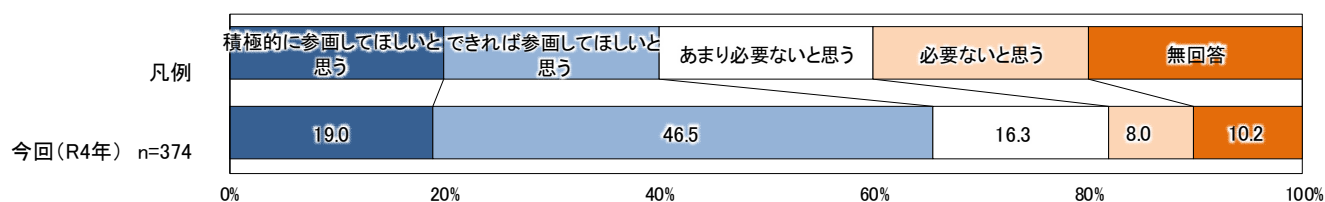
問 26 その他	性別	年齢
若者は年金など自分達で解決しないといけないと言われている。将来的金銭面不安が強い気がする。なので社会貢献という視野もないと思う。まず社会(政府、政治)が若者を助けようという意識が微塵も感じない。そんな中で若者が社会貢献するとは思えない。 自分のため、自分が良ければいいという人間が増えている気がする。なので、まず日本から変えないと難しいと思います。	男性	25～29 歳
対価、地域活動が伴う職場の理解が必要。	男性	40～44 歳
若者の定住	女性	40～44 歳
まち協なしの地域活動団体や自発的に活動しているサークルや団体がもっと自由に責任をもってとりくめるように協働や補助をしてほしい。	男性	40～44 歳
若い人の人材発掘・育成。仕事をしていても参加しやすくする。	女性	50～54 歳
グランドゴルフなどいつでも集まり運動ができる広場を各地域に整備していく。活動の場づくりが課題になっている。	男性	65～69 歳
無駄な支出が増える。	男性	65～69 歳
住民皆がいそがしい。生活の為の仕事におわれている。	女性	70～74 歳
言葉は悪いですが当時日本はエコミックと言われてました。(金になるか、ならないか)	男性	75～79 歳
特にコロナ状態の為、動きがとれていない。会員がすべて退職後で構成されていて、活動できるのがほぼ 70 才以上。	女性	75～79 歳
特定の人に大きな負担がかからないように住民の輪番制がある程度必要かも。	男性	75～79 歳
参加出来ない年齢、一人暮らしの人が増えている事を考えるべき時期に来ていると思う。	男性	75～79 歳
足のない人を送迎する。	女性	80 歳以上

	合計	活動に関する情報をもつとPRする	住民が求める地域課題に沿って活動する	活動的・行事の内容にする	活動の企画・運営に組みがある	活動の企画・運営に気軽に参加できる	き、明るく楽しい雰囲気にする	誰もが気軽に参加できる	定期的な人による担当など、特定の役割やリーダーを任	参加者の意見を尊重する、民主的な運営をする	その他	わからない	無回答
全体	374	126 33.7%	58 15.5%	95 25.4%	62 16.6%	136 36.4%	71 19.0%	32 8.6%	10 2.7%	58 15.5%	37 9.9%		
■性別													
男性	165	60 36.4%	27 16.4%	39 23.6%	30 18.2%	60 36.4%	31 18.8%	20 12.1%	6 3.6%	24 14.5%	15 9.1%		
女性	195	62 31.8%	29 14.9%	55 28.2%	30 15.4%	73 37.4%	39 20.0%	11 5.6%	4 2.1%	31 15.9%	18 9.2%		
無回答	14	4 28.6%	2 14.3%	1 7.1%	2 14.3%	3 21.4%	1 7.1%	1 7.1%	0 0.0%	3 21.4%	4 28.6%		
■年代別													
18～29歳	27	8 29.6%	5 18.5%	12 44.4%	9 33.3%	9 33.3%	4 14.8%	4 14.8%	0 0.0%	6 22.2%	0 0.0%		
30～39歳	30	12 40.0%	6 20.0%	12 40.0%	9 30.0%	13 43.3%	10 33.3%	3 10.0%	0 0.0%	4 13.3%	1 3.3%		
40～49歳	46	19 41.3%	8 17.4%	14 30.4%	13 28.3%	18 39.1%	11 23.9%	3 6.5%	4 8.7%	8 17.4%	2 4.3%		
50～59歳	55	17 30.9%	12 21.8%	13 23.6%	11 20.0%	19 34.5%	13 23.6%	6 10.9%	1 1.8%	11 20.0%	1 1.8%		
60～69歳	72	24 33.3%	9 12.5%	17 23.6%	9 12.5%	34 47.2%	15 20.8%	3 4.2%	2 2.8%	10 13.9%	4 5.6%		
70～79歳	88	29 33.0%	14 15.9%	18 20.5%	7 8.0%	23 26.1%	14 15.9%	11 12.5%	2 2.3%	12 13.6%	15 17.0%		
80歳以上	54	17 31.5%	4 7.4%	9 16.7%	4 7.4%	20 37.0%	4 7.4%	2 3.7%	1 1.9%	6 11.1%	13 24.1%		
無回答	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%		

問 27 地域の担い手不足がいわれていますが、お住まいの地域の活動の活性化には、中高生等の
 参画が必要だと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

問27 中高生等の参画に対する意向

	度数	%
積極的に参画してほしいと思う	71	19.0
できれば参画してほしいと思う	174	46.5
あまり必要ないと思う	61	16.3
必要ないと思う	30	8.0
無回答	38	10.2
合計	374	100.0



	合計	積極的に参画してほしいと思う	できれば参画してほしいと思う	あまり必要ないと思う	必要ないと思う	無回答
全体	374	71	174	61	30	38
	100.0%	19.0%	46.5%	16.3%	8.0%	10.2%
■ 性別						
男性	165	36	77	22	15	15
	100.0%	21.8%	46.7%	13.3%	9.1%	9.1%
女性	195	32	93	36	14	20
	100.0%	16.4%	47.7%	18.5%	7.2%	10.3%
無回答	14	3	4	3	1	3
	100.0%	21.4%	28.6%	21.4%	7.1%	21.4%
■ 年代別						
18～29歳	27	6	13	5	2	1
	100.0%	22.2%	48.1%	18.5%	7.4%	3.7%
30～39歳	30	10	16	3	1	0
	100.0%	33.3%	53.3%	10.0%	3.3%	0.0%
40～49歳	46	6	21	10	7	2
	100.0%	13.0%	45.7%	21.7%	15.2%	4.3%
50～59歳	55	11	28	9	6	1
	100.0%	20.0%	50.9%	16.4%	10.9%	1.8%
60～69歳	72	9	44	9	4	6
	100.0%	12.5%	61.1%	12.5%	5.6%	8.3%
70～79歳	88	18	37	13	5	15
	100.0%	20.5%	42.0%	14.8%	5.7%	17.0%
80歳以上	54	10	15	12	4	13
	100.0%	18.5%	27.8%	22.2%	7.4%	24.1%
無回答	2	1	0	0	1	0
	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%

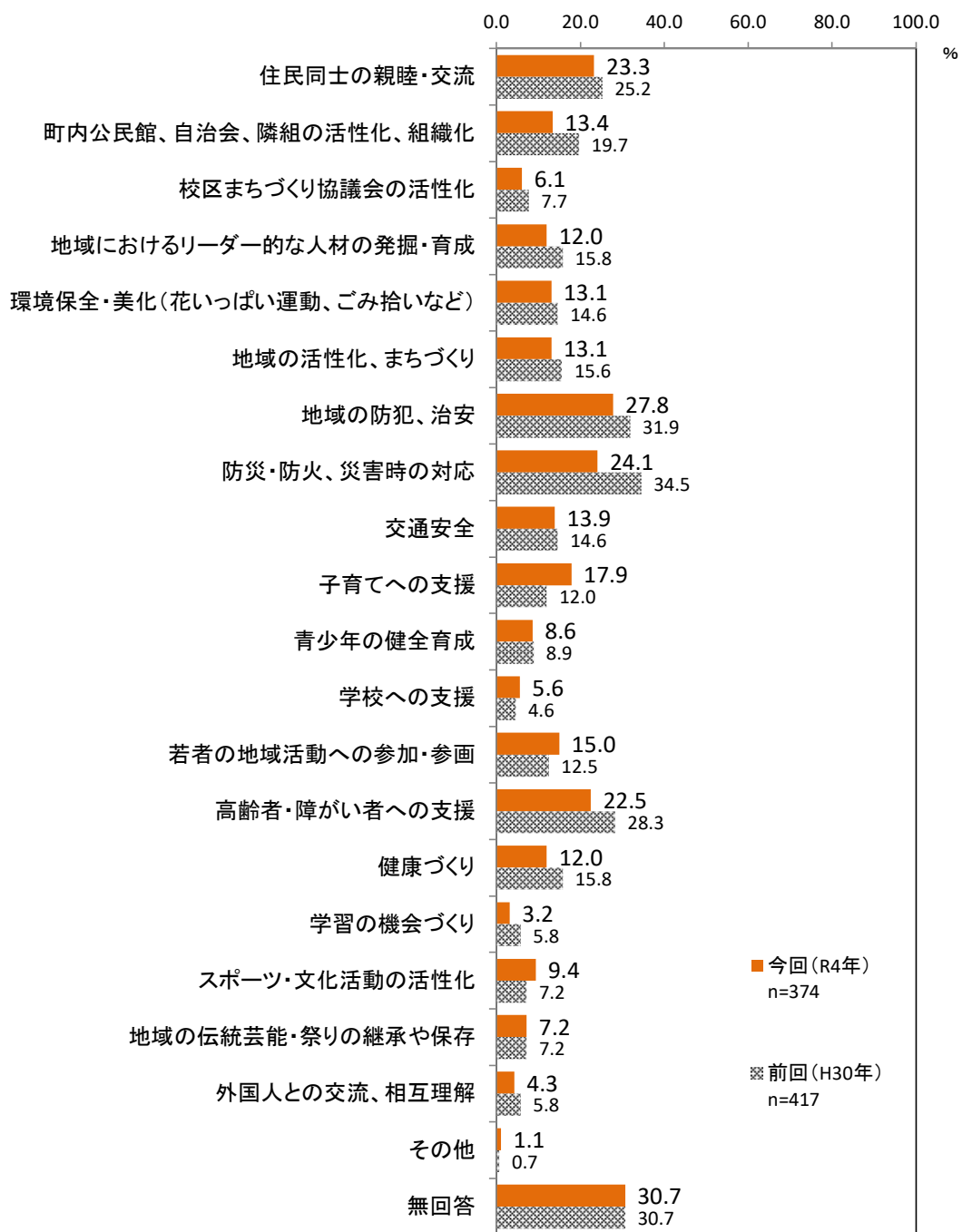
問 28 あなたの住まいの地域では、どのような課題がありますか。

あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。また、○印をつけたことのうち、地域だけでは解決が難しく、地域と行政が協働して取り組む必要があると思うことは、どれですか。特に必要だと思うものを3つまで○印をつけてください。

問28 お住まいの地域の課題

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
住民同士の親睦・交流	87	23.3	105	25.2
町内公民館、自治会、隣組の活性化、組織化	50	13.4	82	19.7
校区まちづくり協議会の活性化	23	6.1	32	7.7
地域におけるリーダー的な人材の発掘・育成	45	12.0	66	15.8
環境保全・美化(花いっぱい運動、ごみ拾いなど)	49	13.1	61	14.6
地域の活性化、まちづくり	49	13.1	65	15.6
地域の防犯、治安(不審者・空き家対策、防犯灯など)	104	27.8	133	31.9
防災・防火、災害時の対応	90	24.1	144	34.5
交通安全	52	13.9	61	14.6
子育てへの支援	67	17.9	50	12.0
青少年の健全育成	32	8.6	37	8.9
学校への支援	21	5.6	19	4.6
若者の地域活動への参加・参画	56	15.0	52	12.5
高齢者・障がい者への支援	84	22.5	118	28.3
健康づくり	45	12.0	66	15.8
学習の機会づくり(生活問題や制度、法律等)	12	3.2	24	5.8
スポーツ・文化活動の活性化(運動会や文化祭など)	35	9.4	30	7.2
地域の伝統芸能・祭りの継承や保存	27	7.2	30	7.2
外国人との交流、相互理解	16	4.3	24	5.8
その他	4	1.1	3	0.7
無回答	115	30.7	128	30.7
回答者数		374	417	

	合計	住民同士の親睦・交流	町内公民館、自治会、隣組の活性化	校区まちづくり協議会の活性化	地域におけるリーダー的な人材の発掘・育成	環境保全・美化(花いっぱい運動、ごみ拾いなど)	地域の活性化、まちづくり	地域の防犯、治安(不審者・空き家対策、防犯灯など)	防災・防火、災害時の対応	交通安全	子育てへの支援	青少年の健全育成	学校への支援	若者の地域活動への参加・参画	高齢者・障がい者への支援	健康づくり	学習の機会づくり(生活問題や制度、法律等)	スポーツ・文化活動の活性化(運動会や文化祭など)	地域の伝統芸能・祭りの継承	外国人との交流、相互理解	その他	無回答
全体	374	87 23.3%	50 13.4%	23 6.1%	45 12.0%	49 13.1%	49 13.1%	104 27.8%	90 24.1%	52 13.9%	67 17.9%	32 8.6%	21 5.6%	56 15.0%	84 22.5%	45 12.0%	12 3.2%	35 9.4%	27 7.2%	16 4.3%	4 1.1%	115 30.7%
■性別																						
男性	165	49 29.7%	29 17.6%	14 8.5%	21 12.7%	24 14.5%	24 14.5%	49 29.7%	39 23.6%	24 14.5%	40 24.2%	19 11.5%	14 8.5%	30 18.2%	43 26.1%	25 15.2%	8 4.8%	24 14.5%	21 12.7%	8 4.8%	3 1.8%	39 23.6%
女性	195	36 18.5%	20 10.3%	9 4.6%	22 11.3%	22 11.3%	24 12.3%	52 26.7%	49 25.1%	23 11.8%	26 13.3%	13 6.7%	7 3.6%	26 13.3%	40 20.5%	20 10.3%	4 2.1%	11 5.6%	5 2.6%	8 4.1%	1 0.5%	71 36.4%
無回答	14	2 14.3%	1 7.1%	0 0.0%	2 14.3%	3 21.4%	1 7.1%	3 21.4%	2 14.3%	5 35.7%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	5 35.7%
■年代別																						
18～29歳	27	6 22.2%	2 7.4%	1 3.7%	0 0.0%	5 18.5%	4 14.8%	5 18.5%	6 22.2%	7 25.9%	12 44.4%	3 11.1%	6 22.2%	8 29.6%	7 25.9%	6 22.2%	1 3.7%	6 22.2%	4 14.8%	4 14.8%	0 0.0%	5 18.5%
30～39歳	30	10 33.3%	5 16.7%	4 13.3%	2 6.7%	5 16.7%	4 13.3%	12 40.0%	8 26.7%	5 16.7%	14 46.7%	6 20.0%	2 6.7%	8 26.7%	10 33.3%	3 10.0%	3 10.0%	4 13.3%	6 20.0%	3 10.0%	1 3.3%	3 10.0%
40～49歳	46	14 30.4%	8 17.4%	4 8.7%	10 21.7%	7 15.2%	11 23.9%	18 39.1%	15 32.6%	9 19.6%	15 32.6%	4 8.7%	5 10.9%	8 17.4%	7 15.2%	2 4.3%	1 2.2%	8 17.4%	4 8.7%	4 8.7%	0 0.0%	7 15.2%
50～59歳	55	11 20.0%	13 23.6%	4 7.3%	8 14.5%	8 14.5%	8 14.5%	21 38.2%	13 23.6%	10 18.2%	7 12.7%	4 7.3%	2 3.6%	8 14.5%	10 18.2%	4 7.3%	1 1.8%	3 5.5%	0 0.0%	1 1.8%	1 1.8%	12 21.8%
60～69歳	72	19 26.4%	7 9.7%	4 5.6%	7 9.7%	5 6.9%	12 16.7%	15 20.8%	23 31.9%	5 6.9%	9 12.5%	4 5.6%	1 1.4%	12 16.7%	18 25.0%	14 19.4%	2 2.8%	8 11.1%	3 4.2%	3 4.2%	1 1.4%	21 29.2%
70～79歳	88	19 21.6%	9 10.2%	3 3.4%	12 13.6%	12 13.6%	7 8.0%	22 25.0%	17 19.3%	9 10.2%	9 10.2%	8 9.1%	4 4.5%	9 10.2%	23 26.1%	11 12.5%	4 4.5%	5 5.7%	6 6.8%	1 1.1%	1 1.1%	36 40.9%
80歳以上	54	7 13.0%	6 11.1%	3 5.6%	6 11.1%	7 13.0%	3 5.6%	11 20.4%	7 13.0%	6 11.1%	1 1.9%	3 5.6%	1 1.9%	3 5.6%	9 16.7%	5 9.3%	0 0.0%	1 1.9%	4 7.4%	0 0.0%	0 0.0%	30 55.6%
無回答	2	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%

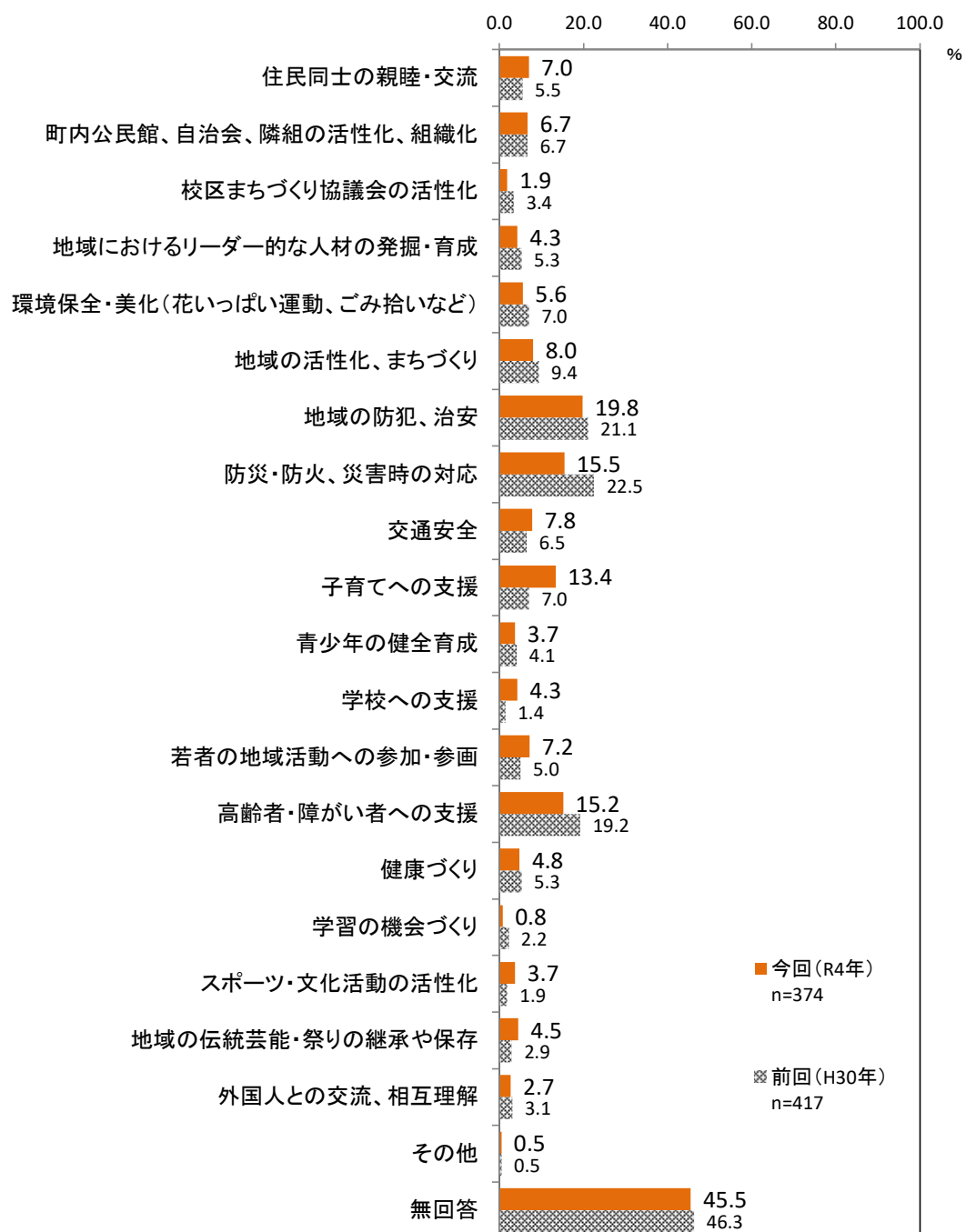


問28地域課題その他	性別	年齢
のら猫対策	男性	55～59歳
高齢化	女性	60～64歳
考えたことなく、意識もなくわからない。	女性	65～69歳
特に会話なし。	男性	65～69歳
地域の活性化をあまり望まない人もいるかも。	男性	75～79歳

問28 地域と行政が協働で取り組むべきこと

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
住民同士の親睦・交流	26	7.0	23	5.5
町内公民館、自治会、隣組の活性化、組織化	25	6.7	28	6.7
校区まちづくり協議会の活性化	7	1.9	14	3.4
地域におけるリーダー的な人材の発掘・育成	16	4.3	22	5.3
環境保全・美化(花いっぱい運動、ごみ拾いなど)	21	5.6	29	7.0
地域の活性化、まちづくり	30	8.0	39	9.4
地域の防犯、治安(不審者・空き家対策、防犯灯など)	74	19.8	88	21.1
防災・防火、災害時の対応	58	15.5	94	22.5
交通安全	29	7.8	27	6.5
子育てへの支援	50	13.4	29	7.0
青少年の健全育成	14	3.7	17	4.1
学校への支援	16	4.3	6	1.4
若者の地域活動への参加・参画	27	7.2	21	5.0
高齢者・障がい者への支援	57	15.2	80	19.2
健康づくり	18	4.8	22	5.3
学習の機会づくり(生活問題や制度、法律等)	3	0.8	9	2.2
スポーツ・文化活動の活性化(運動会や文化祭など)	14	3.7	8	1.9
地域の伝統芸能・祭りの継承や保存	17	4.5	12	2.9
外国人との交流、相互理解	10	2.7	13	3.1
その他	2	0.5	2	0.5
無回答	170	45.5	193	46.3
回答者数	374		417	

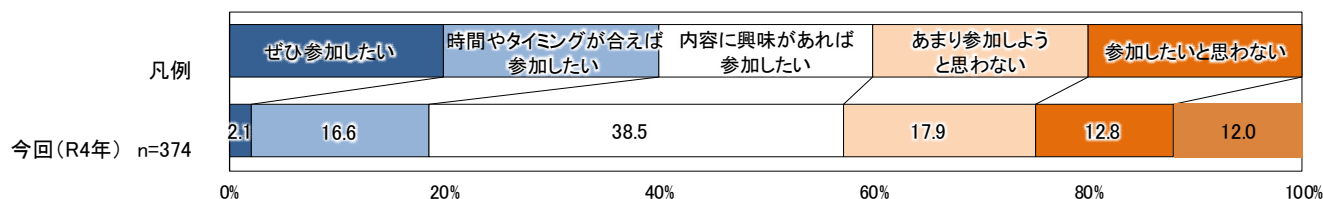
	合計	住民同士の親睦・交流	町内公民館、自治会、隣組の活性化	校区まちづくり協議会の活性化	地域におけるリーダー的な人材の発掘・育成	環境保全・美化(花いっぱい運動、ごみ拾いなど)	地域の活性化、まちづくり	地域の防犯、治安(不審者・空き家対策、防犯灯など)	防災・防火、災害時の対応	交通安全	子育てへの支援	青少年の健全育成	学校への支援	若者の地域活動への参加・参画	高齢者・障がい者への支援	健康づくり	学習の機会づくり(生活問題や制度、法律等)	スポーツ・文化活動の活性化(運動会や文化祭など)	地域の伝統芸能・祭りの継承や保存	外国人との交流、相互理解	その他	無回答
全体	374	26 7.0%	25 6.7%	7 1.9%	16 4.3%	21 5.6%	30 8.0%	74 19.8%	58 15.5%	29 7.8%	50 13.4%	14 3.7%	16 4.3%	27 7.2%	57 15.2%	18 4.8%	3 0.8%	14 3.7%	17 4.5%	10 2.7%	2 0.5%	170 45.5%
■性別																						
男性	165	15 9.1%	13 7.9%	4 2.4%	5 3.0%	10 6.1%	15 9.1%	29 17.6%	20 12.1%	10 6.1%	28 17.0%	9 5.5%	11 6.7%	15 9.1%	29 17.6%	6 3.6%	2 1.2%	8 4.8%	15 9.1%	5 3.0%	1 0.6%	66 40.0%
女性	195	10 5.1%	12 6.2%	3 1.5%	11 5.6%	9 4.6%	14 7.2%	43 22.1%	38 19.5%	16 8.2%	21 10.8%	5 2.6%	5 2.6%	12 6.2%	27 13.8%	11 5.6%	1 0.5%	6 3.1%	2 1.0%	5 2.6%	1 0.5%	96 49.2%
無回答	14	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 14.3%	1 7.1%	2 14.3%	0 0.0%	3 21.4%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 57.1%
■年代別																						
18～29歳	27	1 3.7%	1 3.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.7%	1 3.7%	1 3.7%	4 14.8%	2 7.4%	9 33.3%	1 3.7%	5 18.5%	4 14.8%	5 18.5%	3 11.1%	0 0.0%	3 11.1%	2 7.4%	2 7.4%	0 0.0%	10 37.0%
30～39歳	30	2 6.7%	5 16.7%	1 3.3%	1 3.3%	1 3.3%	2 6.7%	10 33.3%	5 16.7%	4 13.3%	13 43.3%	3 10.0%	2 6.7%	3 10.0%	6 20.0%	1 3.3%	0 0.0%	2 6.7%	5 16.7%	3 10.0%	0 0.0%	6 20.0%
40～49歳	46	7 15.2%	3 6.5%	2 4.3%	3 6.5%	5 10.9%	7 15.2%	10 21.7%	12 26.1%	2 4.3%	10 21.7%	0 0.0%	3 6.5%	6 13.0%	5 10.9%	1 2.2%	0 0.0%	3 6.5%	4 8.7%	3 6.5%	0 0.0%	14 30.4%
50～59歳	55	2 3.6%	4 7.3%	0 0.0%	4 7.3%	5 9.1%	3 5.5%	21 38.2%	11 20.0%	11 14.5%	7 12.7%	0 0.0%	1 1.8%	7 12.7%	8 14.5%	2 3.6%	0 0.0%	3 5.5%	0 0.0%	1 1.8%	1 1.8%	16 29.1%
60～69歳	72	4 5.6%	1 1.4%	1 1.4%	2 2.8%	2 2.8%	8 11.1%	10 13.9%	14 19.4%	6 8.3%	5 6.9%	2 2.8%	1 1.4%	4 5.6%	14 19.4%	4 5.6%	2 2.8%	2 2.8%	3 4.2%	1 1.4%	1 1.4%	32 44.4%
70～79歳	88	6 6.8%	9 10.2%	2 2.3%	5 5.7%	6 6.8%	6 6.8%	15 17.0%	11 12.5%	5 5.7%	6 6.8%	5 5.7%	4 4.5%	2 2.3%	13 14.8%	4 4.5%	1 1.1%	1 1.1%	3 3.4%	0 0.0%	0 0.0%	50 56.8%
80歳以上	54	4 7.4%	2 3.7%	1 1.9%	1 1.9%	1 1.9%	3 5.6%	7 13.0%	1 1.9%	2 3.7%	0 0.0%	3 5.6%	0 0.0%	1 1.9%	6 11.1%	3 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	40 74.1%
無回答	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%



問 29 地区公民館やえるる等において、「地域づくり・まちづくり」について学ぶ講座等があれば、参加したいと思いますか。

問29 「地域づくり・まちづくり」について学ぶ講座等への参加意向

	度数	%
ぜひ参加したい	8	2.1
時間やタイミングが合えば参加したい	62	16.6
内容に興味があれば参加したい	144	38.5
あまり参加しようと思わない	67	17.9
参加したいと思わない	48	12.8
無回答	45	12.0
合計	374	100.0



	合計	ぜひ参加したい	時間やタイミングが合えば参加したい	内容に興味があれば参加したい	あまり参加しようと思わない	参加したいと思わない	無回答
全体	374	8	62	144	67	48	45
	100.0%	2.1%	16.6%	38.5%	17.9%	12.8%	12.0%
■ 性別							
男性	165	6	25	66	27	24	17
	100.0%	3.6%	15.2%	40.0%	16.4%	14.5%	10.3%
女性	195	2	34	76	36	22	25
	100.0%	1.0%	17.4%	39.0%	18.5%	11.3%	12.8%
無回答	14	0	3	2	4	2	3
	100.0%	0.0%	21.4%	14.3%	28.6%	14.3%	21.4%
■ 年代別							
18～29歳	27	0	2	13	4	6	2
	100.0%	0.0%	7.4%	48.1%	14.8%	22.2%	7.4%
30～39歳	30	2	5	14	6	2	1
	100.0%	6.7%	16.7%	46.7%	20.0%	6.7%	3.3%
40～49歳	46	2	13	15	7	6	3
	100.0%	4.3%	28.3%	32.6%	15.2%	13.0%	6.5%
50～59歳	55	2	8	25	8	9	3
	100.0%	3.6%	14.5%	45.5%	14.5%	16.4%	5.5%
60～69歳	72	1	16	28	15	8	4
	100.0%	1.4%	22.2%	38.9%	20.8%	11.1%	5.6%
70～79歳	88	1	11	35	15	9	17
	100.0%	1.1%	12.5%	39.8%	17.0%	10.2%	19.3%
80歳以上	54	0	7	14	12	6	15
	100.0%	0.0%	13.0%	25.9%	22.2%	11.1%	27.8%
無回答	2	0	0	0	0	2	0
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

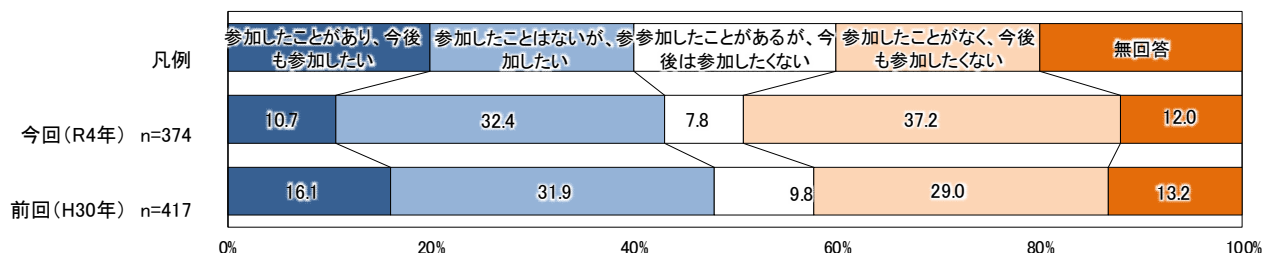
問 30 最後に、おたずねします。地域の住民が登下校時の子どもの見守りを行ったり、子ども達が地域の文化活動に参加したりするなど、学校と地域が連携・協働し、地域の未来を担う子ども達の成長を支える必要性が高まっています。

あなたは、お住まいの地域にある学校を支援する活動に参加したいと思いますか。

あてはまる番号に○印をつけてください。

問30 地域にある学校支援活動に対する参加意向

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
参加したことがあり、今後も参加したい	40	10.7	67	16.1
参加したことはないが、参加したい	121	32.4	133	31.9
参加したことがあるが、今後は参加したくない	29	7.8	41	9.8
参加したことがなく、今後も参加したくない	139	37.2	121	29.0
無回答	45	12.0	55	13.2
合計(回答者数)	374	100.0	417	100.0

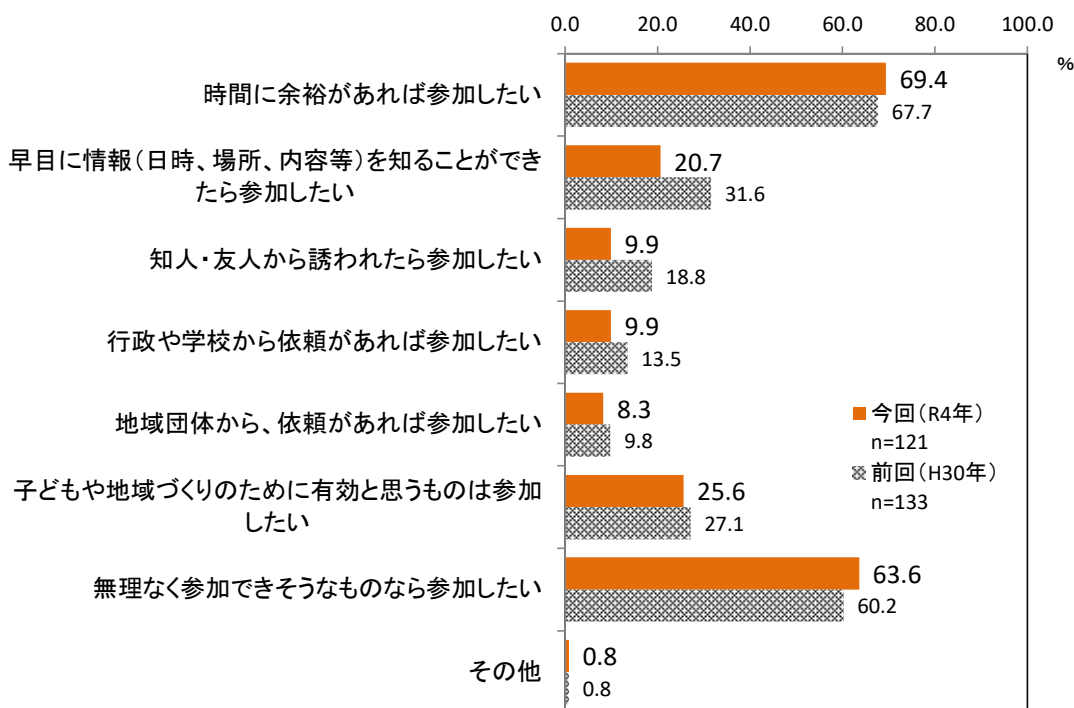


	合計	今参加もしたことがあり、	が参加したことはない	が参加したことはない	今参加もしたことがなく、	無回答
全体	374 100.0%	40 10.7%	121 32.4%	29 7.8%	139 37.2%	45 12.0%
■ 性別						
男性	165 100.0%	18 10.9%	58 35.2%	13 7.9%	60 36.4%	16 9.7%
女性	195 100.0%	20 10.3%	62 31.8%	15 7.7%	73 37.4%	25 12.8%
無回答	14 100.0%	2 14.3%	1 7.1%	1 7.1%	6 42.9%	4 28.6%
■ 年代別						
18～29歳	27 100.0%	0 0.0%	16 59.3%	3 11.1%	8 29.6%	0 0.0%
30～39歳	30 100.0%	5 16.7%	15 50.0%	1 3.3%	9 30.0%	0 0.0%
40～49歳	46 100.0%	10 21.7%	18 39.1%	5 10.9%	10 21.7%	3 6.5%
50～59歳	55 100.0%	12 21.8%	14 25.5%	5 9.1%	23 41.8%	1 1.8%
60～69歳	72 100.0%	1 1.4%	32 44.4%	5 6.9%	29 40.3%	5 6.9%
70～79歳	88 100.0%	7 8.0%	21 23.9%	5 5.7%	35 39.8%	20 22.7%
80歳以上	54 100.0%	5 9.3%	5 9.3%	5 9.3%	23 42.6%	16 29.6%
無回答	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%

問30-2 (問30で2.「参加したことはないが、参加したい」を選んだ人におたずねします)
あなたは、どのような状況なら参加することができますか。
あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

問30-2 学校を支援する活動に参加するための条件

	今回(R4年)		前回(H30年)	
	度数(人)	%	度数(人)	%
時間に余裕があれば参加したい	84	69.4	90	67.7
早目に情報(日時、場所、内容等)を知ることができたら参加したい	25	20.7	42	31.6
知人・友人から誘われたら参加したい	12	9.9	25	18.8
行政や学校から依頼があれば参加したい	12	9.9	18	13.5
地域団体(まちづくり協議会、町内公民館、校区社協、校区民児協・主任児童委員など)から、依頼があれば参加したい	10	8.3	13	9.8
子どもや地域づくりのために有効と思うものは参加したい	31	25.6	36	27.1
無理なく参加できそうなものなら参加したい	77	63.6	80	60.2
その他	1	0.8	1	0.8
回答者数	121		133	



問30の2その他	性別	年齢
仕事の都合が…。	男性	45～49歳
コロナで外出解禁になれば歴史・文学講座に参加したいと思います。	女性	75～79歳

		時間 に余裕 があれば 参加し たい	早 目 に 情 報 （ 日 時 、 場 所 、 内 容 等 ） を 知 る こ と が で き た ら 参 加 し た い	知 人 ・ 友 人 か ら 誘 わ れ た ら 参 加 し た い	行 政 や 学 校 か ら 依 頼 が あ れ ば 参 加 し た い	地 域 団 体 （ ま ち づ く り 協 議 会 、 町 内 公 民 館 、 校 区 社 協 、 校 区 民 児 協 、 主 任 児 童 委 員 協 議 会 な ど ） か ら 、 依 頼 が あ れ ば 参 加 し た い	子 ど も や 地 域 づ く り の た め に 有 効 と 思 う も の は 参 加 し た い	無 理 な く 参 加 で き そ う な も の な ら 参 加 し た い	そ の 他	無 回 答
合 計	121	84 69.4%	25 20.7%	12 9.9%	12 9.9%	10 8.3%	31 25.6%	77 63.6%	1 0.8%	0 0.0%
■ 性別										
男性	58	38 65.5%	11 19.0%	6 10.3%	9 15.5%	7 12.1%	18 31.0%	39 67.2%	1 1.7%	0 0.0%
女性	62	45 72.6%	14 22.6%	6 9.7%	3 4.8%	3 4.8%	13 21.0%	38 61.3%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	1	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
■ 年代別										
18～29歳	16	12 75.0%	5 31.3%	3 18.8%	3 18.8%	1 6.3%	4 25.0%	6 37.5%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳	15	12 80.0%	3 20.0%	2 13.3%	1 6.7%	1 6.7%	6 40.0%	11 73.3%	0 0.0%	0 0.0%
40～49歳	18	16 88.9%	4 22.2%	3 16.7%	2 11.1%	2 11.1%	4 22.2%	10 55.6%	1 5.6%	1 5.6%
50～59歳	14	11 78.6%	2 14.3%	1 7.1%	3 21.4%	0 0.0%	3 21.4%	6 42.9%	0 0.0%	0 0.0%
60～69歳	32	22 68.8%	7 21.9%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	8 25.0%	26 81.3%	0 0.0%	0 0.0%
70～79歳	21	8 38.1%	3 14.3%	0 0.0%	3 14.3%	5 23.8%	4 19.0%	17 81.0%	0 0.0%	0 0.0%
80歳以上	5	3 60.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	1 20.0%	2 40.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

問 31 今回、おたずねした生涯学習や地域づくりについて、ご意見やご要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

生涯学習について	性別	年代
10 代後半～20 代の若者に対する取り組みが少ないので多くしてほしいです。	女性	20～24 歳
太宰府にあったと思いますがファラボ(Fablab)の施設がほしい。確か民間の企業と連携して運営していたと思います。(グッデイ)	男性	35～39 歳
学習の面で学費安めの講座があれば助かります。	女性	40～44 歳
参加しやすい環境と、魅力的な活動であれば周知されれば人は来ます。参加しやすくするための場所や費用の提供、活動によって得られるメリットと楽しさをもっと周知して行ってほしい。	男性	40～44 歳
核家族化が進み(三世代家族…祖父祖母からの)愛情の受け渡し、生活の知恵が受け継がれないまま、スマホ時代となっています。収入の少ない家庭で育つ子供達にも未来・夢がある為、是非とも(本人達は産まれてきたきた親、家庭は選べない)学べるための支援、大学生で自宅外で学べる様に、自分の力で開拓できる成年になるまでは学びの保障をお願いします。純粋に「学びたい将来・未来の夢に向かって」という気持ちを持っています。地域サロン等で、子供たちとお年寄り(高齢者)の方を繋いでいく。	女性	45～49 歳
生涯学習をもっと身近な公民館でできれば行きやすく時間もとれると思います。小さな公民館でも近所の子ども・高齢者が行きやすい場所で行って頂ければ公民館にも活気が出て、地域づくりにもつながっていくのでは？と思います。	女性	45～49 歳
仕事をしている間は難しいので、退職後時間ができた時に役立つ様なものがあれば参加できればいいと思います。	女性	50～54 歳
学んでみたい学習もあるのですが、どれも午前中(平日)等で、なかなか時間帯がありません。仕事帰りに寄れる時間帯など増やしていただけるともう少し学べる人達が、集まるのではないかと考えています。	女性	50～54 歳
コロナのため、生涯学習の開催も厳しいと思いますが、楽しみにしている講座が沢山あります。今後ともよろしくお願い致します。又、仕事が不規則なため、同じ講座が少し時間を空けて開催いただけると非常に参加しやすいです。	女性	55～59 歳
自分自身は、興味のあることに対して、自分で取り組み、行政の支援は不要だが、行政が主導するサークル等が必要な人もいると思う。	男性	55～59 歳
参加したくなるような企画をまずは行政から発信してほしい。子供達が誇りに思える郷土であるように魅力ある街作りをすれば、おのずと興味を持つ者も増えると思う。	女性	55～59 歳
行政がやる事じゃなく、個人のやり方が問題かな？バカは死んでもなおらない。自分自身が学ぶ気持ちがないと人間は成長しないから。	男性	60～64 歳

高齢の親、家族の看護がある間は、自分のことについての時間はなかなかとれません。余裕ができれば少しずつと思っています。その時の「第一歩」が参加しやすかったらいいなと思っています。	女性	65～69 歳
IT 化が進んでいる中、「感情」「思い」を持っている「人」が基本となっている事が全ての取り組みの基本にした大牟田市であって欲しいです。ご苦労様です。	女性	70～74 歳
①大牟田は海に囲まれ、自然環境には最適の場所と思います。従って、海づりを中心としたとりくみがあると初心者でも参加しやすいと思います。②高齢者に対して音楽教室への参加。特にピアノ教室など行政と民間の楽器店が提携して安い授業料で開設する。	男性	70～74 歳
生涯学習については教育委員会に頑張って欲しい。	男性	70～74 歳
知識・智恵、治療・養生、年を取る・積み重ねる。自由自在と言われてますが責任を伴います。実際厳しくて、そこまで考えての行動です。次の世代は大変です。	男性	75～79 歳
何らかの形で貢献できればいいなあと思います。私のできる範囲で。	女性	75～79 歳
退職後 10 年間程積極的活動を参加、協力してきましたが、只今内向きな生活になり、このアンケートの主旨に添えず申し訳ありません。	女性	75～79 歳
地区のサロンに月 1 回行ってますが、金銭的援助がもっとほしいです。	女性	75～79 歳

地域づくりについて	性別	年代
私が小学生の頃に比べ 1 クラスだとだいぶ子供の数が減っているのにおどろきがありました。子育て支援でいうと、あんまり大牟田はお勧めできないと思います。ほかの県が良すぎて医療費とかもやっぱり他と比べてしまいます。	女性	25～29 歳
街コンとか主催してくれれば若い人が来るかもしれません。	男性	25～29 歳
ボランティアというものが、自分達に利が無く社会貢献をすることでの自己満足にすぎない。皆が皆、進んでボランティアをするとは思えない。	男性	25～29 歳
参加したい、協力したいと思えるような早目の情報提供をお願いします。参加したくても、仕事が・・・とかで行けない人はたくさんいらっしゃると思うので、「ボランティア休暇」的なのが職場で出せるとみんな参加しやすくなるのかなと思います。お忙しいとは思いますが、大牟田がもっとよりよくなるためにお願いします。ご苦労様です。	女性	25～29 歳
まち協や自治会という制度を根本的に見直すべき。自治会業務を専属的に行う職員を雇用し、行政主体になるべき。そうしないとたない。	男性	40～44 歳
持ち主不明の土地に生えた草木を切って欲しい。自宅の敷地に侵入してきており困っている。野良猫にエサを与えている人がおり、野良猫が増え自宅に糞をされる。エサを与えている人に注意や駆除をして欲しい。	男性	40～44 歳

生涯学習に限らず、地域の活性化のためには、とにかく若い年代の方々の「若い力」が必要と思う。スポーツを通じて子供達と活動しているが、若い世代の指導者等は不可欠であるも、通常仕事を行っている若年世代が仕事時間外に活動に参加するのは困難で、さらに若い世代が少ないとなれば、より困難。よりよい地域づくりのためには、まずは「住みたいと思うまちづくり」を推進し、環境美化等できれいな街並みを整え、次世代の住民を増やすことに力を注ぐべきだと思う。	男性	45～49 歳
大牟田を魅力的な町にしたい。全国的に注目させる様なアイデアを求めます。	男性	45～49 歳
登校時の「見守り隊」の方は、毎朝・夕従事されており、有難いと感じる一方で、旗の振り方、判断にどうかと思う場面が何度かありました。状況判断が難しいと思いますが、児童、自転車、車等が安全に通行することを意識して、旗を振っていただきたいと思います。	女性	50～54 歳
地域づくりに関して公民館の新規加入が少ないため役員をずっと同じ人で回していますが、公民館の必要性を問われるとよくわからない為進めることもできない状況にあります。	女性	50～54 歳
役員の方(自治会等)の高齢化が進んでおり、地域づくりのあり方自体を見直すべき。高齢化に伴い生涯学習の充実について期待しています。	女性	50～54 歳
通学路の環境整備を行って欲しい。用水路などゴミ・草取り・たまった土の取り除きをしてもらいたい。	男性	50～54 歳
コロナの影響で地域活動や人との関りが一気に衰退した。大牟田市の現状と課題(人口減少・高齢化)を踏まえ今からできることを考え、みんなが住みやすいまちづくりを実行していく。	女性	50～54 歳
より良い大牟田に。住んでいて良かったと思える場所に。市の方でも、アンケート調査をされる程、真剣に検討されている事が伺え、うれしいと思いました。ここが良い(大牟田)と思える街に、より良く変わっていく事を願います。	女性	55～59 歳
小・中学生がもっと地域の道路、公園のゴミ拾いや、らく書き消し等の活動を行えば、子供たちは学習しその姿を見た若者大人も共感し、きれいな「まちづくり」が出来るのではと思います。	男性	55～59 歳
公民館活動を長年やってきましたが、こちらからいろんなことを呼びかけても反応する人が減ってきました。だから何かに困っている・何かをしたい人がいたら一緒に解決できるようにつとめてます。そのために自分のレベルを上げる努力はしてます。	男性	60～64 歳
1人ぐらしの高齢者増えていると思います。市や地域で支えている全国的な事例や教訓を学びたいと思います。	男性	65～69 歳
隣組加入者が未加入の人々の当番表を作ったり配ったり、加入者(1/3)が未加入者(2/3)の所へ防犯灯の協力金(?)を集金に行ったりと何か変ではありませんか？	女性	65～69 歳

大牟田が大好きでもっと住み良い町になったら素晴らしい事で嬉しく思いますが、日々の暮らしに追われ進んで何かをしようと言う気持ちになれなくて申し訳ないです。陰ながら応援しています。	女性	65～69 歳
高齢者になって来るとなかなか回りの方と接することが少なくなってしまう。集合住宅になるととくに少なくなります。隣はどなたかも知らない状態です。	女性	70～74 歳
ご近所のお年寄を見守っていますので、これからも変化にいち早く気づき守っていきたいと思います。	女性	70～74 歳
高齢で身体が自由が乏しいので支援活動に参加できない旨の理解が欲しい。	女性	70～74 歳
若者が少ないので市に活気がなく魅力がない。	女性	70～74 歳
今まで地域づくりに参加してこなかった反省と余生を静かに送りたいという気持ちがあり微妙に揺れている。	男性	75～79 歳
コロナ関係で思うように活動が出来てないと思います。近所、校区内の方と出会いおしゃべりしたいと皆さん思ってるでしょう。	女性	75～79 歳
町内公民館のあり方を考える時期と思う。高齢者の一人暮らしが増えて、機能しない所もあると思う。	男性	75～79 歳
高齢者なので地域の集まりは参加できないけど、これからの若い世代のすみよい大牟田市、町づくり、地域づくりを考えてほしい。今まさに大牟田は淋しいと思います。	男性	80 歳以上
現在の公民館制度を廃止して市民全員参加型が望ましい。いろんな面でまとまりが無くて清掃活動、リサイクル等参加者が少ない横の繋がりが無く近所にどんな人が住んで居るのか判らない。高齢者が多いのでお互いの目くばり気くばりが必要。昨年、同じ校区で死後数ヵ月後に発見された人の話を聞いて不安が募ります。	女性	80 歳以上
お互い時間を作って交流の場をつくってほしい。	男性	80 歳以上

その他	性別	年代
生涯学習や地域づくりをする前にもっとすべき事があると思う。全体的な給料を上げたり、休みがもっと取得しやすい制度を作ったり…この将来が見えない給料や休みの取りづらさ・少なさで若者に心の余裕なんて生まれないし、こんな世の中では結婚も出産もできない。お年寄りにお金(税金)を使う事は悪いとは言わないが、もっと若者への支援を増やしてほしい。	女性	20～24 歳
大牟田市をもっと素敵な場所にしていくことが重要！！今福岡県内でも最低レベルなこと、しっかりと！！理解して頂けたらと思っています。	男性	45～49 歳
このアンケートがどのように活用されるのか興味があります。私の年齢になると、お金はありませんが時間はあります！！ただし…何をするにも行くにも敷居が高いです。	女性	60～64 歳

特にありません。このようなアンケートは、市民として必要な事だと思います。お疲れ様です。	女性	60～64 歳
このようなアンケートは無作為に選んだとのことですが、知的障害、認知症患者がいるだろう施設入居者に関してはアンケートに答えるのが難しいので、考えてほしいです。よろしくお願いいたします。	男性	65～69 歳
生涯学習、ボランティア活動。一度も出席した事ありません。意見にならずすみません。	女性	75～79 歳
今まで色々参加して来たが、今高齢なのでひかえている。	女性	80 歳以上
コロナで要介護度が 2～4 度までになった。(3 年間で)	女性	80 歳以上
60 才過ぎてから、化粧品販売をしている。ビジネスなので利害がからんでくるので??とはニュアンスがちがってくる。好みもあるので、おたずねの内容とはお答えしにくいところがあります。老化防止にはつながっている。5 月で 89 才になります。わずかですが小銭をかせいでいます。	女性	80 歳以上
高齢者は知らない人が多いと思う。PR 不足。	女性	80 歳以上
90 才で介護老人保健施設に入所中の母の代筆で記入しました。無作為とのことですが年齢的に 80 歳以上は除外して欲しいと思います。	女性	80 歳以上
①市県政だより、情報誌等の企画をもっと小さく、普通のチラシ大にせよ(大き過ぎてごみ、リサイクル等でたばねるとき、ハミ出して困る。②このような問合わせも項目を少なくして、ハガキ大にしてほしい。費用も少なくなると思う。上質紙を使わず普通の紙切れで良いと思う。	男性	80 歳以上

市民意識調査結果を受けての助言者からの提言

未来を拓く社会教育・生涯学習の発展に向けて

西九州大学 子ども学部長 上野景三

I はじめに

前回の 2018（平成 30）年の調査以降、日本の社会はこれまでに経験したことの無いコロナ禍にさらされ、全世界的規模でのパンデミックの渦に巻き込まれました。新型コロナウイルス感染症は、感染症の恐ろしさを教えてくれるとともに、リモート学習やリモートワークという新しい学習形態や働き方を生み出しました。またロシアによるウクライナの侵攻は、戦争の恐ろしさ認識させ、平和の大切さを教えてくれました。

これらの経験は、日本や世界のどこに居住していようともリモートによる仕事や学習活動の可能性を拓けるとともに、SDGs の「誰一人取り残さない」という基本理念の大切さを再認識させてくれました。

社会教育・生涯学習の世界では、これまでに経験したことのなかった事態によって、新しい局面に入ってきたように思います。ここでは、国の次期教育振興基本計画等の動向、及び 3 年間にわたる新型コロナの生活を経験した中で、市民の行動や意識の変容を調査したアンケート結果をふまえ、大牟田市における今後の諸施策へとつながる社会教育・生涯学習推進の課題についてコメントしておきます。

II アンケート調査結果から見えてきたもの

1. 次期教育振興基本計画（第 4 期）の動向をふまえて

2023（令和 5）年度は、国の第 4 期教育振興基本計画が策定される年です。その柱は、①グローバル化への対応、②誰一人取り残さない共生社会の実現、③地域コミュニティの基盤形成とされています。いずれの項目も、社会教育・生涯学習の推進と密接にかかわっていることがらです。その上で、教育デジタルトランスフォーメーション（DX）ⁱの推進が目指されています。

社会教育・生涯学習の基本施策の例としては、次のような項目が掲げられています。

「生涯学び、活躍できる環境整備」

○大学等と産業界の連携等によるリカレント教育ⁱⁱの充実 ○働きながら学べる環境整備 ○リカレント教育のための経済支援・情報提供 ○現代的・社会的課題に対応した学習 ○女性

活躍に向けたリカレント教育の推進 ○高齢者の生涯学習の推進 ○リカレント教育の成果の適切な評価・活用 ○生涯を通じた文化芸術活動の推進

「地域・学校・家庭の連携・協働の推進による地域の教育力の向上」

○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進 ○家庭教育支援の充実 ○部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境の一体的な整備

「地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進」

○社会教育施設の機能強化 ○社会教育人材の養成・活躍機会拡充 ○地域課題の解決に向けた関係施設・施策との連携

いずれも重要な施策です。大牟田市においてもこれまでにも取り組んできた施策もあれば、さらに充実していかなければならない項目もあります。また未着手の項目もあるように思われます。すべての施策を大牟田市でできるわけではありませんが、これからは日本社会全体の動向をふまえつつ、次期の大牟田市社会教育・生涯学習の充実・発展につなげていかなければなりません。

2. 学びの多様化に対応する生涯学習の手法を探る

今回のアンケート結果をみると、新型コロナウイルスの影響を見過ごすことはできないでしょう。わかりやすく言うと、通信環境の整備やリモートワークの普及に伴う生涯学習場面のオンライン環境の整備や情報提供のしかたの変化というものです。

これまでの社会教育・生涯学習は、対面での学習を基本としていました。ところがオンラインの発展によって、学びの局面が多様化し、生涯学習の推進にあたってオンラインを組み入れた生涯学習の手法を開発していかなければなりません。

生涯学習の手法を開発するにあたっては、次の視点を踏まえておく必要があると思います。

一つは、通信環境の整備による公共施設・公共空間の生涯学習空間化です。大牟田市においては、公共施設での Wi-Fi 環境の整備がこの間に積極的に進められてきました。そうするとリモート学習の場所は、何も社会教育・生涯学習施設だけに限らなくてもよくなります。どこでも生涯学習空間になります。学校教育も同様です。必ずしもどこの家庭にも Wi-Fi 環境があるとは限りません。そのような家庭では、公共施設の Wi-Fi 環境が頼みの綱になります。公共施設・公共空間が、つながることができる、印刷することができる、ちょっとした調べものができる、といった学びの場としての施設・設備や雰囲気を整えられる必要があるかと思います。リモートの使い方について、どこの公共施設でも市民の皆さんの質問や疑問に答えることができ、支援することができるといった環境です。

二つには、学習形態として、対面だけではなくオンライン講座の開設が待たれるということです。さらに対面とオンラインを兼ね備えたハイブリッド型の学習形態が求められるようになります。オンラインに特化した特色のある講座の開設も開発されていいのではないかと思います。とくに「生涯学習の時間がない」と回答した層への拡大にチャレンジしてみたらどうでしょうか。

三つには、オンライン講座やハイブリッド型の学習方法を開発することができるようにするためには、社会教育関係職員の研修の機会を進めていく必要があります。

3. 知の循環と地域づくり、つながりづくり

生涯学習の推進が叫ばれる理由の一つには、学んだことが地域社会に還元され、住民の皆さんにつながりが生まれ、地域が活性化していくことが期待されていることがあります。しかし、前回の調査でも地域活動に参加する人たちは減少し、地域活動に参加する時間もないと回答した割合が一定数ありました。今回のアンケート結果をみると、コロナ禍を経験したことによってさらに地域活動への関心が薄くなり、実際にボランティア活動へ参加しようという意欲が減少してきていると言わざるをえません。

この背景には、一人親家庭の増加といった家族形態の多様化、共働き家庭の増加、通勤時間の拡大、地域諸団体の活動の衰退といった様々な要因が潜んでいます。したがって、生涯学習の推進方策の改善をはかったからといって、社会的要因を除去することは難しいでしょう。

しかしだからといって、このままでいいというものでもありません。地域住民の皆さんが地域社会の諸活動に参加できるようにすることは、社会参加の窓口でもあり民主主義の基盤をなすものでもあります。地域社会におけるつながりの安定は、地域防災や地域福祉といった多くの領域にわたる住民生活の安全と安心の観点から最重要課題だといっていいかと思えます。

そういう観点から考えてみたときに、生涯学習の役割は、学んだ成果を地域に還元させるという循環だけではなく、地域住民が自らの地域生活に関心をもってもらい、実際にいろいろな活動に参加してもらうような取り組みを、どう構築することができるのか。それを生涯学習の推進という観点からだけではなく、地域生活に関わる行政内部の多機関・多職種連携の中でどのように連携をもっと取り組んでいくことができるのかという観点で発展させていかなければならないでしょう。

4. 次世代を担う子ども・若者たちへの社会教育・生涯学習の充実

コロナ禍を経験した社会は、緊急事態宣言下では子ども・若者たちは、学校へ通学しなくなることもあるということを受け止めざるをえませんでした。この期間に、子どもたちの生

活や学習環境は、とても厳しかったのではないかと想像されます。またこのことは、あらためて子ども・若者たちが学校へ通うことの意味と、学校の存在意義を問い直さざるをえなくなりました。

新型コロナウイルス感染症の拡大によって前倒し的に進められたGIGAスクール構想ⁱⁱⁱは、どの子どもたちも家庭でのリモート学習を可能にし、個別最適化学習の基盤を作りました。このような経験が続くと、そう遠くない時代に子ども・若者たちはなぜ学校に通わなければならないのかという点を疑問に思うかもしれません。逆に言えば、大人たちは、学校に行かないと得られない教育的価値とは何かを作り出す責任を負っているということでもあります。

このことは、社会教育・生涯学習の側についても同様の問題を指摘できるでしょう。社会教育・生涯学習施設は、GIGA スクール構想と同じように情報インフラは整備されているのでしょうか。学校に通学できない場合、地域社会の中で子ども・若者たちが安全・安心にすごすことのできる学びや遊び、スポーツの空間がどれだけ準備されているのでしょうか。地域社会の中で過ごすことによって、そこでしか学ぶことのできない価値をつくりだすことのできる地域の教育力はあるのでしょうか。学校教育を支える地域力は、残っているのでしょうか。

社会教育・生涯学習の推進の観点から、大牟田市の子ども・若者たちが、地域に対して関心をもち愛着心を育んでいくことができるような取り組みを引き続き行っていく必要があります。

5. 社会教育・生涯学習行政に係る既存事業の検証と施策・事業の再構築

大牟田市における社会教育・生涯学習行政に係る既存事業の検証と見直しは、いつの時代にも求められるところです。しかし今回はコロナ禍を経験したことから、ポストコロナからwith コロナの時代を見通した社会教育・生涯学習の体制と事業の再構築が求められています。

一つには、冒頭に述べたように、国が推進しようとしている「生涯学び、活躍できる環境整備」、「地域・学校・家庭の連携・協働の推進による地域の教育力の向上」、「地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進」の三点については、どこの自治体であっても同じような課題を抱えており、大牟田市としても未着手の領域があれば早急に取り組むことが求められます。

二つには、前回の調査時と今回とで大きく異なっているのは、繰り返しになりますが、コロナ禍の経験です。社会教育・生涯学習推進の体制が、ポストコロナ時代にあった環境になっているのでしょうか。リモートも含んだものとして事業展開されているのでしょうか。そのような観点から検証さなければならず、立ち遅れている部分があるとしたら、自治体DX・教育DX化の推進とともに早急に改善をはかっていく必要があるでしょう。

三つには、近年、地域福祉の立場から地域共生社会の構築が提起されていますが、社会教

育・生涯学習行政の立場からどのような連携をはかっていくことができるのか。多機関・多職種が叫ばれる中で、地域社会をコアとした社会教育・生涯学習も含めた連携のネットワーク構築が求められていると思います。

四つには、社会教育・生涯学習の推進は、やはり対人支援が中心となって進められていきます。AI（人工知能）ではできない仕事の領域です。そうであれば、社会教育・生涯学習人材の育成は不可欠です。社会教育・生涯学習関係の職員が、ポストコロナの時代にみあったスキルアップをはかることができるような体系的かつ継続的な研修機会の拡充が求められます。

ⁱ DX: (デジタルトランスフォーメーション)・・・データとデジタル技術を活用して、ビジネス環境の変化に対応し、顧客や社会のニーズに応える製品やサービス、ビジネスモデルの変革と、業務や組織、プロセス、企業文化・風土の変革を行い、競争力を高めることである（経済産業省 HP より）。

ⁱⁱ リカレント教育・・・就職してからも、生涯にわたって教育と他の諸活動（労働,余暇など）を交互に行なうといった概念である。1970 年に経済協力開発機構（OECD）が公式に採用し、1973 年に「リカレント教育－生涯学習のための戦略－」報告書が公表されたことで国際的に広く認知された（総務省 HP より）。

ⁱⁱⁱ GIGA スクール・・・1 人 1 台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 環境を実現する（文部科学省 HP より）。

若者意識調査

調査の概要

(1) 調査の目的

本市における社会教育・生涯学習を今後一層推進するために、平成 30 年度調査時と現在のウイズコロナにおける若者の学習活動に対する意欲、学習ニーズ、ライフスタイルの変化を調査することを目的にアンケート調査を実施する。

(2) 調査の対象

令和 5 年 5 月 1 日を基準日とし、おもに市内在住の 16 歳～34 歳の人

(3) 調査方法

大牟田市市民活動等多目的交流施設「えるる」個人学習室利用受付時に調査票を配布してのアンケート調査。インターネットでの回答と紙で回収箱に投函の 2 種類の回答方法。

(4) 調査期間

令和 5 年 5 月 17 日～5 月 31 日（土・日曜及び祝日を含む）

(5) 回収状況

有効回収数 83 件(回収箱への投函:75件、インターネットでの回答:8件)

(6) 調査結果利用上の留意事項

- ・ 文章や表、グラフ中の回答割合(相対度数)は百分比のポイント以下 2 位を四捨五入しているの
で、合計は必ずしも 100%にならないことがある。
- ・ 2 つ以上の回答を求めた(複数回答)質問の場合、その回答割合の合計は原則として 100%を
超える。
- ・ 数表等に記載された「n」は、回答割合算出上の基数(回答数)を示している。
- ・ 前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問の回答割合は、層化さ
れた回答者を基数として算出している。
- ・ 文中では選択肢(変数)を「 」で示している。選択肢の文章が長い場合は、一部省略したところ
がある。また、2 つ以上の選択肢を合計して表す場合には『 』で示している。
- ・ 性別を「その他」と回答した人は皆無であったことから分析対象から除いている。

＜ 調 査 項 目 ＞

◇回答者属性（性別、年齢、居住地、職業等）……………4 問

（１）生涯学習について……………9 問

- 生涯学習のイメージ
- 生涯学習の必要性、生涯学習が必要と思う理由
- 生涯学習の情報源
- 生涯学習の実施状況・学習ニーズ
- 生涯学習の場所・形態
- 生涯学習を行う曜日・時間帯
- 生涯学習をしない理由（できない理由）
- 行政に対する要望

（２）ボランティア活動・地域活動について……………3 問

- ボランティア活動について（参加状況・今後行いたいと思う活動）
- 地域活動について（認知・参加状況）
- ボランティア活動・地域活動への関心度

（３）自由記述（生涯学習やボランティア・地域活動に関する意見）…1 問

（計 17 問）

社会教育・生涯学習について【アンケート】 若者意識調査用

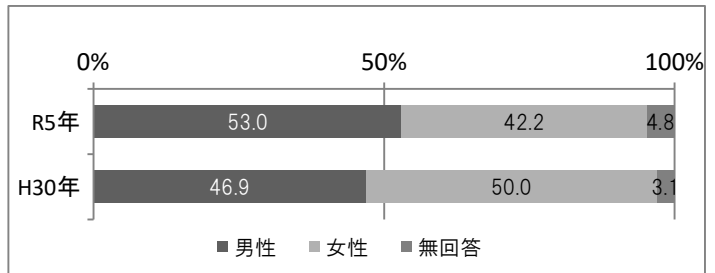
2. 調査結果

回答者属性

◆性別

F1 あなたの性別について、あてはまる番号をご記入ください。

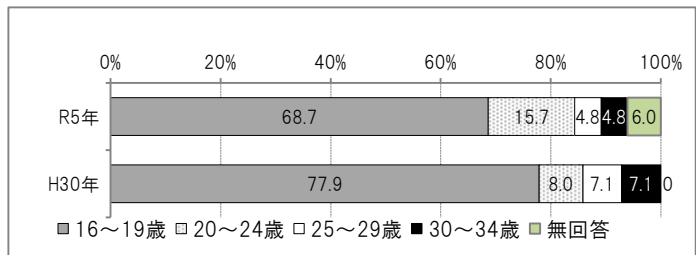
		R5年		H30年	
1	男 性	44	53.0%	46	46.9%
2	女 性	35	42.2%	49	50.0%
3	その他	4	4.8%	3	3.1%
	合 計	83	100.0%	98	100.0%



◆年齢

F2 あなたの年齢(令和5年5月1日現在)について、あてはまる番号をご記入ください。

		R5年		H30年	
1	16歳～19歳	57	68.7%	88	77.9%
2	20歳～24歳	13	15.7%	9	8.0%
3	25歳～29歳	4	4.8%	8	7.1%
4	30歳～34歳	4	4.8%	8	7.1%
	無回答	5	6.0%	0	0.0%
	合 計	83	100.0%	113	100.0%



社会教育・生涯学習について【アンケート】 若者意識調査用

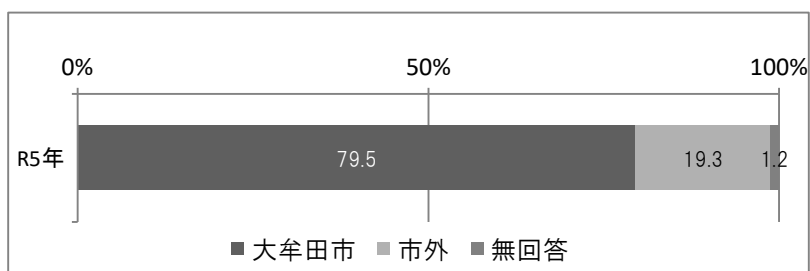
2. 調査結果

回答者属性

◆居住地

F3 あなたはどこに住んでいますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

	R5年	
1 大牟田市	66	79.5%
2 市外	16	19.3%
3 無回答	1	1.2%
合計	83	100.0%

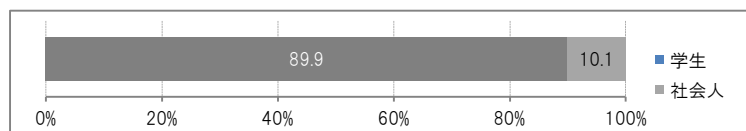
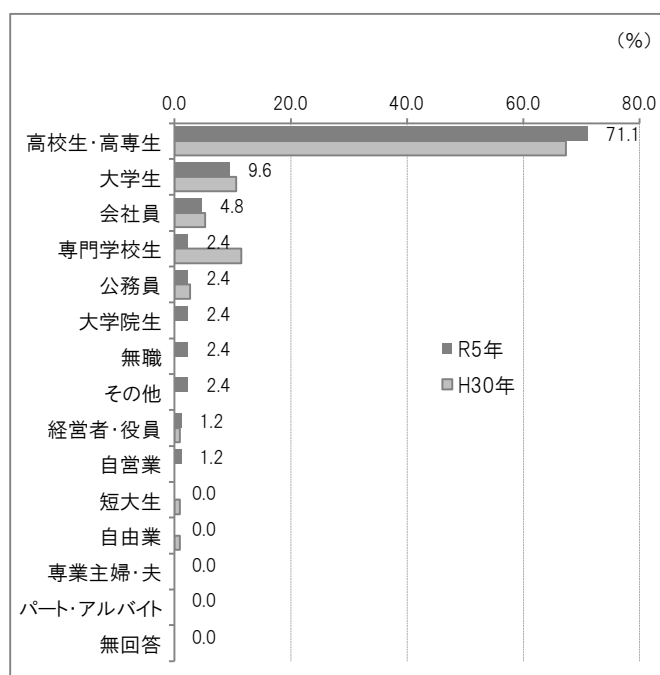


◆年齢

◆職業等

F4 あなたの職業等について、あてはまる番号に○印をつけてください。

		R5年		H30年	
1	高校生・高専生	59	71.1	76	67.3
2	短大生	0	0.0	1	0.9
3	大学生	8	9.6	12	10.6
4	専門学校生	2	2.4	13	11.5
5	大学院生	2	2.4	0	0.0
6	公務員	2	2.4	3	2.7
7	経営者・役員	1	1.2	1	0.9
8	会社員	4	4.8	6	5.3
9	自営業	1	1.2	0	0.0
10	自由業	0	0.0	1	0.9
11	専業主婦(夫)	0	0.0	0	0.0
12	パート・アルバイト	0	0.0	0	0.0
13	無職	2	2.4	0	0.0
14	その他	2	2.4	0	0.0
	無回答	0	0.0	0	0.0
	合計	83	100.0	113	100.0



(1)生涯学習について

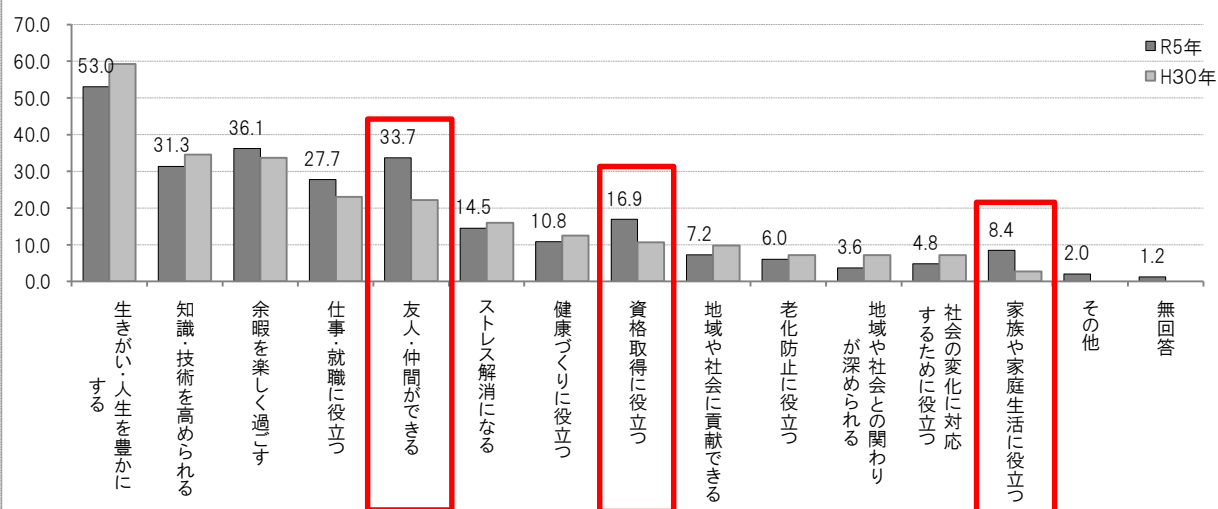
◆生涯学習のイメージ

問5 あなたは、「生涯学習」について、どのような考えやイメージをお持ちですか。あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

生涯学習に関する考え・イメージは、「生きがい・人生を豊かにする」(53%)が最も高く、次いで、「余暇を楽しく過ごす」(36.1%)、「友人・仲間ができる」(33.7%)、「知識・技術が高められる」(31.3%)、「仕事・就職に役立つ」(27.7%)となっています。「友人・仲間ができる」が(H30年22.1%→R5年33.7%)、「資格取得に役立つ」が(H30年11.1%→R5年16.9%)、「家族や家庭生活に役立つ」が(H30年2.7%→R5年8.4%)と増えています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	そ の 他	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	無 回 答
サ ン プ ル 数	83人	44人	35人	4人	57人	13人	4人	4人	5人
1 余暇を楽しく過ごす	36.1	35.6	35.3	50.0	31.6	38.5	50.0	50.0	60.0
2 生きがい・人生を豊かにする	53.0	57.8	50.0	25.0	49.1	76.9	25.0	100.0	20.0
3 ストレス解消になる	14.5	11.1	20.6	0.0	12.3	30.8	0.0	0.0	20.0
4 友人・仲間ができる	33.7	35.6	29.4	50.0	33.3	30.8	25.0	75.0	20.0
5 健康づくりに役立つ	10.8	8.9	14.7	0.0	8.8	15.4	0.0	0.0	40.0
6 老化防止に役立つ	6.0	4.4	8.8	0.0	7.0	7.7	0.0	0.0	0.0
7 家族や家庭生活に役立つ	8.4	11.1	5.9	0.0	10.5	0.0	0.0	0.0	20.0
8 知識・技術が高められる	31.3	22.2	44.1	25.0	35.1	15.4	50.0	25.0	20.0
9 資格取得に役立つ	16.9	11.1	23.5	25.0	15.8	30.8	0.0	0.0	20.0
10 仕事・就職に役立つ	27.7	31.1	23.5	25.0	28.1	30.8	50.0	0.0	20.0
11 地域や社会との関わりが深められる	3.6	6.7	0.0	0.0	1.8	7.7	0.0	25.0	0.0
12 地域や社会に貢献できる	7.2	4.4	11.8	0.0	8.8	0.0	0.0	25.0	0.0
13 社会の変化に対応するために役立つ	4.8	6.7	2.9	0.0	3.5	7.7	25.0	0.0	0.0
14 その他	2.0	2.2	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	1.2	2.2	2.9	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0



R5とH30

BEST5

令和5年 ①生きがい・人生を豊にする(53%)、②余暇を楽しく過ごす(36.1%)、③友人・仲間ができる(33.7%)、④知識・技術が高められる(31.3%)、⑤仕事・就職に役立つ(27.7%)

平成30年 ①生きがい・人生を豊にする(59.3%)、②知識・技術が高められる(34.5%)、③余暇を楽しく過ごす(33.6%)、④仕事・就職に役立つ(23%)、⑤友人・仲間ができる(22.1%)

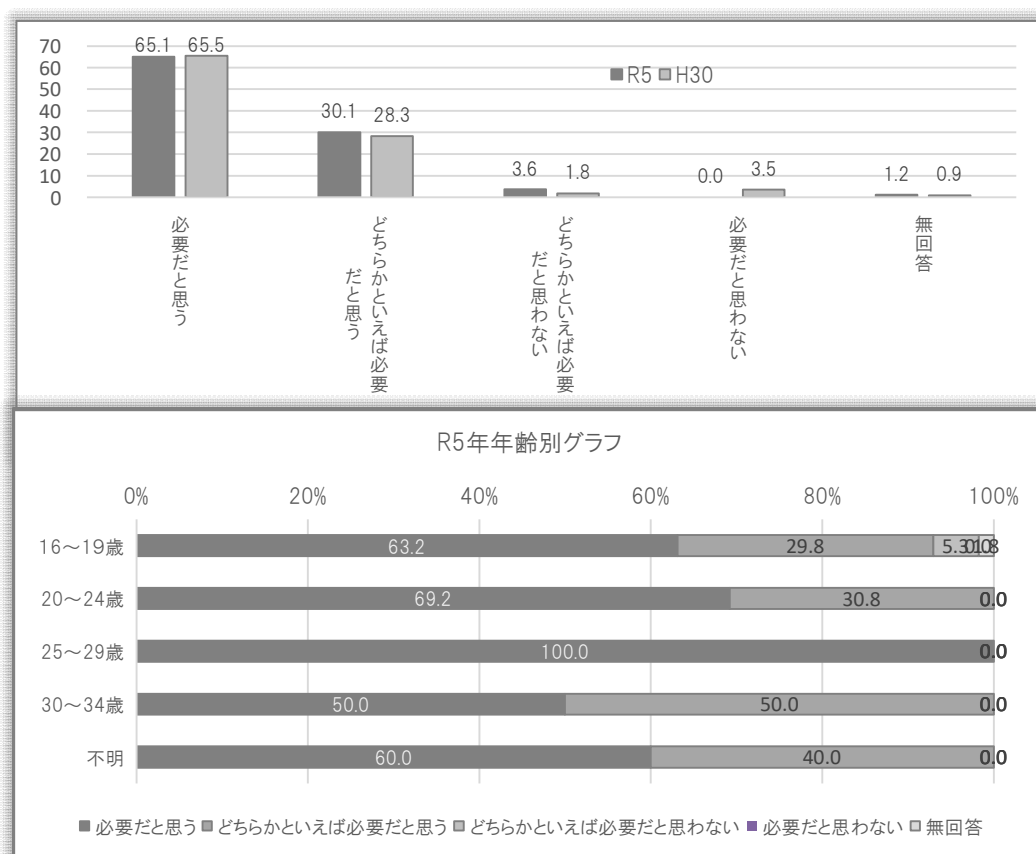
◆生涯学習の必要性

問6 あなたは、生涯学習は必要だと思いますか。

生涯学習は、「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」と合わせて95.2%が必要だと感じています。「必要だと思わない」「どちらかといえば必要だと思わない」と回答した人の割合は3.6%と低くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	そ 他	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	無 回 答
サ ン プ ル 数	83人	44人	35人	4人	57人	13人	4人	4人	5人
1 必要だと思う	65.1	59.1	68.6	100.0	63.2	69.2	100.0	50.0	60.0
2 どちらかといえば必要だと思う	30.1	31.8	31.4	0.0	29.8	30.8	0.0	50.0	40.0
3 どちらかといえば必要だと思わない	3.6	6.8	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0
4 必要だと思わない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	1.2	2.3	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0



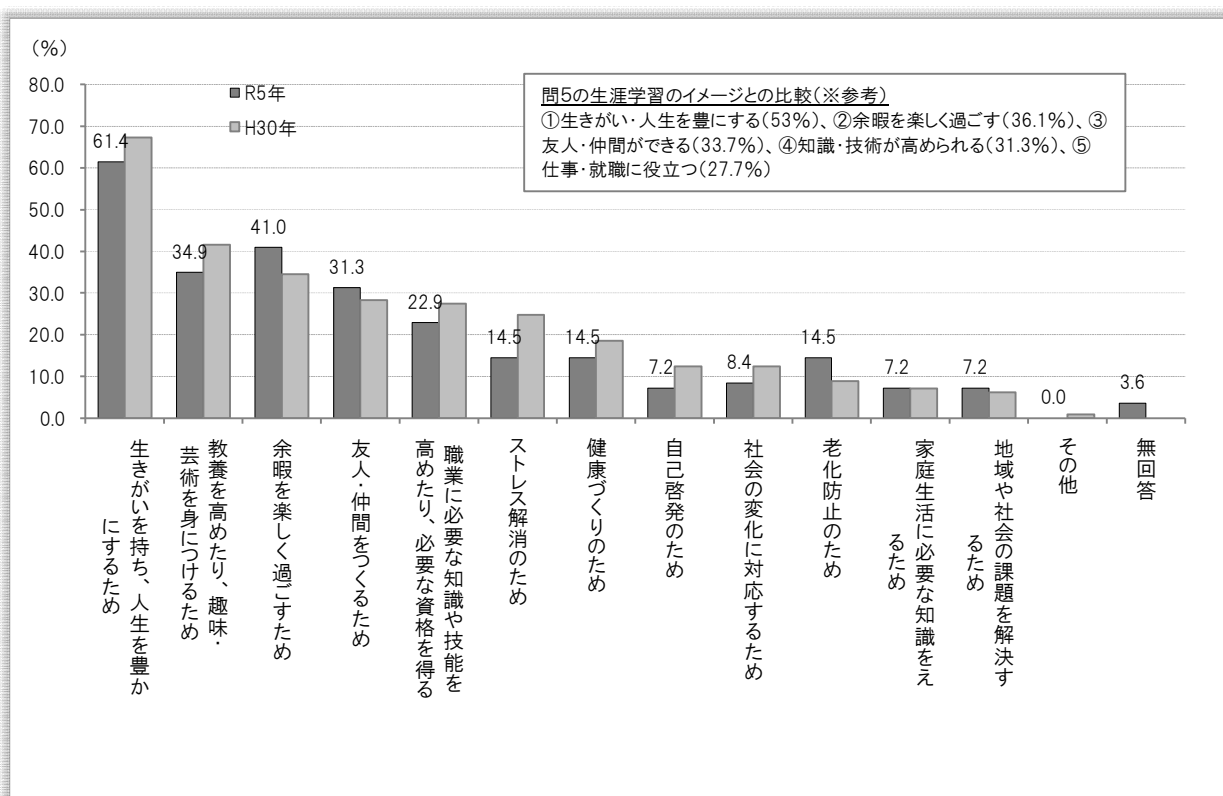
◆生涯学習が必要と思う理由

問7 なぜあなたは、生涯学習が必要だと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

生涯学習が必要な理由は、「生きがいをもち、人生を豊かにするため」(61.4%)が最も高く、次いで、「余暇を楽しく過ごすため」(41%)、「教養を高めたり、趣味・芸術を身につけるため」(34.9%)、「友人・仲間をつくるため」(31.3%)、「職業に必要な知識や技能を高めたり、必要な資格を得るため」(22.9%)となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	そ 他	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	無 回 答
サ ン プ ル 数	83人	44人	35人	4人	57人	13人	4人	4人	5人
1 余暇を楽しく過ごすため	41.0	43.2	34.3	75.0	40.4	23.1	75.0	75.0	50.0
2 生きがいをもち、人生を豊かにするため	61.4	61.4	68.6	0.0	54.4	76.9	50.0	50.0	100.0
3 ストレス解消のため	14.5	13.6	17.1	0.0	10.5	38.5	0.0	0.0	25.0
4 友人・仲間をつくるため	31.3	31.8	34.3	0.0	26.3	38.5	25.0	25.0	100.0
5 健康づくりのため	14.5	9.1	22.9	0.0	8.8	30.8	0.0	0.0	25.0
6 老化防止のため	14.5	9.1	22.9	0.0	19.3	0.0	0.0	0.0	25.0
7 教養を高めたり、趣味・芸術を身につけるため	34.9	27.3	45.7	25.0	36.8	38.5	50.0	50.0	0.0
8 自己啓発のため	7.2	9.1	5.7	0.0	5.3	7.7	50.0	50.0	0.0
9 家庭生活に必要な知識をえるため	7.2	6.8	5.7	25.0	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0
10 職業に必要な知識や技能を高めたり、必要な資格を得るため	22.9	18.2	28.6	25.0	24.6	38.5	0.0	0.0	0.0
11 地域や社会の課題を解決するため	7.2	6.8	8.6	0.0	7.0	0.0	0.0	0.0	50.0
12 社会の変化に対応するため	8.4	9.1	5.7	25.0	8.8	15.4	0.0	0.0	0.0
13 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	3.6	6.8	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0



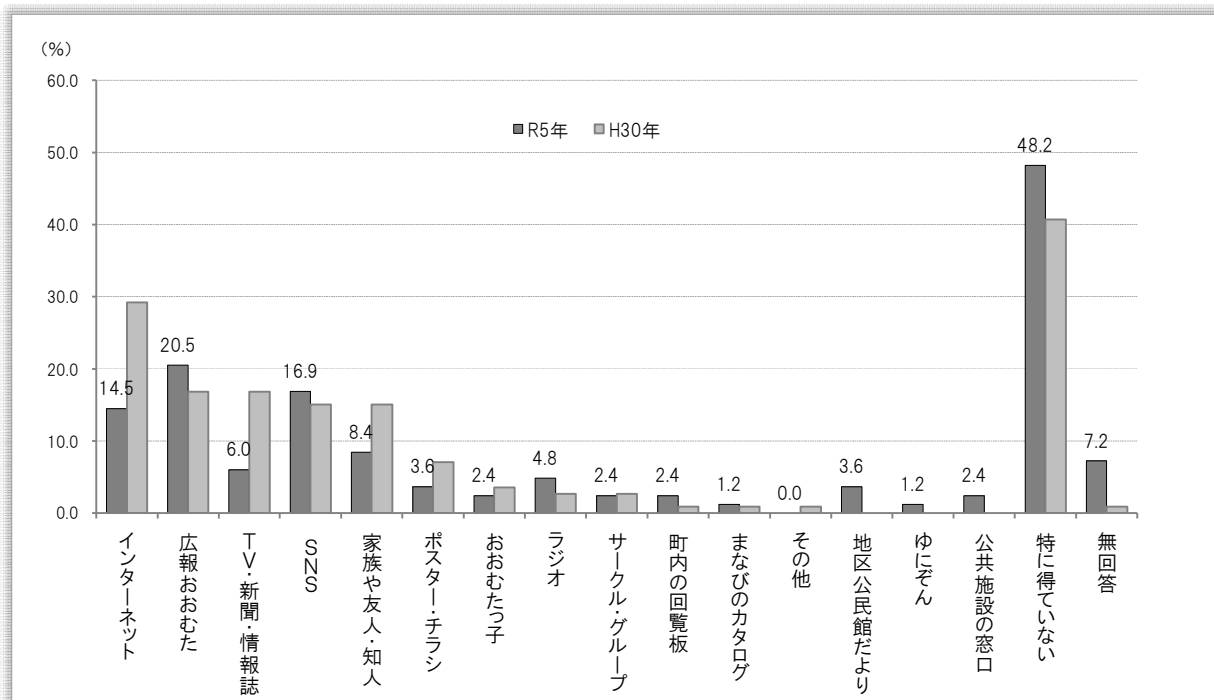
◆生涯学習の情報源

問8 あなたは、生涯学習に関する情報を何から得ていますか。あてはまる番号にいくつでも〇印をつけてください。

生涯学習に関する情報は「特に得ていない」(48.2%)と回答した割合が最も高くなっています。情報を取得している人では、「広報おおむた」(20.5%)が最も高く、次いで、「SNS」(16.9%)、「インターネット」(14.5%)となっています。前回調査と比較すると、「インターネット」(H30年29.2%→R5年14.5%)、「TV・新聞・情報誌」(H30年16.8%→R5年6%)、「家族や友人・知人」(H30年15%→R5年8.4%)が大きく減少しています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	そ 他	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	無 回 答
サ ン プ ル 数	83人	44人	35人	4人	57人	13人	4人	4人	5人
1 市の広報紙「広報おおむた」	20.5	13.6	31.4	0.0	15.8	15.4	50.0	75.0	20.0
2 インターネット(市ホームページ等)	14.5	18.2	8.6	25.0	10.5	30.8	0.0	50.0	50.0
3 SNS(愛情ねっと等)	16.9	15.9	14.3	50.0	15.8	23.1	25.0	25.0	25.0
4 ラジオ(FMたんとう等)	4.8	2.3	5.7	25.0	5.3	7.7	0.0	0.0	0.0
5 TV・新聞・情報誌	6.0	2.3	8.6	25.0	8.8	0.0	0.0	0.0	0.0
6 家族や友人・知人	8.4	11.4	5.7	0.0	5.3	7.7	25.0	25.0	25.0
7 町内の回覧板	2.4	2.3	2.9	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0
8 地区公民館だより	3.6	2.3	5.7	0.0	1.8	7.7	0.0	25.0	25.0
9 学習情報誌「まなびのカタログ」	1.2	2.3	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0
10 文化会館情報誌「ゆにぞん」	1.2	2.3	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0
11 子育て情報誌「おおむたっ子」	2.4	2.3	2.9	0.0	1.8	7.7	0.0	0.0	0.0
12 公共施設の窓口	2.4	4.5	0.0	0.0	1.8	7.7	0.0	0.0	0.0
13 ポスター・チラシ	3.6	2.3	5.7	0.0	3.5	0.0	0.0	25.0	25.0
14 サークル・グループ	2.4	2.3	0.0	25.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0
15 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
16 特に得ていない	48.2	50.0	51.4	0.0	54.4	38.5	25.0	0.0	0.0
無回答	7.2	13.6	0.0	0.0	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0



◆生涯学習の実施状況・学習ニーズ

問9 あなたは、この1年くらいの間に、生涯学習をしたことがありますか。また、今後、どのようなことを学んでみたいと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

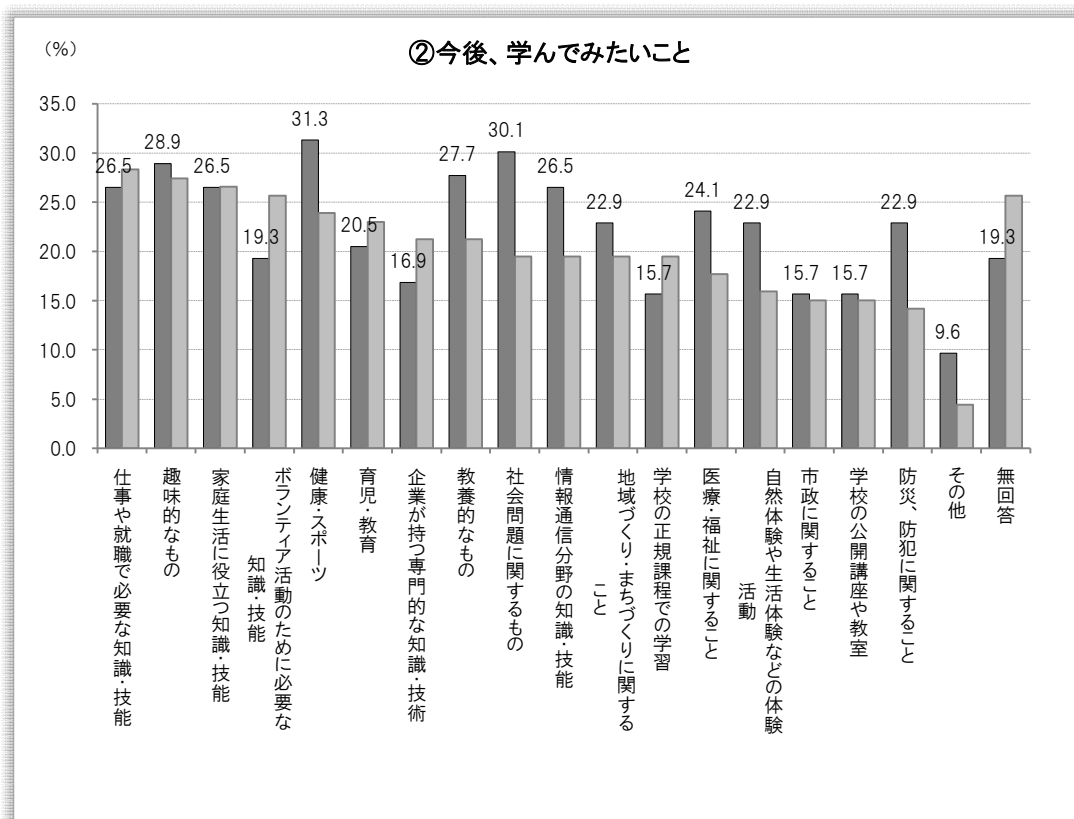
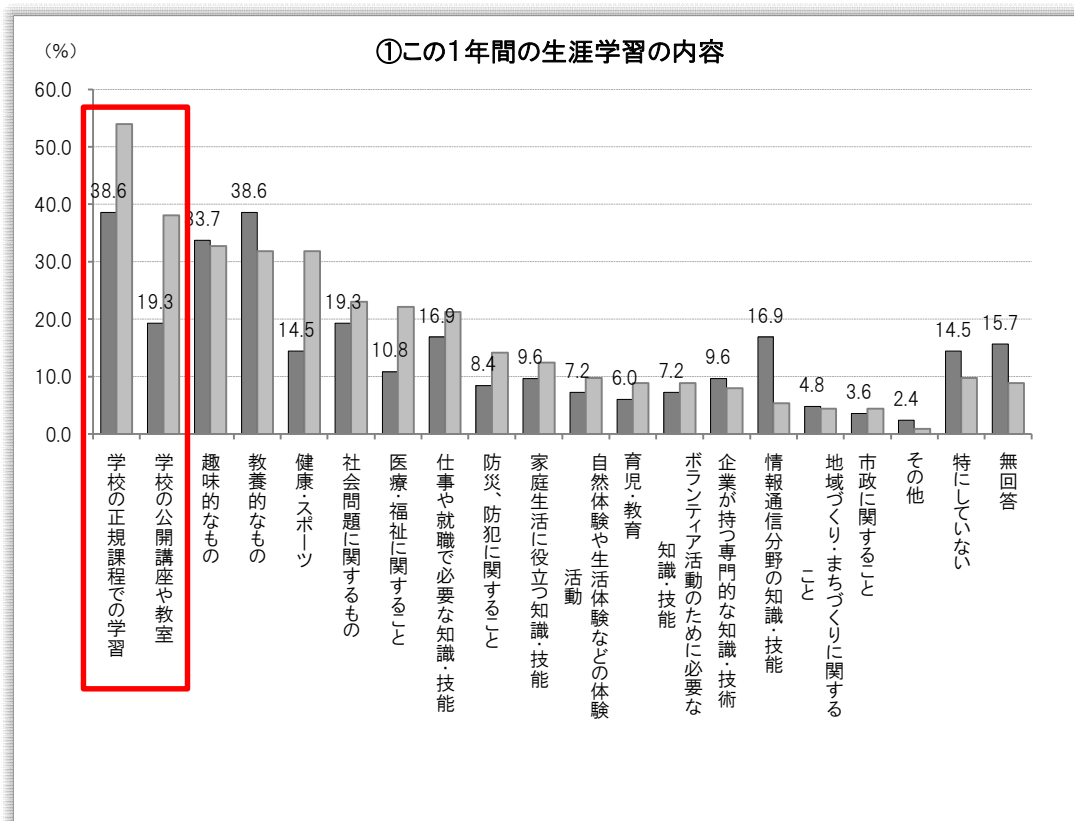
この1年間に行った生涯学習は、「教養的なもの」及び「学校の正規課程での学習」(38.6%)で最も高く、次いで、「趣味的なもの」(33.7%)、「社会問題に関するもの」及び「学校の公開講座や教室」(19.3%)となっています。
また、今後学んでみたいことは、「健康・スポーツ」(31.3%)で最も高く、次いで、「社会問題に関するもの」(30.1%)、「趣味的なもの」(28.9%)、「教養的なもの」(27.7%)、「仕事や就職に必要な知識・技能」「情報通信分野の知識・技能」「家庭生活に役立つ知識・技能」(26.5%)となっています。

(単位:%)

①この1年間の生涯学習の内容	全 体	男 性	女 性	そ の 他	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	無 回 答
サ ン プ ル 数	83人	44人	35人	4人	57人	13人	4人	4人	5人
1 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)	33.7	22.7	45.7	50.0	33.3	46.2	0.0	25.0	40.0
2 教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)	38.6	38.6	40.0	25.0	45.6	30.8	25.0	25.0	0.0
3 社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境など)	19.3	20.5	14.3	50.0	24.6	15.4	0.0	0.0	0.0
4 健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)	14.5	18.2	5.7	50.0	15.8	23.1	0.0	0.0	0.0
5 家庭生活に役立つ知識・技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)	9.6	11.4	5.7	25.0	10.5	15.4	0.0	0.0	0.0
6 育児・教育(家庭教育、幼児教育、教育問題など)	6.0	6.8	2.9	25.0	5.3	15.4	0.0	0.0	0.0
7 仕事や就職に必要な知識・技能(知識の習得や資格の取得など)	16.9	22.7	11.4	0.0	12.3	38.5	50.0	0.0	0.0
8 情報通信分野の知識・技能(プログラムの使い方、ホームページの作り方など)	16.9	11.4	22.9	25.0	14.0	46.2	0.0	0.0	0.0
9 ボランティア活動のために必要な知識・技能	7.2	4.5	11.4	0.0	7.0	15.4	0.0	0.0	0.0
10 自然体験や生活体験などの体験活動	7.2	4.5	8.6	25.0	7.0	15.4	0.0	0.0	0.0
11 防災、防犯に関すること	8.4	4.5	11.4	25.0	8.8	15.4	0.0	0.0	0.0
12 医療・福祉に関すること	10.8	6.8	11.4	50.0	8.8	30.8	0.0	0.0	0.0
13 地域づくり・まちづくりに関すること	4.8	4.5	5.7	0.0	5.3	7.7	0.0	0.0	0.0
14 市政に関すること	3.6	6.8	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0
15 企業を持つ専門的な知識・技術	9.6	9.1	5.7	50.0	8.8	23.1	0.0	0.0	0.0
16 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程での学習	38.6	29.5	51.4	25.0	42.1	38.5	25.0	25.0	20.0
17 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室	19.3	18.2	17.1	50.0	19.3	38.5	0.0	0.0	0.0
18 その他	2.4	4.5	0.0	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0
19 特にしていない	14.5	15.9	14.3	0.0	15.8	0.0	0.0	25.0	40.0
無回答	15.7	22.7	5.7	25.0	14.0	15.4	50.0	50.0	25.0

(単位:%)

②今後、学んでみたいこと	全 体	男 性	女 性	そ の 他	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	無 回 答
サ ン プ ル 数	83人	44人	44人	35人	57人	13人	4人	4人	5人
1 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)	28.9	31.8	22.9	50.0	26.3	23.1	25.0	25.0	80.0
2 教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)	27.7	27.3	25.7	50.0	26.3	30.8	0.0	50.0	40.0
3 社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境など)	30.1	27.3	31.4	50.0	28.1	30.8	50.0	25.0	40.0
4 健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)	31.3	29.5	34.3	25.0	31.6	38.5	50.0	0.0	20.0
5 家庭生活に役立つ知識・技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)	26.5	18.2	31.4	75.0	24.6	23.1	50.0	0.0	60.0
6 育児・教育(家庭教育、幼児教育、教育問題など)	20.5	25.0	14.3	25.0	14.0	30.8	75.0	25.0	20.0
7 仕事や就職に必要な知識・技能(知識の習得や資格の取得など)	26.5	25.0	22.9	75.0	29.8	30.8	25.0	0.0	0.0
8 情報通信分野の知識・技能(プログラムの使い方、ホームページの作り方など)	26.5	22.7	28.6	50.0	26.3	15.4	50.0	75.0	0.0
9 ボランティア活動のために必要な知識・技能	19.3	22.7	11.4	50.0	15.8	38.5	25.0	0.0	20.0
10 自然体験や生活体験などの体験活動	22.9	27.3	17.1	25.0	19.3	38.5	25.0	0.0	40.0
11 防災、防犯に関すること	22.9	29.5	14.3	25.0	22.8	30.8	50.0	0.0	0.0
12 医療・福祉に関すること	24.1	22.7	25.7	25.0	26.3	23.1	25.0	25.0	0.0
13 地域づくり・まちづくりに関すること	22.9	29.5	11.4	50.0	17.5	53.8	25.0	25.0	0.0
14 市政に関すること	15.7	15.9	11.4	50.0	12.3	38.5	25.0	0.0	0.0
15 企業を持つ専門的な知識・技術	16.9	18.2	11.4	50.0	17.5	15.4	25.0	0.0	0.0
16 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程での学習	15.7	20.5	8.6	25.0	17.5	15.4	0.0	0.0	40.0
17 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室	15.7	18.2	11.4	25.0	17.5	15.4	25.0	0.0	0.0
18 その他	9.6	9.1	5.7	50.0	10.5	15.4	0.0	0.0	0.0
無回答	19.3	27.3	8.6	25.0	24.6	7.7	25.0	0.0	0.0



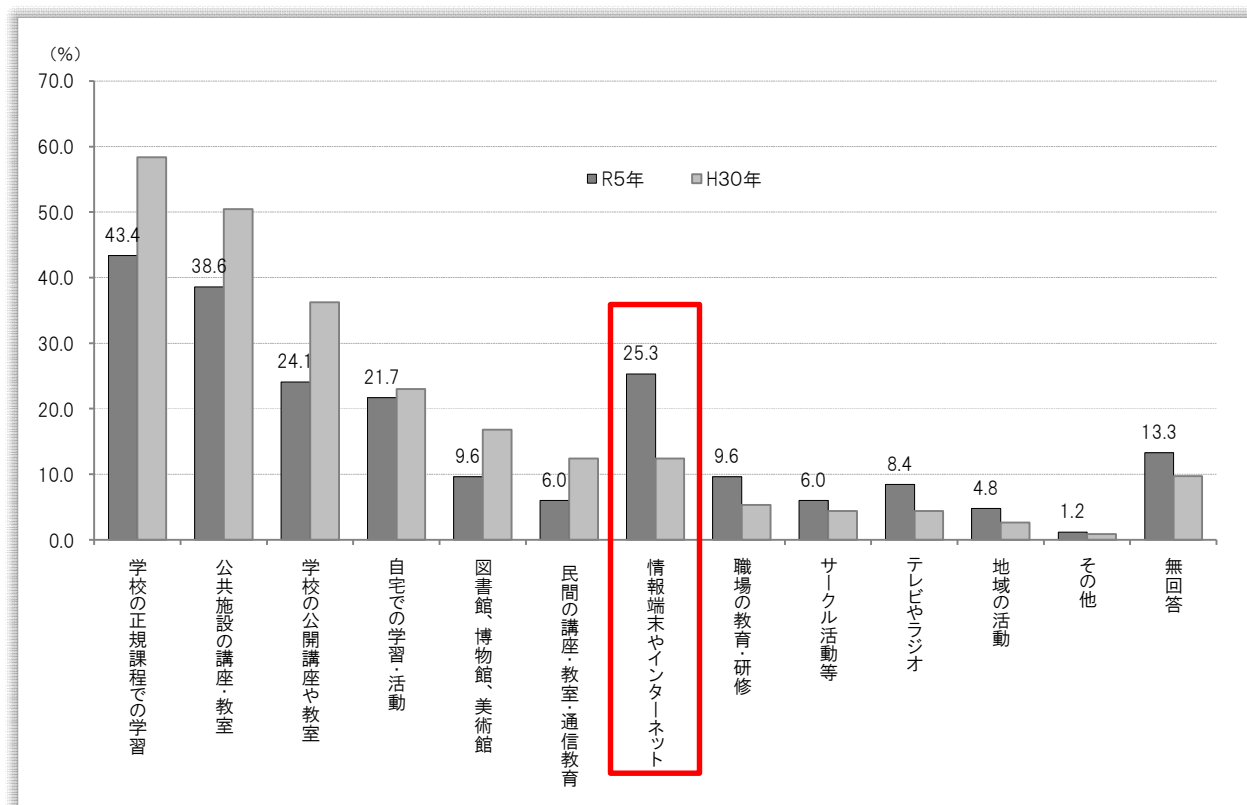
◆生涯学習の場所・形態

問10 あなたは、どのような場所や形態で生涯学習を行いましたか。また、今後行いたいと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

生涯学習の場所や形態は、「学校の正規課程での学習」(43.4%)で最も高く、次いで「公共施設などの講座・教室」(38.6%)、「情報端末やインターネット」(25.3%)、「学校の公開講座や教室」(24.1%)、「自宅での学習・活動」(21.7%)となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	そ 他	16 歳 以下	20 歳 以上 24 歳 未満	25 歳 以上 29 歳 未満	30 歳 以上 34 歳 未満	無 回 答
サ ン プ ル 数	83人	44人	35人	4人	57人	13人	4人	4人	5人
1 地区公民館、えるる、市立図書館、市民体育館、文化会館などの講座・教室	38.6	43.2	37.1	0.0	31.6	38.5	75.0	75.0	75.0
2 カルチャーセンターやスポーツクラブなどの民間の講座・教室・通信教育	6.0	6.8	5.7	0.0	5.3	7.7	25.0	25.0	0.0
3 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程での学習	43.4	36.4	51.4	50.0	50.9	38.5	25.0	25.0	25.0
4 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室	24.1	22.7	25.7	25.0	21.1	46.2	0.0	0.0	25.0
5 職場の教育・研修	9.6	9.1	8.6	25.0	7.0	7.7	50.0	50.0	0.0
6 町内公民館、PTA、子ども会などの地域の活動	4.8	4.5	5.7	0.0	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7 同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	6.0	6.8	5.7	0.0	7.0	0.0	0.0	0.0	25.0
8 図書館、博物館、美術館	9.6	9.1	11.4	0.0	12.3	7.7	0.0	0.0	0.0
9 テレビやラジオ	8.4	6.8	11.4	0.0	10.5	7.7	0.0	0.0	0.0
10 情報端末やインターネット(eラーニング含む)	25.3	25.0	28.6	0.0	26.3	38.5	0.0	0.0	0.0
11 自宅での学習・活動(書籍など)	21.7	18.2	28.6	0.0	17.5	53.8	0.0	0.0	0.0
12 その他	1.2	0.0	2.9	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0
無回答	13.3	18.2	8.6	0.0	17.5	7.7	0.0	0.0	0.0



◆生涯学習を行う曜日・時間帯

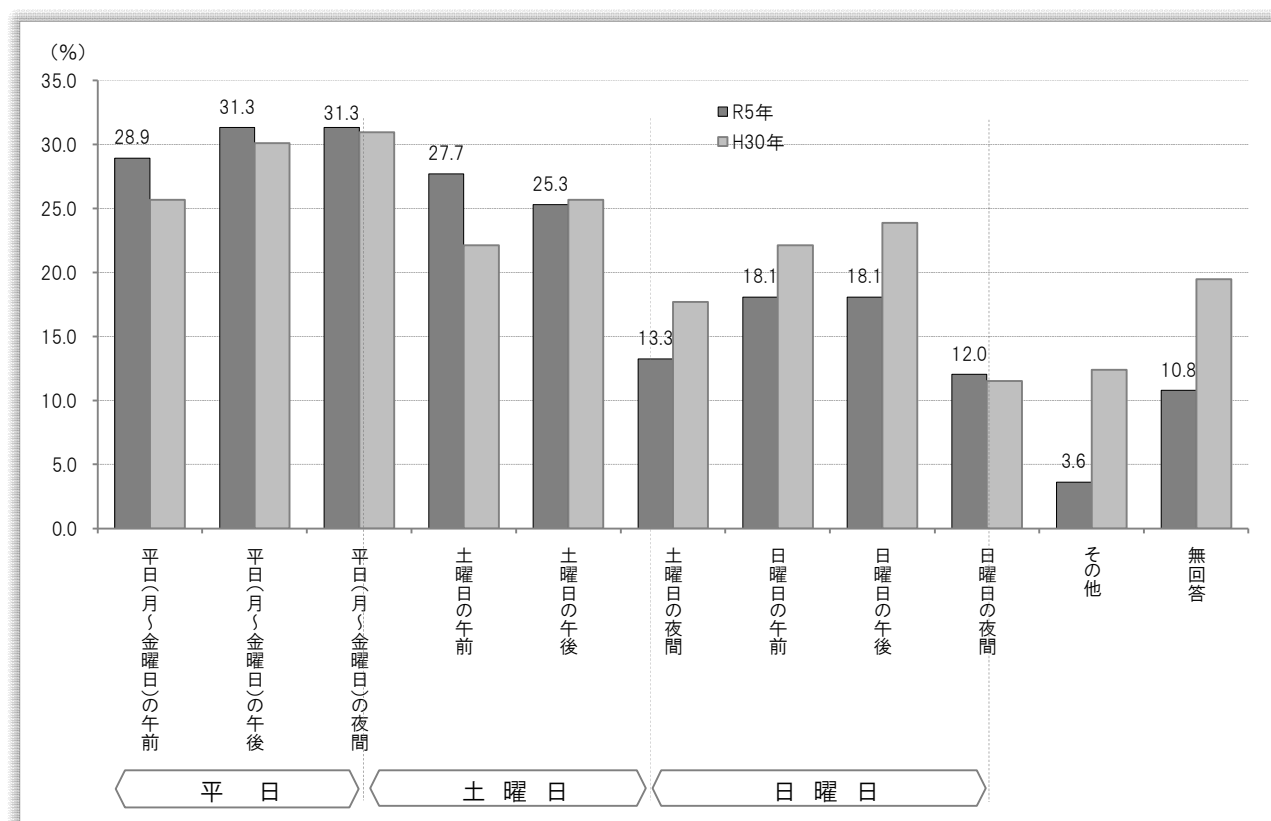
問11 あなたが生涯学習を行うのは何曜日の何時頃ですか。また、今後行う場合は、何曜日の何時頃行いたいと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。（※夜間とは、午後5時以降をいいます）

生涯学習を行う時間帯は、「平日の午後」及び「平日の夜間」（31.3％）が最も高く、次いで「平日の午前」（28.9％）、「土曜日の午前」（27.7％）、「土曜日の午後」（25.3％）となっています。

（単位：％）

	全 体	男 性	女 性	そ 他	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	無 回 答
サ ン プ ル 数	83人	44人	35人	4人	57人	13人	4人	4人	5人
1 平日（月～金曜日）の午前	28.9	22.7	34.3	50.0	35.1	30.8	0.0	0.0	0.0
2 平日（月～金曜日）の午後	31.3	27.3	34.3	50.0	35.1	38.5	0.0	0.0	25.0
3 平日（月～金曜日）の夜間	31.3	31.8	28.6	50.0	24.6	53.8	25.0	25.0	75.0
4 土曜日の午前	27.7	29.5	28.6	0.0	24.6	38.5	25.0	25.0	50.0
5 土曜日の午後	25.3	22.7	31.4	0.0	22.8	30.8	50.0	50.0	0.0
6 土曜日の夜間	13.3	15.9	11.4	0.0	10.5	23.1	25.0	25.0	0.0
7 日曜日の午前	18.1	20.5	17.1	0.0	14.0	23.1	75.0	75.0	0.0
8 日曜日の午後	18.1	20.5	17.1	0.0	17.5	23.1	50.0	50.0	0.0
9 日曜日の夜間	12.0	15.9	8.6	0.0	8.8	30.8	25.0	25.0	0.0
10 その他	3.6	2.3	5.7	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	25.0
無回答	10.8	18.2	2.9	0.0	14.0	7.7	0.0	0.0	0.0

※夜間は午後5時以降



◆生涯学習をしない理由(できない理由)

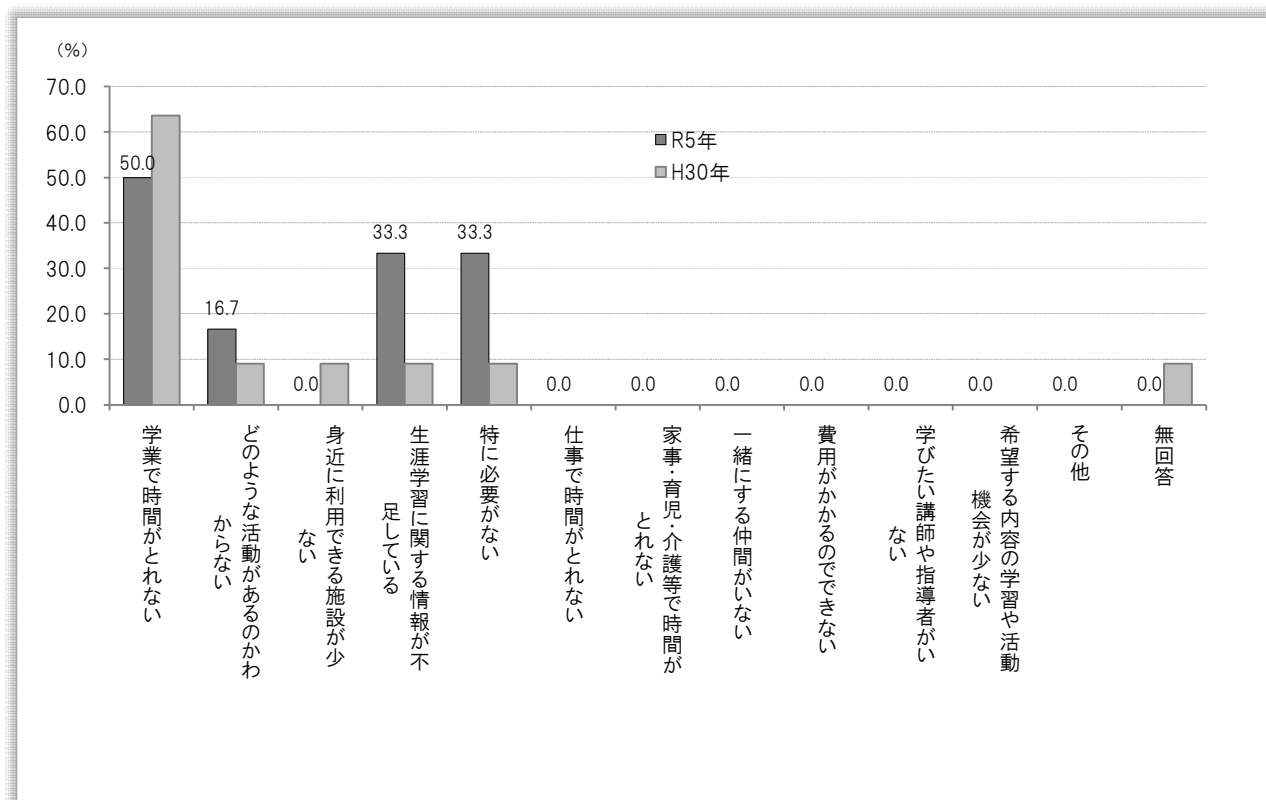
《問9で19「(生涯学習を)特にしていない」とお答えの人におたずねします》

問12 あなたが生涯学習をしない理由(できない理由)は何ですか。あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

生涯学習をしない理由(できない理由)は、「学業で時間がとれない」(50%)が最も多く、それ以外は、「生涯学習に関する情報が不足している」及び「特に必要がない」(33.3%)となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	そ の 他	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	無 回 答
サ ン プ ル 数	12人	7人	5人	0人	9人	0人	0人	1人	2人
1 学業で時間がとれない	50.0	28.6	28.6	80.0	55.6	0.0	0.0	0.0	0.0
2 仕事で時間がとれない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3 家事・育児・介護等で時間がとれない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4 一緒にする仲間がいない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5 費用がかかるのでできない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6 どのような活動があるのかわからない	16.7	14.3	14.3	20.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
7 学びたい講師や指導者がいない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8 身近に利用できる施設が少ない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
9 希望する内容の学習や活動機会が少ない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10 生涯学習に関する情報が不足している	33.3	14.3	14.3	60.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
11 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12 特に必要がない	33.3	57.1	57.1	0.0	33.3	0.0	0.0	100.0	100.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



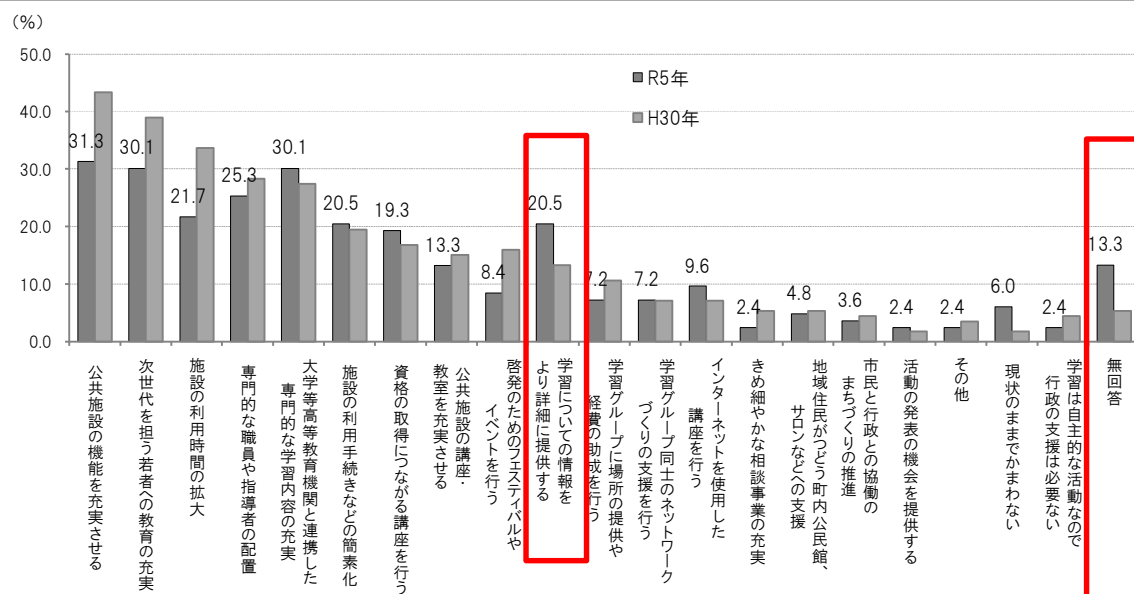
◆行政が力を入れるべきこと

問13 生涯学習が盛んなまちにするために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。あてはまる番号に5つまで○印をつけてください。

生涯学習が盛んなまちにするために、行政が力を入れるべきことは、「公共施設の機能を充実させる」(31.3%)が最も高く、次いで「大学等高等教育機関と連携した専門的な学習内容の充実」及び「次世代を担う若者への教育の充実」(30.1%)、「専門的な職員や指導者の配置」(25.3%)、「施設の利用時間の拡大」(21.7%)となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	そ 他	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	無 回 答
サ ン プ ル 数	83人	44人	35人	4人	57人	13人	4人	4人	4人
1 専門的な職員や指導者の配置	25.3	25.0	22.9	50.0	29.8	15.4	0.0	0.0	50.0
2 大学等高等教育機関と連携した専門的な学習内容の充実	30.1	25.0	34.3	50.0	35.1	15.4	25.0	50.0	0.0
3 次世代を担う若者への教育の充実	30.1	31.8	25.7	50.0	35.1	15.4	50.0	25.0	0.0
4 施設の利用手続きなどの簡素化	20.5	15.9	28.6	0.0	15.8	23.1	50.0	25.0	50.0
5 施設の利用時間の拡大(早朝、夜間など)	21.7	11.4	31.4	50.0	22.8	23.1	25.0	0.0	25.0
6 きめ細やかな相談事業の充実	2.4	2.3	2.9	0.0	1.8	7.7	0.0	0.0	0.0
7 地域住民がつどう町内公民館、サロンなどへの支援	4.8	9.1	0.0	0.0	5.3	7.7	0.0	0.0	0.0
8 学習についての情報(講師・内容・時間・場所・費用)をより詳細に提供する	20.5	22.7	17.1	25.0	19.3	15.4	25.0	25.0	50.0
9 地区公民館、えるる、市立図書館、市民体育館、文化会館などの施設の機能を充実させる	31.3	22.7	42.9	25.0	29.8	38.5	25.0	0.0	75.0
10 地区公民館、えるる、市立図書館、市民体育館、文化会館などの講座・教室を充実させる	13.3	15.9	11.4	0.0	14.0	23.1	0.0	0.0	0.0
11 啓発のためのフェスティバルやイベントを行う	8.4	9.1	8.6	0.0	7.0	23.1	0.0	0.0	0.0
12 学習グループに、場所の提供や経費の助成を行う	7.2	6.8	8.6	0.0	5.3	7.7	25.0	25.0	0.0
13 学習グループ同士のネットワークづくりの支援を行う	7.2	13.6	0.0	0.0	5.3	15.4	0.0	25.0	0.0
14 資格の取得につながる講座を行う	19.3	11.4	31.4	0.0	19.3	23.1	25.0	0.0	25.0
15 インターネットを使用した講座を行う	9.6	13.6	2.9	25.0	7.0	15.4	25.0	25.0	0.0
16 活動の発表の機会を提供する	2.4	2.3	0.0	25.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0
17 市民と行政との協働のまちづくりの推進	3.6	4.5	2.9	0.0	3.5	7.7	0.0	0.0	0.0
18 その他	2.4	0.0	5.7	0.0	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0
19 現状のままでかまわない	6.0	4.5	8.6	0.0	5.3	7.7	0.0	25.0	0.0
20 学習は自主的な活動なので行政の支援は必要ない	2.4	2.3	2.9	0.0	1.8	7.7	0.0	0.0	0.0
無回答	13.3	20.5	5.7	0.0	14.0	15.4	0.0	0.0	25.0



(2) ボランティア活動・地域活動について

◆ボランティア活動について

問14 あなたは、この1年くらいの間に、どのようなボランティア活動を行いましたか。また、今後行いたいと思う活動はありますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

この1年間に行ったボランティア活動の内容は、「環境美化、リサイクル活動」(18.1%)が最も高く、次いで「募金活動や災害援助活動」(12.0%)「福祉施設等での活動」(10.8%)、「高齢者、障害児・者等への支援」及び「子どもの見守り、あいさつ活動」(9.6%)となっています。

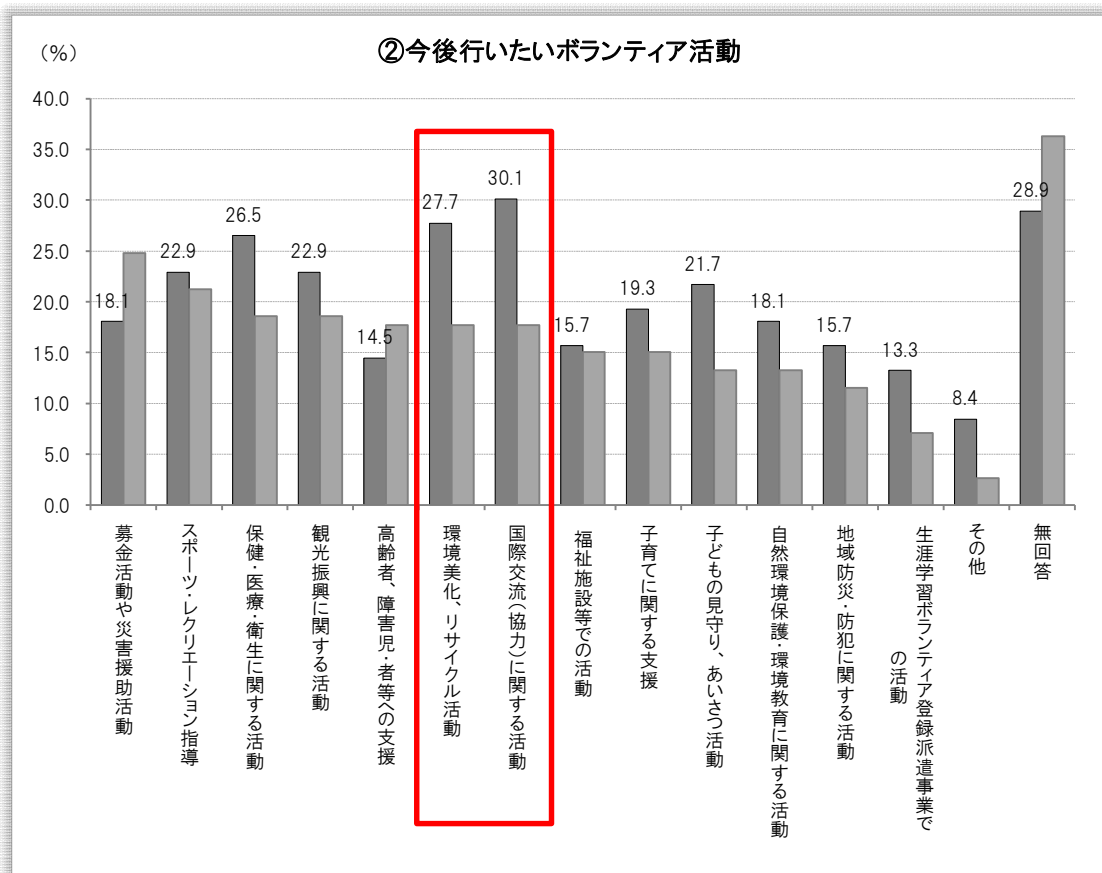
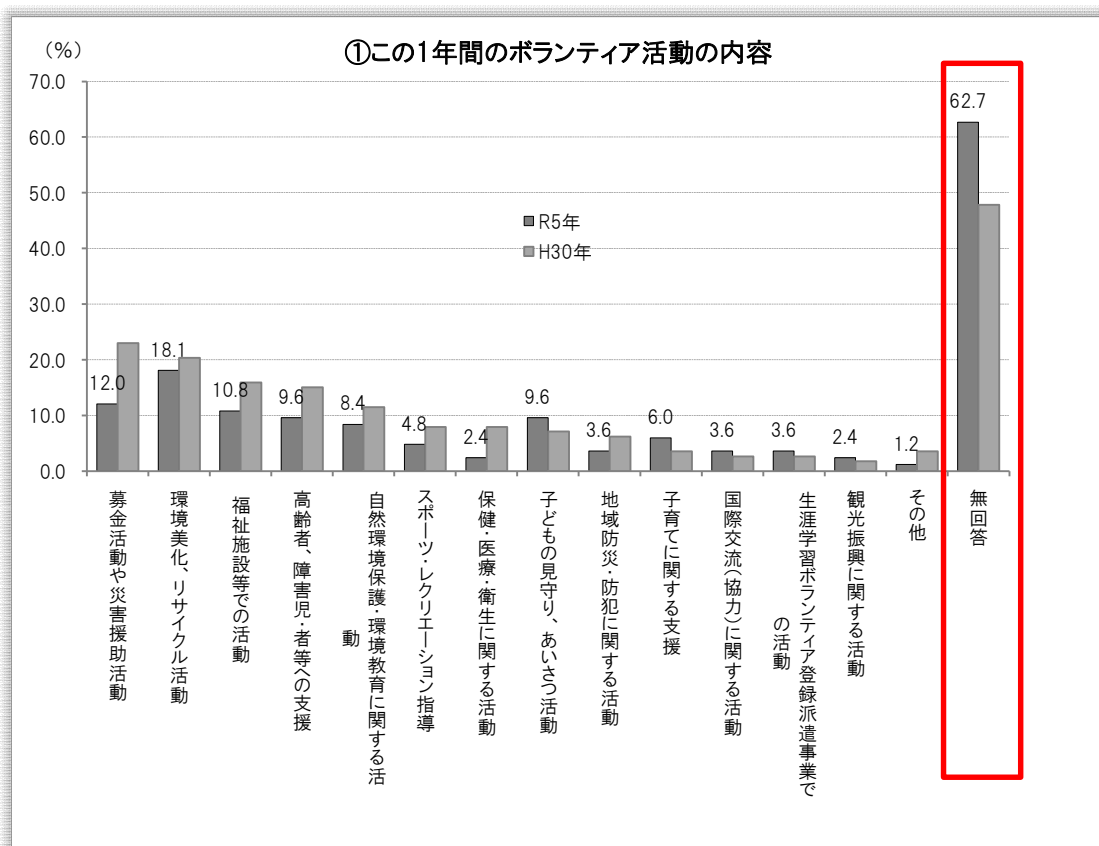
また、今後行いたいと思うボランティア活動の内容は、「国際交流(協力)に関する活動」(30.1%)が最も高く、次いで「環境美化、リサイクル活動」(27.7%)、「保健・医療・衛生に関する活動」(26.5%)となっています。

(単位:%)

①この1年間のボランティア活動の内容	全 体	男 性	女 性	そ 他	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	無 回 答
サ ン プ ル 数	83人	44人	35人	4人	57人	13人	4人	4人	4人
1 福祉施設等での活動	10.8	11.4	5.7	50.0	10.5	15.4	25.0	25.0	0.0
2 高齢者、障害児・者等への支援	9.6	9.1	8.6	25.0	8.8	15.4	25.0	25.0	0.0
3 子どもの見守り、あいさつ活動	9.6	9.1	5.7	50.0	12.3	0.0	25.0	25.0	0.0
4 子育てに関する支援	6.0	9.1	2.9	0.0	5.3	7.7	25.0	25.0	0.0
5 スポーツ・レクリエーション指導	4.8	4.5	2.9	25.0	5.3	7.7	0.0	0.0	0.0
6 自然環境保護・環境教育に関する活動	8.4	11.4	5.7	0.0	8.8	7.7	0.0	0.0	25.0
7 環境美化(公園・道路のゴミ拾いなど)、リサイクル活動	18.1	11.4	28.6	0.0	17.5	15.4	0.0	0.0	25.0
8 募金活動や災害援助活動	12.0	6.8	14.3	50.0	12.3	23.1	0.0	0.0	0.0
9 国際交流(協力)に関する活動(通訳、難民援助、留学生援助など)	3.6	2.3	2.9	25.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0
10 保健・医療・衛生に関する活動(食育、病院ボランティアなど)	2.4	2.3	2.9	0.0	1.8	0.0	25.0	25.0	0.0
11 地域防災・防犯に関する活動	3.6	2.3	2.9	25.0	3.5	7.7	0.0	0.0	0.0
12 観光振興に関する活動(観光ボランティアなど)	2.4	2.3	2.9	0.0	1.8	7.7	0.0	0.0	0.0
13 生涯学習ボランティア登録派遣事業(まなばんかん)での活動	3.6	4.5	2.9	0.0	3.5	7.7	0.0	0.0	0.0
14 その他	1.2	0.0	0.0	25.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	62.7	68.2	57.1	50.0	61.4	61.5	75.0	75.0	60.0

(単位:%)

②今後行いたいボランティア活動	全 体	男 性	女 性	そ 他	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	無 回 答
サ ン プ ル 数	83人	44人	35人	4人	57人	13人	4人	4人	5人
1 福祉施設等での活動	15.7	18.2	11.4	25.0	17.5	15.4	25.0	0.0	0.0
2 高齢者、障害児・者等への支援	14.5	15.9	11.4	25.0	15.8	15.4	25.0	0.0	0.0
3 子どもの見守り、あいさつ活動	21.7	22.7	20.0	25.0	19.3	30.8	25.0	0.0	40.0
4 子育てに関する支援	19.3	15.9	20.0	50.0	21.1	23.1	25.0	0.0	0.0
5 スポーツ・レクリエーション指導	22.9	29.5	14.3	25.0	21.1	30.8	25.0	25.0	20.0
6 自然環境保護・環境教育に関する活動	18.1	20.5	11.4	50.0	15.8	30.8	25.0	25.0	0.0
7 環境美化(公園・道路のゴミ拾いなど)、リサイクル活動	27.7	25.0	28.6	50.0	26.3	23.1	50.0	25.0	40.0
8 募金活動や災害援助活動	18.1	15.9	20.0	25.0	22.8	7.7	25.0	0.0	0.0
9 国際交流(協力)に関する活動(通訳、難民援助、留学生援助など)	30.1	20.5	42.9	25.0	35.1	23.1	25.0	25.0	0.0
10 保健・医療・衛生に関する活動(食育、病院ボランティアなど)	26.5	20.5	31.4	50.0	29.8	23.1	25.0	25.0	0.0
11 地域防災・防犯に関する活動	15.7	18.2	11.4	25.0	17.5	15.4	25.0	0.0	0.0
12 観光振興に関する活動(観光ボランティアなど)	22.9	22.7	20.0	50.0	22.8	30.8	25.0	25.0	0.0
13 生涯学習ボランティア登録派遣事業(まなばんかん)での活動	13.3	11.4	11.4	50.0	15.8	7.7	25.0	0.0	0.0
14 その他	8.4	6.8	5.7	50.0	7.0	7.7	25.0	25.0	0.0
無回答	28.9	36.4	17.1	50.0	33.3	23.1	50.0	0.0	0.0



◆地域活動について

問15 地域(住んでいる小学校区)で『地域活動』があつていることを知っていますか。また、参加した地域活動はありますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

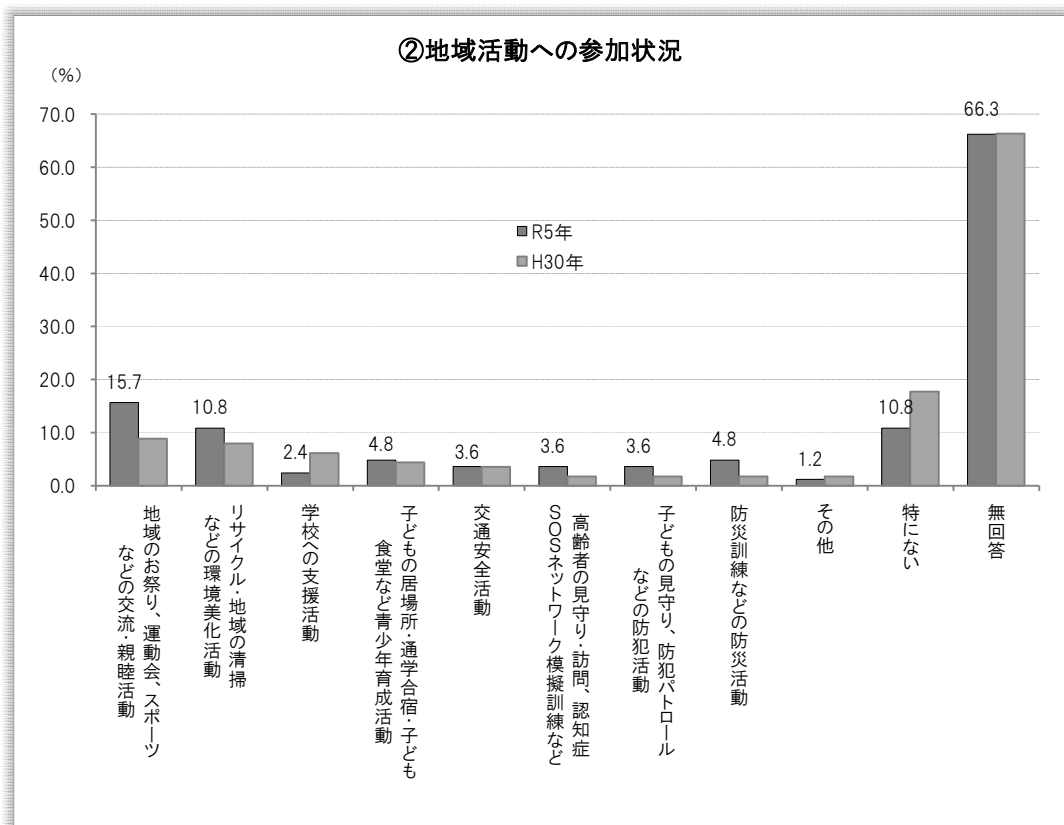
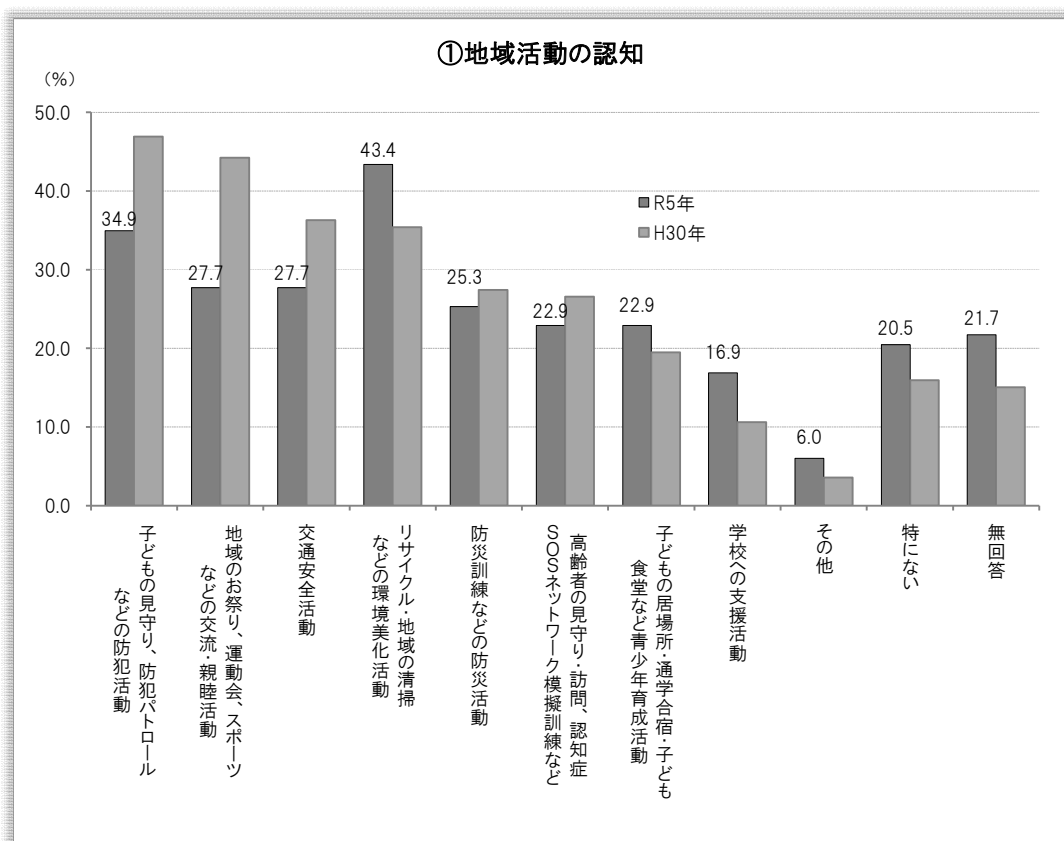
住んでいる小学校区であつていることを知っている地域活動の内容は、「リサイクル・地域の清掃などの環境美化活動」(43.4%)が最も高く、「子どもの見守り、防犯パトロールなどの防犯活動」(34.9%)、次いで「地域のお祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動」及び「交通安全活動」(27.7%)「防災訓練などの防災活動」(25.3%)となっています。参加したことのある地域活動については、「地域のお祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動」(15.7%)が最も高くなっています。次いで、「リサイクル・地域の清掃などの環境美化活動」及び「特にない」(10.8%)、「防災訓練などの防災活動」及び「子どもの居場所・通学合宿・子ども食堂など青少年育成活動」(4.8%)となっています。

(単位:%)

①地域活動の認知	全 体	男 性	女 性	そ 他	16 歳 ～ 19 歳	20 歳 ～ 24 歳	25 歳 ～ 29 歳	30 歳 ～ 34 歳	無 回 答
サ ン プ ル 数	83人	44人	35人	4人	57人	13人	4人	4人	5人
1 リサイクル・地域の清掃などの環境美化活動	43.4	40.9	48.6	25.0	36.8	61.5	50.0	75.0	50.0
2 高齢者の見守り・訪問、認知症SOSネットワーク模擬訓練など	22.9	25.0	20.0	25.0	15.8	46.2	25.0	25.0	50.0
3 子どもの見守り、防犯パトロールなどの防犯活動	34.9	36.4	34.3	25.0	36.8	46.2	25.0	25.0	0.0
4 防災訓練などの防災活動	25.3	20.5	34.3	0.0	22.8	30.8	25.0	25.0	50.0
5 交通安全活動	27.7	25.0	31.4	25.0	28.1	30.8	25.0	25.0	25.0
6 子どもの居場所・通学合宿・子ども食堂など青少年育成活動	22.9	20.5	28.6	0.0	24.6	30.8	25.0	0.0	0.0
7 学校への支援活動	16.9	18.2	8.6	75.0	19.3	7.7	50.0	0.0	0.0
8 地域のお祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動	27.7	22.7	37.1	0.0	21.1	46.2	50.0	25.0	50.0
9 その他	6.0	11.4	0.0	0.0	8.8	0.0	0.0	0.0	0.0
10 特にない	20.5	18.2	25.7	0.0	21.1	7.7	0.0	25.0	75.0
無回答	21.7	29.5	29.5	11.4	26.3	15.4	25.0	25.0	0.0

(単位:%)

②地域活動への参加状況	全 体	男 性	女 性	女 性	16 歳 ～ 19 歳	20 歳 ～ 24 歳	25 歳 ～ 29 歳	30 歳 ～ 34 歳	無 回 答
サ ン プ ル 数	83人	44人	35人	4人	57人	13人	4人	4人	5人
1 リサイクル・地域の清掃などの環境美化活動	10.8	13.6	8.6	0.0	7.0	15.4	0.0	25.0	40.0
2 高齢者の見守り・訪問、認知症SOSネットワーク模擬訓練など	3.6	4.5	2.9	0.0	3.5	7.7	0.0	0.0	0.0
3 子どもの見守り、防犯パトロールなどの防犯活動	3.6	4.5	0.0	25.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0
4 防災訓練などの防災活動	4.8	6.8	0.0	25.0	5.3	0.0	25.0	0.0	0.0
5 交通安全活動	3.6	2.3	2.9	25.0	3.5	7.7	0.0	0.0	0.0
6 子どもの居場所・通学合宿・子ども食堂など青少年育成活動	4.8	6.8	0.0	25.0	5.3	7.7	0.0	0.0	0.0
7 学校への支援活動	2.4	2.3	2.9	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0
8 地域のお祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動	15.7	18.2	8.6	50.0	15.8	15.4	0.0	0.0	40.0
9 その他	1.2	0.0	0.0	25.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0
10 特にない	10.8	4.5	20.0	0.0	10.5	0.0	0.0	25.0	40.0
無回答	66.3	65.9	68.6	50.0	70.2	69.2	75.0	75.0	50.0



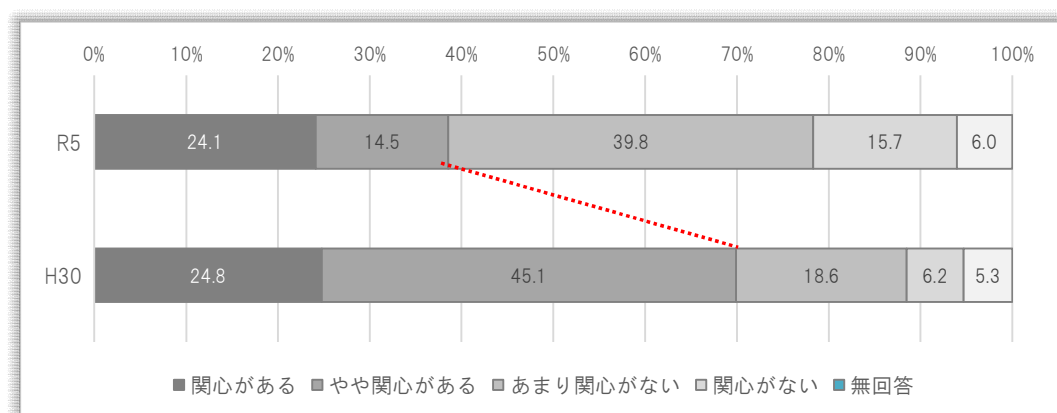
◆ボランティア・地域活動への関心度

問16 あなたは、若者自身が企画し、実施するボランティア活動や地域活動に関心がありますか。あてはまる 番号に○印をつけてください。

若者自身が企画し、実施するボランティア活動や地域活動への関心は、「関心がある」「やや関心がある」と回答した割合が38.6%であり、H30年調査時(69.9%)と比べると、31.3%減少しています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	そ 他	16 歳 ～ 19 歳	20 歳 ～ 24 歳	25 歳 ～ 29 歳	30 歳 ～ 34 歳	無 回 答
サ ン プ ル 数	83人	44人	35人	4人	57人	13人	4人	4人	5人
1 関心がある	24.1	34.1	5.7	75.0	28.1	23.1	0.0	0.0	0.0
2 やや関心がある	14.5	11.4	20.0	0.0	17.5	15.4	0.0	0.0	0.0
3 あまり関心がない	39.8	31.8	54.3	0.0	31.6	46.2	75.0	75.0	80.0
4 関心がない	15.7	13.6	17.1	25.0	15.8	7.7	25.0	25.0	20.0
無回答	6.0	9.1	2.9	0.0	7.0	7.7	0.0	0.0	0.0



※参考

男性・・・「関心がある」 H30年(23.9%)→R5年(34.1%) 「やや関心がある」 H30年(45.1%)→R5年(11.4%)

女性・・・「関心がある」 H30年(26.1%)→R5年(5.7%) 「やや関心がある」 H30年(45.7%)→R5年(20%)

16歳～19歳・・・「関心がある」 H30年(27.3%)→R5年(28.1%) 「やや関心がある」 H30年(46.6%)→R5年(17.5%) 「あまり関心がない」 H30年(15.9%)→R5年(31.6%) 「関心がない」 H30年(3.4%)→R5年(15.8%)

◆各質問における「その他」の具体的内容

設問	記 述 内 容	件数
問10	専門的に子どもの行動心理学を学びたい	1
問11	休日	1
	興味のある分野に関するオンライン講義などがあれば参加するという形なので、特に時間帯は決まっていない。	1
問13	うつ病だけでなく他の病気を抱えている方がなかにいるので、専門的な先生を都会から田舎に異動した方がいいと思います。 理由は遠くて都会の病院には行けないから、システムを向上してほしいです。	1
	カフェの併設	1
問14	動物保護、動物福祉など	1

問17 自由意見

回答者NO	内 容
66	今の時代はジェンダーレスです。だから、男性も女性も平等に接することができる環境づくりをしてほしいです。 キャッシュレス決済は便利だけど不便なところもあるので、誰でも使いやすいように改善してほしいです。 オートチャージやソフトバンクまとめて支払は廃止にした方がいいと思います。 チャージはATMでもできるので、オートチャージやまとめて支払にしなくてもできると思います。

3. アンケート調査「若者意識調査」から見えてくるもの

(1)生涯学習の重要性の高まり(リカレント・リスキリング)

新型コロナウイルスによる生涯学習の必要性についての大きな変容は見出せませんでしたが、生涯学習の必要性については、今回、「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」の合計が95.1%、前回調査時(H30年)が93.8%であったことから、かなり高い水準で推移しており、若者の中での生涯学習の必要性は一定理解が進んでいるように感じます。

一言で、若者といっても10代、20代、学校、就業などによっても、学習目的が異なることは容易に想像できますが、一方では新型コロナウイルスの影響により、現代社会の急速な変化に対応するための新しいスキルや知識が求められるようになっていきます。また、終身雇用制度の転換により、若者が転職することでの自己成長やキャリアの発展のために、学習の重要性を認識している場合が多いことから、国もリカレント教育(まなび直し)に対しての支援を検討し、一部の自治体では助成金を交付するところもでてきています。

このようなことから、今後の若者の生涯学習は、進学や資格取得だけでなく、自己実現のためのリカレント(まなび直し)やリスキリングが進んでいくことが予想されます。それぞれの生涯学習を行う目的は多様化する中、若者に対してどのような学習支援ができるのかによって、若者の自己実現や学習活動の推進に影響があると考えます。特に、経済格差による学力格差の解消など共に学び合う学習環境の整備は、今後の共生社会の実現においても重要です。

(2)学習情報の入手方法と情報発信の多様化の困難性

学習情報の入手方法については、「インターネット」が(H30年 29.2%→R5年 14.5%)減少していることが驚きでしたが、SNSの微増、「特に得ていない」が約半数、TV・新聞(6%)の低下などおおむね想定される回答でした。一番の驚きは、「広報おおむた」が「インターネット」を抑えて最も高かったことから、情報の入手方法も多様化しているのではないかと、若者＝インターネット、SNSでの情報収集といった固定観念を少し変える必要があるように感じます。

現在も、行政は紙ベース、SNS、メールなどターゲティングに応じた情報発信をしているなか、アンケート結果では行政への要望として、「学習について情報をより詳細に提供する」が20.5%と高くなっていることから、学習内容の充実を図るとともに短い動画やワークショップ、イベントの開催、双方向性のやり取りの要素を取り入れる等、より戦略的にあらゆる手段を用いながら情報発信を継続する必要があります。

(3)新型コロナによる生涯学習の場所や形態の変化

生涯学習を行う場所については、対面で実施される学校の正規課程の学習、公共施設の講座、学校の公開講座などが減少傾向であり、非対面で実施可能な情報端末やインターネットが増加しています。この点に関しては、新型コロナウイルスの影響により、学校や職場だけでなく、社会全体でリモートが進捗したことによると考えられます。オンラインと対面のハイブリッドの学習形態等、選択の幅が広がったことにより、いつでも、どこでも、だれでも参加しやすくなった学ぶ環境は以前より整ってきているといえます。しかしながら、集団学習による仲間づくりや双方向の学びの継続ができにくくなる懸念があるため、ハイブリッドの学習形態の実施とともに対面での双方向の学び、リアルな体験のよさを感じてもらうことが大切です。

これからは、どんな学びなのか、誰と学ぶか、学んだことによってどのように自分の中に変容が生まれるのか、そのようなきっかけをどれくらい提供できるのか求められています。

(4) ボランティア活動、地域活動への参画の減少

この点に関しては、新型コロナウイルスの影響により、ボランティア・地域活動ができなかったことも大きく影響しているかもしれません。また、ボランティア・地域活動への関心度は、「関心がある」(H30年 24.8%→R5年 24.1%)と微減ですが、「やや関心がある」(H30年 45.1%→R5年 14.5%)と激減しています。関心のある層から関心のない層へシフトしているものを元に戻していくのか、そのためには活動意欲を戻していく取組をどのくらいしていけるのか、若者がボランティア活動・地域活動に参画する機会の提供が必要です。

ボランティア活動は「社会を変えられる」という意識と相関していますが、上記のとおり高校生や若者の関心は低くなっています。しかしながら、地域においては、若者へのボランティア・地域活動への期待は高いことから、地域と若者の意識の乖離が起きているようです。

今回の調査のなかで「今後行いたいボランティア活動」では、女性が国際交流(協力)に関する活動が他と比べて高い数字となっていました。なかなか若者の興味があることと地域・ボランティア活動を結びつけることができていません。

今後は、若者の興味のある学習機会の提供を通して、若者が自ら社会参画や社会貢献につながるようなしつけや取組が求められています。

ローリング調査

調査の概要

(1) 調査の目的

「令和元年度大牟田市社会教育・生涯学習まちづくり基礎調査研究」の結果により、明らかになった課題と、学識経験者からの5つの提言を反映した総合計画及び社会教育振興プランに掲げている事業の進捗状況と成果を踏まえ、既存事業の有効性について検証を行う。

(2) 調査対象

大牟田市第6次総合計画アクションプログラム「第4章 未来に向けて、ともに学び、地域で行動する人がはぐくまれるまち」に掲げてある事務事業(生涯学習課文化芸術担当、スポーツ推進室、生活安全推進課が所管するものを除く)

(3) 調査方法

対象事業の所管部署に対する照会(調査票)

(4) 調査期間

令和5年7月8日～8月17日

※ 調査票は、「主要施策の成果及び基金の運用状況説明書」のうち「第1編第4章 評価・検証シート【施策】『4. 施策推進の視点と各構成事業』の『No.』」にて記載

4. 施策推進の視点と各構成事業

No.	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	R4 目標 R4 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点 1] 次世代を担う子どもをはぐくむ							
1	子ども交流体験事業(次世代を担う人づくり事業)	生涯学習課	引き続き活動したいと思った児童等の割合	%	50.0 84.0	順調	継続
2	【重点】高校生まちづくり体験事業(次世代を担う人づくり事業)	生涯学習課	参画した高校の数	校	7 8	順調	継続
3	子どもの読書推進事業	生涯学習課	12歳以下の住民基本台帳人口1人あたりの児童図書の平均貸出冊数	冊	15.8 12.7	順調	継続
4	子どもの体力向上事業	スポーツ推進室	半年後に運動・スポーツを週1回以上継続して実施している子どもの割合	%	100 95.8	順調	継続
5	スポーツ少年団育成委託事業	スポーツ推進室	小学生数に占めるスポーツ少年団員数の割合	%	13.0 9.0	やや遅れ	継続
6	各世代に応じた学習活動支援事業	生涯学習課	各事業の参加者(講師等を含む)が学んだ成果を活かすことができたと答えた割合	%	90.0 82.9	順調	継続
7	家庭教育支援事業	生涯学習課	就学前子育て講座の出席率	%	85.0 85.7	順調	継続
8	わくわくシティ基金事業	スポーツ推進室、生涯学習課	スポーツ・文化の振興を通じた青少年育成事業への助成件数	件	2 4	順調	継続
9	(再掲)文化芸術体験を通した子ども・若者育成事業	生涯学習課	大牟田への愛着が以前より深まった参加者の割合	%	80.0 90.6	順調	継続
10	(再掲)文化芸術が生み出すまちの魅力アップ事業	生涯学習課	課題を解決するためには他者を尊重したり支えあうことが重要だと理解した参加者の割合	%	90.0 93.8	順調	継続
[視点 2] ESDを通じた人づくり、つながりづくり、地域づくり							
11	生涯学習ボランティア登録派遣事業	生涯学習課	生涯学習ボランティア延べ登録者数	人	1,615 1,601	順調	継続
12	地域 ESD 推進事業	生涯学習課	参加者の地域活動への参加意欲の増加	%	90.0 74.0	順調	継続
13	【重点】学校 ESD 支援事業	生涯学習課	支援を行った小・中・特別支援学校の数	校	8 9	順調	継続
14	人材育成・地域活動促進事業	生涯学習課	年度末までに講座等から発足した新規の地区公民館サークル数	団体	15 12	順調	継続
15	学習成果活用促進事業	生涯学習課	各地区公民館におけるサークル・地域団体、学校の作品展示等の事業数	件	15 75	順調	継続
16	地域の ICT を支援する人づくり事業	生涯学習課	インフォナビゲーターの新規登録者数	人	12 13	順調	継続
[視点 3] 学習環境の整備・充実							
17	学習情報提供事業	生涯学習課	愛情ねっと・大牟田ちようどよ課への「学習・講座」情報の掲載件数	件	241 355	順調	継続
18	多様な学習機会提供事業	生涯学習課	インターネットを活用した学習コンテンツの配信数	件	3 5	順調	継続
19	社会教育機能向上事業	生涯学習課	研修参加者のうち研修で得たものを事業に活かしたいと答えた延べ職員の割合	%	100 100	順調	継続
20	地区公民館等整備事業	生涯学習課	当該年度に予定していた施設修繕の実施率	%	100 100	順調	継続

調査の結果

施策名	(第1編第4章) 未来に向けて、ともに学び、地域で行動する人がはぐくまれるまち
-----	--

[視点1]次世代を担う子どもをはぐくむ

【取組1】子どもの体験活動の強化・充実

事業名 1. 子ども交流体験事業(次世代を担う人づくり事業)

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
引き続き活動したいと思った児童等の割合	目標値 (%)	50.0	50.0	50.0	50.0	
	実績値 (%)	86.0	85.7	84.0		
	達成度 (%)	172.0	171.4	168.0		

R 4 年 度	事業名	子ども交流体験事業(次世代を担う人づくり事業)	決算額	
	事業の実施状況	・地区公民館において、食や環境等をテーマに、ものづくりや自然体験など子どもたちの体験活動講座を73講座開催しました。(11講座は大雨による避難所開設及び新型コロナのため中止)。 ・小学4年生から6年生を対象に、自分の将来のこと、夢や目標を見つけるきっかけづくりや未来に向けて頑張る姿勢を身につける一助となることを目的とした子ども未来デッサン事業を6講座予定していましたが、新型コロナの影響により1講座を中止し、5講座実施しました。 ・子どもの居場所事業では、新型コロナの影響もありましたが、21団体中20団体において、感染防止策を講じながら実施することができました。なお、通学合宿事業は宿泊を伴うことから実施した団体はありませんでした。		
	課題	・地区公民館で実施する講座は小学生を対象としたものが中心であるため、中学・高校生への拡がりが必要です。 ・地域で活躍するボランティアの高齢化が進むとともに、複数の団体で同じ人が活動されている傾向があることから、新たにボランティアを始める人を増やす工夫が必要です。		
	今後の方向性(具体策)	・講座に参加した小学生だけでなく、中学・高校生になっても引き続き参加できるような事業に取り組みます。 ・地域全体で子育てができる機運の醸成やボランティア活動への理解促進・参加意識の醸成を図ります。		
R 3 年 度	事業の実施状況	・地区公民館において、食や環境等をテーマに、ものづくりや自然体験など子どもたちの体験活動講座を19講座予定していましたが、新型コロナの影響により2講座を中止し、17講座実施しました。 ・小学4年生から6年生を対象に、自分の将来のこと、夢や目標を見つけるきっかけづくりや未来に向けて頑張る姿勢を身につける一助となることを目的とした子ども未来デッサン事業を3講座予定していましたが、新型コロナの影響により1講座を中止し、2講座実施しました。 ・子どもの居場所事業では、新型コロナの影響もありましたが、21団体中20団体において、感染防止策を講じながら実施することができました。なお、通学合宿事業は、宿泊を伴うことから実施した団体はありませんでした。		

R 2 年 度	事業の 実施状況	・地区公民館において、食や環境等をテーマに、ものづくりや自然体験など子どもたちの体験活動講座を12 講座開催しました。(9 事業は新型コロナ感染拡大防止のため中止) ・子どもの居場所事業では、新型コロナの影響により事業の中止が相次ぎましたが、21 団体中17 団体においては、感染防止策を講じて実施することができました。なお、通学合宿事業は、宿泊を伴うことから実施した団体はありません。
------------------	-------------	--

事業名 2. 高校生まちづくり体験事業(次世代を担う人づくり事業)

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
参画した高校の数	目標値 (%)	5	6	7	8	市内の高校・高等専門学校全校の 参画
	実績値 (%)	6	4	8		
	達成度 (%)	120.0	66.7	114.3		

R 4 年 度	事業名	高校生まちづくり体験事業(次世代を担う人づくり事業)	決算額	1,000 千円
	事業の 実施状況	・高校生まちづくり体験事業推進協議会 本事業を支援することを目的として、青少年団体等で組織する協議会を開催しました。 ・ポスターやチラシ等の活用により市内の高校等全校へ事業の周知を図るとともに、事業を企画・運営するスタッフを募集し、11 人(市内外の高校に通う生徒 4 校 11 人)の参加がありました。 ・高校生が企画・立案し、R4 年 11 月 6 日(日)に実施した「青春(アオハル)Walk」では、事前に募集した小学生 25 人と一緒にゲームやクイズをしながら、大牟田の新たな魅力発見に繋がる事業に取り組みました。 ・また、総合発表会として「夢の花咲く青春祭」にも取組み、R5 年 2 月 23 日(木・祝)に大牟田文化会館において、学校紹介や部活動の発表をはじめ、モノづくり体験コーナーや展示等を行いました。また、当日は、高校生等だけでなく、アクティブシニアのステージ発表や展示も行いました。(来場者は約 1000 人(参加した高校生等も含む))		
	課題	・高校生個人の参加は募ることができましたが、コロナ禍や学校行事との兼ね合いから、学校としての参画が難しい状況が続いています。また、高校生と地域の方々との交流の機会等の創出も困難な状況となっています。このような状況において、高校生等の達成感やふるさとへの愛着を高めることができるような事業の組み立てが必要です。		
	今後の 方向性 (具体策)	・本事業は、高校生等の達成感やふるさとへの愛着を高めること、地域のために自らチャレンジできる人づくりを目的としているため、市内の高校等に対してその趣旨を説明し、事業への理解を深めていただき、事業の参画校が増えるよう努めます。 ・企画スタッフを確保するため、ポスターやチラシ、広報等の活用に加え、青少年団体等にも呼びかけるなど、事業の更なる周知を図ります。 ・高校生等が参加意義を見つめることができるよう事業の組み立てを支援します。		
R 3 年 度	事業の 実施状況	・高校生まちづくり体験事業推進協議会 本事業を支援することを目的として、青少年団体等から組織する協議会を開催しました。 ・ふるさと魅力発見ウォーク コロナ禍の中でしたが、「青春(アオハル)Walk」と称して事業を実施しました。ポスターやチラシ等の活用により市内の高校等全校へ事業の周知を図り、事業を企画・運営するスタッフを募集し、10 人(市内の高校等に通う生徒 4 校 10 人)の参加がありました。 参加した高校生の企画・立案により、大牟田の新たな魅力発見にもつながりました。企画途中での緊急事態宣言発令により、事業を縮小する状況となりましたが、高校生スタッフと実施可能なコースやレクリエーションを再協議し、12 月に高校生 10 人と、小・中学生の参加者 9 人で実施することができました。 ・総合発表会(新型コロナウイルス感染拡大防止のため未実施)		
R 2	事業の 実施状況	・本事業を支援することを目的として、青少年団体等から組織する協議会を創設しました。 ・ふるさと魅力発見ウォーク部会として、「青春(アオハル)Walk」と称した事業の企画・運営するスタッフを募集し、高校等に通う生徒 23 人(市内 6 校 20 人、市外 3 人)の参加により事業を実施		

年 度		することができましたが、小・中学生の参加者については新型コロナ感染拡大防止の観点から募集を中止としました。
--------	--	---

事業名 3.子どもの読書推進事業

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
12歳以下の住民基本台帳人口1人あたりの児童図書の本貸出冊数	目標値冊	15.8	15.8	15.8	15.8	現状値の1割増を目標とする
	実績値冊	10.8	11.4	12.7		
	達成度(%)	68.4	72.2	80.4		

R 4 年 度	事業名	子どもの読書推進事業	決算額	897 千円
	事業の実施状況	・全ての子どもが絵本と出会う機会をつくるため、出生時の手続きをする窓口において、絵本と布バッグ等がセットとなったブックスタートパックを手渡しするとともに、読書ボランティアの協力のもと読み聞かせを行う「絵本による赤ちゃんとのコミュニケーション講座」を実施しました。 ・読書の大切さを啓発するチラシを小・中・特別支援学校の児童・生徒に配布しました。 ・電子図書館のIDを各児童、生徒に付与しました。		
	課題	・乳幼児期における読書活動の大切さについて、保護者等に広く周知啓発することが必要です。		
	今後の方向性 (具体策)	・図書館の指定管理者と連携し、講座や各種おはなし会以外にも、子どもの読書活動を推進するための情報発信や本に親しむ機会づくりを行います。 ・学校において電子図書館を利用してもらうため、指定管理者による利用デモンストレーションを行います。		
R 3 年 度	事業の実施状況	・生まれてきた全ての子どもが絵本と出会う機会をつくるため、出生時の手続きをする窓口において、絵本と布バッグ等がセットとなったブックスタートパックを手渡しするとともに、読書ボランティアの協力のもと読み聞かせを行う「絵本による赤ちゃんとのコミュニケーション講座」を実施しました。 ・読書の大切さを啓発するチラシを小・中・特別支援学校の児童・生徒に配布しました。		
R 2 年 度	事業の実施状況	・全ての子どもが絵本と出会う機会をつくるため、出生時の手続きをする窓口において、絵本と布バッグ等がセットとなったブックスタートパックを手渡ししました。 ・例年、「赤ちゃんとのコミュニケーション講座」を実施していますが、R2 年度は新型コロナ感染拡大防止の観点から中止しました。講座に代わるものとして、NPO ブックスタートが制作した、乳幼児期における読書活動の大切さを紹介する動画を、ブックスタートパックのリーフレットやホームページ、広報おおむたに掲載し、広く周知しました。 ・新型コロナ感染拡大防止の為、図書館を臨時休館したことで児童図書の貸出し冊数が減少しました。		

事業名 6. 各世代に応じた学習活動支援事業

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
各事業の参加者(講師等含む)が学んだ成果を活かすことができたと答えた割合	目標値(%)	90.0	90.0	90.0	90.0	目的に合致した取組みが進められたかを参加者のアンケート回答内容により判断
	実績値(%)	76.1	84.9	82.9		
	達成度(%)	84.5	94.3	92.1		

R 4 年 度	事業名	各世代に応じた学習活動支援事業	決算額	
	事業の実施状況	・高齢者や子育て世代をはじめあらゆる層の市民が参加できる学習機会を提供するため、地区公民館において57講座を開催しました。(2講座は新型コロナのため中止)		
	課題	・講座終了後も継続した学習活動に結び付けるため、学んだ成果を活かしたいと思えるような取組みが必要です。 ・学んだ成果を活かし、個人が成長するとともに、子どもたちの成長へとつながる取組みが必要です。		
	今後の方向性(具体策)	・講座の対象者を明確にするとともに、内容や実施時間の設定などを検討し、より多くの人が参加しやすい講座を実施します。 ・講座受講者による新たなサークルの立ち上げや、既存サークルへの加入により、継続した学習活動につながる講座を実施します。		
R 3 年 度	事業の実施状況	・講座終了後も継続した学習活動に結び付けるため、学んだ成果を活かしたいと思えるような取組みが必要です。 ・学んだ成果を活かし、個人が成長するとともに、子どもたちの成長へとつながる取組みが必要です。		
R 2 年 度	事業の実施状況	・高齢者や子育て世代をはじめあらゆる層の市民が参加できる学習機会を提供するため、地区公民館において14講座を開催しました。(2講座は新型コロナ感染拡大防止のため中止)		

事業名 7.家庭教育支援事業

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
就学前子育て講座の出席率	目標値(%)	85.0	85.0	85.0	85.0	現状の参加率以上を目指す
	実績値(%)	81.9	92.0	85.7		
	達成度(%)	96.3	108.2	100.8		

	事業名	家庭教育支援事業	決算額	
R4年度	事業の実施状況	・地区公民館において、幼児、小学校低学年・高学年、思春期などに区分し、「家庭教育講座」を6講座開催(2講座は新型コロナの影響により中止)したほか、各小学校が実施する入学説明会の機会において、18校区で「就学前子育て講座」を実施しました(1校区は寒波の影響により中止)。また、幼稚園等入園前の子どもの保護者が子どもと一緒に安心して集える「子育てふれあい広場」を実施しました。 ・子育て情報誌「おおむたっ子」を年3回発行しました。(発行数は延べ34,500部)		
	課題	・子どもの発達段階に応じて、切れ目のない家庭教育の支援を行える環境を整える必要があります。		
	今後の方向性(具体策)	・より多くの保護者に家庭教育の在り方について見つめなおす機会を提供できるよう、効果的な子育て講座等の周知や、実施方法等を検討します。 ・地区公民館ごとに幼児期から思春期までのそれぞれの発達段階に応じた講座を実施します。		
R3年度	事業の実施状況	・地区公民館において、幼児、小学校低学年・高学年、思春期などに区分し、「家庭教育講座」を4講座開催(新型コロナの影響等により2講座は回数を減らして実施)したほか、各小学校が実施する入学説明会の機会を活用し、「就学前子育て講座」を実施しました(新型コロナの影響により入学説明会が中止・時間短縮等となったため、19校区中1校区のみ実施。18校区は資料を配布)。また、幼稚園等入園前の子どもの保護者が子どもと一緒に安心して集える「子育てふれあい広場」を実施するとともに、「幼児期子育て講座」をR3年8月に開催し、17人が参加しました。 ・子育て情報誌「おおむたっ子」を年3回発行しました。(発行数は延べ34,500部)		
R2年度	事業の実施状況	・子どもを持つ保護者に発達段階に応じた家庭教育のあり方を見つめなおす機会を提供するため、「幼児期子育て講座」「就学前子育て講座」を実施しました。「就学前子育て講座」については、就学前の全保護者の参加が見込める入学説明会を活用して実施しました。また、幼稚園等入園前の子どもの保護者が子どもと一緒に安心して集える「子育てふれあい広場」を実施しました。 ・地区公民館において、幼児、小学校低学年・高学年、思春期などに区分し、「家庭教育講座」を5講座開催しました。(2講座は新型コロナ感染拡大防止のため中止)		

事業名 11. 生涯学習ボランティア登録派遣事業

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
生涯学習ボランティア 延べ登録者数	目標値 人	1,585	1,600	1,615	1,630	年間15人の増加を目指す
	実績値 人	1,566	1,555	1,601		
	達成度 (%)	98.8	97.2	99.1		

R 4 年 度	事業名	生涯学習ボランティア登録派遣事業	決算額	560 千円
	事業の 実施状況	・市民の学習を支援するために、さまざまな経験や学習によって培われた知識や技能を持っている人材を、「生涯学習ボランティア」として登録し、地域・施設・学校などで行われる学習会や行事等に派遣しました。 <おおむた生涯学習まちづくり推進協議会> ・生涯学習ボランティア延べ登録者数:1,601 人 ・派遣回数:延 397 回(参加者数 延 10,370 人) ・表彰式・発表会の開催及び Youtube での動画配信(1月)		
	課題	・ボランティア登録者の高齢化が進み、登録団体における会員確保や後継者の育成が困難な状況にある団体が増えつつあります。		
	今後の 方向性 (具体策)	・新規登録者を増やす取組みや既存の登録団体の会員を増やす取組みを行い、登録者の確保へつなげます。そのために、若者を登録につなげるための働きかけや登録団体の会員募集と活動紹介の支援を行っていきます。		
R 3 年 度	事業の 実施状況	・市民の学習を支援するために、さまざまな経験や学習によって培われた知識や技能を持っている人材を、「生涯学習ボランティア」として登録し、地域・施設・学校などで行われる学習会や行事等に派遣しました。 ・新型コロナの影響により、学習会や行事等の会場として使用されている施設等が利用中止になり、すでに派遣が決定していた事業も中止や延期されたため、派遣回数が例年と比べて大きく減少しました。 <おおむた生涯学習まちづくり推進協議会> ・生涯学習ボランティア延べ登録者数:1,555 人 ・派遣回数:延べ 316 回(参加者数延べ 7,010 人) ・表彰式・発表会(※新型コロナ感染拡大防止のため延期)		
R 2 年 度	事業の 実施状況	・R2 年度は、新型コロナの影響により、ボランティア活動そのものの自粛を余儀なくされたほか、学習会や行事等の会場として使用されている施設等が利用中止になり、すでに派遣が決定していた事業も中止や延期されたため、派遣回数が例年と比べて大きく減少しました。 <生涯学習まちづくり推進本部> ・生涯学習ボランティア延べ登録者数:1,566 人 ・派遣回数:延べ 353 回(参加者数 延べ8,334 人) ・表彰式・発表会の開催及びYouTube での動画配信(2 月)		

事業名 12. 地域 ESD 推進事業

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
参加者の地域活動への参加意欲の増加	目標値 (%)	90.0	90.0	90.0	90.0	目的に合致した取組みが進められたかを参加者のアンケート回答内容により判断
	実績値 (%)	77.3	84.4	74.0		
	達成度 (%)	85.8	93.7	82.2		

R	事業名	地域 ESD 推進事業	決算額	
4 年 度	事業の実施状況	・校区まちづくり協議会などの関係団体と協議を行い、地域課題の解決に結びつくような学習活動や地域の伝統文化を次世代に継承する取組み、地域コミュニティの形成、人材発掘・人材育成に向けた事業などを 20 講座実施しました。		
	課題	・学校だけではなく、地域における ESD の取組みへの理解を深める必要があります。 ・地域における活動が、高齢化や地域の活動に対する参加意欲の低下等で一部の住民に偏在している状況があります。		
	今後の方向性 (具体策)	・地域課題解決のきっかけとなるよう、ESD の視点を持った取組みへの理解の促進を図ります。 ・地域との関わりの中で機会をとらえ、人づくり、つながりづくり、地域づくりに結び付くような取組みを実施します。		
R 3 年 度	事業の実施状況	・校区まちづくり協議会などの関係団体との協議を行い、地域課題の解決に結びつくような学習活動や地域の伝統文化を次世代に継承する取組み、地域コミュニティの形成、人材発掘・人材育成に向けた事業などを 17 講座計画しましたが、6 事業は新型コロナの影響により中止し、11 講座を実施しました。		
R 2 年 度	事業の実施状況	・地域課題の解決に結びつくような学習活動や地域の伝統文化を次世代に継承する取組み、地域コミュニティの形成、人材発掘・人材育成に向けた取組みなどを校区まちづくり協議会などの関係団体との協議を行い、ニーズをとらえて進める事業を 10 講座実施しました。 (9 事業は新型コロナ感染拡大防止のため中止)		

事業名 13.【重点】学校 ESD 支援事業

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
支援を行った小・中・特別支援学校の数	目標値 (%)	4	6	8	10	小学校7校、中学校特別支援学校3校
	実績値 (%)	7	7	9		
	達成度 (%)	175.0	116.7	112.5		

R	事業名	学校 ESD 支援事業	決算額	23 千円
4 年 度	事業の実施状況	・地域の大人が子どもたちに絵手紙の素晴らしさを伝えるボランティア講座を実施し、子どもたちが描いた絵手紙を校区内の高齢者に届ける取り組みを実施しました。【天の原小学校、玉川小学校、宮原中学校、特別支援学校】 ・地域、学校が連携し種から花を育てることにより、地域の絆を深めました。【銀水小学校】 ・地域の史跡や文化財等を知り発表することにより児童の地域への愛着を深めました。【羽山台小学校(学校 ESD 支援モデル校区)、駛馬小学校】 ・小学校の海洋教育及び野外活動として実施されるカヌー乗船体験学習を支援しました。【駛馬小学校、天領小学校】 ・勝立地区の人が地域の自然と歴史を学び作成した動画の DVD を学校に届け、地域への愛着を深めました。【天の原小学校、玉川小学校、宮原中学校、特別支援学校】 ・三池の歴史学習資料をゲストティーチャーが学校と連携して作成する支援を行いました。【三池小学校】 ・このほか児童・生徒の学習活動の成果発表の場として、各地区公民館のロビー等を活用した展示発表、文化祭での展示発表などを行いました。		
	課題	・地区公民館の機能や役割について、学校への周知が十分ではないため、提供できる支援について周知を図る必要があります。 ・小学校での実施が中心となっており、中学校への取り組みが必要です。 ・学校のニーズを把握するため、学校が取り組む ESD について理解を深めることが必要です。		
	今後の方向性(具体策)	・学校職員を対象とした事業の説明機会を設け、学校 ESD の支援に取り組みます。 ・学校に提供できる支援を明確にするため、地区公民館ができることをメニューにして提示するなど、わかりやすい仕組みを構築します。		
R 3 年 度	事業の実施状況	・地域の大人が子どもたちに絵手紙の素晴らしさを伝えるボランティア講座を実施し、子どもたちが描いた絵手紙を校区内の高齢者に届ける取り組みを実施しました。【天の原小学校、玉川小学校、宮原中学校】 ・地域、学校が連携し種から花を育てることにより、地域の絆を深めました。【銀水小学校】 ・地域の史跡や文化財等を知り発表することにより児童の地域への愛着を深めました。【羽山台小学校(学校 ESD 支援モデル校区)、駛馬小学校(新型コロナの影響により中止)】 ・学校職員に公民館や地域のことを説明し、ESD や総合学習のヒントとなることを目指した研修会を実施しました。【羽山台小学校】 ・小学校の海洋教育及び野外活動として実施されるカヌー乗船体験学習を支援しました。【駛馬小学校、天領小学校、羽山台小学校】 ・このほか児童・生徒の学習活動の成果発表の場として、各地区公民館のロビー等を活用した展示発表を実施したほか、みなと小学校児童が作成した「防災マニュアル」を三川地区公民館において配布しました。		
R 2	事業の実施状況	・地域の大人が子供たちに絵手紙の素晴らしさを伝えるボランティア講座を実施し、子どもたちが描いた絵手紙を校区内の高齢者に届ける取り組みを実施しました。		

年 度		【天の原小学校、玉川小学校、宮原中学校】 ・地域、学校が連携し種から花を育てることにより、地域の絆を深めました。 【銀水小学校、田隈中学校】 ・小学校の海洋教育として実施されるカヌー乗船体験学習を支援しました。 【駛馬小学校、天領小学校】 ・このほか、児童・生徒の学習活動の成果発表の場として、公民館のロビー等を活用し展示発表を実施しました。
--------	--	--

事業名 14. 人材育成・地域活動促進事業費

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
年度末までに講座等から発足した新規の地区公民館サークル数	目標値(%)	15	15	15	15	各地区公民館(7館)の講座において、2団体以上が発足することを想定
	実績値(%)	8	14	12		
	達成度(%)	53.3	93.3	80.0		

R	事業名	人材育成・地域活動促進事業費	決算額	
R 4 年 度	事業の 実施状況	・地区公民館の講座受講者が学んだ成果を活かすため、新規サークルの立上げや、既存のサークルへの加入を促すなど、継続した活動の場や機会の提供を図りました。 ・ボランティア団体や地域の団体、公民館で活動するサークル等の活動について、必要に応じた支援を行う事業など、9 事業を実施しました。		
	課題	・地区公民館で活動するサークル等が、学んだ成果をボランティア活動、地域活動に活かしていく意識の醸成を図る取組みが必要です。 ・新型コロナの影響のため定員を減らして講座を実施しており、サークルが立ち上がりにくい状況にあります。		
	今後の 方向性 (具体策)	・地区公民館で活動するサークル等に、活動時や研修会などの機会をとらえ、学んだ成果を社会に還元していくことの意義や重要性について、理解を深める取組みを実施します。 ・講座などから立ち上がったサークルや、ボランティア活動を行っている(行いたい)市民、団体の生涯学習ボランティア登録を促し、活動機会の提供を図ります。		
R 3 年 度	事業の 実施状況	・公民館の講座受講者が学んだ成果を活かすため、新規サークルの立上げや、既存のサークルへの加入を促すなど、継続した活動の場や機会の提供を図りました。 ・ボランティア団体や地域の団体、公民館で活動するサークル等の活動について、必要に応じた支援を行う事業など、22 事業を計画していましたが、新型コロナの影響により 10 事業が中止となり、12 事業を実施しました。		
R 2 年 度	事業の 実施状況	・学んだ成果を活かす活動の場や機会の提供を図る事業を実施しました。また、ボランティア団体や地域の団体、公民館で活動するサークル等の活動について、必要に応じた支援を行う事業など、9 事業を実施しました。新型コロナ感染拡大防止のため少人数の講座としたほか、8 講座を中止した影響もあり、新規のサークルの発足数が見込みよりも低くなりました。		

事業名 15. 学習成果活動促進事業

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
各地区公民館におけるサークル・地域団体、学校の作品展示等の事業数	目標値(%)	15	15	15	15	地区公民館文化祭7回と他の団体・サークル・学校等の作品展示等8回
	実績値(%)	56	74	75		
	達成度(%)	373.3	493.3	500.0		

R	事業名	学習成果活用促進事業	決算額	
R 4 年 度	事業の実施状況	・地区公民館では各サークル活動の成果として、文化祭や公民館ロビーなどを活用した作品展を開催するなど、会員の活動の場の拡大と各サークル等の団体の発展を目指した事業を実施しました。また、子どものサークル体験や学校の活動などの成果作品の展示を行うなど、世代間の交流を通して、次世代の育成を図りました。 ・高齢者のボランティアを養成する「アクティブシニアデビュー塾ボランティアデビュー編」を6講座開催し、61人が受講しました。(1講座は受講生が定員に満たなかったため中止)また、「夢の花咲く青春祭」において、アクティブシニアのステージや展示発表を行いました。		
	課題	・講座の受講者やボランティア登録者が、学習の成果を地域での活動に活かす機会の提供が必要です。 ・地区公民館で活動するサークルが学んだ成果を発表する場や機会を創出し、まちづくりへ参画する意識の醸成が必要です。		
	今後の方向性(具体策)	・地区公民館で実施する講座等における講師の選定の際に、生涯学習ボランティア登録者等を積極的に活用し、新たな活動や学びの循環を図ります。 ・文化祭やロビー展など、サークルの学びの成果を発表できる機会を創出します。		
R 3 年 度	事業の実施状況	・高齢者のボランティアを養成する「アクティブシニアデビュー塾ボランティアデビュー編」を開催しました。7講座を予定しておりましたが、1講座は新型コロナのため中止となりました。6講座を開催し、64人が受講しました。 ・地区公民館の各サークル活動の日頃の成果として、新型コロナの影響により中止した文化祭等に替え、公民館ロビーなどを活用し、長期間の作品展を開催するなど、会員の活動の場の拡大と各サークル等の団体の発展を目指した事業を実施しました。 ・子どものサークル体験や学校の活動の成果などの作品展示を行うなど、世代間の交流を通して、次世代の育成を図りました。		
R 2 年 度	事業の実施状況	・高齢者のボランティアを養成する「アクティブシニアデビュー塾ボランティアデビュー編」2講座を開催し、28人が受講しました。(1講座は新型コロナ感染拡大防止のため中止) ・地区公民館の各サークル活動の日頃の成果として、新型コロナの影響により中止した文化祭等に替え、公民館ロビーなどを活用し、長期間の作品展を開催するなど、会員の活動の場の拡大と各サークル等の団体の発展を目指した事業を実施しました。 ・子どものサークル体験や学校の活動の成果などの作品展示を行うなど、世代間の交流を通して、次世代育成の構築を図りました。		

事業名 17 学習情報提供事業

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
愛情ねっと・大牟田ちゅうどよ課への「学習・講座」情報の掲載件数	目標値 件	220	231	241	252	現状値から年間5%増を目指す
	実績値 件	237	193	355		
	達成度	107.7	83.5	147.3		

R	事業名	学習情報提供事業	決算額	762 千円
R 4 年 度	事業の 実施状況	・年間を通して情報誌やリーフレット、ホームページ、愛情ねっと、FMたんなど多様な媒体を活用し、様々な学習情報を提供しました。 ・生涯学習ボランティア登録派遣事業「まなばんかん」の利用案内と企業出前講座「がんばる地場企業」及び市役所職員出前講座のメニュー表を1冊にまとめて、「おおむた生涯学習メニューブック」として発行しました。 ① 学習情報誌「まなびのカatalog」の発行(奇数月に年6回発行 2,000部/回) ② 生涯学習メニューブックの発行(冊子 2,500部) ③ 「広報おおむた」による学習情報及び生涯学習の啓発(全3回) その他:ホームページ、SNS、愛情ねっと、LINE、FMたん、Youtubeを活用した情報発信		
	課題	・市民がいつでも気軽に学習活動が行えるよう、情報発信の強化を図り、必要な学習情報がすぐ得られるようにすることや、様々な学習情報を提供することで、日頃学習活動を行っていない人の学習意欲を喚起し、学習活動に参加してもらうことが必要です。		
	今後の 方向性 (具体策)	・学習情報を必要としている市民へ必要な情報を提供し、市民の学習活動を支援することを目的として R4 年度に策定した「大牟田市学習情報の発信に関するガイドライン」に基づき、より多くの市民に講座や催し物などの情報が伝わるよう発信をしていきます。		
R 3 年 度	事業の 実施状況	・年間を通じて情報誌やリーフレット、ホームページ、愛情ねっと、FMたんなど多様な媒体を活用し、様々な学習情報を提供しました。 ①学習情報誌「まなびのカatalog」の発行(奇数月に年6回発行 2,000部/回) ②おおむた生涯学習メニューブックの発行(冊子 2,500部) ③広報おおむたによる学習情報及び生涯学習の啓発(全3回) ④その他:ホームページ、SNS、愛情ねっと、FMたんを活用した情報発信 ・上記のほか、R3年6月から運用開始された LINE を活用し109件の情報発信を行いました。		
R 2 年 度	事業の 実施状況	・年間を通して情報誌やリーフレット、ホームページ、愛情ねっと、FMたんなど多様な媒体を活用し、様々な学習情報を提供しました。 ①学習情報誌「まなびのカatalog」の発行(奇数月に年6回発行 2,000部/回) ②生涯学習メニューブックの発行(冊子2,000部) ③広報おおむたによる学習情報及び生涯学習の啓発(全3回) ④その他:ホームページ、SNS、愛情ねっと、FMたん、YouTube を活用した情報発信		

19. 事業名 社会教育機能向上事業

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
研修参加者で研修で得たものを事業に活かしたいと答えた延べ職員の割合	目標値 (%)	100	100	100	100	目的に合致した取組みが進められたかを、参加者のアンケート回答内容により判断
	実績値 (%)	95.5	97.7	100		
	達成度 (%)	95.5	97.7	100		

R	事業名	社会教育機能向上事業	決算額
R 4 年 度	事業の 実施状況	・公民館職員研修会については、地区公民館の職員を対象に、対面とオンラインのハイブリッド形式の講座の実践的な研修を実施するなどウイズコロナに対応した職員のスキルアップを図ることを目的に、10回の研修会を開催しました ・社会教育関係職員研修会については、人づくりや地域づくりのために必要なファシリテーション能力の向上を図ることを目的に、1回開催しました。 ・新任公民館職員研修会については、新任の公民館職員を対象に、社会教育や生涯学習の役割についての基礎的な知識の習得のため、研修会を1回開催しました。 ・新任社会教育関係職員研修会については、新任の社会教育関係職員を対象に、市民協働部各課の取組みを知ることで、部内の連携促進を図ることを目的に、研修会を1回開催しました。	
	課題	・社会教育に携わる職員が一層スキルアップできるよう、研修の充実を図る必要があります。	
	今後の 方向性 (具体策)	・新任公民館職員研修会を年間通して段階的にスキルアップできるプログラムで実施します。 ・継続して社会教育関係職員向けのオンライン関連の研修を実施します。	
R 3 年 度	事業の 実施状況	・公民館職員研修会については、地区公民館の職員を対象に、Zoomの操作方法などオンラインの研修を実施するなど職員のスキルアップを図ることを目的に、10回の研修会を開催しました(新型コロナ感染拡大の観点からオンラインでの研修1回を含む)。 ・社会教育関係職員研修会については、社会教育関係職員を対象に、社会教育の今後の役割の理解を促進するとともに、オンラインのスキルの向上を図ることを目的に、1回開催しました。 ・新任公民館職員研修会については、新任の公民館職員を対象に、社会教育公民館の役割についての基礎的な知識の習得のため、研修会を1回開催しました。 ・館長向けの研修を1回開催しました。 ・新任社会教育関係職員研修会については、新任の社会教育関係職員を対象に、市民協働部各課の取組みを知ることで、部内の連携促進を図ることを目的に、研修会を1回開催しました。	
R 2 年 度	事業の 実施状況	・公民館職員研修会については、地区公民館の職員を対象に、ファシリテーション研修や事業企画の方法など職員のスキルアップを図ることを目的に、9回の研修会を開催しました。(大雨などのため2回中止) ・社会教育関係職員研修会については、社会教育関係職員を対象に、社会教育の今後の役割の理解を促進するとともに、ファシリテーションスキルの向上を図ることを目的に、公民館職員研修会と同時開催で2回実施しました。 ・新任公民館職員研修会については、新任の公民館職員を対象に、社会教育公民館の役割についての基礎的な知識の習得のため、研修会を1回開催しました。 ・新任社会教育関係職員研修会については、新任の社会教育関係職員を対象に、市民協働部各課の取組みを知ることで、部内の連携促進を図ることを目的に、研修会を1回開催しました。	

事業名 20. 地区公民館等整備事業

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
当該年度に予定していた施設修繕の実施率	目標値(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	計画的に施設修繕を行っていくことにより設定
	実績値(%)	100.0	100.0	100.0		
	達成度(%)	100.0	100.0	100.0		

R 4 年 度	事業名	地区公民館等整備事業	決算額	
	事業の実施状況	・公共施設維持管理計画に基づき、吉野地区公民館電灯設備更新工事、三池地区公民館外壁防水等改修工事、駿馬地区公民館駐車場改修工事を行いました。このほか、来館者が安心・安全に施設を利用できるように、必要に応じた施設修繕等を行いました。		
	課題	・7 地区公民館は既に建設から長期間経過しており、経年劣化による雨漏り等の不具合が多発しています。		
	今後の方向性 (具体策)	・公共施設維持管理計画に基づく計画的な改修等を実施します。		
R 3 年 度	事業の実施状況	・公共施設維持管理計画に基づき、手鎌地区公民館の屋上等の防水工事、内部改修工事、非常放送設備の更新、エレベーターの更新を行いました。 ・新型コロナ感染防止の観点から、各地区公民館のトイレの洋式化、自動水栓化等の改修を行いました。 ・このほか、来館者が安心・安全に施設を利用できるように、必要に応じた施設修繕を行いました。		
R 2 年 度	事業の実施状況	・公共施設維持管理計画に基づき、三池地区公民館の屋上等の防水工事、内部改修工事、非常放送設備の更新、エレベーターの更新を行いました。 ・このほか、来館者が安心・安全に施設を利用できるように、必要に応じた施設修繕を行いました。		

3. ローリング調査から見えてくるもの

(1) コロナ禍による事業等の減少とオンラインでの事業への動き

令和2年度から4年度までの3年間は、ほとんどの事業で新型コロナウイルスの影響を受け、特に令和3年度までは、中止せざるを得なかった事業が数多くありました。また、「生涯学習ボランティア登録派遣事業」も派遣先の事業中止に伴い、派遣回数が例年と比べて大きく減少しています。さらに、感染症予防対策のため、定員を減らして講座を行っており、一定の人数が必要となるサークルの立ち上げが難しくなっています。

一方で、令和3年度に社会教育施設にWi-Fiを設置するとともに、オンラインで事業が出来るようにZoomの操作方法の研修、対面とオンラインのハイブリッド形式の講座の実践的な研修等を実施しました。この結果、複数の公民館でオンラインを活用した講座を行いました。また、社会教育振興担当では、令和4年度からVRを活用したボランティア養成講座を実施しています。

今後は、オンラインと対面の両方の手法からより効果的な手法を選択し、事業展開をすることが大切と思われます。

(2) 切れ目のない社会教育事業の実施と課題

次世代を担う人づくり事業では、乳幼児から高校生までの次世代とそれを支える大人を対象とした事業を実施してきました。具体的には、子どもの読書推進事業として、当該年度に出生した全ての子どもが絵本と出会うブックスタートパックと「絵本による赤ちゃんとのコミュニケーション講座」を行っています。また、図書館や地区公民館の図書コーナーと読書ボランティアとの連携により、子ども読書の推進に努めています。

家庭教育支援事業については、各地区公民館において、幼児、小学校低学年・高学年、思春期などに区分した講座を行っています。また、小学校の入学説明会の機会を捉えて「就学前子育て講座」を全小学校で実施していますが、近年は新型コロナや寒波の影響等から中止や講座の時間短縮も多くなっています。幼児期から思春期までの発達段階に応じた講座・事業をより体系づけて行うことが必要です。

世代に応じた学習活動支援事業では、受講者が学んだ成果を活かし、子どもたちの成長につながっているかを検討する必要があります。

地区公民館では、ものづくりや自然体験など子どもたちの体験活動を中心とした講座を、生涯学習課では子ども未来デッサン事業を行っています。

特に地区公民館の講座は小学生を対象としているものが中心であることから、中学生・高校生を対象とした事業の検討が必要であるとともに、小学生向けの講座に参加した小学生6年生が次年度にはスタッフとして参加する事業の実施なども必要と思われます。

生涯学習課次世代育成担当では高校生を対象とした事業として、高校生まちづくり体験事業を行っています。高校生が企画・立案に取り組み、大牟田の魅力発見に繋がる「青春(アオハル)WALK」や、令和4年度には学校紹介や部活動の発表、モノづくり体験コーナーなどを大牟田文化会館で行う「夢の花咲く青春祭」を行い、1,000人以上の来場者がありました。ローリング調査にはあがっていませんが、地区公民館では夏休みの子ども体験事業で高校生のボランティアの参加があっているところもあります。また、高校生が中心となって講座を行っている例も出てきました。

高校生を対象とした事業は、事業を行った達成感による自己肯定感の向上、ふるさとへの愛着を深めること、地域のために自らチャレンジできる人づくりを目的としています。この重要性について、高校への説明を強化するとともに、高校を卒業しても、地域に住む若者が活躍できるように市民活動団体とのつながりをつくることも必要です。

次世代の育成を推進するには、乳幼児から高校生まで切れ目のない社会教育事業を展開することが大切です。小学生までは、さまざまな人との体験活動を行い、中学生では地域や社会への参加、高校生では地域づくり、まちづくりにつながる活動を行うことで次世代への人材を育むことが必要です。

(3)地域におけるE S Dの認知度と学校への支援に向けた課題

地域E S D推進事業では、持続可能な地域をつくっていくための学びであるE S Dの視点を持った取組を行っていますが、地域活動への参加意欲の増加が目標の90%に対し、令和2年度から4年度まで、いずれも目標値に達しておらず、4年度では74%に留まっています。また、SDGs(持続可能な開発目標)は、多くの民間企業でも取り組まれており、浸透しつつありますが、それを達成する手段であるE S Dの認知度は、いまだ学校教育に留まっているといえます。

地域にE S Dを認識してもらうためには、それぞれの地域に必要なSDGsを認識してもらうことが必要と思われます。地区公民館は地域(校区まちづくり協議会等)と協議を行いながら、事業を実施していますが、地域が自分たちのSDGsが何であるのか気づきを得るような学びも必要です。

学校E S D支援事業については、地区公民館が支援した学校数は目標値を上回っていますが、さらなる広がりを図るためには、地区公民館の機能や役割について、学校に周知を図る必要があります。また、中学校に向けた取組が少ないこと、学識経験者による「大牟田の教育」の意見書にて、「取組実績からは、E S D支援なのか単なる学校支援なのか不明であり、地域住民や地区公民館が主体的にE S Dに取り組むことに直接的につながっていない気がする」といった指摘がありました。

このようなことから、今後は現在行われている大牟田版コミュニティスクールや小中一貫教育、学校現場の状況をしっかりと把握し、より一層、学校E S Dの支援を行う必要があると思われます。

人材育成・地域活動促進事業と学習成果活動促進事業は、ともに学んだ成果を活かし地域に還元する学びの循環を図るものです。地域とのつながりをつくり、まちづくりへ参画する意識の醸成を図ることが大切です。

(4)多様な情報発信と学習機会の提供

市民の学習を支える基盤である学習情報提供事業では、情報誌やリーフレット、広報おおむた等の紙媒体のほか、ホームページ、FMたんと、愛情ねっと、LINE、Youtube など多様な媒体を活用し、さまざまな情報提供を行っています。

また、多様な学習機会提供事業では、企業出前講座のメニューと実施回数など順調に増加しています。これに加え、インターネットを活用した出前講座の動画配信も目標を上回る5件の配信を行っています。

引き続き多様化する市民のニーズに応えるため、情報発信の方法や出前講座の実施方法等については若い世代の意見を取り入れるなど工夫が必要です。

(5)社会教育・生涯学習を支える職員の研修

令和2年度以降、社会教育関係職員研修、公民館職員研修については、「社会教育機能向上事業」として、取り組んでいます。その中で人づくりや地域づくりに大切なスキルであるファシリテーション能力の向上を図る研修を行っています。

このほかにも、(1)で掲げたオンライン研修などを実施しました。今後もきちんとした理論とすぐに活用できる実践的な研修をバランスよく行い、社会教育関係職員のスキルアップを行う必要があります。

インタビュー調査

調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、社会教育関係職員がインタビュー調査を通して、地域や地域団体等のことを知り、職員と地域団体などとの新しいつながりをつくることや職員が地域団体同士をつなぎ、新しいつながりを形成することで地域全体の新しい可能性を引き出すことを目的に、インタビュー調査を実施する。

インタビュー先は、職員が地域団体等と連携したいが、その団体が何をしているのか分からない、じっくり話をしてみたいがゆっくり時間を取ってまでは話ができないなど、連携のきっかけのつかめない身近な地域の人や団体をターゲットとしたい。インタビューすることで、自前主義の脱却、地域事情を知り、地域のつながりづくりや連携の糸口を探ることで、地域をつなぐという職員の地域への意識の変容を期待する。

最後に、インタビューを聞き、職員がまとめた結果を基に、これからの社会教育・生涯学習の方針・事業にも反映していくことを目指すとともに各館、各担当で今後の事業に反映していく。

(2) 調査の対象

おもに市内にある団体・企業・学校関係など

(3) 調査方法

社会教育関係職員が、団体・企業・学校関係などにアポイントを取り、対面でインタビューする時間を取っていただき、関係づくりのためのインタビュー調査を実施

(4) 調査期間

令和5年6月から9月

(5) インタビューの結果等

インタビュー数 30件(設問は任意)

インタビュー調査先 市民活動団体 13件 企業 5件 幼稚園・学校・大学関係 7件
行政関係 2件 サロン 3件 ※一覧表参照

インタビュー時間 1件平均53分

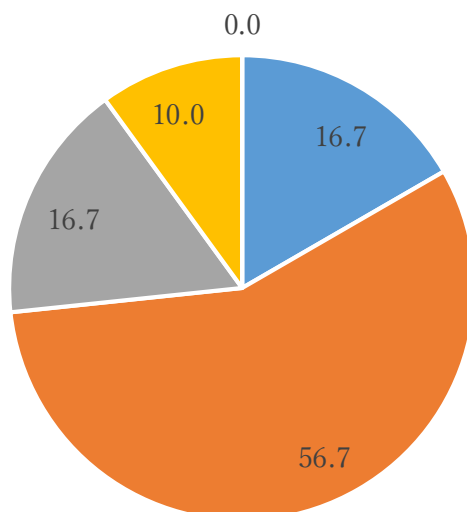
(6) 調査結果利用上の留意事項

- ・ 文章や表、グラフ中の回答割合(相対度数)は百分比のポイント以下2位を四捨五入しているので、合計は必ずしも100%にならないことがある。
- ・ 2つ以上の回答を求めた(複数回答)質問の場合、その回答割合の合計は原則として100%を超える。
- ・ 数表等に記載された「n」は、回答割合算出上の基数(回答数)を示している。
- ・ 前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問の回答割合は、層化された回答者を基数として算出している。
- ・ 文中では選択肢(変数)を「 」で示している。選択肢の文章が長い場合は、一部省略したところがある。また、2つ以上の選択肢を合計して表す場合には『 』で示している。
- ・ 性別を「その他」と回答した人は皆無であったことから分析対象から除いている。

調査結果

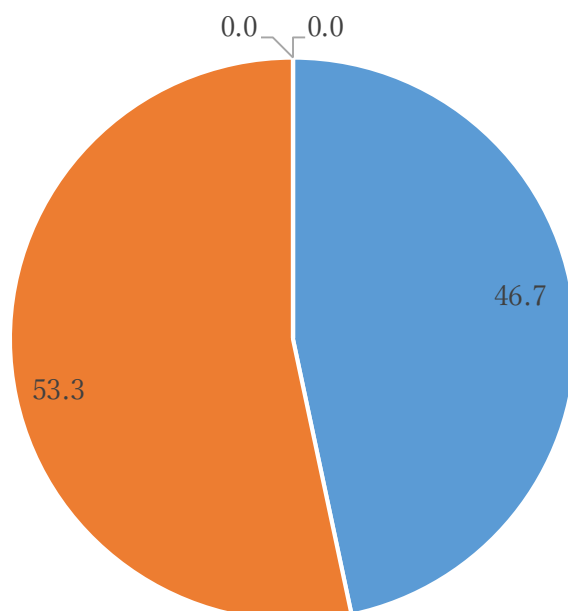
3 職員アンケート抜粋

関係づくりについてどのくらいできたと思いますか？



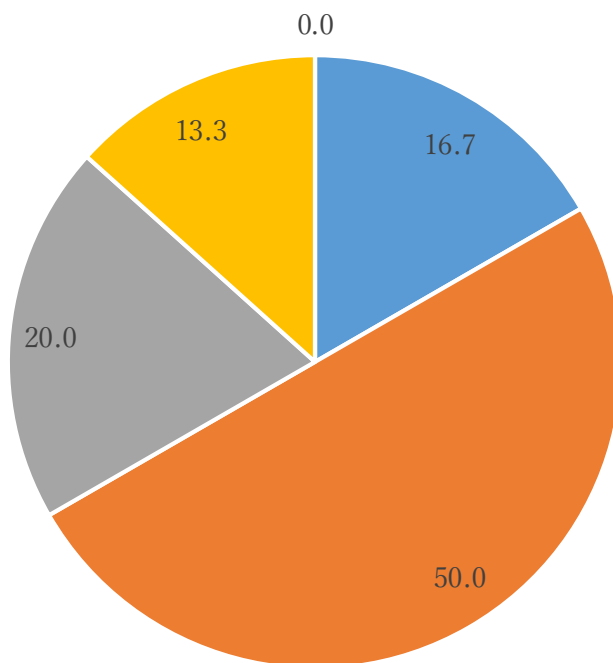
■ かなりできた ■ できた ■ 普通 ■ 難しかった ■ かなり難しかった

インタビュー調査を実施したことでのまなびはありましたか？



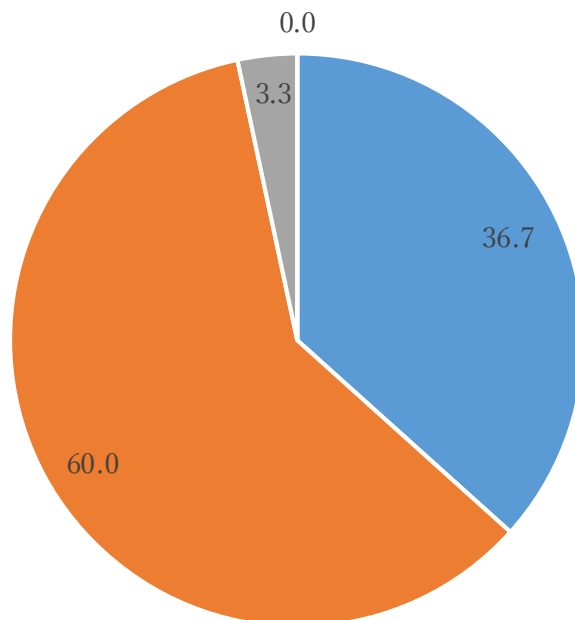
■ 大いにあった ■ あった ■ あまりなかった ■ どちらともいえない

連携の可能性について



■ かなりできる ■ できる ■ 普通 ■ 難しい ■ かなり難しい

自分たちのインタビューの目的としていた取れ高はどれくらいでしたか？



■ 大いにあった ■ あった ■ あまりなかった ■ どちらともいえない

3 自由意見(抜粋)

- ・100%すべての人にマッチングしないので、1つの団体に偏るのではなく、少しでも多くの事情に対応できるよう制度や機関の充実が必要
- ・正しい知識を得るため（当事者理解）の学習機会を提供することは社会教育の役割である
- ・地区公民館の認知度の低さを認識
- ・講師の発掘にインタビューは効果的
- ・せっかくのつながりを途切れさせないためにも、今後も交流していきたい
- ・インタビュー先と人づくり、地域づくりの目線の共有ができた
- ・情報化社会になり、団体に加入しなくてもいい人たちが増えた（個人主義）、障害者スポーツの人気
- ・地域の方々にはたくさんの知識や技能を持っている人がいることを知った
- ・じっくりと話をすることで、課題が見えてきて、ヒントをつかむことができた
- ・インタビューすること、インタビュー先を考えること、質問なども難しかった
- ・限られた時間でのインタビューの難しさ・・・

4. まとめ

このインタビュー調査は、社会教育関係職員が、連携のきっかけのつかめない身近な地域の人や団体をターゲットに新しいつながりを築くことを目的に実施し、職員と地域団体等との新しい関係性を構築することができました。

普段の会話ではなく、インタビューという形で実施したことによって、地域団体等の活動内容や活動に対する想い、ニーズをじっくりと聞くことができ、連携の可能性を探るとともに、お互いの関係性が深まりました。関係性が深まったことで、職員自身の意識や視野が広がりました。

また、インタビュー調査を通して、職員の「聞く力」とインタビュー内容を学習課題につなげるスキルアップとともに講師依頼などの実利もあったことから、職員のモチベーションの向上も図ることができました。調査は社会教育関係職員の資質向上や地域資源の活用に寄与する重要な手段であり、継続的に実施すべきであるため、来年度以降も継続する方向で協議しています。

最後に、インタビュー結果を連携先情報のデータベースとして課全体で共有します。職員が連携を意識することで、地域への眼差しが広がり、地域資源を活用したプログラムの充実を期待します。

参考資料

インタビュー調査先一覧

NO.	インタビュー対象者 (カテゴリー)	インタビュー日	インタビュー 時間(M)	対応館・担当等
1	市民活動団体	R5.6.23	60	中央地区公民館
2	市民活動団体	R5.6.26	60	中央地区公民館
3	市民活動団体	R5.6.21	70	中央地区公民館
4	企業	R5.6.16	120	中央地区公民館
5	幼稚園・学校・大学関係	R5.6.12	60	三川地区公民館
6	幼稚園・学校・大学関係	R5.6.14	35	三川地区公民館
7	幼稚園・学校・大学関係	R5.6.26	30	勝立地区公民館
8	企業	R5.6.20	50	勝立地区公民館
9	幼稚園・学校・大学関係	R6.6.16	50	勝立地区公民館
10	企業	R5.7.13	60	吉野地区公民館
11	幼稚園・学校・大学関係	R5.6.27	40	吉野地区公民館
12	幼稚園・学校・大学関係	R5.8.8	30	吉野地区公民館
13	企業	R5.6.26	45	三池地区公民館
14	幼稚園・学校・大学関係	R5.6.28	50	三池地区公民館
15	市民活動団体	R5.7.12	75	三池地区公民館
16	市民活動団体	R5.7.14	30	手鎌地区公民館
17	企業	R5.7.5	50	手鎌地区公民館
18	市民活動団体	R5.6.14	60	手鎌地区公民館
19	市民活動団体	R5.6.22	25	駿馬地区公民館
20	行政関係	R5.6.21	30	駿馬地区公民館
21	市民活動団体	R5.6.14	40	駿馬地区公民館
22	行政関係	R5.6.23	45	地域学習担当
23	サロン	R5.6.22	90	生涯学習担当
24	サロン	R5.6.21	60	生涯学習担当
25	サロン	R5.6.15	120	生涯学習担当
26	市民活動団体	R5.7.28	30	生涯学習担当
27	市民活動団体	R5.6.19	60	生涯学習担当
28	市民活動団体	R5.6.23	60	次世代育成担当
29	市民活動団体	R5.8.4	30	次世代育成担当
30	市民活動団体	R5.9.16	30	次世代育成担当

Ⅵ 考察

1. 考察を行うにあたって

平成 30 年度と現在の社会教育・生涯学習の状況を比較し、新型コロナウイルス感染の影響を含めて、市民の学習活動に対する意欲、学習ニーズ、ライフスタイルの変化を把握するために前回同様に「市民意識調査」「若者意識調査」「ローリング調査」を実施しました。

その結果に基づき、社会教育・生涯学習行政の方針を示すための考察を行い、次期総合計画(マスタープラン)の施策に反映することとしました。

市民意識調査の結果の一部を紹介すると、ここ 1 年間の生涯学習の実施状況について、「特にしていない」37.7%となり、令和 4 年の内閣府による同様の調査における「学習していない」24.3%と比較するとおよそ 1.5 倍となっています。

また、「特にしていない」と回答した人に「生涯学習をしない理由」を複数回答可で尋ねたところ、「仕事で時間が取れない(41.8%)」、「どのような活動があるのかわからない」(29.1%)「特に必要がない」(27.7%)が 25%を超えていました。「特に必要がない」は前回調査 10.8%から 27.7%と増加しており、新型コロナの影響による学習に対する意識の変容が見られました。

若者意識調査の結果の一部では、自身が企画・実施するボランティア活動や地域活動に関心があるかという問いでは、前回調査では「関心がある」「やや関心がある」(69.9%)→(38.6%)となっています。「やや関心がある」から「あまり関心がない」へ変化が見られますが、「関心がある」数値はあまり変動がありませんでした。若者のなかに一定数ボランティア活動や地域活動に興味を持つ層がいることから、今後人材発掘していく必要があると考えます。

ローリング調査のなかでも、今後もオンラインと対面の両方を考えながら、事業展開をすることの大切が記載されています。社会のオンライン化の進展により、どこでもインターネットを活用した知識の獲得や他者との交流ができる環境が整備されるなか、学習の意義の問い直し、高度な情報提供が求められてくることが想定されます。

本考察では、上記の調査の結果、明らかになったことと中教審生涯学習分科会の論点整理や第 4 次教育振興基本計画など国の動向をふまえ、今後、本市の社会教育・生涯学習行政として取り組むべき内容を考察としてまとめました。

2. 具体的な考察内容

(1)生涯学習社会・社会的包摂の実現と多様化する学習活動の環境整備

生涯学習は、人々の教養を高め、多様な人々と出会い、自己実現を促す重要な学習であり、長寿化が進展する人生 100 年時代において、生涯を通じた全ての人のウェルビーイングの実現につながるものです。特に、今後は社会的包摂の実現のために、障害者や外国人等のニーズに応じた生活に必要な学びを支援することが求められます。また、個人の学びを通じて個人の成長や地域・社会への貢献に繋がる「知の循環」を築くためには、多機関・多職種連携の連携を促進し、生涯学び、活躍できる環境整備を図る必要があります。

環境整備としては、市民意識調査と若者意識調査の結果から、生涯学習の場所や形態が「情報端末やインターネット」「テレビやラジオ」にシフトしていることが明らかになりましたが、令和3年度には社会教育施設にWi-Fiを整備するなど、オンライン学習を支える基盤整備を行いました。今後もハイブリッドの事業等を実施していくことが求められます。

一方、生涯学習をしない理由としては、上記のとおり「どのような活動があるのかわからない」(29.1%)「特に必要がない」(27.7%)であることから、無関心層へのアウトリーチとともに、活動が分からない層にアプローチすることも重要となっています。

そのため、多様性を考慮しながら、学習内容の充実とオンライン、SNSなどを活用した効果的な情報発信を進め、市民の学習意欲を高める取組を行う必要があります。

(2)持続的な地域コミュニティの基盤に向けての地区公民館の機能向上

地域コミュニティの基盤を固め、持続的な発展を促進するためには、地区公民館の機能向上が不可欠です。第4次教育振興基本計画において、公民館に対する期待は高まっており、公民館が多岐にわたる社会的ニーズに対応する役割を果たすことが期待されています。

まず、社会的包摂を実現するために、不登校や引きこもり、外国人、障害を抱えた人々など、社会的に弱い立場にある子供・若者や市民の支援を行う場としての役割が強調されています。

さらに、公民館は地域課題の解決に取り組み、住民相互の学び合い・交流を促進することで、持続可能な地域コミュニティの基盤を築くことができます。

具体的には、地域において人々の関係を育むためには、公民館等の「学び」を通じて人々の「つながり」や「かかわり」を作り出し、協力し合える関係としての土壌を耕します。この土壌が地域コミュニティの基盤ひいては社会全体の基盤となり、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環を作り出していくことから、公民館職員の資質や公民館の機能向上を図ることが重要となります。

また、機能向上を図る上では、社会教育の施策と、福祉、防災、DX(デジタルトランスフォーメーション)の関連施策との連携を推進するとともに他部局・多職種とも連携強化が必要です。

地区公民館の機能向上とともに社会教育関係職員には、「人と人」、「人と団体」、「団体と団体」をつなぐ重要な役割を担っています。今後は、そうした役割を果たせるよう必要な力量とともに社会の急速な変化に対応する現代的な課題を学習化する力量を形成するためには、職員の研修の充実を図る必要があります。

(3)持続可能な社会の創り手を育むことを目指したSDGs/ESD事業の展開

本市の強みとして、小・中・特別支援学校すべてがESDの推進拠点として位置付けられているユネスコスクールに加盟し、国内外の学校間の交流や好事例の発信等の活動の充実を図っています。国においては、学習指導要領等に基づき、各学校段階において、ESDの目的である「持続可能な社会の創り手」を育むことが明確化されていることから、今後もESDの強化とSDGsの17の全ての目標実現へ向けて取り組んでいく必要があります。

学校向けのSDGs/ESDの推進は、グローバル人材の育成にも寄与する取組であることから、学校と連携し、多くの児童生徒学生等がグローバルな環境と地域と交流を図りながらで活動する体験の機会を提供が必要です。

また、地域向けのSDGs/ESDの推進は、地域住民が、現代社会における地球規模課題の諸課題を自らに関わる問題として主体的にとらえ、その解決に向けて自分で考え、行動する力を身に付けるとともに、地域住民の新たな価値観や行動等の変容をもたらすため、さらなる学習活動の機会の提供が求められます。

上記2つのSDGs/ESD事業を推進することで、地域課題解決の糸口を探ること、地域の人材発掘、地域の造り手を育んでいく必要があります。また、さまざまな地域団体と連携を図ることで、地域や社会全体で青少年を健やかに育てる仕組みづくりやコーディネートを目指すことが必要です。

(4)地域と学校の連携・協働の推進への支援

本市では、小中一貫教育を推進するとともに、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に促進し、地域との連携・協働を強化する体制を構築しています。また、来年度からは、不登校などさまざまな事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した方などの多様な学びを保障している、公立の夜間中学を設置する予定です。さらには学校再編計画の策定も進行中であり、これらの取組により、学校教育を取り巻く環境が一層変化することが予想されます。

地域社会が共に育む地域と学校の連携を推進し、地域の未来を担う子供たちの教育環境を整えるとともに、地域の課題解決のプラットフォームとなる学校を中心とした地域づくりを進める必要があります。地域住民が協力し、子供たちの学びの場を学校から地域社会に広げ、次世代の社会のリーダーとしての成長を支援していくことが求められます。

市民意識調査において、学校を支援する活動に参加したことがないと回答した人の割合が3分の1以上であることから、まずは地域の人々に地域全体で子供たちの育成の重要性を認識してもらう必要があります。そのためには、適切な情報発信と共に、地区公民館が地域と学校の連携・協働をサポートし、コーディネートする役割が求められます。

(5)一貫した青少年教育の推進の若者のまちづくりの参画

ローリング調査においても分かるように、各小学校では夏休みなどの機会を捉えて体験講座とともに保護者向けの家庭教育支援事業を実施し、次世代育成担当では、今年度から中学生向けのリーダー養成講座、高校生のまちづくり体験事業を実施して小学生から高校生まで切れ目のない体験事業を実施しています。しかしながら、事業のつながり、担当毎の連携はあまりできていないのが現状です。特に中学生から高校生については、リーダー養成講座を実施するにしても単発ではなく、一貫的に青少年教育がつながるよう、担当の連携を図りながら、内容の充実に努めることが必要です。

また、高校生のまちづくり体験事業や公民館での高校生の事業においては、事業が終わってしまっただけで終了というケースが起こっていることから、その後の活動につなげるための取組が求められています。

若者のまちづくりへの参画も他部局とのすみ分けや社会教育関連の若者の明確な担当分けができていませんでしたが、今後は、地区公民館が活動拠点となり、若者のまちづくりへの参画や活動を伴走する支援者としての役割を位置付けて取り組んでみることも考えられます。

(6)社会教育施設の機能向上(職員の力量形成、事業内容の充実)

「市民意識調査」では、行政に対する要望として、『次世代を担う若者への教育の充実』が最も高く、社会教育施設における若者への教育への期待が高いことが伺えました。『専門的な職員や指導者の配置』も4番目に高くなっています。

また、新型コロナウイルスの影響で、社会教育関係職員の地域とのつながりの希薄化、地域を知ること、視野や問題意識を広げられなかったといった課題を解決するために、「インタビュー調査」を実施しました。職員もインタビュー調査を通じて、「聴く力」「ファシリテーション力」が必要であることに気づき、来年度以降もインタビュー調査を実施することになりました。

社会教育関係職員には、「人と人」、「人と団体」、「団体と団体」を結ぶ重要な役割を担っており、今後は、そうした役割を果たせるよう必要な力量を形成する必要があります。社会の急速な変化に対応する現代的な課題を学習化することなど事業内容を充実させるためには、職員の研修による力量形成を図る必要があります。

市民の生涯学習、ボランティア活動及び地域活動を推進するためには、今回の調査で得られたさまざまなデータや、明らかになった課題などを踏まえ、社会教育施設(特に住民に一番身近な地区公民館)における事業の在り方や手法を見直す必要があります。

第3章 基礎調査結果に基づいた本市の社会教育・生涯学習の施策の在り方

I 本市社会教育・生涯学習行政を取り巻く現状と課題

本市の人口は昭和34年をピークに減少の一途をたどっており、前回調査研究を行った平成30年10月1日現在では、115,557人だった人口が令和5年10月1日現在では106,974人となっています。

高齢化率については、令和5年10月で37.8%と、福岡県や全国と比較しても約8～9ポイント高く、高齢者単身世帯数も高齢者人口40,440人のうち15,203人と、高齢者の3人に1人以上が単身世帯となっています。さらに人口減少とともに少子高齢化によるこれからの生産年齢人口の減少、労働力不足が想定される状況です。

このような状況のなか、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、地域の行事などが中止や延期を強いられたことから、特に校区まちづくり協議会等においては、担い手の発掘や育成に関する課題が大きくなっていると同時に、役員の高齢化が急速に進行しています。

本市では、こうした地域コミュニティのつながりの希薄化を背景に、平成28年4月に「大牟田市協働のまちづくり推進条例」を施行し、市民と市との「協働のまちづくり」を推進しているところです。さらに、令和4年度においては、「地域コミュニティの今後の在り方に関する市民アンケート」を実施し、地域コミュニティ組織において課題となっている「加入率の低下」や「役員の高齢化」、「地域の担い手不足」に焦点を合わせた、今後の地域コミュニティの活性化に向けた検討を行っているところです。

地域コミュニティの状況のみならず、社会教育・生涯学習行政を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染拡大の影響やDX（デジタルトランスフォーメーション）などの進展により、大きく変化しました。地区公民館においては、Wi-Fi設置や施設予約システムなどを導入し、一定の機能向上を図ることができた半面、サークル数、利用者数が減少するとともに、生涯学習ボランティアの派遣回数などについても激減しました。生涯学習ボランティアの派遣回数については、令和4年度から回復傾向にあります。地区公民館のサークル数についてはコロナ前になかなか戻らない状況です。

一方、令和5年6月に閣議決定された第4期教育振興基本計画では、「子供や若者、社会人、高齢者など、年齢を問わず学び続け、生涯学習を通じて自らの向上や地域や社会への貢献の意欲を持ち、当事者として地域社会の担い手となる人を尊重する社会が目指されるべきであり、そのために社会教育が果たす役割は大きい」。また、「社会教育の充実による地域の教育力の向上や地域コミュニティの基盤」への取り組みが求められると記されていることから、今後も社会教育・生涯学習の推進を図る必要があります。

Ⅱ 本市の特徴や強み

まず、前回の学識経験者から提言された「(3)高校生の郷土愛の醸成と将来的なUターン・定住施策の展開」を、コロナ禍のなか「高校生まちづくり体験事業」として高校生を対象に実施できたことは、大きな成果の一つだと言えます。加えて今までなかなかアプローチできていなかった中学生に対しても、令和5年度から「南筑後地域未来のリーダー育成プログラム」を実施しました。

今後は、一貫した青少年教育の基盤づくりのために、高校卒業後の青年活動や各事業の内容充実を図る必要があります。また、地区公民館にゲーミングPCを設置しての若者向けや世代間交流を目的としてのeスポーツ事業は、全国的にめずらしく、他部局が市内でeスポーツの大会を誘致するとともに、市内企業などと連携し、eスポーツを広げていく土壌づくりが進んでいます。

さらに、学校教育における大きな特徴としては、市内全ての市立小・中・特別支援学校がユネスコスクールに加盟し、SDGs/ESDに積極的に取り組んでいることが挙げられます。今後も学校教育と社会教育の連携によって、まちづくりの次の担い手としての、子どもたちのさらなる成長と地域においては地域力の向上も期待できます。

また、小中一貫教育と地域学校協働活動の推進や令和6年度開校予定の「公立夜間中学」は、義務教育未修了者に加え、外国籍の者や不登校となっている学齢生徒等の多様な生徒を受け入れる重要な役割を担っていることから、これからの共生社会の実現に向けた動きと言えます。社会教育施設の機能面でも、全ての施設にWi-Fiを整備したことで、オンライン配信やハイブリッド講座の実施など学習の幅が広がるとともに、施設予約システムの導入により、利用者のサービス向上を図りました。

本市には、「生涯学習ボランティア」として登録し、希望する団体などへ派遣する生涯学習ボランティア登録派遣事業「まなばんかん」があります。この「まなばんかん」で活躍する人達をはじめ、学習意欲を持ち、地域のために行動するアクティブシニア層が多いことも特徴のひとつと言えます。人生100年時代におけるアクティブシニアの活躍は、これからのまちづくりを支える重要な役割を担うものと期待されます。

Ⅲ 本市の社会教育・生涯学習施策の方向性

本市を取り巻く現状と課題、基礎調査結果、さらには、本市の特徴や強み等を検証した結果、これからの持続可能な社会や共生社会の実現のためには、それを支える担い手づくりが最重要課題であると考え、次世代を担う子どもたちの主体性を大切にしながら、地域や社会全体で育てることを、これからの社会教育施策の中心に据えることとしました。

具体的には、子どもたちが、家庭や学校、地域において様々な人と関わり、体験をする中で、自己肯定感を高めるとともに、高校生を中心とした若者については、郷土愛の醸成を図ることでまちづくりへ参画する姿勢を確立する取組みを進めます。さらに、地域においては、子どもも大人も、地域の課題を自分ごととして捉え、当事者意識を持って行動する人づくりを進めます。

これらの取組みが地域全体へと広がり、人口減少の中にあっても持続可能なまち、生涯を通じたウェルビーイングの向上へとつなげるために、「**学びを通じた人とのつながりの促進と、地域で**

自ら行動するひとの育成」を施策の柱(基本施策)として位置付けます。

そのためには、施策を推進する基本的な考え方や方向性（視点）として、子どもたちの社会を生き抜く力と、まちづくりへの参画への意識を育むこと ⇒「**視点1 次世代を担う子どもを地域や社会全体ではぐくむ**」、SDG s /ESD の理念を社会教育に取り入れて、SDG s /ESD による持続可能な地域づくりを進めること ⇒「**視点2 SDG s /ESD を通じた、人づくり、つながりづくり、地域づくり**」、視点1と視点2を支えるための環境づくりを充実させること ⇒「**視点3 学習環境の整備・充実**」、様々な人の学習活動・地域活動・ボランティア活動の支援を行うこと⇒「**視点4 社会教育施設の機能向上**」、の4つの視点に取り組みます。

なお、これらの社会教育・生涯学習施策の方向性については、第7次大牟田市総合計画においても基本施策や施策推進の視点に掲げ、施策の実現に向けて諸事業に取り組みます。

IV 施策推進の視点と具体的な取組

視点1 次世代を担う子どもを地域や社会全体ではぐくむ

第4期教育振興基本計画では、「生涯学習の推進に当たっては、ICTの活用などによる柔軟な学習機会の一層の充実を図る必要があるとともに、学校教育と社会教育が連携することも重要です。また、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進により、学校と地域住民が連携・協働することで、子どもたちの学びの場を学校から地域社会に広げ、次世代の社会の担い手としての成長を支えていくことが求められる。」と示されています。

そのような中、本市では、全ての市立小・中・特別支援学校がユネスコスクールに加盟していることから、学校教育と社会教育が連携することで、子どもたちが様々な体験や活動を通じて、自己肯定感を高めるとともに郷土愛の醸成を図ります。そのためには、学校のSDG s /ESDの取り組みだけではなく、社会教育においても、子どもの体験事業を充実させることで、子どもたちが地域の人と関わる機会を増やし、自己肯定感の向上を図ります。また、次世代を担う子どもをはぐくむうえで、家庭教育は最重要であることから、今後も家庭教育支援事業の充実を進めます。

さらに、中学生や高校生を中心とした若者については、この時期に地域の具体的な課題など実社会における課題解決学習やキャリア教育など、様々な活動を通じて主体的に社会の形成に参画する態度を育成していく必要があることから、まちの事をよく知る機会や働く人を知る機会を設け、企画から実践まで若者自らが行き、まちづくりに参画する取組みを行います。

また、「まなばんかん」への登録をはじめとした、学習意欲をもち、地域のために行動するアクティブシニア層が多いといった強みを活かし、子どもの主体性を大切にしながら成長を支えるような仕組みづくりを進めるとともに、社会的包摂の実現に向けた事業展開を図ります。

次世代を担う子どもたちが、さまざまな体験や活動を通じて、自己肯定感を高めるとともに郷土愛の醸成を図ることで、将来にわたってまちづくりに参画する姿勢をはぐくみます。また、次世代を担う子どもをはぐくむうえで、今後も家庭教育支援事業の充実を進めます。

中学生や高校生を中心とした若者については、さまざまな活動を通じて主体的に社会の形成に参画する態度を育成していく必要があることから、まちづくりに参画する取組を行います。

また、高齢者や子育て世代をはじめとする地域の大人が、学習活動や地域活動を通じて子どもの主体性を大切にしながらその成長を支えていけるよう取組み、各世代が活躍できる社会的包摂の実現を目指します。

【取組み 1】 子どもの体験活動の強化・充実

身近な地域にある学習や体験活動が可能な施設において、さまざまな体験活動事業を実施します。また、将来のまちづくりの担い手となる子どもたちを地域や社会全体で育てるため、子どもや中高生、若者を対象とした他者との協働、体験活動を通して、将来における自己実現ができる取組や、まちづくりに参画しやすい機会づくりを進めます。

特に、義務教育課程が修了するまでの子どもを対象とした、体験活動の強化・充実を図り、郷土愛の醸成を図るとともに、中学生のリーダー育成から高校生等の事業につなげる仕組みづくりに取り組みます。

〈主な事業〉

事業名	内容
次世代を担う人づくり事業	義務教育課程が修了する 15 歳までの子どもを対象に、家庭や学校、地域のさまざまな人と関わり、いろいろな体験・交流を通じて、人間性、社会性、郷土愛を育む事業を行います。
子ども未来デッサン事業	小学校 4～6 年生が、自分の将来のことを考え、夢や目標を見つけるきっかけをつくるとともに、未来へ向かって頑張る姿勢を身につけるための一助となる事業を行います。
南筑後地域未来のリーダー育成プログラム	将来を担う次世代の人財育成に取り組むため、地域の多様な団体と連携して、子どもたちが地域に愛着と誇りを持ち、将来を担う次世代のリーダーとしての資質や社会性を身につけるプログラムを行います。

【取組み 2】 高校生等のまちづくりへの参画

高校生等の若者自らが、ボランティア活動や地域活動を企画・実施することで、地域への愛着や誇り、さらには仲間意識や自己肯定感がはぐくまれ、その結果、継続した地域づくりや社会参加にもつながることが期待できることから、まちづくりに関わり参画しやすい仕組みづくりを推進していきます。

また、第 3 次基礎調査研究の結果では、「行政が力を入れるべき生涯学習のまちづくり」に対して、「次世代を担う若者への教育の充実」が最も高かったことから、取組を通して地域で活動する団体・企業、住民との交流や思いを知る機会を設けることで、将来的な U ターンや定住促進にもつなげます。

〈主な事業〉

事業名	内容
高校生まちづくり部 活動推進事業	高校生を中心とした概ね 18 歳までの若者を対象に、郷土をよりよいまちに変えていこうとする姿勢や、将来にわたってまちづくりに参画する姿勢をはぐくむ事業を行います。

【取組み 3】 各世代に応じた学習機会の提供・支援

学んだ成果を活かすことは、自らの生きがいくつくりだけでなく、培われた豊かな知識や技能、経験を子どもや若い世代に伝えることで、その成長を支えるとともに地域社会に貢献することができます。

そのため、アクティブシニア層や子育て世代をはじめ、各世代を対象とした学習活動の提供や子どもに関わる取組を通じて子どもの成長を支えるとともに、社会の持続的な発展を実現するための取組を推進します。

また、第 3 次基礎調査研究の結果では、「少子高齢化が進む中で特に行政が進めるべきこと」に対して、約半数の市民が「家庭教育の支援」と回答していることや、不登校児童生徒数は増加傾向となっており、個々の状況に応じた適切な支援が求められていることから、家庭教育支援の取組を推進します。

〈主な事業〉

事業名	内容
アクティブシニアデビュー塾	主に高齢者を対象とした学びの機会を提供するとともに、学んだ成果を活かし、子どもと関わる機会を設けることで、個人の成長はもとより、子どもたちの成長を促します。 [ボランティアデビュー編・地域デビュー編・健康実践デビュー編]
家庭教育支援事業	幼児、小学生、中学生の保護者を対象に、子どもの社会的自立と親が子育てを通じて自らの人生を豊かにすることを目指す事業を実施します。

視点 2

SDG s / E S D を通じた、人づくり、つながりづくり、地域づくり

前回調査後に、本市が「SDG s /ESD のまちおおむた」として積極的に SDG d /ESD を推進していることなどを勘案し、社会教育においても SDG s /ESD を通じた、「人づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」を推進することが最も効果的であると考え、公民館 ESD 事業を実施してきました。

そのような中、教育振興基本計画において、「我が国が ESD の推進拠点として位置付けているユネスコスクールを中心に、引き続き国内外の学校間の交流や好事例の発信等の活動の充実を図る。また、学習指導要領等に基づき、各学校段階において、ESD の目的である「持続可能な社会の創り手」を育む。さらには、ESD の強化と SDGs の 17 の全ての目標実現への貢献を通じて、よ

り公正で持続可能な世界の構築を目指す「ESD for2030」の理念を踏まえ、地域の多様な関係者（学校、教育委員会、大学、企業、NPO、社会教育施設など）をつなぐ重層的なネットワークを強化する。」ことが明記されています。

同様に、中教審答申においても、社会教育の役割の中で、「人づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」による学びと活動の好循環の重要性が示されています。

以上のことや、一人ひとりが持続可能な社会づくりの担い手に育つための目標や学びであるSDGS/ESDは、人生100年時代において、生涯を通じてあらゆる場面で実践される必要があることから、今後も地区公民館を中心に学校や地域と連携しながら、積極的に事業展開することが求められます。特に、小中一貫教育や地域学校協働活動等への支援は重要です。

市民の主体的な学びや活動の機会を設けるにあたり、SDGs/ESDの視点を持った取組を展開することで、自ら行動する意欲や地域で活動する力をはぐくむ「人づくり」、活動を進めるための「つながりづくり」、それにより地域が直面する課題を発見・共有し解決していく持続可能な「地域づくり」へとつなげます。

【取組み1】 地区公民館におけるSDGs/ESD事業の展開

中教審の答申では、「生涯学習においては、多様な年代、多彩な属性の他者と共に学ぶことも多く、そうした他者との関係性の中でより豊かな学びにつながるものであることから、ウェルビーイングの実現と密接不可分なものと考えられる。また、社会教育は、地域コミュニティの構成員である住民が共に学ぶものであり、地域づくりの営みという性格を強く持っており、社会の変化に即応したさまざまなテーマを幅広く学ぶことができる。」と明記されています。

持続可能な社会を形成するために、社会教育、特に地域と密接に関係している地区公民館は大きな役割を担っており、事業や学びを通じた「人づくり」・「つながりづくり」を進めることで、多様な担い手との連携・協働が深まり、新しい「地域づくり」へとつながる取組を進めます。

〈主な事業〉

事業名	内容
地域SDGs/ESD推進事業	地域課題の解決に結びつくような学習活動や地域の伝統文化を次世代に継承する取組、地域コミュニティの形成、人材発掘・人材育成につながる取組などを、地区公民館はもとより校区コミュニティセンターや各学校等の身近な地域で行い、持続可能な地域づくりを進めます。 [地域課題解決メニュー・ふるさと学習メニュー・地域コミュニティ推進メニュー]
学校SDGs/ESD推進事業	学校が進めているESDの取組のうち、地域の支援が必要な取組について、地区公民館が地域とのコーディネートを行うもので、地区公民館が学校のニーズを把握し、ニーズに応じた地域との調整や必要な支援を行います。

【取組み2】 ボランティア活動・地域活動の担い手となる人材の発掘及び育成

第3次基礎調査研究の結果では、ボランティア活動・地域活動に参加しない理由として、『参加するきっかけがない』と回答した割合が比較的高かったことから、地区公民館で実施する事業等をきっかけにして自主学習グループ（サークル）を発足・育成するとともに、学んだ成果をボランティア活動、地域活動に活かしていく意識の醸成を図る「知の循環」を推進します。

また、中高校生等を含めた若者世代や子育て世代のボランティア活動へのはじめの一歩となるきっかけとなる場づくりを提供します。さらに、ボランティア活動を行っている（行いたい）市民や団体に対しては、生涯学習ボランティア登録派遣事業（愛称：まなばんかん）（以下「まなばんかん」という。）への登録を促し、ボランティア活動の機会の提供を行います。

〈主な事業〉

事業名	内容
サークル社会参加促進事業	成人事業やアクティブシニアデビュー塾を通じ学んだ人が継続して発展的な学習活動ができるよう、きっかけづくりから、自主的に活動するサークルの育成を図ります。 また、地区公民館サークルが、学んだ成果を活かした社会貢献の必要性や社会貢献が身近なものであることを理解し、研修で学ぶことによって、社会参加・貢献活動・交流のさらなる促進を図るきっかけとします。
地域の ICT を支援する人づくり事業	地域のデジタルデバイド解消のため、地域の ICT をつなぐボランティア養成講座を実施し、ボランティアに活動の場を提供します。

【取組み3】 学んだ成果を活かす活動の場や機会の創出

第3次基礎調査研究の結果では、「学んだ成果を地域活動やボランティア活動に活かしたい」と思っている市民が約6割に達し、また学んだ成果を活かすために必要なこととしては、「時間的なゆとりがある」「経済的なゆとりがある」ことが上位となっています。

このため、地区公民館の講座等における「まなばんかん」登録者の活動の場の提供など、学習の成果を地域活動に活かすとともに、新たな課題の解決のためにさらなる学習活動へとつなげる取組を推進します。

また、地区公民館の文化祭等を通じて、地区公民館で活動するサークルが自分たちの学んだ成果を発表する場や機会を創出し、身近な地域への関心を深めるとともにまちづくりへ参画する意識の醸成を図ります。

〈主な事業〉

事業名	内容
生涯学習ボランティア登録派遣事業（まなばんかん）	さまざまな経験や学習によって培われた知識や技能を、社会のために活かそうとする人を「ボランティア登録者」として登録し、その登録者を活用したい団体などに派遣する事業を行います。

地区公民館文化祭事業	地区公民館で活動しているサークルが中心となって、年に1回、演芸、展示など学んだ成果を発表する文化祭を行います。地域の学校等、各種団体との連携を図り、地域と地区公民館のふれあいの場を創出します。
地域SDGs/ESD推進事業【再掲】	地域課題の解決に結びつくような学習活動や地域の伝統文化を次世代に継承する取組、地域コミュニティの形成、人材発掘・人材育成につながる取組などを、地区公民館はもとより校区コミュニティセンターや各学校等の身近な地域で行い、持続可能な地域づくりを進めます。 [地域コミュニティ推進メニュー]
アクティブシニアデビュー塾【再掲】	主に高齢者を対象とした学びの機会を提供するとともに、学んだ成果を活かし、子どもたちと関わる機会を設けることで、個人の成長はもとより、子どもたちの成長を促します。 [ボランティアデビュー編・地域デビュー編・健康実践デビュー編]

視点3 学習環境の整備・充実

新型コロナウイルスの感染拡大の影響等により、情報端末やインターネットを活用するなど学習活動においてもデジタル化が進んでいます。今後も住民のデジタルリテラシーの向上を目指すため、いつでも、どこでも、誰とでも、自分らしく気軽に学ぶことができる環境整備や学習活動・地域活動等の情報発信を行うことが必要です。また、事業についても、今までの対面だけではなく、オンラインを活用することで、参加がしやすくなるよう間口を広げるなど、学習環境の充実を図ります。

さらに、学んだ成果を社会に還元させる「知（学び）の循環」の仕組みづくりとともに、生涯学習、ボランティア活動、地域活動に参加しやすい、参加したくなる取組みを推進します。

教育振興基本計画においても、「人生100年時代やVUCA（予測困難）の時代など、社会の構造的な変化に対応するため、学校教育における学びの多様化とともに、社会人の学び直し（リカレント教育）をはじめとする生涯学習の必要性が高まっています。」と示されています。

そのような取組を進めていくためには、市民の学習のコーディネートを行う社会教育関係職員のスキル向上や行政内の関連部局や企業、団体等の多様な主体との連携強化、多職種多機能連携が求められています。

さまざまな学習情報を入手しやすいよう、情報発信を工夫するとともに、対面だけではなく、オンラインを活用した学習の場を提供します。さらに、市民がいつでも、どこでも学習活動を行えるよう環境整備を図り、学んだ成果を社会に還元させる「知（学び）の循環」の仕組みづくりとともに、生涯学習、ボランティア活動、地域活動に参加してもらうような取組を促進します。

【取組み1】 生涯学習、ボランティア活動、地域活動に関する情報提供の強化

本市では、第2次基礎調査の結果とその後の研究を踏まえ、令和4年4月に「大牟田市学習情報の発信に関するガイドライン」を策定しました。しかしながら、第3次基礎調査研究の結果では、「ボランティア活動を盛んにするために必要なこと」及び「地域活動を行っていない理由」につ

いて「活動に関する情報が必要(不足している)」の市民の割合が高くなるとともに、日頃学習活動を行っていない人(行えない人)が行政に対して求めていることにおいても「学習情報の提供」が高くなっています。

今後も年齢などターゲットに合わせた情報発信を行い、学習活動・地域活動・ボランティア活動を促すための工夫を施すとともに、紙、SNS、HP、ショートムービーを含む動画などあらゆる手段を講じながら、学習・活動に関する情報提供に取り組み、多様な学習機会の提供を行います。

〈主な事業〉

事業名	内容
学習情報提供事業	市内で行われる各種講座、イベント、サークルの会員募集等に関する情報収集を行い、それらの情報を広く市民に周知するための学習情報誌を定期的に発行します。また、学習活動を行っていない人やあらゆる世代に学習情報が届くよう、紙面だけでなく、LINE、メール配信システム「愛情ねっと」等、多様な媒体を活用してさまざまな学習に関する情報を提供していきます。特にインターネットやSNSを活用したPRを行うため、学習情報の動画配信に取り組みます。
多様な学習機会提供事業	学びの多様化に対応するため、オンラインやインターネットを活用する学習機会の提供に取り組みます。

【取組み2】 多様な学習活動のきっかけや場の提供

新型コロナウイルス感染拡大で急速に進展したオンラインの影響で、生涯学習した場所や形態は大きく変化しました。一方、社会やライフスタイルの変化等により、人と人とのつながりの希薄化、障害者や高齢者などに関する課題が顕在化・複雑化しています。

そのため、地域が直面する課題を把握するとともに、地域づくりにつながる学習活動や住民ニーズに合った事業の展開のため、今後は、地区公民館等の社会教育施設はもとより、学習可能な施設の活用や、さらにはオンラインによる事業の実施とともにさまざまな関係団体等と連携を図りながら、共生社会に向けた講座等を展開するなど、より多様な学習・活動の場を設けます。

〈主な事業〉

事業名	内容
地域SDGs/ESD推進事業【再掲】	地域課題の解決に結びつくような学習活動や地域の伝統文化を次世代に継承する取組、地域コミュニティの形成、人材発掘・人材育成につながる取組などを、地区公民館はもとより校区コミュニティセンターや各学校等の身近な地域で行い、持続可能な地域づくりを進めます。 [地域課題解決メニュー・地域コミュニティ推進メニュー]
多様な学習機会提供事業	市職員が市民のもとへ出向き市政についての講義・実習等を行う「メニューいろいろまちづくり出前講座」や企業が持つ専門的な知識・技能を市民のもとへ出向いて講義・説明等を行う「企業出前講座」等の取組を推進します。

さまざまな人の学習活動・地域活動・ボランティア活動の支援を行うため、社会教育施設の今後の在り方を検討するとともに、施設の機能向上を進めます。

【取組み 1】 社会教育施設の機能向上

まちづくりや地域の課題解決のためには、熱意を持って取り組む多様な人材を、社会教育の活動の場に巻き込み、連携体制を構築することが必要です。そのためには、社会教育関係職員がコーディネート能力を十分発揮することが必要です。

第3次基礎調査研究の結果においても、行政に対する要望として、「専門的な職員や指導者の配置」を求める割合が3番目に高くなっていることから、社会教育関係職員が、地域づくり等に対する当事者意識を育む取組を支援できるよう、必要なスキルの向上を図ることが必要です。

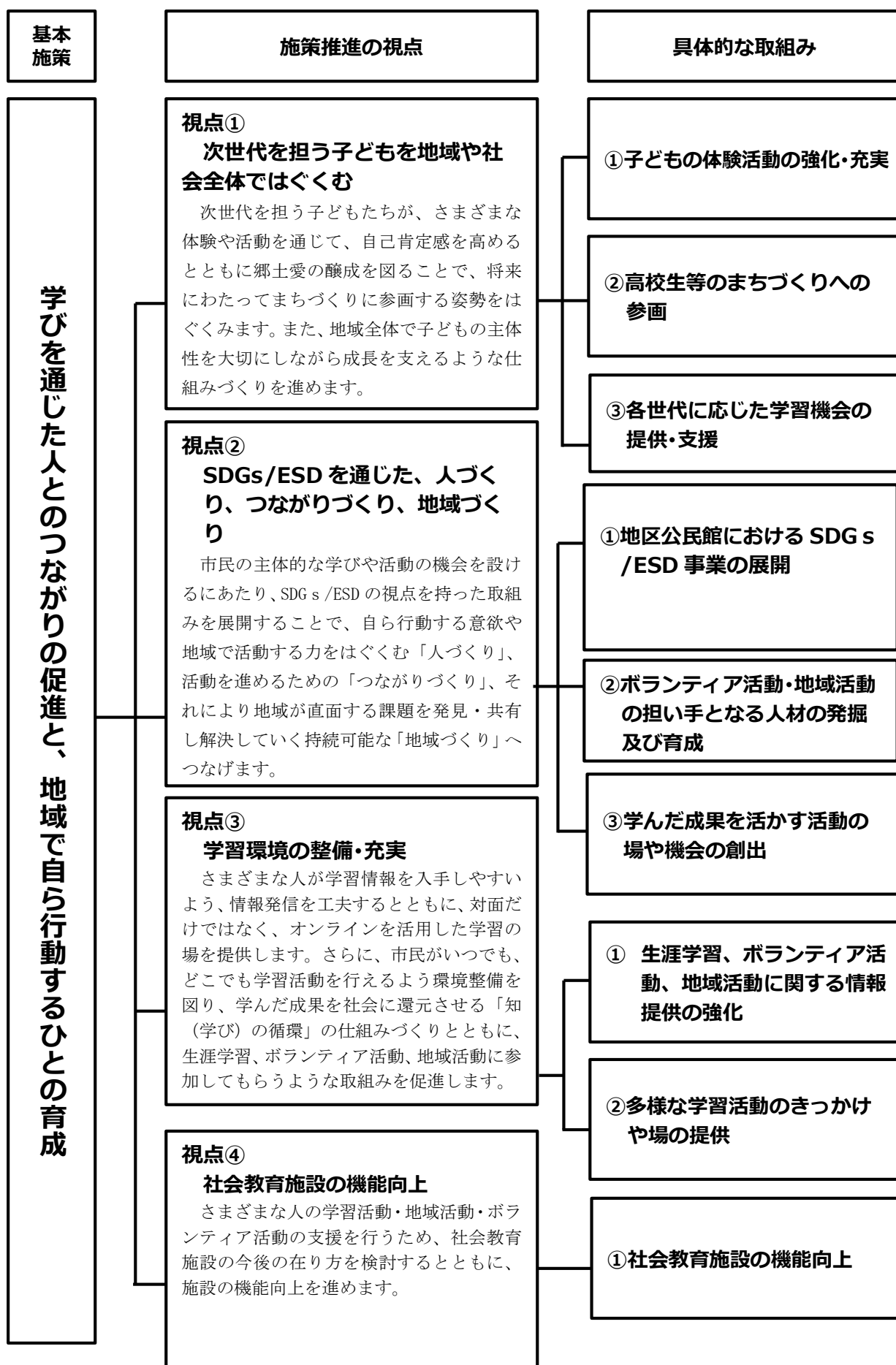
一方、本市においては、令和4年度に高校生等の若者向けに地区公民館にゲーミング PC を設置しました。今後は、高校生等の若者が抱えている現代的な課題、ニーズに合った事業展開を図るとともに、さまざまな団体とつなぎ、まちづくりへの参画の「はじめの一步」を支援する活動の「場」としての機能向上を図ります。

また、施設の老朽化や他の施設との機能の重複が見られることから、学校の再編計画や新たな公共施設の建設・廃止などの動きを注視しながら、施設の適切な管理、機能等の確保に努めていきます。

〈主な事業〉

事業名	内容
つながる地域づくり事業	e スポーツを活用した取組みを行い、若者の活躍、交流を図り、取組を通して、多様な人と交流し、地域の担い手として育成されることを目指します。また、若者のニーズや課題に対応した事業を行うことにより、まちづくりへの参画の「はじめの一步」を支援するとともに社会教育関係職員のスキルの向上を図るために、研修を実施します。
地区公民館整備事業	施設の適切な管理、機能の確保に努め、施設の長寿命化を図ります。

V 社会教育・生涯学習を推進するための施策の体系



Ⅵ 社会教育・生涯学習基礎調査研究の結果を踏まえた今後の推進体制の在り方について

1. 施策の推進に必要な体制の在り方について

第3期調査研究において導き出した4つの視点に基づいた各施策を推進するためには、必要とされる機能が十分に発揮できるような事業推進体制を整える必要があります。一方、令和2年7月豪雨災害や新型コロナウイルス感染症などの影響により事業の休止や変更の事態が発生したため、現推進体制の評価や総括を行うには困難な状況となりました。

このようなことから、現推進体制を大幅に見直すことはせずに、第2期調査研究において示した各部門の役割や機能などの実現に向けて継続して体制整備に取り組むとともに、第3期調査研究を踏まえ、各部門の役割や機能などについて一定の見直しを行うことが必要と思われます。

(1) 企画調整を行う部門の役割と機能について

●第2期調査研究において導き出された企画調整部門の主な役割

- ①各種施策の進捗管理及び関係機関との総合調整機能
- ②社会教育主事を中心とした指導助言、社会教育関係職員の人材育成機能
- ③社会教育・生涯学習情報の発信に関する調整機能
- ④学校教育機関との必要な連携と情報交換及び窓口機能

第2期調査研究において、社会教育・生涯学習に関連する施策の総合的な企画や情報の管理、各視点に掲げた取組みなどの推進や進捗管理を行うために企画調整部門を設けることや、関係部署や教育機関をはじめとした関係機関との連携が円滑に進むよう、連絡調整を図る窓口機能を設けることとしました。

このうち、社会教育・生涯学習に関する情報については、市民に十分な情報が届いていないことが判明しただけでなく、生涯学習を特に必要としない市民も増加するなど、新型コロナウイルス感染症の影響による意識の変容が見られたことから、これまでの情報発信(情報内容・情報量・発信方法)や調整機能の見直しや強化が必要と思われます。

また、社会教育主事を中心とした指導助言、社会教育関係職員の人材育成機能については、社会教育関係職員に対する研修などの充実は実現できたものの、事業実施部門が実施する事業等に対する社会教育主事の指導助言については、組織上において異なったセクションとなっていることから、指導助言の反映や緊密な連携が充分でない面も見受けられます。このため、社会教育主事による指導助言体制の強化を図ることが必要と思われます。

(2)事業実施部門の役割

●第2期調査研究において導き出された事業実施部門の主な役割

- ①地区公民館などの社会教育施設等での事業の企画・実施
- ②拠点施設を伴わない事業を中心に企画・実施
- ③学校や関係機関団体、地域等との連携による ESD 事業の企画・実施
- ④学校の ESD を支援するための事業の企画・実施

第3期調査研究において導き出された視点1や2に係る施策の取組に掲げる事業を実施するとともに、学校教育施設や各種社会教育施設、その他関係機関・団体等との連携により、人づくり・つながりづくり・地域づくりを展開する役割を担うこととなります。

第2期調査研究において導き出された事業実施部門の主な役割については、今後も継続して担うこととしますが、国が示した今後の教育政策に関する基本的な方針の中で、持続的な地域コミュニティの基盤形成に向けて、公民館等の社会教育施設の機能強化や社会教育人材の養成と活躍機会の拡充を図ることや、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進、家庭教育支援の充実による学校・家庭・地域の連携強化などが示されたことから、特に地域コミュニティ施策への社会教育面での積極的な関わり、さらには、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動に対する積極的な関わりを持つための機能強化が必要と思われます。

(3)事業推進体制構築に必要な体制面での課題解決に向けて

新たな施策を推進するためには、現体制における課題を解消し、効果的・効率的に事業を推進する体制の構築や役割などの見直しを図る必要があります。

1) 社会教育・生涯学習関連業務の再構築

これまでの経過でも述べましたように、令和2年7月豪雨災害や新型コロナウイルス感染症などの影響により事業の中止などが生じるなど、令和3年度以降も再構築を行うことができませんでした。

このようなことから、令和6年度からの新たな社会教育振興プランの策定に当たり、再度、事業の再検証を行い統廃合も含め、継続的に再構築を図る必要があります。

2) 関係性が深い分野との連携強化と役割分担

地域コミュニティ分野や学校教育分野は、社会教育・生涯学習分野と深い関連性があるものの異なったセクションによる施策推進が行われています。また、地区公民館においては、防災拠点としての活用のみならず、住民相互の交流やフレイル予防などの健康づくり、介護予防の拠点としても活用されています。また、地域課題の解決を図るためには、行政内部にとどまらず、他職種・多機関とも連携を図ることが求められています。

このような状況を踏まえ、関係性が深い分野とのより一層の連携を図るとともに、それぞれが持つ役割と目的を明確にし、「重複」や「隙間」のない行政運営を行う必要があります。

施策推進にあたってのいくつかの課題

第3章に示した本市の社会教育・生涯学習施策の方向性や施策推進の視点と具体的取組みを受けて、本調査研究の助言者である西九州大学の上野教授から、施策を推進するうえで、以下のような助言をいただきました。

西九州大学副学長 上野 景三

I はじめに

今回の施策推進にあたってのいくつかの課題をお示しするのは、前回の2019（令和元）年度の施策提言に引き続き、2023（令和5）年度提言は、2年間にわたる基礎調査とヒアリング調査を踏まえ、その結果から導き出される社会教育・生涯学習の施策展開について課題を、いくつか提示しようとするものです。その際、留意していただきたい点が二つあります。

一つには、行政の施策であることから、これまでの施策との一貫性や整合性が求められることです。したがって、施策を大幅に転換するというより、これまでに取り組んできたものの、まだ残されているような社会的な課題に対して、社会教育・生涯学習の立場からどのように取り組んでいくことができるのか。どのように充実・発展させていくことができるのか、という内容にしていかなければならないということです。

二つには、前のことと逆のことになりますが、前回の施策以降、大幅に転換せざるをえないことが生じていることです。その場合には新しい発想で、新しく施策を展開しなければなりません。というのは、この5年間の間に日本社会は、これまで経験したことのないような新型コロナウイルスによるパンデミックを経験しました。新型コロナウイルスの影響は、社会全体に及び、私たちの日常生活全般にわたって行動が規制されることになったことは、記憶に新しいところです。この経験は、これまでとは異なった社会教育・生涯学習の在り様を求めているのではないのでしょうか。

この二つの点に留意して、新しい施策を考えていく必要があります。

II 施策推進の視点

今回の計画では、基本的な施策を「学びを通じた人とのつながりの促進と地域で自ら行動するひとの育成」としています。それに基づき、施策推進の視点として「視点1 次世代を担う子どもを地域や社会全体ではぐくむ」、「視点2 SDGs/ESD を通じた人づくり・つながり

づくり・地域づくり」、「視点3 学習環境の整備・充実」、「視点4 社会教育施設の機能向上」の4点を掲げています。先ほどの2つの留意点を踏まえ、これからの取り組みにあたってのいくつかの課題を示しておきたいと思います。

1. 「視点1 次世代を担う子どもを地域や社会全体ではぐくむ」

「次世代を担う子どもをはぐくむ」ことは、前回の総合計画でも重点とされてきた点です。今回は、「地域や社会全体で」という文言が付け加わりました。この点は、二つの意味で重要です。一つは、次世代の子どもを学校だけでなく地域や社会全体ではぐくむことは、当たり前のことではないかと考える方は多いでしょう。しかし、当然のことをわざわざ書き加えなければならないのは、地域や社会全体が次世代を担う子どもをはぐくむことに、関心をもちにくくなってきたからです。無関心の人が増加したという人もいるかもしれませんが、超少子高齢社会というのは、高齢者はたくさんいるけれど、近くに子どもという存在がおらず、関心をもちにくくなってきている状況が生まれてきているということです。どこの家庭にも子どもがいて、どこかで赤ちゃんが生まれている。葬式に出かけても、かならず親戚には孫やひ孫がいて、泣き声がするといった情景は、見なくなってきました。

どこの家庭でも近くの学校には必ずお世話になり、子どもたちが楽しみにしている運動会には、家族・親戚一同で出かける楽しみというのでも遠い昔のような話になってしまっているのです。したがって、地域や社会全体で子どもをはぐくむことの重要性や子どもの置かれている状況について共有できるような体制づくりが求められます。

二つには、新型コロナウイルスの影響です。新型コロナは、学校に休校要請を出し、緊急事態宣言で子どもたちにステイホームを指示しました。子どもたちは、近くの公園に行くこともままならず、もし出かけているところがみつければ、いわゆる「自粛警察」に通報されていたりしました。子どもの居場所活動の実践家たちからは、「家庭に居場所がない子どもたちはどこに行ったらいいの？」という声が出されました。

新型コロナウイルスは、新しい課題を提示してくれました。「子どもを地域や社会全体ではぐくむ」ということは、子どもたちが安心して過ごすことのできる地域や社会をつくることに他ならない。それを大人の責任として取り組むということです。

2. 「視点2 SDGs/ESDを通じた人づくり、つながりづくり、地域づくり」

前回の総合計画で初めてESDへの取り組みについて言及しました。その理由は、大牟田市の学校教育ではESDに積極的に取り組んでいるにもかかわらず、社会教育・生涯学習ではあまり取り組まれておらず、学校教育との連携もありませんでした。お互いに連携をとって

なかったのです。この5年の間にどれぐらいの取り組みがあったのかを検証しなければなりません。新型コロナウイルスの影響を受けながらも、社会教育が学校教育と連携を図る上での基盤はできたような印象を受けます。このことから、ESDを社会教育・生涯学習の課題として取り上げたことの意味は大きく、社会教育・生涯学習の課題として認識されたことは重要なことでした。

今回は、ESDを引き継ぎ、さらにSDGsも加えることによって新しい取り組みの課題が見えてくることかと思います。SDGsは、周知のとおり17のゴール目標があり、地球温暖化への影響を食い止めるために、脱炭素社会が目指されています。このような地球環境問題の理解をはかることが何よりも大切な取り組みになってきます。

SDGsへの取り組みは、そればかりではありません。環境問題といえば、頭では理解しているのですが、なかなか自分ごととして受け止められていません。しかしながら、私たちの身近な環境問題として地域社会の一人ひとりに同じように降りかかってくるものが、防災問題です。自治体におけるSDGsが該当するのです。具体的には、社会教育・生涯学習に関する安全・安心なまちづくりへの取り組みです。

視点として取り上げるのは、人々の学習ニーズは多様化し、人づくり・つながりづくり・地域づくりを進めていくことは、頭では理解はできるのですが、難しい課題になってきているからです。しかし、気候変動によって自然災害が多発する今日、防災問題は、「誰一人取り残さない」というキャッチフレーズにみられるように、その地域に住んでいれば誰にでも同じように降りかかってくる問題です。地域に住む人々が安全・安心な地域づくりを目指すために、SDGs/ESDを通じた地域づくりへの取り組みが求められており、SDGs/ESDの取組みをきっかけに、人づくり・つながりづくり・地域づくりへ広げていくことが肝要です。

3. 「視点3 学習環境の整備・充実」

地域の人々の学習環境を整備し、学習活動の活性化をはかることは「学びの循環」をつくる上でも重要な課題です。Society5.0社会にむけての学習環境の整備は必須のこととなっています。

ただし注目してほしいのは、今回の視点となった「学習環境の整備・充実」という文言は、表現としては同じであっても、内容はこれまでとは大きく異なっていることです。理由は、新型コロナウイルスの影響が大きくみられたからです。学校教育において、GIGAスクール構想は前倒しとなって実施されました。つまり、今の義務教育の小中学生、及び高校生たちは学校教育でタブレットを使って学習を重ねてきた世代です。すべての大学生たちはリモート授業を経験してきています。若い世代は、個人的な趣味やコミュニケーションに新しい

電子ツールを使うことができるといったレベルに止まらず、学ぶときには電子ツールの環境が整備され、オンライン学習が当たり前、という育ち方をしているわけです。したがって、社会教育・生涯学習の世界において学ぼうとすると、新しい「学習環境の整備・充実」を欠かすことはできないのではないのでしょうか。

一方では、注意してほしいことがあります。裏表の問題ではありますが、対面の経験が極端に少なくなっていることです。すでに学校教育の関係者では問題の共有がはかられていることと思われていますが、子どもたちが宿泊訓練や修学旅行といった学校行事を忌避する傾向が出始めていることです。原因はさまざまに考えられますが、その一つには新型コロナウイルスの影響による体験不足があると推測されます。宿泊訓練や修学旅行より、自分の好きなことを自宅でやっていた方がいいという子どもたちなりの判断です。

これでいいのでしょうか。社会教育・生涯学習で、もっと積極的に子どもたちに体験型の学習機会の提供はできないのでしょうか。

一方で、青少年や若者の問題に対しては、現在、多職種・多機関連携のもとで、引きこもり支援、子どもの居場所づくり、若者の就労支援など多様な取り組みがなされています。

ここで、社会教育・生涯学習としての施策として求められるのは、グラデーションのように問題を抱える青少年や若者のどの層を主要なターゲットとして、ユニバーサルなアプローチをかけることができるのかという点にあります。

ユニバーサルアプローチをとる従来の社会教育・生涯学習では、「いつでも・だれでも・どこでも」を理念としているために、その効果を測定することが難しくなっています。

それを乗り越えるために、多機関・多職種連携の必要性が提起されますが、問題を抱える青少年をターゲットにしており、単一の組織・機関での解決が難しいことから、連携をはかる中で解決への一步を踏み出そうとする性格をもち、グラデーションのような問題を抱える青少年へは効果的な施策とは言えません。

社会教育・生涯学習は、直接的に問題解決を目指すような性格をもっていないのです。ユニバーサルなアプローチをとりながら、ですが必ずそこにはターゲットが含まれているといった取り組みが求められているのです。体験不足の子どもたちだけを一か所に集めて、体験型の事業展開をすることが現実的ではないのと同じように、いろんな青少年が集る空間で自分自身の内部にエネルギーが沸き起こり、自ら自然に体験を求め、自分自身の成長の立て直しに取り組むことができるような環境醸成が求められているのです。

4. 「視点4 社会教育施設の機能向上」

視点3でも指摘したように、社会教育施設にとどまらず、あらゆる「公の施設」のインターネット環境を整備することによって施設の機能向上をはかることが求められるところです。スマートフォン等のデバイスの所有率は高くなったものの、自宅でのパソコンやプリンター等といった設備は所有していない世帯も決して少なくはなく、社会教育施設には誰でも利用できるかつての印刷機のように、必要に応じた設備・備品の配置が求められているのではないのでしょうか。

施設の機能向上の意味するところは、そればかりではないでしょう。老朽化した社会教育施設の改修やバリアフリー化を通じて、すべての市民が使いやすいユニバーサルな施設にしていけることが求められています。

また社会教育施設の機能を恒常的に改善していくことのできる資質を持った職員の配置が不可欠ではないのでしょうか。絶えざるデバイスの更新や、新しいアプリの普及に伴い、さらなる情報格差（デジタルデバイド）が生じてくることは想像に難くないところです。また前述したように子どもたちにとって魅力ある体験型の事業を創造することのできる職員の配置が必要とされています。

今回の新型コロナウイルスによる影響は、社会教育施設の機能停止状態を生じさせました。図書館であれば、蔵書点検、博物館であれば資料整理に振り替えた施設が多かったと言われています。では公民館は、何をなしたのかと振り返ってみたとき、対人型の事業はまったくの機能不全に陥った施設が多かったのではないのでしょうか。そうであれば、これからの職員は、施設の機能向上にみあい、また日常的に施設で実施する事業向上をはかることのできる職員配置、及び職員の資質向上のための研修機会が求められていると言えます。

I 主な経過

月 日	内 容	備 考
R4年 12月19日	市民意識調査業務委託契約締結	
R5年 1月17日	プロジェクトチーム第1回会議	実施計画書（案）等の検討
1月23日～2月9日	市民意識調査の実施	
1月25日	社会教育委員の会議	実施計画書の報告
2月21日	プロジェクトチーム第2回会議	上野教授講話
3月23日	プロジェクトチーム第3回会議	市民意識調査結果報告
4月25日	プロジェクトチーム第4回会議	若者意識調査の検討
5月17日～31日	若者意識調査の実施	
5月25日	プロジェクトチーム第5回会議	インタビュー調査の検討
6月～9月	インタビュー調査の実施	
6月29日	プロジェクトチーム第6回会議	若者意識調査結果報告
7月8日～8月17日	ローリング調査	
7月14日～21日	社会教育委員の会議（書面開催）	各種調査結果の報告
7月25日	プロジェクトチーム第7回会議	
9月1日	プロジェクトチーム第8回会議	ローリング調査結果報告
10月31日	プロジェクトチーム第9回会議	各種調査結果まとめ
11月13日	社会教育委員の会議	令和5年度調査研究報告書（案）説明
12月20日	プロジェクトチーム第10回会議	令和5年度調査研究報告書（案）まとめ
R6年 1月下旬	プロジェクトチーム第11回会議	最終まとめ
1月29日	社会教育委員の会議	令和5年度調査研究報告書（案）報告
2月中旬	定例教育委員会	令和5年度調査研究報告書（案）報告
2月下旬	市民教育厚生委員会	令和5年度調査研究報告書（案）報告

II 令和4・5年度プロジェクト・チーム名簿（計15名）

	所	属	氏 名
代 表	生涯学習課	課長	徳川 昭彦
副代表	生涯学習課	地域学習担当課長	村上 陽子
構成員	生涯学習課	副課長（R4年度のみ）	加藤 航
	市民協働部	参事（R5年度のみ）	古家 幸一
	生涯学習課	主査（R5年度のみ）	田中 龍太郎
	生涯学習課	主査（R4年度のみ）	山田 真里
	生涯学習課	主査（R5年度のみ）	三枝 祐子
	生涯学習課	吉野地区公民館長（R4年度） 中央地区公民館長（R5年度）	田中 直美
	生涯学習課	担当	石崎 莉子

	生涯学習課	担当（R4年度のみ）	木村 好夫
	生涯学習課	担当（R5年度のみ）	中野 千鶴子
	生涯学習課	担当	久保 明佳音
事務局	生涯学習課	社会教育振興担当主査・教育みらい創造室主査、社会教育主事	浦川 一浩
	生涯学習課	三池地区公民館長	西田 久
	生涯学習課	担当	森 茂信

大牟田市社会教育・生涯学習基礎調査研究
令和5年度調査研究報告書

令和6年1月発行

大牟田市 市民協働部 生涯学習課

○生涯学習課 〒836-0872 大牟田市黄金町1丁目34番地
TEL 0944-41-2864 / FAX 0944-41-2210
Eメール e-shogaigakushu01@city.omuta.fukuoka.jp